茨城県教育財団文化財調査報告第281集

島名境松遺跡
島名前野東遺跡

島名・福田坪一体型特定土地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書XIV

平成19年3月

茨城県
財団法人　茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第281集

島名境松遺跡
島名前野東遺跡

島名・福田坪一体型特定土地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書XIV

平成19年3月

茨城県
財団法人　茨城県教育財団

島名前野東遺跡全景（南西方向から）

方形居館掘立柱建物群完掘状況

序

茨城県は，世界的な科学研究の中心であるつくば市において，国際都市にふさわしい街づくりを推進しております。新しい街づくりの一環である「つくばエクスプレス」の新線開通は，つくば市と東京圏を直結させることによって人・物・情報の交流を盛んにし，地域活性化の大きな力になるものです。そこで，平成６年７月に茨城県，つくば市，地権者が三者協議で合意に達したのを受け，新線整備と沿線開発を一体的に行う土地区画整理事業が進められております。

この予定地内に埋蔵文化財包蔵地である島名境松遺跡，島名前野東遺跡が所在していたため，財団法人茨城県教育財団は茨城県から埋蔵文化財の発掘調査について委託を受け，平成11年４月から発掘調査を実施しました。その成果の一部は，既に当財団の文化財調査報告第191集，第215集として刊行しています。

本書は，平成15・16年度に調査を行った島名境松遺跡と平成15～17年度に調査を行った島名前野東遺跡の調査成果を収録したもので，学術的な研究資料としてはもとより，郷土の歴史に対する理解を深め，ひいては教育･文化の向上の一助として御活用いただければ幸いです。

なお，発掘調査から報告書の刊行に至るまで，委託者である茨城県から多大な御協力を賜りましたことに対し，厚く御礼申し上げます。

また，茨城県教育委員会，つくば市教育委員会をはじめ，関係各位からいただいた御指導，御協力に対し，感謝申し上げます。

平成19年３月

財団法人　茨城県教育財団

理事長　人 見 實 德

例　　言

1　本書は，茨城県の委託により，財団法人茨城県教育財団が平成15～17年度に発掘調査を実施した，茨城県つくば市大字鳥名字漆4034番地ほかに所在する鳥名境松遺跡，同市大字鳥名字前野3849番地の２ほかに所在する鳥名前野東遺跡の発掘調査報告書である。

2　発掘調査期間及び整理期間は，以下のとおりである。

調　査	鳥名境松遺跡	平成15年12月24日～平成16年１月８日
		平成16年９月１日～平成16年10月19日
	鳥名前野東遺跡	平成15年12月１日～平成16年１月31日
		平成16年７月１日～平成16年９月30日
		平成17年７月１日～平成17年７月31日
整　理		平成18年４月１日～平成18年５月31日
		平成18年８月１日～平成19年３月31日

3　発掘調査は，調査課長川井正一のもと，以下のものが担当した。

鳥名境松遺跡

平成15年度

首席調査員兼班長　荻野谷　悟　　主任調査員　黒澤　秀雄

調査員　梅澤　貴司

平成16年度

首席調査員兼班長　吉原　作平　　首席調査員　横倉　要次

鳥名前野東遺跡

平成15年度

首席調査員兼班長　荻野谷　悟　　主任調査員　黒澤　秀雄

調査員　梅澤　貴司

平成16年度

首席調査員兼班長　吉原　作平

首席調査員	横倉　要次	平成16年７月１日～平成16年８月31日
主任調査員	小松崎和治	平成16年７月１日～平成16年７月31日
主任調査員	田月　淳一	平成16年７月１日～平成16年７月31日
副主任調査員	駒澤　悦郎	
調査員	越田真太郎	平成16年９月１日～平成16年９月30日

平成17年度

首席調査員兼班長　吉原　作平　　調査員　小林健太郎

4　整理及び本書の執筆・編集は，整理第二課長大森雅之のもと，主任調査員小松崎和治が担当した。

5　本書の作成にあたり，方形居館跡については，大学共同利用機関法人人間文化研究機構　国立歴史民俗博物館教授小野正敏氏に御指導いただいた。

凡　　例

1　２遺跡の地区設定は，日本平面直角座標第Ⅸ系座標を原点とし，鳥名境松遺跡はＸ軸＝＋5,400m，Ｙ軸＝＋20,520m，鳥名前野東遺跡はＸ軸＝＋6,040m，Ｙ軸＝＋20,560mの交点を基準点（Ａ１a1）とした。なお，抄録には世界測地系に基づく緯度・経度を（　）を付けて併記した。

この基準点を基に遺跡範囲内を40m四方の大調査区に分割し，さらにこの大調査区を東西，南北に各々10等分し，４m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は，アルファベットと算用数字を用い，北から南へA，B，C‥‥，西から東へ１，２，３‥‥とし，「Ａ１区」，「Ｂ２区」のように呼称した。さらに小調査区も同様に北から南へa，b，c‥‥j，西から東へ1，2，3‥‥0と小文字を付し，名称は，大調査区の名称を冠して「Ａ１a1区」，「Ｂ２b2区」のように呼称した。

2　遺構・遺物番号は，第191集，第215集からの継続である。

3　実測図，一覧表，遺物観察表等で使用した記号は，次のとおりである。

遺構　SI－住居跡　SB－掘立柱建物跡　SD－溝跡・堀跡　SK－土坑　SA－柵跡　SE－井戸跡
　　P－柱穴　PG－ピット群　K－撹乱

遺物　P－土器　TP－拓本土器　DP－土製品　Q－石器・石製品　M－金属製品　G－ガラス製品

土層　K－撹乱

4　土層解説中の含有物については，各々総量で記述した。土層と遺物における色調の判定は，『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄編著　日本色研事業株式会社）を使用した。

5　遺構及び遺物実測図中の表示は，次のとおりである。

焼土・釉・赤彩　　炉・火床面

竈部材・粘土・黒色処理　　煤・油煙・柱痕・礎盤石

● 土器　○ 土製品　□ 石器・石製品　△ 金属製品　☆ ガラス製品　‐‐‐‐ 硬化面

6　遺構・遺物実測図の作成方法については，次のとおりである。

(1)　遺構全体図は400分の１，500分の１とし，各遺構の実測図は60分の１の縮尺で掲載することを原則とした。

(2)　遺物は原則として３分の１の縮尺にしたが，種類や大きさにより異なる場合もあり，それらについては個々に縮尺をスケールで示した。

7　「主軸」は，炉・竈を持つ竪穴住居跡についてはそれを通る軸線とし，他の遺構については長軸（径）を主軸とみなした。「主軸，長軸（径）方向」は主軸が座標北からみて，どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した（例　N－10°－E）。

8　遺物観察表・遺構一覧表の表記は次のとおりである。

(1)　現存値は（　）で，推定値は［　］を付して示した。計測値の単位はm，cm，gで示した。

(2)　遺物観察表の備考欄は，残存率及び写真図版番号，その他必要と思われる事項を記した。

(3)　遺物番号については通し番号とし，挿図，観察表，写真図版に記した番号は同一とした。

抄　　録

ふ り が な	しまなさかいまついせき　　しまなまえのひがしいせき
書　　名	島名境松遺跡　島名前野東遺跡
副　書　名	島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書
巻　　次	第
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告
シリーズ番号	第281集
著　者　名	小松崎和治
編　集　機　関	財団法人　茨城県教育財団
所　在　地	〒310-0911　茨城県水戸市見和1丁目356番地の2　TEL029-225-6587
発　行　日	2007年（平成19年）3月23日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因
島名境松遺跡	茨城県つくば市 大字島名字漆 4034番地ほか	08220 - 391	36度 02分 54秒 (36度 03分 05秒)	140度 04分 02秒 (140度 03分 50秒)	13 ～ 19m	20031224 ～ 20040108 20040901 ～ 20041019	973㎡	島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業に伴う事前調査
島名前野東遺跡	茨城県つくば市 大字島名字前野 3849番地の2ほか	08220 - 389	36度 03分 11秒 (36度 03分 22秒)	140度 03分 44秒 (140度 03分 32秒)	14 ～ 19m	20031201 ～ 20040131 20040701 ～ 20040930 20050701 ～ 20050731	1,726㎡ 5,552㎡ 2,217㎡	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
島名境松遺跡	集落跡	縄　文	竪穴住居跡　5軒 土坑　1基	縄文土器（浅鉢・深鉢・注口土器・ミニチュア土器），石器（磨石），土製品（管状土製品）	
	その他	時期不明	溝跡　1条 土坑　37基	縄文土器（浅鉢・深鉢），石器（彫器・打製石斧・磨製石斧・磨石），石製品（石棒），土製品（土器円板）	
島名前野東遺跡	集落跡	古　墳	竪穴住居跡　25軒 土坑　1基	土師器（坏・椀・坩・高坏・鉢・壺・甕・甑・炉器台・手捏土器） 須恵器（鐙） 土製器（勾玉・臼玉・球状土錘・支脚・紡錘車） 石器（砥石），石製品（勾玉・臼玉・紡錘車・双孔円板・剣形模造品），ガラス製品（小玉）	
		奈良・平安	竪穴住居跡　4軒	土師器（坏・甕） 須恵器（坏・長頸瓶・鉢・甕） 石器（砥石）	
	居館跡	中　世	方形区画堀跡　1条 掘立柱建物跡　6棟 柵跡　1条 溝跡　7条 土坑　9基 ピット群　3か所	土師質土器（小皿・皿），陶器（壺・擂鉢） 鉄製品（釘） 古銭	
	墓地跡	中　世	火葬土坑　5基	土師質土器（小皿・皿）	
	その他	時期不明	溝跡　24条 井戸跡　1基 土坑　78基 ピット群　1か所	土師器，土師質土器，陶器（碗・鉢），磁器（碗）	

要　　約	島名境松遺跡は縄文時代中期から後期にかけての集落跡である。調査区は台地上に広がる大集落跡の縁辺部にあたり，その一部と考えられる。 島名前野東遺跡は旧石器時代から中世までの複合遺跡である。特に中世の方形居館跡の全容が明らかになり，1町四方の堀に囲まれた中に主屋と考えられる掘立柱建物跡が確認された。

目　　次

序
例言
凡例
抄録
目次
第１章　調査経緯……1
　第１節　調査に至る経緯……1
　第２節　調査経過……1
第２章　位置と環境……2
　第１節　地理的環境……2
　第２節　歴史的環境……2
第３章　鳥名境松遺跡……7
　第１節　遺跡の概要……7
　第２節　基本層序……7
　第３節　遺構と遺物……8
　　１　縄文時代の遺構と遺物……8
　　(1)　竪穴住居跡……8
　　(2)　土坑……18
　　２　その他の遺構と遺物……22
　　(1)　溝跡……22
　　(2)　土坑……23
　　(3)　遺構外出土遺物……31
　第４節　まとめ……34
第４章　鳥名前野東遺跡……37
　第１節　遺跡の概要……37
　第２節　基本層序……37
　第３節　遺構と遺物……40
　　１　古墳時代の遺構と遺物……40
　　(1)　竪穴住居跡……40
　　(2)　土坑……113
　　２　奈良・平安時代の竪穴住居跡と遺物……114
　　３　中世の遺構と遺物……122
　　(1)　堀跡……122
　　(2)　掘立柱建物跡……130
　　(3)　柵跡……147
　　(4)　溝跡……148
　　(5)　土坑……157
　　(6)　火葬土坑……165
　　(7)　ピット群……169
　　４　その他の遺構と遺物……173
　　(1)　溝跡……174
　　(2)　井戸跡……176
　　(3)　土坑……176
　　(4)　ピット群……189
　　(5)　遺構外出土遺物……189
　第４節　まとめ……192
写真図版
付図

第1章　調　査　経　緯

第1節　調査に至る経緯

平成６年８月18日，茨城県知事は，茨城県教育委員会教育長に対して鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内における埋蔵文化財の所在の有無及び取り扱いについて照会した。これを受けて茨城県教育委員会は，平成６年９月19日～27日に現地踏査を実施し，遺跡の所在を確認した。平成８年11月18日，茨城県教育委員会教育長は，茨城県知事あてに，事業地内に鳥名境松遺跡，鳥名前野東遺跡が所在する旨を回答した。

平成11年３月31日，茨城県知事は，茨城県教育委員会教育長に対して文化財保護法第57条の３（現　第94条）の規定に基づき，土木工事等のための埋蔵文化財包蔵地の発掘について通知した。茨城県教育委員会教育長は，計画変更が困難であることから，記録保存のための発掘調査が必要であると判断し，同日，茨城県知事あてに工事着手前に発掘調査を実施するよう通知した。

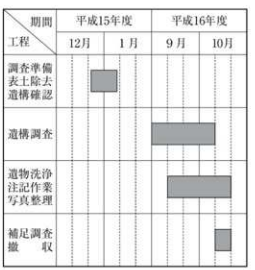
平成15年２月26日，平成16年３月24日，平成17年３月９日，茨城県知事は，茨城県教育委員会教育長に対して鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業に係わる埋蔵文化財発掘調査の実施について協議した。平成15年２月26日，平成16年３月24日，平成17年３月15日，茨城県教育委員会教育長は，茨城県知事あてに，鳥名境松遺跡，鳥名前野東遺跡について，発掘調査の範囲及び面積について回答し，併せて埋蔵文化財の調査機関として，財団法人茨城県教育財団を紹介した。

財団法人茨城県教育財団は，茨城県知事から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け，鳥名境松遺跡は，平成15年12月24日～平成16年１月８日，平成16年９月１日～10月19日まで発掘調査を実施することとなった。鳥名前野東遺跡は，平成15年12月１日～１月31日，平成16年７月１日～９月30日，平成17年７月１日～７月31日まで発掘調査を実施することとなった。

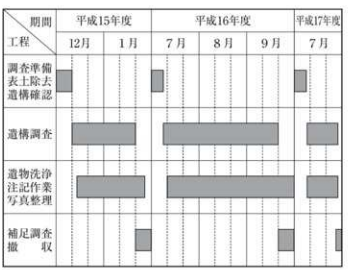
第2節　調　査　経　過

鳥名境松遺跡，鳥名前野東遺跡の調査経過の概要を表で記載する。

鳥名境松遺跡工程表



鳥名前野東遺跡工程表



第2章　位置と環境

第1節　地理的環境

島名境松遺跡は，茨城県つくば市大字島名字漆4034番地ほか，島名前野東遺跡は茨城県つくば市大字島名字前野3849番地の２ほかに所在している。つくば市は，標高25～50mの洪積台地である常総台地の筑波・稲敷台地に占められている。２遺跡が所在する筑波・稲敷台地は，つくば市の西部を流れる東谷田川と西谷田川に挟まれた北西及び南東方向に延びる舌状の台地である。

島名境松遺跡の調査区域は，台地の縁辺部に位置している。調査区は標高19mほどから，北東方向に向かって緩やかに傾斜しながら低くなり，最も低い所で標高13mほどである。周辺は主にアカマツやクヌギなどの平地林と畑地が分布し，東谷田川沿いに広がる沖積低地には肥沃な水田地帯が広がっている。島名前野東遺跡の調査区域は，東谷田川に面した標高18～19mの台地北側の縁辺部に位置している。東谷田川に沿った北側の低地は開発が進み，つくば市と東京を結ぶつくばエクスプレス万博記念公園駅があり，その標高差は６～８mである。

この台地の地質は第四紀更新世の木下層，竜ヶ崎砂層及び常総粘土層，関東ローム層から構成されている。木下層は浅い海の堆積物で，ところにより貝化石を多量に含む砂質な地層である。また木下層にはいくつかの火山灰層があり，約12～13万年前に形成されたものと推定される。それを覆う竜ヶ崎砂層は河川の流路堆積物で，厚さは最大で７mで主に粗粒な砂より形成されている。常総粘土層は竜ヶ崎砂層上部の泥質層で，河川の後背湿地の堆積物である。両層の形成年代は約13～６万年前と推定されている。さらにその上部には関東ローム層が重なり，厚さは１～３mである。常総台地の関東ローム層は，南関東の武蔵野・立川ローム層に相当する[1]。

第2節　歴史的環境

東谷田川，西谷田川流域の筑波・稲敷台地の中央部や縁辺部，東谷田川支流の蓮沼川右岸の台地上には，遺跡が数多く存在している。ここでは，島名境松遺跡〈１〉，島名前野東遺跡〈２〉と同時代の遺跡を中心に，分布状況等の概要を述べることとする。

縄文時代中期には，小貝川左岸の台地及び東谷田川，西谷田川に挟まれた台地で遺跡が確認される。島名境松遺跡[2]では当財団の平成12年度の調査で縄文時代中期の竪穴住居跡32軒，炉跡３基，土器焼成遺構１基，土器埋設遺構１基，土坑135基を確認している。時期は阿玉台Ⅰｂ式期から加曽利ＥⅣ式期までの４期に分けることができる大規模な集落である。特に，土器焼成遺構は住居跡が廃絶した後に転用されたと考えられ，加曽利ＥⅢ式期を中心とした土器が多量に出土している。谷田部漆遺跡[3]〈３〉は島名境松遺跡の南，約１kmに位置している。平成12年度の当財団の調査で陥し穴４基が確認されている。

西谷田川に面した台地の縁辺部に立地している境松貝塚[4]〈38〉は，つくば市谷田部の代表的な貝塚であり，中期から後期にかけての土器や石器が出土している。主な貝種は，主に汽水系のオキシジミ，ムラサキガイ，シオフキ，ヤマトシジミなどである。小貝川に臨む台地上に立地する真瀬山田遺跡〈６〉は，中期から後期の土器が広範囲にわたって出土し，大規模な集落跡の可能性が推測できる。島名境松遺跡の周辺では，西側に隣接する島名タカドロ遺跡〈28〉と北側に隣接する島名一町田遺跡〈27〉が位置し，中期から後期にかけての土

器が出土している。島名前野東遺跡の西側に隣接する島名前野遺跡[5]〈5〉からは中期の陥し穴が確認されており，この台地では，この時期から本格的に人々の生活が営まれるようになったことをうかがい知ることができる。

古墳時代の遺跡は，島名関の台古墳群〈13〉，面野井古墳群〈14〉，下河原崎古墳群〈16〉などの中小の古墳群が数多く確認されている。大規模な古墳はなく，その大半が径7～25mの円墳である。島名前野東遺跡周辺では，約1km北側の島名熊の山古墳群〈21〉，さらにその1km北側に島名関の台遺跡〈30〉が位置している。集落跡としては，島名前野東遺跡，島名前野遺跡，谷田部漆遺跡，島名熊の山遺跡[7]〈4〉，島名薬師遺跡〈10〉がある。島名前野東遺跡[6]では，平成11～13年の当財団の調査によって，中期から後期にかけての竪穴住居跡53軒，方形周溝墓3基，土坑10基が確認されている。今回の調査でも同時代の住居跡が確認されている。谷田部漆遺跡では，当財団の平成12・13年の調査で中期の竪穴住居跡26軒，土坑4基が確認された。古墳時代から奈良平安時代にかけての大規模な集落である島名熊の山遺跡[7]は，集落としての起源は前期に求められ，6世紀後半の大規模開発を契機として，つくば市島名地区の中心集落として発展したと考えられる。この過程で島名前野東遺跡との関連も考えられる。

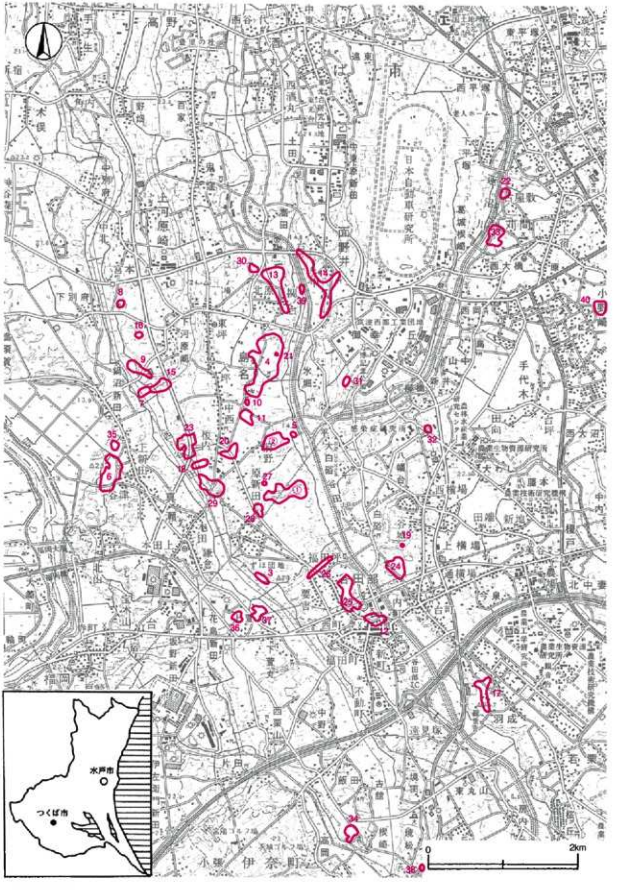
奈良・平安時代には，『和名類聚抄』[8]によれば，谷田部地区は河内郡八部郷といい，かつて，仁徳天皇の后矢田若郎女のために谷田部を置いたところと言われている[9]。また，島名も『和名類聚抄』にある「嶋名郷」に比定されている。島名前野東遺跡では竪穴住居跡16軒，掘立柱建物跡6棟などが確認されている。島名熊の山遺跡では平成7年度から平成17年度までの当財団の調査によって，8世紀代の0.7町規模で方形に巡る溝やこの溝を囲むように三つの掘立柱建物群が確認された。さらに，10世紀になると，他の集落が消滅していく中で島名熊の山遺跡だけが集落を継続させており，存続期間や集落としての規模が傑出している[10]。

谷田部地区は12世紀後半，常陸平氏本宗平直幹の支配下にあり，常陸西南部をおおう広大な開発地の常安保として南野牧とともに村田荘の一部であった。12世紀末には田中荘，下妻荘を分出し，谷田部地区の大部分は田中荘域に入る。田中荘の下司職は多気義幹に，村田荘，下妻荘の下司職は下妻広幹に伝えられたと推測されている。

中世に入ると，鎌倉幕府の成立後，八田知家の入部により義幹は没落し，田中荘は八田氏（小田氏）の支配下に入る。霜月騒動（1285年）により，一時北条得宗家の支配下になるが，室町時代になり，また小田氏の手に戻っている。当時，小田氏配下の土豪には小野崎の荒井氏，苅間の野中瀬氏，島名・面野井の平井出氏がいたと伝えられる[11]。

中・近世の遺跡は，つくば市谷田部では城館跡がほとんどであり，谷田部城跡〈12〉，小野崎館跡〈40〉，苅間城跡〈22〉，面野井城跡〈39〉，熊の山城跡，高須賀城跡などがある。島名前野東遺跡では，平成11～13年度の当財団の調査で，居館跡が2か所確認され，方形に巡る館の堀跡から大量の土師質土器が出土している。東館跡は調査区中央部の標高16～17mの緩斜面部，西館跡は東館西の標高18～19mの台地平坦部に位置している。確認された西館の堀跡は一辺が1町（114m）四方で方形に巡っている。今回の調査は西館の西部を調査区に含んでおり，西館の全容をほぼ明らかにするものである。また，利根川，牛久沼を経て移動してきた六軒党という人々が島名地区に居を構え，周辺を開拓していったという伝承もある。なお，近世の谷田部地区の大部分は谷田部藩領になっており，島名地区は旗本領である。

※文中の〈　〉内の番号は，第1図及び表1の該当番号と同じである。



第１図　島名境松遺跡・島名前野東遺跡周辺遺跡分布図（国土地理院５万分の１「土浦」）

註

1）日本の地質 『関東地方』編集委員会 『日本の地質３ 関東地方』 共立出版 1986年10月

2）寺門千勝・田原康司・梅澤貴司 「島名前野東遺跡，島名境松遺跡，谷田部漆遺跡 島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅷ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第191集 （財）茨城県教育財団 2002年３月

3）註２に同じ

4）久野俊夜 「主要地方道取手筑波線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書 境松遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第41集 （財）茨城県教育財団 1987年３月

5）稲田義弘 「島名前野遺跡 島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅵ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第175集 （財）茨城県教育財団 2001年３月

6）飯泉達司 「前野東遺跡 島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅸ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第215集 （財）茨城県教育財団 2004年３月

7）田中幸夫・酒井雄一・田月淳一・松本直人・桑村裕 「島名熊の山遺跡 島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅻ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第264集 （財）茨城県教育財団 2006年３月

8）池邊 彌 『和名類聚抄郡郷里驛考證』 吉川弘文館 1981年２月

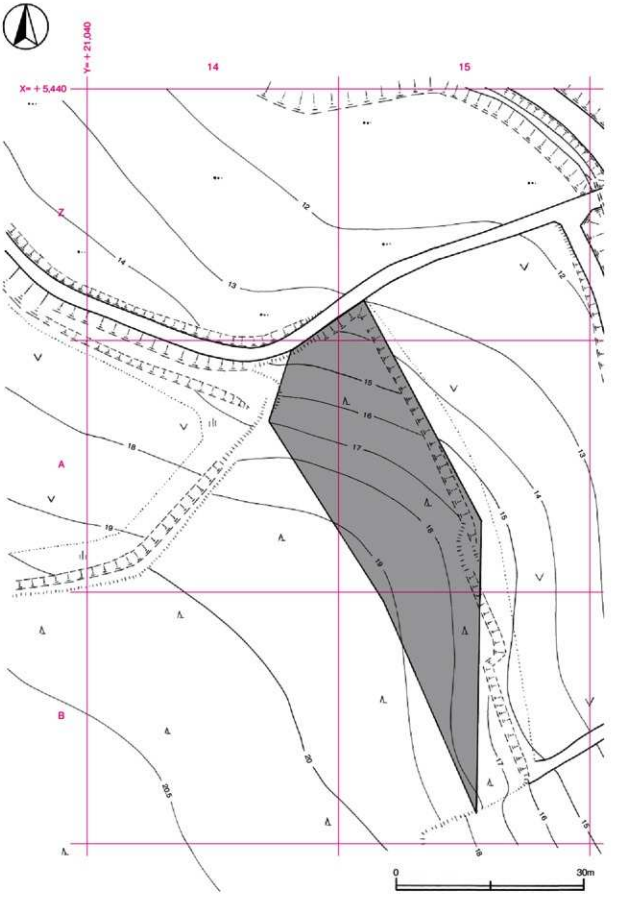
9）中山信名 『新編常陸国誌』 崙書房 復刻版 1978年12月

10）茨城県考古学協会シンポジウム実行委員会 「古代地方官衙周辺における集落の様相－常陸国河内郡を中心にして」 茨城県考古学協会 2005年２月

11）谷田部の歴史編さん委員会 『谷田部の歴史』 谷田部町教育委員会 1975年９月

表１ 島名境松遺跡・島名前野東遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代 旧石器	縄文	弥生	古墳	奈・平	中世	近世	番号	遺跡名	時代 旧石器	縄文	弥生	古墳	奈・平	中世	近世
①	島名境松遺跡		○		○				21	島名熊の山古墳群				○			
②	島名前野東遺跡		○		○	○	○		22	苅間城跡						○	○
3	谷田部漆遺跡		○		○	○			23	島名ツバタ遺跡		○		○			
4	島名熊の山遺跡		○		○	○	○	○	24	谷田部台成井遺跡		○					
5	島名前野遺跡		○		○	○	○	○	25	谷田部福田前遺跡		○		○	○		
6	真瀬山田遺跡		○						26	谷田部大堀遺跡						○	○
7	下河原崎高山遺跡				○	○			27	島名一町田遺跡		○					
8	元宮本前山				○				28	島名タカドロ遺跡		○		○			
9	下河原崎谷中台				○				29	島名榎内南遺跡				○			
10	島名薬師遺跡				○				30	島名閏の台遺跡				○			
11	島名八幡前遺跡				○	○	○		31	水堀遺跡				○			
12	谷田部城跡						○	○	32	柳橋谷津遺跡				○	○		
13	島名閏の台古墳群				○				33	苅間神田遺跡	○	○	○	○	○	○	○
14	面野井古墳群				○				34	根崎遺跡	○	○		○	○	○	
15	下河原崎高山古墳群				○				35	真瀬山田北遺跡		○		○			
16	下河原崎古墳群				○				36	真瀬三度山遺跡		○		○			○
17	羽成古墳群				○				37	上萱丸古屋敷遺跡		○		○		○	○
18	島名榎内遺跡				○				38	境松貝塚		○	○	○			○
19	谷田部カロウド塚古墳				○				39	面野井城跡						○	○
20	島名榎内古墳群				○				40	小野崎館跡						○	○



第2図　鳥名境松遺跡調査区設定図

第3章　島名境松遺跡

第1節　遺跡の概要

島名境松遺跡は，つくば市大字島名字漆4034番地ほかに所在し，東谷田川に面した台地縁辺部の緩やかな傾斜地に位置している。調査前の現況は平地林及び畑地である。調査面積は973㎡である。今回の調査区は，平成12年度の調査区域からは東に約400m 離れている。

今回の調査で，縄文時代中期から後期の集落跡であることが判明した。遺構は，縄文時代の竪穴住居跡５軒，土坑１基，時期不明の溝跡１条，土坑37基が確認されている。

遺物は，遺物収納コンテナ（60×40×20㎝）に９箱出土している。主な遺物は，縄文土器（深鉢，浅鉢，注口土器，ミニチュア土器），石器（彫器，打製石斧，磨製石斧，磨石），石製品（石棒），土製品（管状土製品）である。

第2節　基本層序

調査区西南部（B15b3区）にテストピットを設定し，基本土層の観察を行った。地表面の標高は18.9m で，地表面から約1.5m 掘削し，第３図のような堆積状況を確認した。

第１層は，暗褐色の腐植土層で，ローム粒子・炭化粒子を微量含み，粘性・締まりがともに弱い。層厚は20～32㎝である。

第２層は，褐色で，腐植土層とソフトローム層との漸移層である。層厚は４～16㎝である。

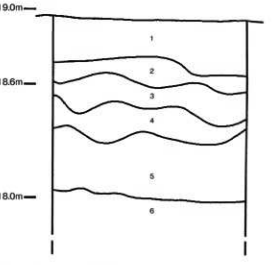
第３層は，にぶい褐色のソフトローム層である。層厚は８～18㎝である。

第４層は，明褐色のハードローム層で，粘性が強い。層厚は６～22㎝である。

第５層は，明褐色のハードローム層で，粘性が強く，第４層よりも締まりが強い。層厚は26～42㎝である。

第６層は，黄橙色の砂質粘土層で，粘性・締まりともに強い。層厚は下層が未掘のため不明である。

遺構は，第２層上面で確認された。



第３図　基本土層図

第3節　遺構と遺物

1　縄文時代の遺構と遺物

竪穴住居跡５軒，土坑１基が確認された。以下，確認された遺構と遺物について記述する。

(1)　竪穴住居跡

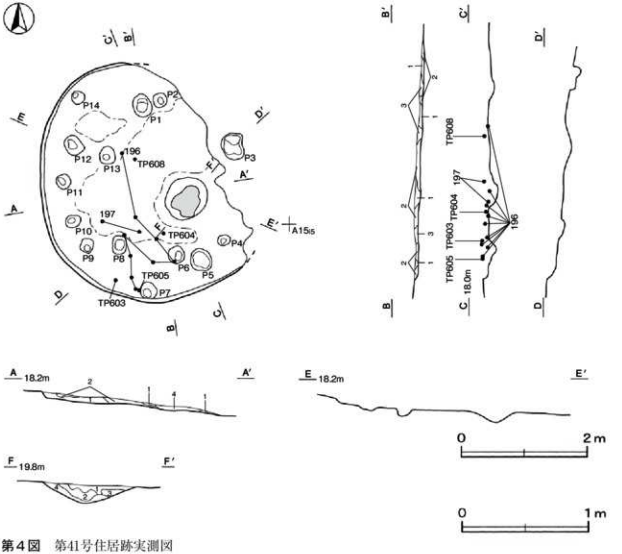
第41号住居跡（第４・５図）

位置　調査区中央部のA15h4区で，標高17.5～18.0mの緩やかな斜面部に位置している。

規模と形状　東部が削平されており，確認された範囲から判断して径3.8mほどの円形と推定される。壁高は４～10㎝で，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，炉の周囲が踏み固められている。

ピット　14か所。Ｐ１・Ｐ３・Ｐ５・Ｐ８・Ｐ13は深さ６～14㎝で，炉と硬化面を囲むような配置であることから主柱穴と考えられる。Ｐ７・Ｐ９～Ｐ12・Ｐ14は深さ７～20㎝で壁に沿って巡っており，その断面は内側に傾いていることから，補助的な柱穴と考えられる。Ｐ２・Ｐ４・Ｐ６の性格は不明である。



第４図　第41号住居跡実測図

炉　中央部からやや南東寄りに位置している。長径72㎝，短径64㎝の楕円形で，床面をすり鉢状に16㎝掘り込んだ地床炉である。炉床は火熱を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

1　極暗赤褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　にぶい赤褐色　ローム粒子・焼土粒子少量
3　明赤褐色　ローム粒子・焼土粒子中量
4　にぶい赤褐色　ローム粒子中量，焼土粒子少量

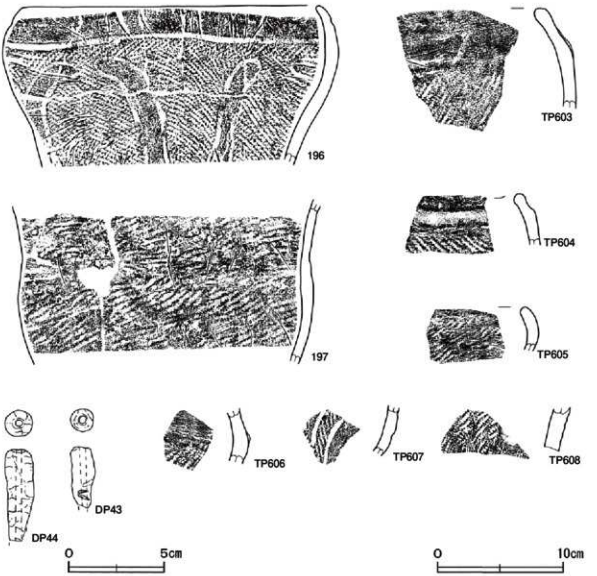
覆土　4層に分層される。ブロック状の堆積状況を示すことから人為堆積と考えられる。

土層解説

1　褐色　ローム粒子中量
2　暗褐色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
3　暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
4　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　縄文土器深鉢片89点，土製品2点（管状土製品）が出土している。土器は炉の西側を中心に出土している。196・197は，炉の西側の覆土上層から床面に散在していた破片が接合したものである。TP603・TP605は南壁際の覆土上層，TP604は炉の西側の床面，TP608は中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から中期後葉と考えられる。



第5図　第41号住居跡出土遺物実測図

第41号住居跡出土遺物観察表（第５図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
196	縄文土器	深鉢	23.5	(12.6)	－	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部は沈線による無文帯を区画　胴部はＬＲの単節縄文を施文	平面覆土上層～床面	30%　PL5
197	縄文土器	深鉢	－	(12.5)	－	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	ＬＲの単節縄文施文	平面覆土上層～床面	20%　PL5

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	胎　土	特　徴	出土位置	備考
DP43	管状土製品	(3.25)	1.20	1.21	(3.8)	長石・雲母	口径 0.3 cm　手捏ね　一部欠損	覆土中	PL8
DP44	管状土製品	(4.90)	1.40	1.60	(7.8)	長石・石英・雲母	口径 0.3 cm　手捏ね　一部欠損	覆土中	PL8

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP603	縄文土器	深鉢	－	(8.0)	－	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部は撚糸帯による無文帯を区画　胴部はＬＲの単節縄文を施文	南壁際覆土上層	PL7
TP604	縄文土器	深鉢	－	(3.9)	－	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	口縁部は沈線による無文帯を区画　胴部はＬＲの単節縄文を施文	炉西側床面	PL7
TP605	縄文土器	深鉢	－	(3.5)	－	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	ＬＲの単節縄文施文	南壁際覆土上層	
TP606	縄文土器	深鉢	－	(4.4)	－	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	撚糸帯により文様帯を区画　ＬＲの単節縄文施文	覆土中	
TP607	縄文土器	深鉢	－	(3.9)	－	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	沈線間に単節縄文を充填	覆土中	
TP608	縄文土器	深鉢	－	(3.5)	－	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	ＲＬの単節縄文施文	中央部覆土下層	

第 42 号住居跡（第６・７図）

位置　調査区中央部の A15h1 区で，標高 18.5 ～ 19.0m の緩やかな斜面部に位置している。

重複関係　第 710 号土坑，第 712 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　確認された範囲は長径 5.0m，短径 4.8m の楕円形で，長径方向はＮ－ 34°－Ｗと推定される。壁高は 16 ～ 32 ㎝で，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，炉の周囲を中心に北部が踏み固められている。

ピット　６か所。Ｐ１・Ｐ３ ～Ｐ６は深さ 10 ～ 19 ㎝で，壁に沿って巡っていることから，柱穴と考えられる。Ｐ２は深さ９㎝で炉の東側に位置しており，性格は不明である。

炉　北部からやや西寄りに位置している。長径 84 ㎝，短径 61 ㎝の楕円形で，床面を皿状に 29 ㎝掘り込んだ地床炉である。炉床は火熱を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

1　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
2　暗褐色　焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
3　赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子微量
4　明褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量

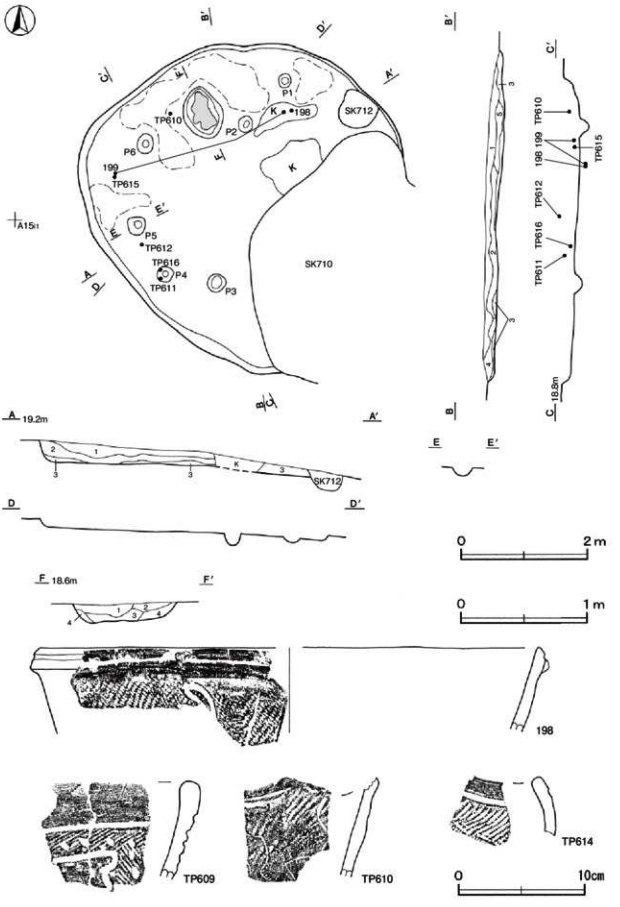
覆土　５層に分層される。レンズ状の堆積状況を示すことから自然堆積と考えられる。

土層解説

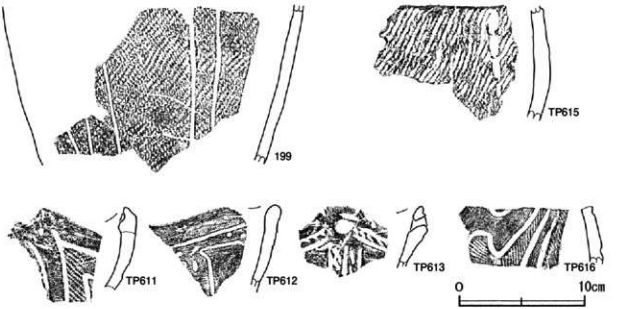
1　黒褐色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
2　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
3　明褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
4　暗褐色　ローム粒子・炭化粒子微量
5　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量

遺物出土状況　縄文土器深鉢片 385 点が出土している。土器は炉周辺から南西部にかけて出土している。また，混入したと考えられる弥生土器壺片５点，土師器甕片２点も出土している。199 は西部の覆土下層と北部の床面から出土した破片が接合したものである。198 は北部の床面，TP611・TP612 は南西部の覆土上層，TP616 は南西部の覆土下層，TP615 は西部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から後期前葉と考えられる。



第6図　第42号住居跡・出土遺物実測図



第７図　第42号住居跡出土遺物実測図

第42号住居跡出土遺物観察表（第６・７図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
198	縄文土器	深鉢	[39.5]	(68)	－	石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	ＬＲの単節縄文を地文とし，沈線により文様描出	北部床面	10%
199	縄文土器	深鉢	－	(127)	－	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	胴部にＬＲの単節縄文を施文　縦方向の沈線により文様描出	西部覆土下層・北部床面	10%

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP609	縄文土器	深鉢	－	(78)	－	長石・石英・雲母	橙	普通	沈線間に刺突列を施文	覆土中	PL7
TP610	縄文土器	深鉢	－	(78)	－	長石・石英・雲母	褐	普通	口縁部に沈線　ＬＲの単節縄文施文	北西部覆土中層	
TP611	縄文土器	深鉢	－	(66)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	沈線により文様帯を区画し，単節縄文を充填	南西部覆土上層	PL7
TP612	縄文土器	深鉢	－	(69)	－	長石・石英・雲母	橙	普通	沈線間に刺突列を施文	南西部覆土上層	PL7
TP613	縄文土器	深鉢	－	(49)	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	波頂部に円孔を穿つ　沈線区画内に刺突文	覆土中	PL7
TP614	縄文土器	深鉢	－	(46)	－	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部に横位の沈線　胴部にＬＲの単節縄文を施文	覆土中	
TP615	縄文土器	深鉢	－	(92)	－	雲母・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	ＬＲの単節縄文施文　縦方向の押引文	西部覆土下層	
TP616	縄文土器	深鉢	－	(46)	－	長石・雲母	にぶい橙	普通	沈線による区画内に単節縄文を充填	南西部覆土下層	

第43号住居跡（第８図）

位置　調査区中央部のＡ15g3区で，標高17.6 ～ 17.8m の緩やかな斜面部に位置している。

規模と形状　北部から東部にかけて削平されており，確認された範囲から判断して長径3.3m，短径1.5m 以上の楕円形又は円形と推定される。壁高は５～ 15cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部及び北部が踏み固められている。

ピット　３か所。Ｐ３は深さ27cmで，配置から主柱穴と考えられる。Ｐ１・Ｐ２はそれぞれ深さ10cmほどで南部に位置し，性格は不明である。

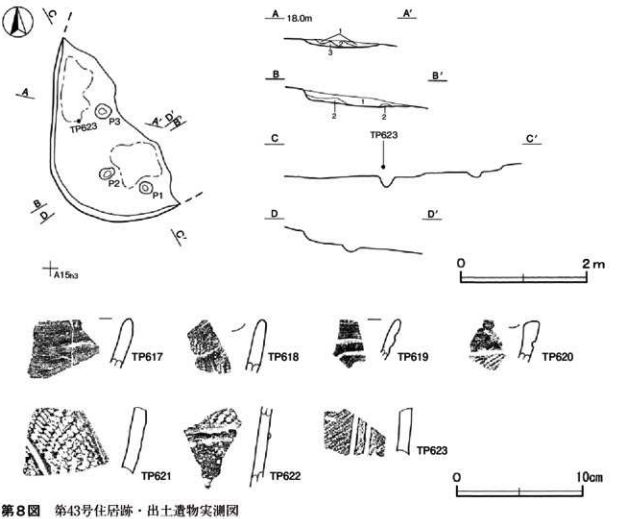
覆土　３層に分層される。ブロック状の堆積状況を示すことから，人為堆積と考えられる。

土層解説

1　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
2　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
3　明褐色　ローム粒子多量

遺物出土状況　縄文土器深鉢片57点が出土している。出土土器は破片が多く，西部の覆土上層から下層にかけて散在している。TP623は西部の覆土上層から出土している。

所見　出土土器は，住居廃絶後に混入したものと考えられる。時期は，出土土器から後期前葉以前と考えられる。



第８図　第43号住居跡・出土遺物実測図

第43号住居跡出土遺物観察表（第８図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP617	縄文土器	深鉢	－	(3.9)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部無文帯	覆土中	
TP618	縄文土器	深鉢	－	(4.2)	－	長石・石英・雲母	黒褐	普通	ＬＲの単節縄文施文	覆土中	
TP619	縄文土器	深鉢	－	(3.2)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部に棒状工具による横方向の沈線	覆土中	
TP620	縄文土器	深鉢	－	(3.3)	－	長石・石英	褐	普通	口縁部は沈線により無文帯を区画	覆土中	
TP621	縄文土器	深鉢	－	(5.1)	－	石英・雲母	にぶい赤褐	普通	単節縄文施文後　沈線による区画	覆土中	
TP622	縄文土器	深鉢	－	(6.4)	－	長石・石英	灰黄褐	普通	微隆帯により文様帯を区画	覆土中	
TP623	縄文土器	深鉢	－	(3.6)	－	長石・石英・雲母	黒褐	普通	ＬＲの単節縄文施文後横方向の沈線	西部覆土上層	PL7

第44号住居跡（第９図）

位置　調査区中央部のＡ14f区で，標高17.5 ～ 18.0m の緩やかな斜面部に位置している。

重複関係　第725号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　中央部から北側が削平されているため，確認された範囲から判断して長径3.6m，短径1.6m 以上の円形又は楕円形と推定される。壁高は６～ 14cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，南側の一部が踏み固められている。

ピット　深さ17cmで，南部に位置し，性格は不明である。

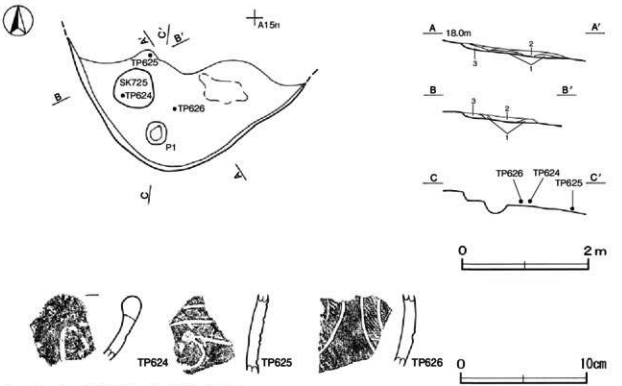
覆土　３層に分層される。ブロック状の堆積状況を示すことから人為堆積と考えられる。

土層解説

1　褐　色　ローム粒子中量
2　暗褐色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
3　暗褐色　ローム粒子少量，炭化粒子微量

遺物出土状況　縄文土器深鉢片14点が出土している。出土土器は破片で，南部の覆土上層から下層にかけて散在している。TP624 ～ TP626は，南部の覆土下層から出土している。

所見　出土土器は，住居廃絶後に混入したものと考えられる。時期は，出土土器から後期前葉以前と考えられる。



第９図　第44号住居跡・出土遺物実測図

第44号住居跡出土遺物観察表（第９図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP624	縄文土器	深鉢	－	(5.1)	－	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁波頂部肥厚	南部覆土下層	PL7
TP625	縄文土器	深鉢	－	(6.2)	－	長石・石英・雲母	橙	普通	沈線で曲線的な文様を構成	南部覆土下層	
TP626	縄文土器	深鉢	－	(6.2)	－	長石・石英・雲母	明黄褐	普通	沈線間に単節縄文を充填	南部覆土下層	PL7

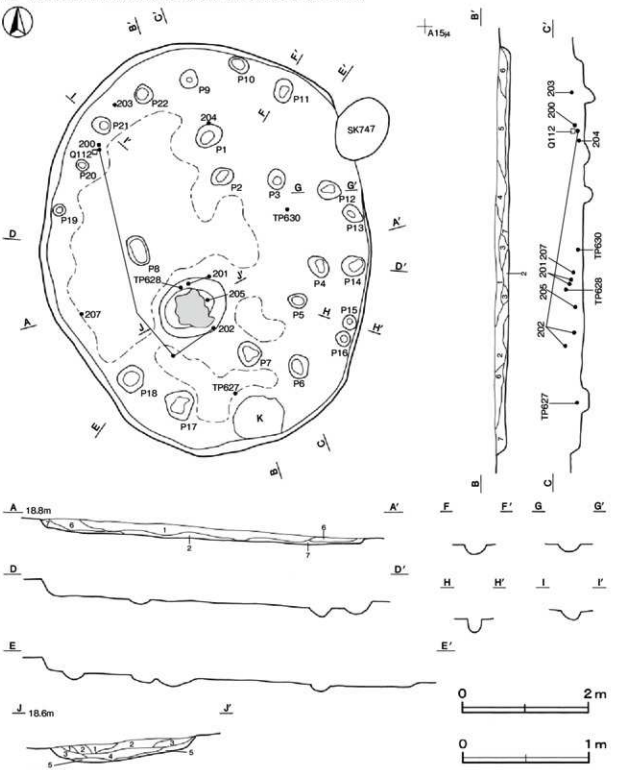
第45号住居跡（第10～12図）

位置　調査区中央部のA15j3区で，標高18.4～18.7mの緩やかな斜面部に位置している。

重複関係　第747号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長径6.5m，短径5.3mの楕円形で，長径方向はN－35°－Eである。壁高は8～21cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，炉の周囲から北部にかけて踏み固められている。



第10図　第45号住居跡実測図

ピット　22か所。Ｐ１・Ｐ３～Ｐ５・Ｐ７・Ｐ８は深さ11～31㎝で，中央部に位置し，規模や配置から主柱穴と考えられる。Ｐ６・Ｐ９～Ｐ22は深さ12～26㎝で，壁に沿って巡っており，補助的な柱穴と考えられる。Ｐ２・Ｐ12は深さ12～20㎝で，その性格は不明である。

炉　中央部からやや南西寄りに位置している。長径116㎝，短径92㎝の楕円形で，床面を皿状に18㎝掘り込んだ地床炉である。炉床は火熱を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

1　暗　赤　褐　色　焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
2　暗　赤　褐　色　焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子微量
3　極暗赤褐色　炭化粒子少量，ローム粒子微量
4　にぶい赤褐色　焼土ブロック少量，ローム粒子微量
5　赤　褐　色　焼土粒子中量，ローム粒子少量

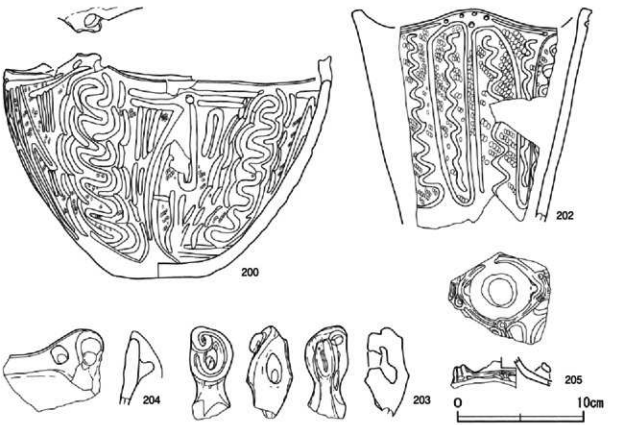
覆土　７層に分層される。ブロック状の堆積状況を示すことから人為堆積と考えられる。

土層解説

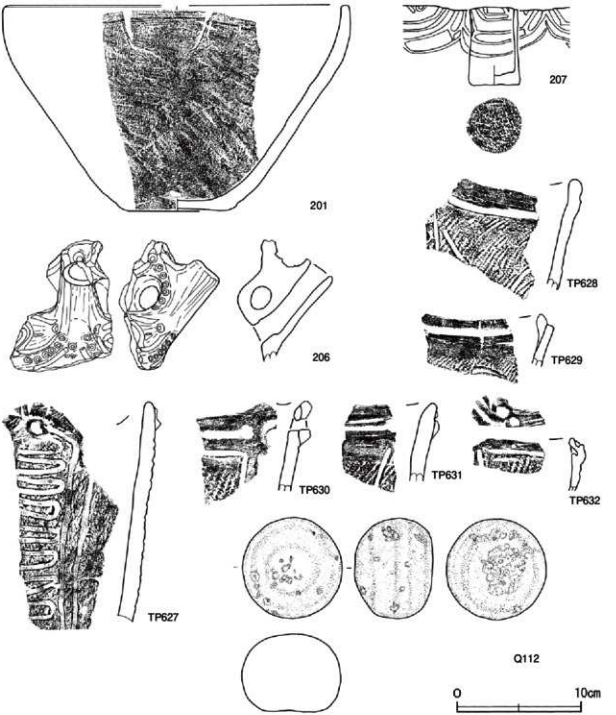
1　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　色　焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子微量
3　灰　褐　色　焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子微量
4　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
6　暗　褐　色　ローム粒子少量
7　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量

遺物出土状況　縄文土器片1,146点（深鉢1,103点，浅鉢41点，注口土器１点，ミニチュア土器１点），石器１点（磨石）が出土している。出土土器は全体の覆土上層から下層にかけて散在している。また，混入したと考えられる土師器片２点（高坏，甑）も出土している。200は北西部の覆土中層から正位でつぶれた状態で出土している。201は炉の周辺の覆土中層から出土した破片が接合したものである。203は北部の覆土上層，204は北部の覆土中層，205は炉周辺の覆土下層，207は西部の覆土中層からそれぞれ出土している。Q112は北西部の覆土上層，TP627は南部の床面，TP628は炉周辺の覆土上層，TP630は東部の覆土下層から出土している。

所見　時期は，出土土器から後期前葉以前と考えられる。



第11図　第45号住居跡出土遺物実測図(1)



第12図　第45号住居跡出土遺物実測図(2)

第45号住居跡出土遺物観察表（第11・12図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
200	縄文土器	浅鉢	25.8	17.5	6.5	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	LRの単節縄文を地文とし蛇行沈線文の周りに弧状の沈線を組み合わせで文様描出	北西部覆土中層	80% PL6
201	縄文土器	浅鉢	[27.3]	16.5	(8.0)	長石・石英・赤色粒子	赤褐	普通	無文　内・外面削り後磨き調整	中央部覆土中層	30% PL6
202	縄文土器	深鉢	[17.9]	(16.9)	－	長石・雲母・赤色粒子	明褐	普通	口縁波頂部に円形刺突文　胴部RLの単節縄文施文後、蛇行沈線文と懸垂文により文様描出	北西部覆土中層・南部覆土中層	30% PL6

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
203	縄文土器	深鉢	－	(7.3)	－	長石・石英	にぶい橙	普通	把手部片　両面中央部に円孔を有し，孔に沿って沈線を施す	北部覆土上層	5%
204	縄文土器	深鉢	－	(5.2)	－	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	波頂部下に刺突文　隆帯貼り付け	北部覆土中層	5%
205	縄文土器	蓋型土器	－	(2.4)	－	長石・石英	赤褐	普通	隆帯貼り付け部に円形刺突文　棒状工具による沈線	中周辺覆土下層	10%　PL6
206	縄文土器	注口土器	－	(9.8)	－	長石・石英	にぶい橙	普通	注口部に円形刺突文及び沈線で文様描出	覆土中	10%　PL6
207	縄文土器	ミニチュア土器	(3.6)	(6.0)	4.0	長石・石英・雲母	黒褐	普通	棒状工具による沈線により文様描出	西部覆土中層	95%　PL6

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP627	縄文土器	深鉢	－	(17.7)	－	長石・石英・雲母	橙	普通	波頂部外面に円形貼付文　蛇行沈線文描出	南部床面	PL6
TP628	縄文土器	深鉢	－	(9.0)	－	長石・石英・雲母	灰褐	普通	ＬＲの単節縄文施文後沈線により文様構成	中周辺覆土上層	PL7
TP629	縄文土器	深鉢	－	(4.3)	－	長石・石英・雲母	黒褐	普通	口縁部は横方向の沈線により区画　胴部はＬＲの単節縄文施文	覆土中	PL7
TP630	縄文土器	深鉢	－	(7.2)	－	雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部隆帯貼り付け後円孔や沈線により文様構成	東部覆土下層	PL7
TP631	縄文土器	深鉢	－	(6.3)	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部は円形刺突文と横位の沈線により文様構成	覆土中	PL7
TP632	縄文土器	深鉢	－	(4.3)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部は円形刺突文と沈線により文様構成	覆土中	PL7

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　　徴	出土位置	備考
Q112	磨　石	8.1	8.1	6.3	560	安山岩	周縁に擦痕	北西部覆土上層	PL8

表2　竪穴住居跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模（m）（長軸×短軸）	壁高（cm）	床面	内部施設 壁溝	内部施設 主柱穴	内部施設 貯蔵穴	内部施設 ピット	内部施設 入口	炉	覆土	出土遺物	備考（重複関係　旧→新）	時期
41	A15h4	N－21°－W	[円形]	3.80×（2.80）	4～10	平坦	－	5	－	9	－	1	人為	縄文土器，晋状土製品		中期後葉
42	A15h1	N－34°－W	[楕円形]	4.98×　4.83	16～32	平坦	－	5	－	1	－	1	自然	縄文土器	本跡→SK710・712	後期前葉
43	A15g3	N－35°－W	不明	3.25×（1.53）	5～15	平坦	－	1	－	2	－	－	人為	縄文土器		後期前葉以前
44	A14f0	N－7°－E	不明	3.58×（1.60）	6～14	平坦	－	－	－	1	－	－	人為	縄文土器	本跡→SK725	後期前葉以前
45	A15j3	N－35°－E	楕円形	6.50×　5.27	8～21	平坦	－	6	－	16	－	1	人為	縄文土器，磨石	本跡→SK747	後期前葉以前

(2)　土坑

第746号土坑（第13～16図）

位置　調査区中央部のA15h1区で，標高18.8～18.9mの緩やかな斜面部に位置している。

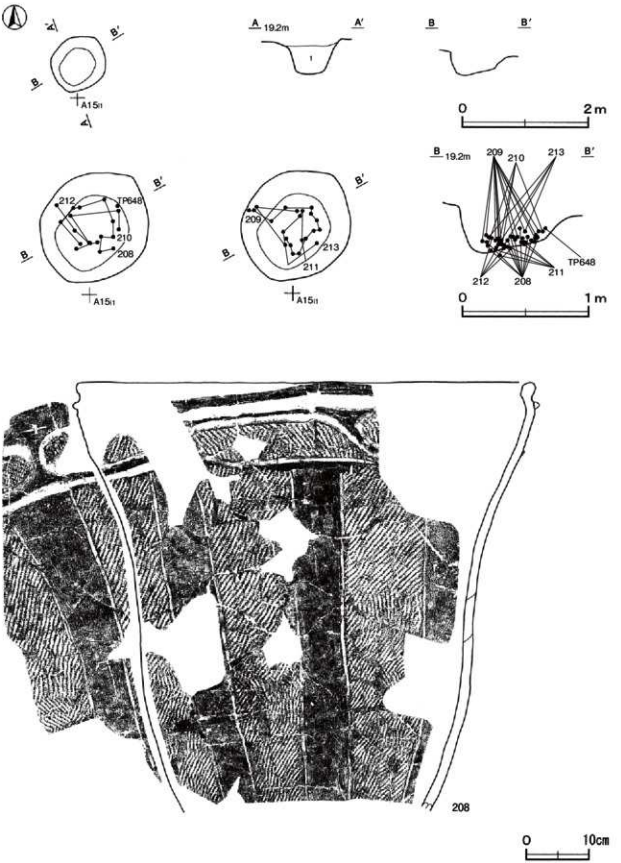
規模と形状　径0.89mの円形である。底面は平坦で壁は外傾して立ち上がり，深さは39㎝である。

覆土　単一層である。ロームブロックの含有状況から人為堆積と考えられる。

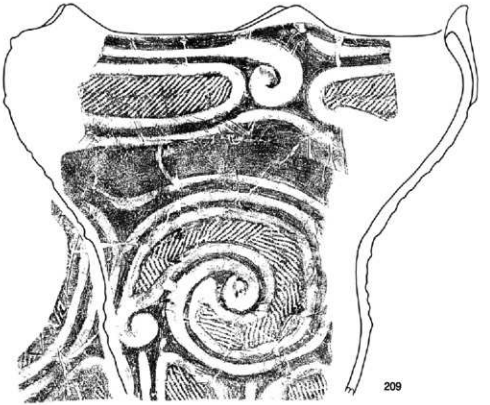
土層解説
1　褐　色　ロームブロック中量

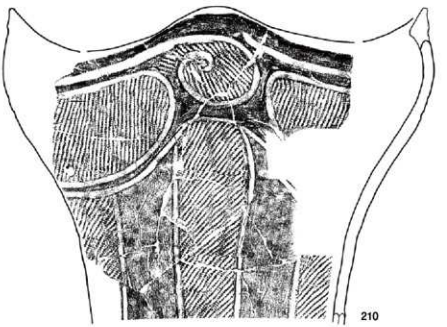
遺物出土状況　縄文土器片302点（深鉢297点，浅鉢5点）が出土している。土器は破片の状態で覆土中層から底面にかけて集中して出土している。208・210～212は覆土中層から底面にかけて出土した破片が接合したものである。208は口径72㎝の大型の深鉢で，口縁部から胴部にかけての83点の破片が接合した。209・213は覆土中層から下層にかけて出土した破片が接合したものである。TP648は覆土中層から出土している。

所見　遺物出土状況から土器は破砕された状態で一括投棄されたものと考えられる。時期は出土土器から中期後葉と考えられる。

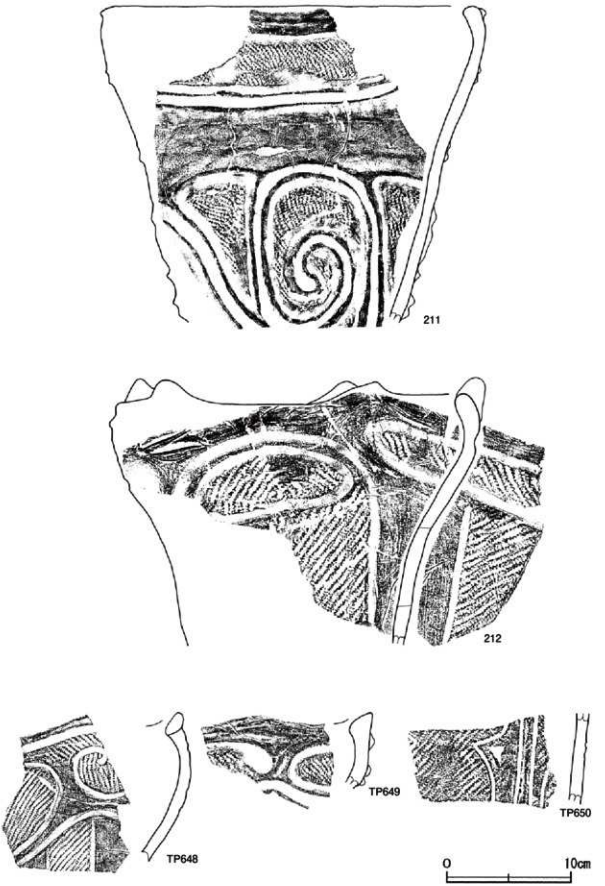


第13図　第746号土坑・出土遺物実測図

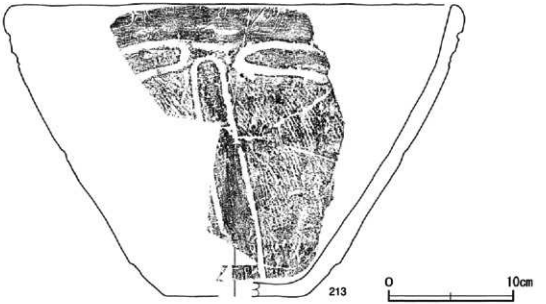




第14図　第746号土坑出土遺物実測図(1)



第15図　第746号土坑出土遺物実測図(2)



第16図　第746号土坑出土遺物実測図(3)

第746号土坑出土遺物観察表（第13 ～ 16図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
208	縄文土器	深鉢	[72.4]	(68.2)	－	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	口縁部は沈線が巡り隆帯により渦巻文と区画文で構成　胴部は懸垂文帯に 冠 の単節縄文施文	覆土中層～底面	8% PL5
209	縄文土器	深鉢	35.2	(31.4)	－	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	隆帯による大振りの渦巻き文が器面全体に施される　区画内に LR の単節縄文施文	覆土中層～覆土下層	70% PL5
210	縄文土器	深鉢	[33.4]	(25.5)	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部は沈線が巡り隆帯により渦巻文と区画文で構成　胴部は懸垂文帯に 冠 の単節縄文施文	覆土中層～底面	20% PL5
211	縄文土器	深鉢	[28.9]	(25.5)	－	長石・石英	にぶい橙	普通	隆帯による大振りの渦巻き文が器面全体に施される　区画内に 冠 の単節縄文施文	覆土中層～底面	5% PL5
212	縄文土器	深鉢	[29.0]	(21.4)	－	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部は沈線が巡り隆帯により渦巻き文と区画文で構成　胴部は懸垂文帯に 冠 の単節縄文施文	覆土中層～底面	5%
213	縄文土器	浅鉢	[35.6]	23.5	[11.0]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	逆U字状の沈線により文様構成　胴部は単節縄文を施文	覆土中層～覆土下層	10%

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP648	縄文土器	深鉢	－	(12.0)	－	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	沈線により渦巻文や楕円形の文様を描出	覆土中層	PL7
TP649	縄文土器	深鉢	－	(6.1)	－	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	沈線を伴う隆帯により文様部を区画　RL の単節縄文を充填	覆土中	PL7
TP650	縄文土器	深鉢	－	(7.3)	－	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	縦方向の沈線により文様部を区画　RL の単節縄文を施文	覆土中	PL7

2　その他の遺構と遺物

溝跡１条，土坑37基が確認された。溝跡，主な土坑について記述し，その他の土坑については全体図，一覧表で記載する。

(1)　溝跡

第１号溝跡（第17・全体図）

位置　調査区北部のＡ14d8区～Ａ15e3区で，標高15.5 ～ 16.5m の斜面部に位置している。

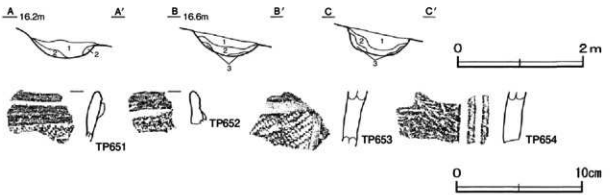
規模と形状　Ａ15e3 区からＮ－71°－Ｗの方向に直線的に延びており，Ａ14d8 区で調査区域外に延びている。規模は上幅0.71 ～ 1.32m，下幅0.25 ～ 0.52m，深さ28 ～ 37 ㎝で，確認できた長さは23.8m である。断面はＵ字状で，壁は緩斜して立ち上がっている。

覆土　3層に分層される。レンズ状の堆積状況を示すことから自然堆積と考えられる。

土層解説
1　黒褐色　ローム粒子少量
2　暗褐色　ロームブロック少量
3　褐　色　ローム粒子中量

遺物出土状況　縄文土器深鉢片51点，土師器片３点（坏，高坏，甕）が出土している。TP651 ～ TP654は西部の覆土中から出土している。

所見　溝の機能は，標高に沿って位置していることから区画溝の可能性がある。時期は，出土土器が流れ込みと考えられることから，不明である。



第17図　第1号溝跡・出土遺物実測図

第１号溝跡出土遺物観察表（第17図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP651	縄文土器	深鉢	－	(4.0)	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部は沈線を伴う隆帯により文様帯を区画	覆土中	PL7
TP652	縄文土器	深鉢	－	(2.7)	－	長石・石英・雲母	灰褐	普通	口縁部は沈線により文様帯を区画	覆土中	
TP653	縄文土器	深鉢	－	(4.4)	－	長石・石英・雲母	褐灰	普通	沈線により文様帯を区画　ＲＬの単節縄文を充填	覆土中	PL7
TP654	縄文土器	深鉢	－	(4.0)	－	長石・石英・雲母	褐灰	普通	縦方向の平行沈線により文様構成	覆土中	

(2)　土坑

第710号土坑（第18図）

位置　調査区中央部のＡ15i2区で，標高18.8 ～ 18.9m の緩やかな斜面部に位置している。

重複関係　第42号住居跡を掘り込んでいる。

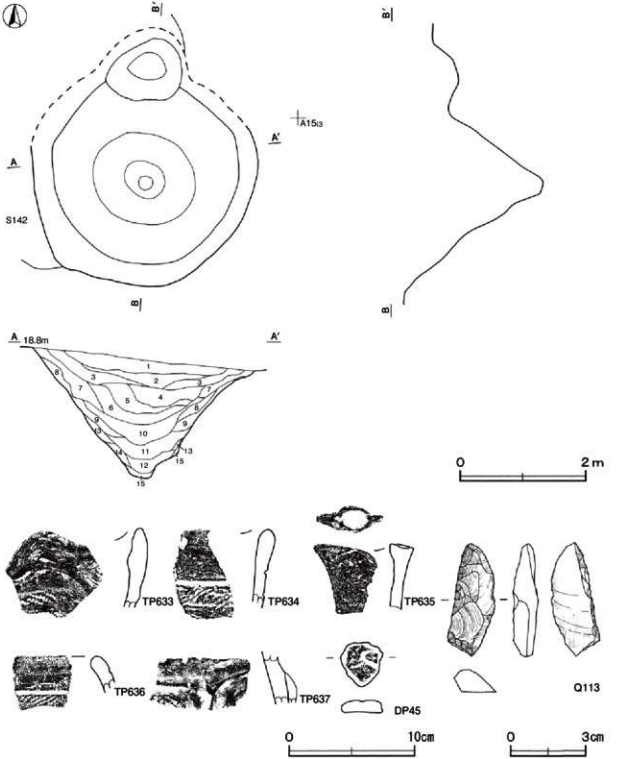
規模と形状　長径3.96m，短径3.61m の円形である。断面はすり鉢状で，壁は外傾して立ち上がり，深さは205cmである。底面は径0.2m の円形でほぼ平坦であり，深さ18cmのくぼみを有している。北部の上面には長径1.20m，短径0.96m，深さ40 cmの楕円形の掘り込みがあり，土層の観察状況から，本跡と関連する施設である可能性がある。

覆土　15層に分層される。レンズ状の堆積状況を示すことから自然堆積と考えられる。

土層解説
1　黒　　色　焼土粒子微量
2　黒　　色　ローム粒子微量
3　黒　褐　色　ローム粒子微量
4　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
5　黒　褐　色　ローム粒子少量
6　黒　褐　色　ロームブロック微量
7　黒　褐　色　ロームブロック少量
8　暗　褐　色　ローム粒子中量
9　暗　褐　色　ロームブロック・砂粒少量
10　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
11　暗　褐　色　ローム粒子少量
12　暗　褐　色　砂粒中量，ローム粒子少量，焼土粒子微量
13　褐　　色　ローム粒子・砂粒中量
14　にぶい赤褐色　焼土粒子・砂粒中量
15　明 黄 褐 色　粘土粒子・砂粒中量

遺物出土状況　縄文土器深鉢片169点，土師器片２点（坏，高坏），石器１点（彫器）が出土している。

所見　本跡は台地縁辺部に立地し，底面にくぼみを持つすり鉢状の形状から，他の土坑とは性格の異なる土坑であると考えられる。時期は，遺物が流れ込みと考えられることから，不明である。



第18図　第710号土坑・出土遺物実測図

第710号土坑出土遺物観察表（第18図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP633	縄文土器	深鉢	－	(6.0)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部に沈線を伴う隆帯で文様帯を区画	覆土中	PL7
TP634	縄文土器	深鉢	－	(6.1)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	沈線区画内に単節縄文を充填	覆土中	
TP635	縄文土器	深鉢	－	(5.2)	－	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口唇部に円形刺突文	覆土中	PL7
TP636	縄文土器	深鉢	－	(2.9)	－	長石・雲母	明赤褐	普通	口縁部に横方向の沈線	覆土中	PL7
TP637	縄文土器	深鉢	－	(4.2)	－	長石・雲母	明赤褐	普通	隆帯により文様帯を区画	覆土中	

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土・材質	特　　徴	出土位置	備考
DP45	土器円板	3.5	3.5	1.0	11.3	長石・石英・雲母	周縁部雑な研磨	覆土中	
Q113	彫　器	4.5	1.8	0.9	4.96	黒曜石	片面調整	覆土中	PL8

第711号土坑（第19図）

位置　調査区中央部のA15h2区で，標高18.1 ～ 18.2m の緩やかな斜面部に位置している。

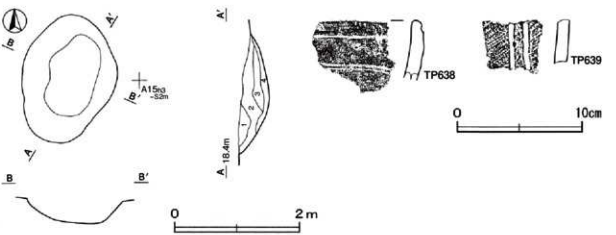
規模と形状　長径2.02m，短径1.51m の楕円形で，主軸方向はN－17°－Eである。底面は皿状で，壁は緩斜して立ち上がり，深さは41cmである。

覆土　4層に分層される。レンズ状の堆積状況を示すことから自然堆積と考えられる。

土層解説
1　黒褐色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
3　褐　色　ローム粒子中量
4　褐　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　縄文土器深鉢片14点が出土している。

所見　時期は，出土土器が流れ込みと考えられることから，不明である。



第19図　第711号土坑・出土遺物実測図

第711号土坑出土遺物観察表（第19図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP638	縄文土器	深鉢	－	(4.8)	－	長石・石英・雲母	浅黄橙	普通	口唇部直下に横方向の沈線	覆土中	PL7
TP639	縄文土器	深鉢	－	(3.5)	－	長石・石英・雲母	灰褐	普通	L Rの単節縄文施文後縦方向の沈線	覆土中	

第715号土坑（第20図）

位置　調査区中央部のA15i3区で，標高18.2 ～ 18.3m の緩やかな斜面部に位置している。

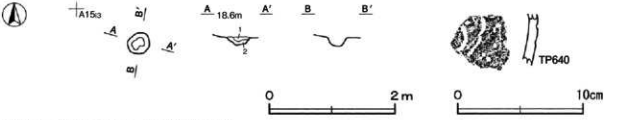
規模と形状　径0.3m ほどの円形である。底面は皿状で，壁は外傾して立ち上がり，深さは13cmである。

覆土　2層に分層される。レンズ状の堆積状況を示すことから自然堆積と考えられる。

土層解説
1　黒褐色　ローム粒子少量，炭化粒子微量　　2　褐　色　ローム粒子中量

遺物出土状況　縄文土器深鉢片1点が出土している。

所見　時期は，出土土器が流れ込みと考えられることから，不明である。



第20図　第715号土坑・出土遺物実測図

第715号土坑出土遺物観察表（第20図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP640	縄文土器	深鉢	－	(4.0)	－	長石・石英・雲母	橙	普通	沈線間に列点文を充填	覆土中	PL7

第718号土坑（第21図）

位置　調査区中央部のA15h2区で，標高18.2 ～ 18.3m の緩やかな斜面部に位置している。

重複関係　第719号土坑を掘り込んでいる。

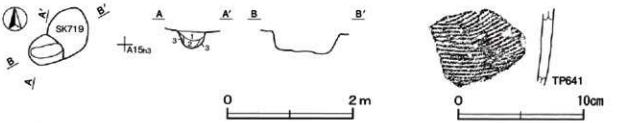
規模と形状　長径0.53m，短径0.45m の楕円形で，主軸方向はN－78°－Eである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がり，深さは29cmである。

覆土　3層に分層される。レンズ状の堆積状況を示すことから自然堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ローム粒子少量，炭化粒子微量　　3　明褐色　ローム粒子多量
2　褐　色　ローム粒子中量

遺物出土状況　縄文土器深鉢片4点が出土している。

所見　時期は，出土土器が流れ込みと考えられることから，不明である。



第21図　第718号土坑・出土遺物実測図

第718号土坑出土遺物観察表（第21図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP641	縄文土器	深鉢	－	(6.1)	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	L Rの単節縄文施文	覆土中	

第724号土坑（第22図）

位置　調査区中央部のA14g0区で，標高18.2 ～ 18.4m の緩やかな斜面部に位置している。

規模と形状　長径3.05m，短径1.85m の楕円形で，長径方向はN － 7°－Wである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がり，深さは18cmである。

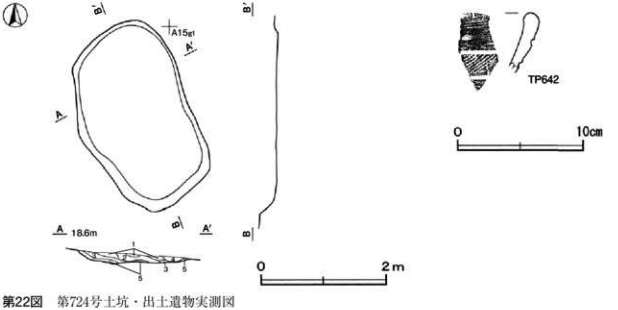
覆土　5層に分層される。ブロック状の堆積状況を示すことから人為堆積と考えられる。

土層解説

1　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量
2　黒褐色　炭化粒子中量，焼土粒子少量
3　暗褐色　炭化粒子中量，ローム粒子少量
4　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量
5　明褐色　ローム粒子多量

遺物出土状況　縄文土器深鉢片 4 点が出土している。

所見　本跡は規模が大きく，覆土に炭化粒子や焼土粒子を含んでいる点で周囲の土坑と様相が異なる。時期は，出土土器が流れ込みと考えられることから，不明である。



第22図　第724号土坑・出土遺物実測図

第724号土坑出土遺物観察表（第22図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP642	縄文土器	深鉢	－	(4.7)	－	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	沈線により文様帯を区画し，L Rの単節縄文を充填	覆土中	PL7

第733号土坑（第23図）

位置　調査区北部のA15d2区で，標高15.5 ～ 15.6m の台地縁辺の緩斜面に位置している。

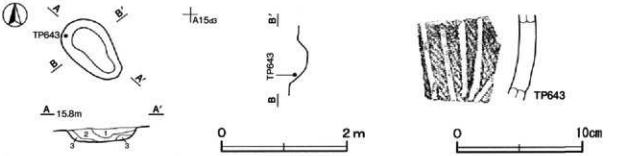
規模と形状　長径1.02m，短径0.70m の楕円形で，主軸方向はN － 40°－Wである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がり，深さは21cmである。

覆土　3層に分層される。レンズ状の堆積状況を示すことから自然堆積と考えられる。

土層解説
1　黒褐色　ローム粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子中量
3　褐　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　縄文土器深鉢片3点が出土している。

所見　時期は，出土土器が流れ込みと考えられることから，不明である。



第23図　第733号土坑・出土遺物実測図

第733号土坑出土遺物観察表（第23図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP643	縄文土器	深鉢	－	(6.8)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	縄文を地文とし沈線により文様を描出	覆土上層	PL7

第739号土坑（第24図）

位置　調査区中央部のB15a4区で，標高18.0 ～ 18.1mの緩やかな斜面部に位置している。

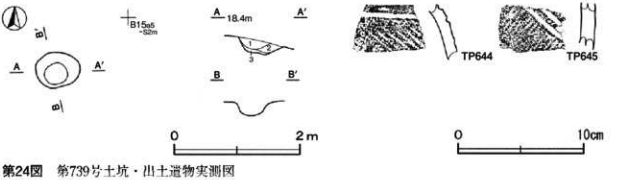
規模と形状　長径0.71m，短径0.57mの楕円形で，主軸方向はN－83°－Wである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がり，深さは20cmである。

覆土　3層に分層される。レンズ状の堆積状況を示すことから自然堆積と考えられる。

土層解説
1　黒褐色　ローム粒子少量・炭化粒子微量
2　褐　色　ローム粒子中量
3　褐　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　縄文土器深鉢片4点が出土している。

所見　時期は，出土土器が流れ込みと考えられることから，不明である。



第24図　第739号土坑・出土遺物実測図

第739号土坑出土遺物観察表（第24図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP644	縄文土器	深鉢	－	(5.8)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	沈線により文様描出　ＲＬの単節縄文を施文	覆土中	
TP645	縄文土器	深鉢	－	(3.6)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	沈線により文様描出　単節縄文を施文	覆土中	

第743号土坑（第25図）

位置　調査区南部のＢ15e5区で，標高17.5 ～ 17.6m の緩やかな斜面部に位置している。

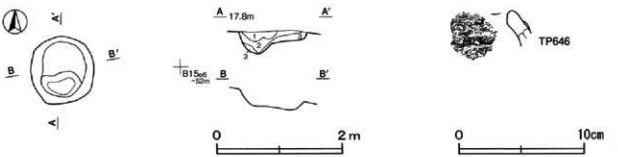
規模と形状　径1.0m ほどの円形である。底面は平坦で，壁は緩斜して立ち上がり，深さは34cmである。

覆土　３層に分層される。レンズ状の堆積状況を示すことから自然堆積と考えられる。

土層解説
1　黒褐色　ローム粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子中量
3　褐　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　縄文土器深鉢片12点が出土している。

所見　時期は，出土土器が流れ込みと考えられることから，不明である。



第25図　第743号土坑・出土遺物実測図

第743号土坑出土遺物観察表（第25図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP646	縄文土器	深鉢	－	(2.8)	－	長石・石英	にぶい黄褐	普通	口縁部に微隆帯貼り付け	覆土中	

第744号土坑（第26図）

位置　調査区南部のＢ15e5区で，標高17.5 ～ 17.6m の緩やかな斜面部に位置している。

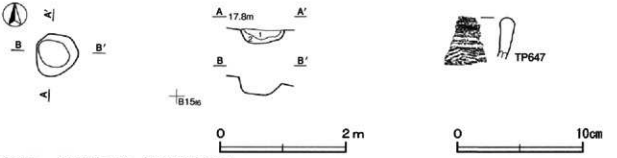
規模と形状　長径0.74m，短径0.67m の楕円形で，主軸方向はＮ－37°－Ｅである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がり，深さは24cmである。

覆土　２層に分層される。レンズ状の堆積状況を示すことから自然堆積と考えられる。

土層解説
1　黒褐色　ローム粒子・炭化粒子微量
2　褐　色　ローム粒子中量

遺物出土状況　縄文土器深鉢片６点が出土している。

所見　時期は，出土土器が流れ込みと考えられることから，不明である。



第26図　第744号土坑・出土遺物実測図

第744号土坑出土遺物観察表（第26図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP647	縄文土器	深鉢	－	(3.3)	－	長石・石英・雲母	明褐	普通	口縁部に横方向の沈線	覆土中	PL7

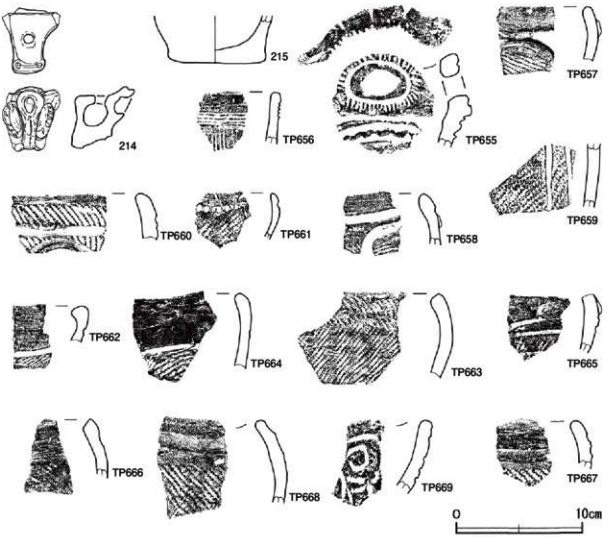
表3　土坑一覧表

土坑番号	位　置	長径方向	平面形	規　模		壁面	底面	覆土	備　考
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)				遺構番号・新旧関係(古→新)
710	A15i2	N－0°	円形	3.96×3.61	205	外傾	平坦	自然	SI42→本跡
711	A15h2	N－17°－E	楕円形	2.02×1.51	41	緩斜	皿状	自然	
712	A15h2	N－0°	不整円形	0.65×0.65	16	外傾	平坦	自然	SI42→本跡
713	A15i3	N－0°	不整円形	0.53×0.51	11～14	外傾	皿状	自然	
714	A15i3	N－24°－E	楕円形	0.42×0.36	14	外傾	平坦	自然	
715	A15i3	N－0°	円形	0.35×0.31	13	外傾	皿状	自然	
716	A15i3	N－7°－W	楕円形	0.39×0.32	12	外傾	皿状	自然	
717	A15i3	N－0°	円形	0.50×0.50	10	外傾	平坦	自然	
718	A15h2	N－78°－E	楕円形	0.53×0.45	29	外傾	平坦	自然	SK719→本跡
719	A15g2	N－11°－E	楕円形	0.85×0.65	32	緩斜	平坦	自然	本跡→SK718
720	A15g2	N－59°－E	楕円形	1.05×0.82	35	緩斜	皿状	自然	
721	A15g2	N－0°	円形	0.52×0.48	25	外傾	皿状	自然	
722	A15i4	N－13°－E	楕円形	0.84×0.74	27	外傾	皿状	自然	
723	A14g0	N－2°－E	不定形	0.90×0.86	15	緩斜	皿状	自然	
724	A14g0	N－7°－W	楕円形	3.05×1.85	18	外傾	平坦	人為	
725	A14f0	N－0°	円形	0.64×0.64	64	外傾	皿状	自然	SI44→本跡
726	A15e3	N－36°－E	楕円形	0.82×0.69	30	緩斜	平坦	自然	
727	A15e1	N－0°	円形	0.94×0.80	25	緩斜	平坦	自然	
728	A14e0	N－82°－E	楕円形	0.88×0.75	20	外傾	平坦	自然	
729	A14e9	N－0°	円形	0.49×0.47	12	外傾	平坦	自然	
730	A14d9	N－55°－W	楕円形	0.51×0.35	11	外傾	平坦	自然	
731	A14e8	N－57°－E	楕円形	0.86×0.77	15	外傾	平坦	自然	
732	A15d3	N－0°	円形	0.66×0.61	23	垂直	皿状	自然	
733	A15d2	N－40°－W	楕円形	1.02×0.70	21	外傾	平坦	自然	
734	A15b3	N－43°－E	楕円形	0.69×0.61	23	外傾	皿状	自然	
735	A15c2	N－40°－E	楕円形	0.76×0.63	23	外傾	皿状	自然	
736	A15c1	N－70°－E	楕円形	0.93×0.73	19	外傾	平坦	自然	

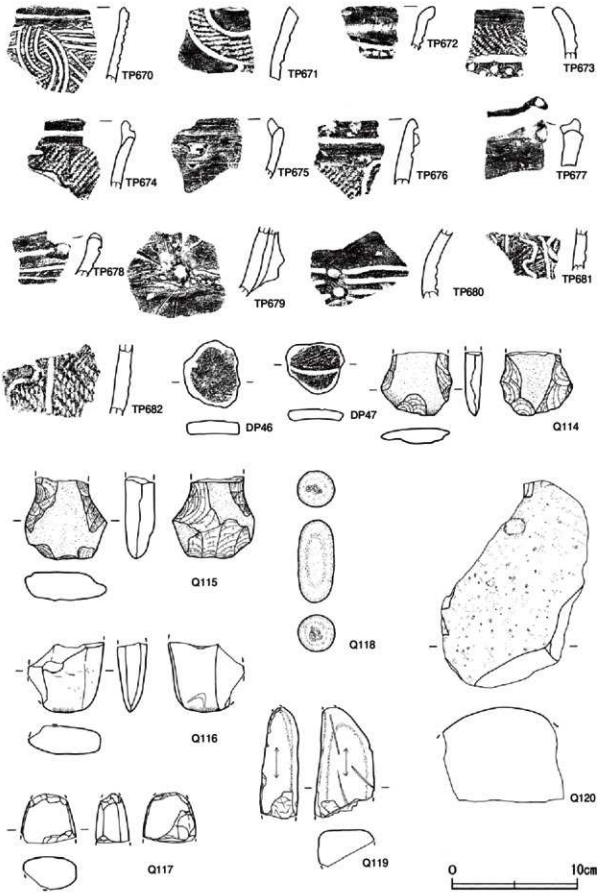
土坑番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	備考
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)				遺構番号・新旧関係(古→新)
738	B15a4	N－18°－W	楕円形	0.71×0.60	15	外傾	平坦	自然	
739	B15a4	N－83°－W	楕円形	0.71×0.57	20	外傾	平坦	自然	
740	B15c4	N－13°－W	楕円形	0.68×0.50	10	緩斜	平坦	自然	
741	B15e4	N－12°－W	楕円形	1.30×0.75	25	緩斜	平坦	自然	
742	B15e4	N－10°－W	楕円形	1.30×0.75	23	緩斜	平坦	自然	
743	B15e5	N－0°	円形	1.06×1.02	34	緩斜	平坦	自然	
744	B15e5	N－37°－E	楕円形	0.74×0.67	24	外傾	平坦	自然	
745	B15f5	N－81°－E	楕円形	0.63×0.47	25	外傾	平坦	自然	
746	A15h1	N－29°－E	円形	0.89×0.89	17	外傾	平坦	人為	
747	A15j3	N－39°－E	楕円形	1.10×0.78	32	緩斜	皿状	自然	SI45→本跡

(3) 遺構外出土遺物

ここでは，調査区内の表土中から出土した遺物や，他時期の遺構への流れ込みと判断された遺物のうち，特徴的なものを実測図と観察表で記載する。



第27図　遺構外出土遺物実測図(1)



第28図　遺構外出土遺物実測図(2)

遺構外出土遺物観察表（第27・28図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
214	縄文土器	深鉢	－	(5.1)	－	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	粗手縄　中心に円孔を有し，その周囲に瓜形文をもつ隆帯を巡らす	A15g2区表採	
215	縄文土器	深鉢	－	(3.7)	7.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	胴部無文	表採	

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP655	縄文土器	深鉢	－	(7.3)	－	長石・石英・雲母	赤褐	普通	円孔の周囲に沈線と瓜形文により文様描出	表採	PL7
TP656	縄文土器	深鉢	－	(4.1)	－	長石・石英	橙	普通	条線文を格子目状に施文	表採	PL7
TP657	縄文土器	深鉢	－	(4.3)	－	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部隆帯貼り付け	表採	PL7
TP658	縄文土器	深鉢	－	(4.1)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部に沈線と隆帯で文様描出	A15d区表採	PL7
TP659	縄文土器	深鉢	－	(5.0)	－	石英・雲母	橙	普通	ＬＲの単節縄文を地文とし沈線により文様描出	B15f5区表採	
TP660	縄文土器	深鉢	－	(3.7)	－	石英・雲母	にぶい黄橙	普通	ＲＬの単節縄文を地文とし沈線により文様描出	表採	PL7
TP661	縄文土器	ミニチュア土器	－	(3.6)	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部に円形刺突文を巡らす	A14e0区表採	
TP662	縄文土器	深鉢	－	(2.9)	－	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口唇部は肥厚し，沈線により文様帯を区画	表採	
TP663	縄文土器	深鉢	－	(6.7)	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	ＲＬの単節縄文を羽状構成に施文	表採	PL7
TP664	縄文土器	深鉢	－	(6.0)	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部に沈線により文様帯を区画	B15f5区表採	
TP665	縄文土器	深鉢	－	(4.7)	－	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	沈線を伴う隆帯により文様描出	A15f1区表採	
TP666	縄文土器	深鉢	－	(4.7)	－	雲母・赤色粒子	橙	普通	口唇部直下に沈線により文様描出	B15f5区表採	
TP667	縄文土器	深鉢	－	(3.3)	－	石英・雲母・細礫	橙	普通	沈線により無文帯を区画	A15j2区表採	
TP668	縄文土器	深鉢	－	(6.5)	－	長石・雲母	にぶい褐	普通	口縁部は無文　沈線により文様帯を区画	中央部表採	PL7
TP669	縄文土器	深鉢	－	(5.9)	－	長石	にぶい黄橙	普通	沈線により渦巻き状の文様を描出	A15h2区表採	PL7
TP670	縄文土器	深鉢	－	(6.0)	－	長石・細礫	橙	普通	単節縄文を地文とし，沈線により文様を描出	表採	PL7
TP671	縄文土器	深鉢	－	(5.9)	－	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	沈線により文様帯を区画し，単節縄文を充填	表採	
TP672	縄文土器	深鉢	－	(3.5)	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口唇部外反　沈線と刺突文により文様構成	表採	PL7
TP673	縄文土器	深鉢	－	(4.2)	－	長石・石英・雲母	褐	普通	沈線区画内に円形刺突文施文	B15c5区表採	PL7
TP674	縄文土器	深鉢	－	(5.5)	－	長石・石英・雲母	橙	普通	ＬＲの単節縄文を地文とし沈線により文様描出	表採	PL7
TP675	縄文土器	深鉢	－	(4.7)	－	長石・細礫	にぶい黄橙	普通	口縁部は内傾する　胴部無文	B15a0区表採	
TP676	縄文土器	深鉢	－	(5.1)	－	長石・石英	明赤褐	普通	口唇部直下に沈線を伴う隆帯	表採	PL7
TP677	縄文土器	深鉢	－	(3.7)	－	長石	にぶい黄橙	普通	口縁部は円形刺突文と横方向の沈線により文様構成	B15f5区表採	
TP678	縄文土器	深鉢	－	(3.6)	－	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部は円形刺突文と横方向の沈線により文様構成	表採	
TP679	縄文土器	深鉢	－	(5.6)	－	長石・石英	にぶい赤褐	普通	隆帯上に刺突文を配し文様構成	A15g2区表採	PL7
TP680	縄文土器	深鉢	－	(5.7)	－	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	沈線と円形刺突文により文様構成	B15f5区表採	
TP681	縄文土器	深鉢	－	(3.6)	－	長石・石英・雲母	黒褐	普通	単節縄文を地文とし，沈線により文様を描出	A15f1区表採	
TP682	縄文土器	深鉢	－	(5.6)	－	長石・石英・雲母	赤褐	普通	ＲＬの単節縄文を地文とし沈線により文様を描出	A15h2区表採	

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土・材質	特　　徴	出土位置	備考
DP46	土器円板	5.3	4.4	1.1	30.1	長石・石英・雲母	周縁部雑な研磨	表採	
DP47	土器円板	4.1	4.7	0.9	19.2	長石・石英・雲母	周縁部雑な研磨	表採	
Q114	打製石斧	(5.1)	5.7	1.3	(54.2)	流紋岩	両面調整	表採	
Q115	打製石斧	(6.5)	6.5	(2.3)	(123.4)	安山岩	両面調整	表採	PL8
Q116	磨製石斧	(5.6)	(6.1)	(2.5)	(88.8)	砂岩	定角式　刃部欠損	表採	PL8
Q117	磨製石斧	(4.0)	(4.2)	(2.7)	(74.5)	流紋岩	定角式　刃部欠損	表採	PL8
Q118	磨　石	6.5	2.9	2.9	85.0	砂岩	両端に使用痕	表採	PL8
Q119	砥　石	(8.8)	(4.8)	(3.1)	(140.9)	安山岩	砥面２面	表採	PL8
Q120	石　棒	(16.5)	(10.7)	(7.6)	(1380.0)	安山岩	表面研磨	表採	PL8

第4節　ま　と　め

島名境松遺跡では，縄文時代の竪穴住居跡５軒，土坑１基，時期不明の大形土坑１基，土坑36基，溝跡１条を確認した。ここでは，『茨城県教育財団文化財調査報告第191集』における時期区分[1]を基に，遺構と出土土器の検討を行い，まとめとしたい。第191集では時期をⅠ期からⅣ期の４期に分けている。その中でⅠ期（中期中葉　阿玉台Ⅰｂ～Ⅱ式期）及びⅡ期（中期後葉　加曽利ＥⅡ～Ⅲ式期）の遺構は，今回の調査区からは確認されていないため，Ⅲ期以降の遺構について述べる。また，今回確認された後期前葉の遺構は時期区分に入っていないため，新しくⅤ期（後期前葉　称名寺式期～堀之内１式期）を追加設定することとする。

１　Ⅲ期　中期後葉　加曽利ＥⅢ式期（第29図）

第746号土坑が該当する。径0.89m，深さ38㎝の土坑から大量の縄文土器片が出土した。復元したものが完形品とならないことから，縄文土器片が廃棄された土坑と考えられる。復元できた個体は加曽利ＥⅢ期の古段階と新段階に細分できる。加曽利ＥⅢ式古段階のものとして208・210・212の深鉢，213の浅鉢が出土している。208は口径72㎝の大型の深鉢である。口縁部は沈線が沿う隆帯により渦巻文と区画文で構成されている。210は胴部の磨消懸垂文が幅広となり，逆Ｕ字状文になる段階である。また，210・213は沈線により文様を描出する西関東的な様相が見られる[2]。加曽利ＥⅢ式新段階のものとして，209・211の深鉢が出土している。口縁部文様帯と胴部文様帯が一体化し，微隆帯による大振りの渦巻文が器面全体に施されている。

今回の調査区には他にⅢ期の遺構が存在しないことから，調査区域外に当該期の遺構が存在していると考えられる。

２　Ⅳ期　中期後葉　加曽利ＥⅣ式期（第29図）

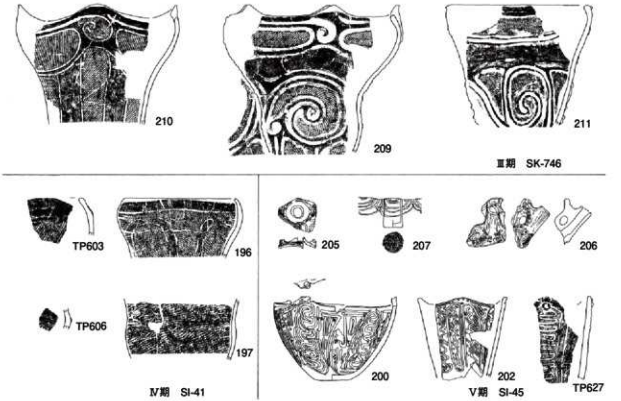
第41・43号住居跡の２軒が該当する。第41号住居跡は径3.8mほどの円形で，第191集における住居跡の分類では小形の規模に分類される。炉は中央部やや南東寄りに位置し，主柱穴とともに壁際に補助柱穴を有する住居跡である。第43号住居跡は北部から東部にかけて削平されているが，長径3.3m以上の円形または楕円形と考えられる住居跡である。両住居跡は，標高17.0～18.0mの緩やかな斜面部に位置している。

出土土器では，第41号住居跡の196は口縁部に沈線で区画した幅狭の無文帯を有し，胴部に沈線によるＵ字状文を描出している深鉢である。TP604も沈線により口縁部の無文帯を区画している。それに対し，TP603・TP606は口縁部に微隆起線で区画した幅狭の無文帯を有している。第43号住居跡においても，微隆起線による区画を有する土器と沈線による区画の土器が見られる。第41・43号住居跡はともに，微隆起線による区画の東関東的な土器の中に，沈線による区画の西関東的な土器が含まれる組成と考えられる[3]。

３　Ⅴ期　後期前葉　称名寺式期～堀之内１式期（第29図）

第42・44・45号住居跡の３軒が該当する。第42号住居跡は長径5.0mの楕円形，第45号住居跡は長径が6.5mの楕円形で，中形の規模に分類される。第44号住居跡は中央部以北が削平されており，規模は不明である。第42号住居跡の炉は北東部に位置しているのに対し，第45号住居跡の炉は中央部やや南寄りに位置している違いがみられる。３軒の住居跡は標高17.5～19.0mの緩やかな斜面部に位置しており，Ⅳ期の集落よりやや標高が高い地点に位置している特徴がある。

出土土器では，第44号住居跡からは，胴部に沈線区画を施し，区画内に列点文を充填している称名寺Ⅱ式土器が出土している。第42・45号住居跡は堀之内１式土器が出土している。第42号住居跡では沈線描出の起点や交差する部分には円形貼付文を付しているものがある。また，胴部文様帯に沈線によるＪ字状文などを配しているものが見られる。第45号住居跡の出土土器は堀之内１式期の豊富な器種構成が見られる。200は



第29図 出土土器の変遷〈S＝1/8〉

蛇行沈線文に弧状の沈線を組み合わせた文様の精製の浅鉢である。201はほぼ同じ大きさであるが胴部外面には削り後磨き調整が入っている無文の浅鉢である。202は蛇行沈線文の深鉢，207はミニチュアの筒型土器である。206の注口土器は，廻り地A遺跡第250号土坑から出土した個体と文様構成の類似点が見られる[4]。

前回の調査区からはⅤ期の遺構は確認されておらず，当該期の集落は東谷田川沿いの台地の縁辺部に移動してきているものと想定される。県内の該期の集落規模は廻り地A遺跡の例のように小規模化する事例がみられる[5]。本遺跡も集落が中期から後期へ継続していく中で，集落規模が台地の東部に小規模化したことが考えられるが，全容の解明については今後の調査の進展を期待したい。

註

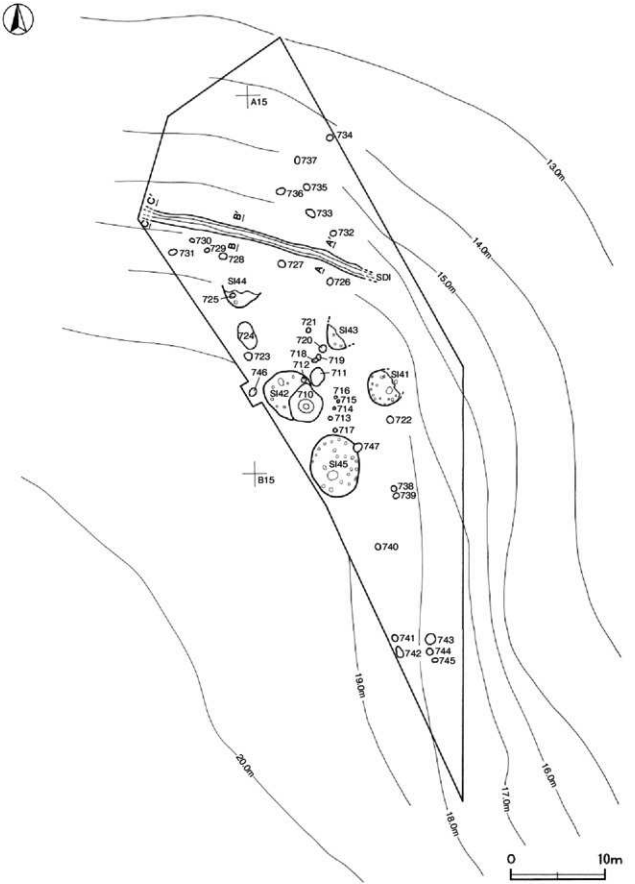
1）寺門千勝・田原康司・梅澤貴司 「島名前野東遺跡，島名境松遺跡，谷田部漆遺跡　島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅷ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第191集 （財）茨城県教育財団　2002年３月

2）大川清・鈴木公雄・工楽善通編 『日本土器事典』 雄山閣出版株式会社　1996年12月

3）註２に同じ

4）瓦吹堅　桜井二郎　高村勇 「竜ヶ崎ニュータウン内埋蔵文化財調査報告書７－廻り地Ａ遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第15集 （財）茨城県教育財団　1982年３月

5）瓦吹堅 「茨城における縄文時代集落の諸様相」「第１回研究集会基礎資料集　列島における縄文時代集落の諸様相」 縄文時代文化研究会　2001年12月



第30図　鳥名境松遺跡遺構全体図

第４章　島名前野東遺跡

第１節　遺跡の概要

島名前野東遺跡は，つくば市大字島名字前野3849番地の２ほかに所在し，つくば市の西部を牛久沼へ南流する東谷田川に面した台地縁辺部に位置している。平成11～14年度にかけて既に調査され，古墳時代，奈良時代を中心とする集落跡や，中世の堀跡及び掘立柱建物跡が確認されている。今回の調査は，平成15～17年度にわたり，合計9,495㎡を調査した。

今回の調査で，古墳時代，奈良時代の集落跡が広がることが確認された。また，中世の方形居館跡の全容が明らかになり，１町四方の堀に囲まれた中に，中門廊的施設を持つ主屋と考えられる掘立柱建物跡が確認された。遺構は，古墳時代の竪穴住居跡25軒，土坑１基，奈良時代の竪穴住居跡４軒，中世の掘立柱建物跡６棟，柵跡１条，堀跡１条，溝跡７条，土坑９基，火葬土坑５基，ピット群３か所，時期不明の溝跡24条，井戸跡１基，土坑78基，ピット群1か所が確認されている。

遺物は，遺物収納コンテナ（60×40×20cm）に101箱出土している。主な遺物は土師器（坏，椀，坩，高坏，鉢，壺，甕，甑，炉器台，手捏土器），須恵器（坏，長頸瓶，蓋，壺，甕），土師質土器（小皿，皿），陶器（壺，擂鉢），磁器（碗），土製品（勾玉，臼玉，球状土錘，支脚，紡錘車），石器（砥石），石製品（勾玉，臼玉，紡錘車，双孔円板，剣形模造品），鉄製品（釘），古銭等である。

第２節　基本層序

調査区の東南部（Ｄ３e8区）にテストピットを設定し，基本土層の観察を行った。地表面の標高は19.3mで，地表面から約2.5m掘削し，第31図のような堆積状況を確認した。

第１層は，黒褐色の腐植土層で，ローム粒子を微量含み，粘性・締まりがともに弱い。層厚は52cmである。

第２層は，暗褐色で腐植土層とソフトローム層との漸移層である。粘性・締まりがともに弱い。層厚は12～41cmである。

第３層は，明褐色のソフトローム層で，粘性が弱く，締まりは強い。層厚は13～56cmである。

第４層は，暗褐色のローム層で，第Ⅰ黒色帯に相当する。粘性は弱い。層厚は24～47cmである。

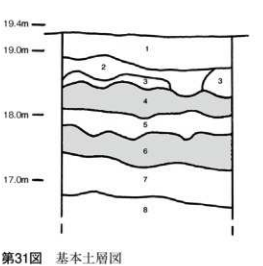
第５層は，褐色のハードローム層である。粘性が強く，第４層よりも締まりは強い。層厚は24～44cmである。

第６層は，暗褐色のローム層で，第Ⅱ黒色帯に相当する。層厚は30～58cmである。

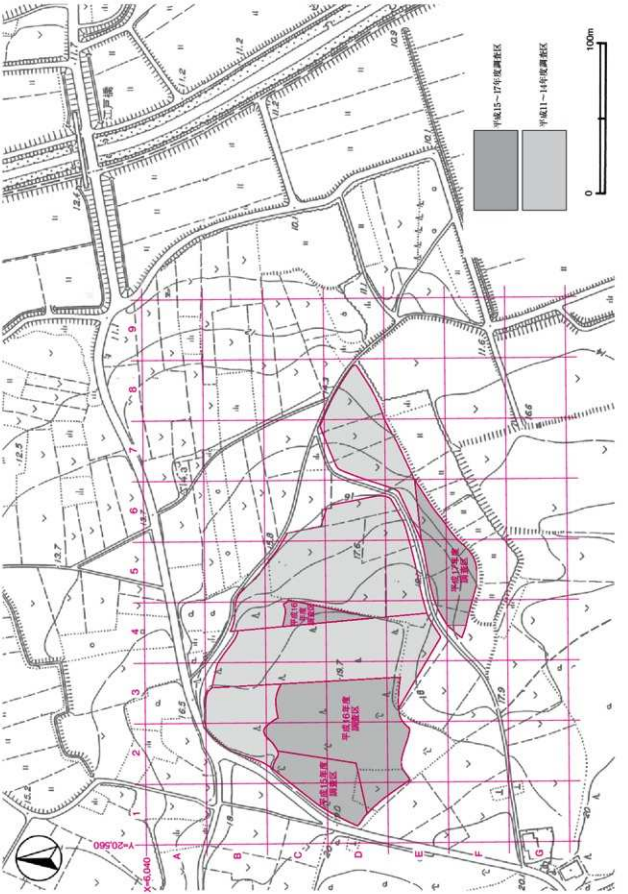
第７層は，褐色のローム層で，締まりが強い。層厚は44～65cmである。

第８層は，浅黄橙色の砂質粘土層で，締まりが強い。層厚は未掘のため不明である。

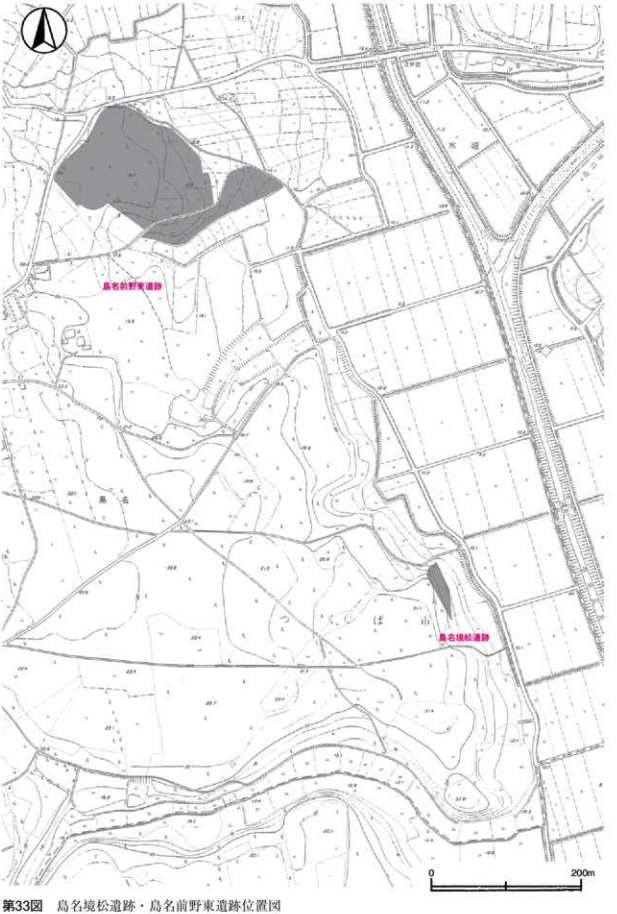
遺構は，第２層上面または第３層上面で確認された。



第31図　基本土層図



第32図　鳥名前野東遺跡調査区設定図



第33図　島名境松遺跡・島名前野東遺跡位置図

第3節　遺構と遺物

1　古墳時代の遺構と遺物

竪穴住居跡25軒，土坑１基が確認された。以下，確認された遺構と遺物について記述する。

(1)　竪穴住居跡

第66号住居跡（第34・35図）

位置　調査区中央部のＣ３e7区，標高18.7mの台地平坦部に位置している。本跡は平成13年度の調査区域にまたがっている。

重複関係　第341号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　一辺6.60mの方形で，主軸方向はＮ－８°－Ｗである。壁高は60～65㎝で，外傾して立ち上がっている。

床　中央部が踏み固められている。壁溝が西壁際を中心に周回している。

竈　北壁中央部に付設されている。規模は焚き口部から煙道部まで130㎝，袖部幅138㎝である。袖部は床面と同じ高さの地山面に砂質粘土で構築されている。火床部は地山面をそのまま使用し，火床面及び内壁は火熱により赤変硬化している。煙道部は壁外へ46㎝掘り込まれ，外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1	明　褐　色	砂質粘土粒子中量，ローム粒子少量	
2	褐　色	ローム粒子・砂質粘土粒子中量，炭化粒子微量	
3	褐　色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量	
4	暗　赤　褐　色	焼土粒子中量，ローム粒子少量	
5	にぶい赤褐色	焼土粒子中量，砂質粘土粒子微量	
6	灰　褐　色	砂質粘土粒子中量，焼土粒子微量	

ピット　２か所。Ｐ１・Ｐ２は深さ68㎝・66㎝で，規模と配置から主柱穴と考えられる。

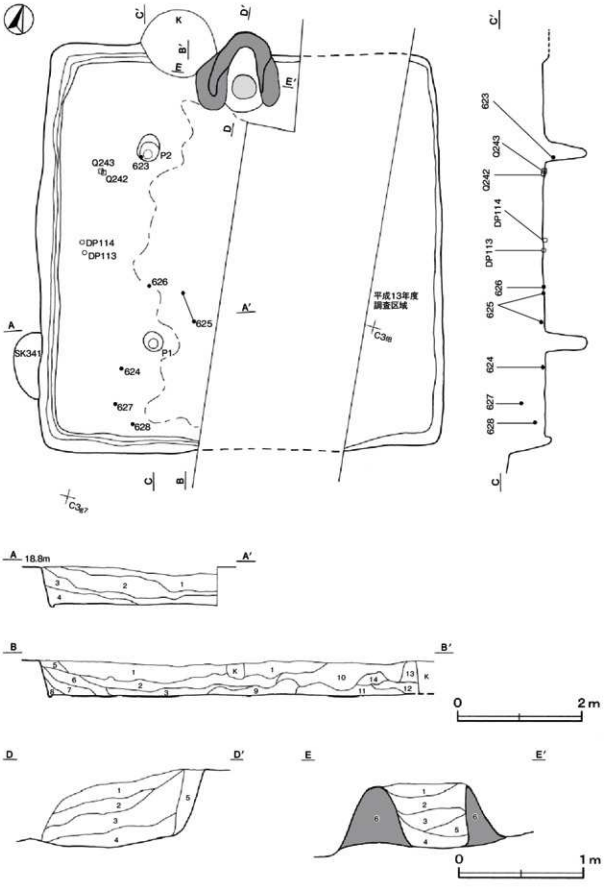
覆土　14層に分層される。各層ともロームブロックを含む不規則な堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

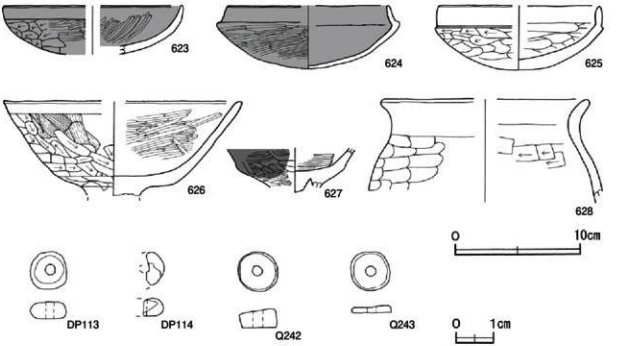
1	黒　褐　色	ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量	
2	暗　褐　色	ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量	
3	暗　褐　色	ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量	
4	暗　褐　色	ロームブロック少量	
5	暗　褐　色	ロームブロック中量	
6	褐　色	ロームブロック中量	
7	褐　色	ロームブロック中量，炭化粒子微量	
8	褐　色	ロームブロック多量	
9	褐　色	ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化物微量	
10	暗　褐　色	ロームブロック少量，焼土ブロック微量	
11	褐　色	ロームブロック多量，炭化粒子微量	
12	暗　褐　色	ロームブロック少量，砂質粘土粒子微量	
13	暗　褐　色	ロームブロック少量，焼土ブロック・砂質粘土粒子微量	
14	褐　色	ロームブロック多量，焼土ブロック微量	

遺物出土状況　土師器片154点（坏53，高坏５，甕96），土製品２点（臼玉），石製品２点（臼玉）が出土している。また，混入した土師質土器２点も出土している。624は南部，625・626は中央部，DP113・DP114，Q242・Q243は西部の床面からそれぞれ出土している。623はＰ２，627は南部の覆土中層，628は南部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見　本跡の東部が平成13年度の調査区域に位置し，今回の調査区域は西部のみであった。時期は，文化財調査報告第191集で，出土土器から６世紀後半と考えられており，今回の出土土器はそれを裏付けるものである。



第34図　第66号住居跡実測図



第35図　第66号住居跡出土遺物実測図

第66号住居跡出土遺物観察表（第35図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
623	土師器	坏	[14.2]	(3.9)	－	長石・石英	明赤褐	普通	体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き	Ｐ２覆土上層	40%
624	土師器	坏	[12.8]	5.0	－	長石・石英	黒	普通	体部外面ヘラ磨き	南部床面	30%
625	土師器	坏	[12.8]	5.1	－	長石・雲母	にぶい赤褐	普通	体部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ	中央部床面	30%
626	土師器	高坏	[19.0]	(7.5)	－	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面ハケ目後ヘラ削り	中央部床面	40%
627	土師器	高坏	－	(3.5)	－	長石・石英・雲母・結粒子	にぶい橙	普通	体部外面ヘラナデ後ヘラ磨き	南部覆土中層	20%
628	土師器	甕	[16.3]	(8.1)	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ヘラナデ　体部内面ヘラ削り	南部覆土下層	5%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土・材質	特　　徴	出土位置	備考
DP113	臼玉	0.96	0.45	0.18	0.54	長石	側面が膨らむ太鼓状　片面穿孔	西部床面	PL40
DP114	臼玉	(0.87)	0.47	－	(0.20)	長石・石英	側面が膨らむ太鼓状　孔一部残存	西部床面	
Q242	臼玉	1.08	0.47	0.29	0.75	滑石	側面が直線的な円筒状　片面穿孔	西部床面	PL40
Q243	臼玉	1.02	0.18	0.28	0.26	滑石	厚みのほとんどない円盤状　片面穿孔	西部床面	PL40

第71号住居跡（第36図）

位置　調査区中央部のＣ３g7区，標高18.7mの台地平坦部に位置している。本跡は平成13年度の調査区域にまたがっている。

重複関係　第335号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸4.90m，短軸4.80mの方形で，主軸方向はＮ－23°－Ｗである。壁高は43～48cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，軟弱である。

貯蔵穴　平成13年度に調査している。

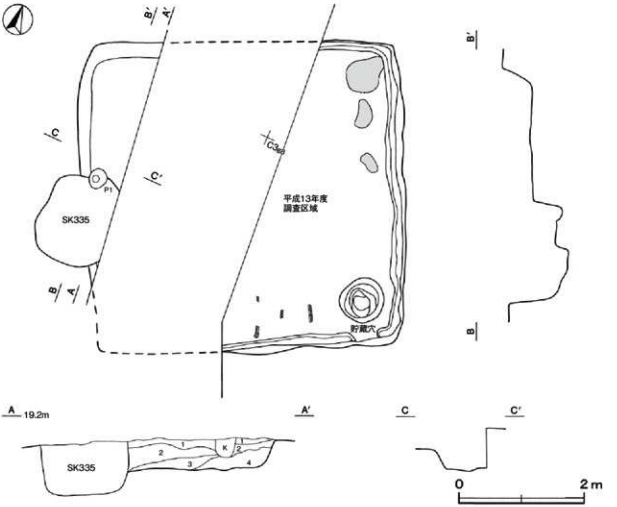
覆土　4層に分層される。各層ともロームブロックを含んでおり人為堆積と考えられる。

土層解説

1　暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
2　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　褐　色　ロームブロック中量，炭化物微量
4　褐　色　ロームブロック中量，炭化物・粘土ブロック微量

遺物出土状況　土師器片18点（坩２，壺１，甕15）が出土している。出土土器のほとんどが細片のため，図示できない。

所見　本跡の大半が平成13年度調査区域に位置し，今年度は狭小であった。時期は，文化財調査報告第191集で，出土土器から５世紀前半と考えられており，今回の出土土器は少量であるがそれを裏付けるものである。



第36図　第71号住居跡実測図

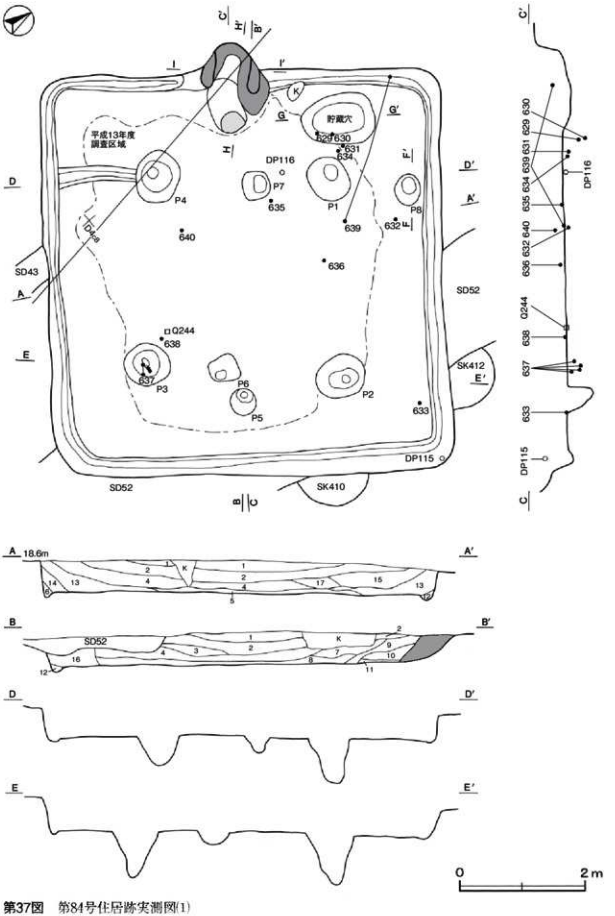
第84号住居跡（第37～39図）

位置　調査区東部のＤ４b8区，標高18.4～18.6m の台地緩斜面部に位置している。本跡は平成13年度調査区域にまたがっている。

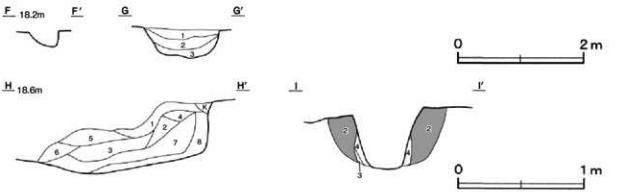
重複関係　第43・52号溝，第410・412号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸6.50m，短軸6.42m の方形で，主軸方向はＮ－51°－Ｗである。壁高は33～52cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁溝が全周している。間仕切り溝が，西壁からＰ４にかけて１条確認された。



第37図　第84号住居跡実測図(1)



第38図　第84号住居跡実測図(2)

竈　北壁中央部に付設されている。西部は平成13年度に調査されている。規模は焚き口部から煙道部まで144㎝，袖部幅133㎝である。袖部は，床面と同じ高さの地山面に砂質粘土で構築されている。火床部も地山面をそのまま使用し，火床面は火熱により赤変している。煙道部は壁外へ58㎝掘り込み，外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1	灰	褐	色	砂質粘土粒子少量，焼土ブロック微量	5	にぶい赤褐色		焼土粒子少量，炭化物・ローム粒子微量
2	灰	褐	色	砂質粘土粒子中量，焼土粒子微量	6	暗	褐	色 砂質粘土粒子中量，焼土ブロック微量
3	黒	褐	色	焼土ブロック少量，炭化物・ローム粒子微量	7	褐		色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
4	暗	褐	色	焼土ブロック・炭化物・砂質粘土粒子微量	8	にぶい赤褐色		焼土粒子中量，炭化物・ローム粒子微量

ピット　8か所。P 1～P 4は深さ53～83㎝で，規模と配置から主柱穴と考えられる。P 5は深さ40㎝で，南壁寄りの中央に位置しており，出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 6～P 8は深さ20～30㎝で，性格は不明である。

貯蔵穴　北東コーナー部に位置している。長径118㎝，短径82㎝の楕円形で，深さは45㎝である。底面はやや凹凸があり，壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1	暗	褐	色	焼土ブロック・炭化物・ローム粒子微量	3	褐		色 ロームブロック少量，焼土粒子微量
2	極	暗	褐	色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量				

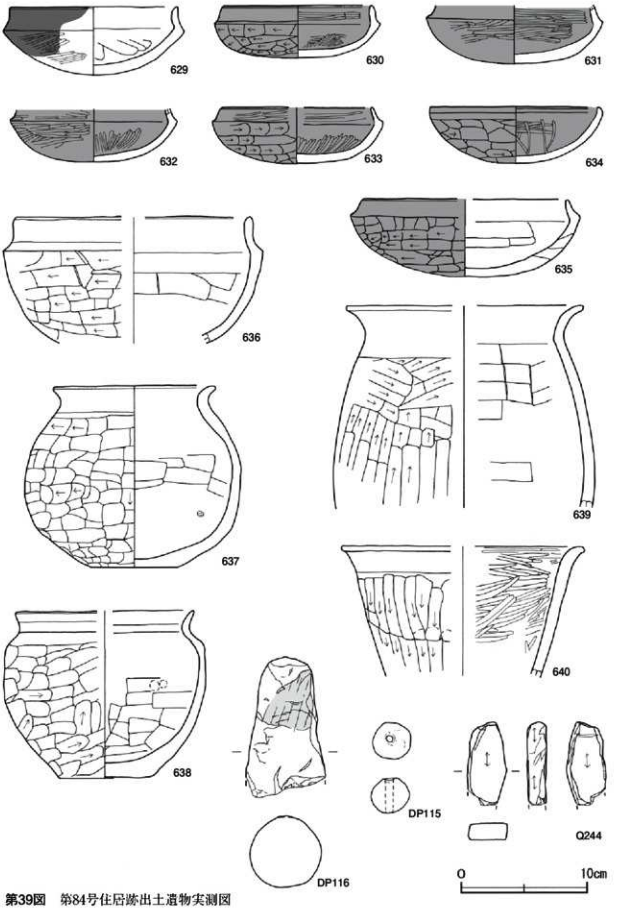
覆土　17層に分層される。レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

1	黒	褐	色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	10	暗	褐	色 砂質粘土粒子少量，焼土ブロック微量
2	黒	褐	色	ローム粒子・焼土粒子微量	11	暗	褐	色 砂質粘土粒子少量，炭化粒子微量
3	暗	褐	色	ロームブロック・焼土粒子微量	12	暗	褐	色 ロームブロック微量
4	暗	褐	色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量	13	暗	褐	色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
5	暗	褐	色	ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量	14	暗	褐	色 ローム粒子中量，焼土粒子微量
6	褐		色	ロームブロック中量	15	黒	褐	色 ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
7	褐		色	ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量	16	暗	褐	色 ローム粒子中量
8	暗	褐	色	ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子微量	17	暗	褐	色 ローム粒子・炭化粒子微量
9	灰	褐	色	砂質粘土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量				

遺物出土状況　土師器片590点（坏198，椀4，高坏15，甕371，甑2），土製品2点（球状土錘，支脚），石器1点（砥石），鉄滓3点が出土している。また，流れ込んだ縄文土器2点，弥生土器4点，剥片1点，混入した須恵器7点，土師質土器28点，磁器1点も出土している。629・630は貯蔵穴の覆土中層からそれぞれ出土している。639は北部壁際覆土中層と中央部床面から出土した破片が接合したものである。631・632・634，DP116は北部，633は東コーナー部，635・638，Q244は中央部の床面からそれぞれ出土している。637はP 3の覆土上層，636・640は中央部の覆土下層，DP115は東コーナー部の覆土上層からそれぞれ出土している。床面及び貯蔵穴から出土している土器は，住居廃絶時に遺棄されたものと推測される。

所見　時期は，出土土器から6世紀後葉と考えられる。



第39図　第84号住居跡出土遺物実測図

第84号住居跡出土遺物観察表（第39図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
629	土師器	坏	13.3	5.4	－	長石・細礫	黒	普通	体部外面ヘラ磨き　内面ヘラナデ	貯蔵穴覆土中層	100% PL31
630	土師器	坏	10.8	4.1	－	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラ削り　内面ヘラ磨き	貯蔵穴覆土中層	95%
631	土師器	坏	－	(4.6)	－	長石・石英・雲母	黒	普通	体部内・外面ヘラ磨き	北部床面	90% PL31
632	土師器	坏	－	(4.2)	－	長石・石英	橙	普通	体部内・外面ヘラ磨き	北部床面	80%
633	土師器	坏	[12.0]	4.4	－	長石・石英・雲母	黒褐	普通	体部外面ヘラ削り　内面ヘラ磨き	東コーナー部床面	60%
634	土師器	坏	13.3	4.4	－	長石・石英・雲母	黒	普通	体部外面ヘラ削り　内面ヘラ磨き	北部床面	50%
635	土師器	坏	[16.3]	6.1	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ	中央部床面	30%
636	土師器	椀	[18.6]	(10.0)	－	長石・石英	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ	北部覆土下層	10%
637	土師器	甕	12.8	14.4	7.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	体部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ	P３覆土上層	85% PL31
638	土師器	甕	[14.0]	13.2	7.3	長石・石英	明赤褐	普通	体部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ	中央部床面	65%
639	土師器	甕	[18.8]	(16.0)	－	長石・石英・細礫	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ	北部覆土中層・中央部床面	5%
640	土師器	甕	[19.2]	(10.3)	－	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラ削り　内面ヘラ磨き	中央部覆土下層	5%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP115	球状土錘	3.1	2.8	0.6	21	長石	ナデ	東コーナー部覆土上層	PL40

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土・材質	特徴	出土位置	備考
DP116	支脚	(11.1)	6.3	5.6	(294)	長石・石英・雲母・細礫	表面に二次焼成痕　下部欠損	北部床面	PL40
Q244	砥石	(6.5)	3.2	1.5	(39.9)	滑石	砥面３面	中央部床面	

第85号住居跡（第40～42図）

位置　調査区東部のＤ４e9区，標高18.6～18.8mの台地緩斜面部に位置している。本跡は平成13年度調査区域にまたがっている。

重複関係　第86号住居，第406号土坑，第36・43・44号溝に掘り込まれている。

規模と形状　長軸7.90m，短軸7.65mの方形で，主軸方向はＮ－22°－Ｗである。壁高は40～57cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，壁際を除いて踏み固められている。壁溝がほぼ全周している。

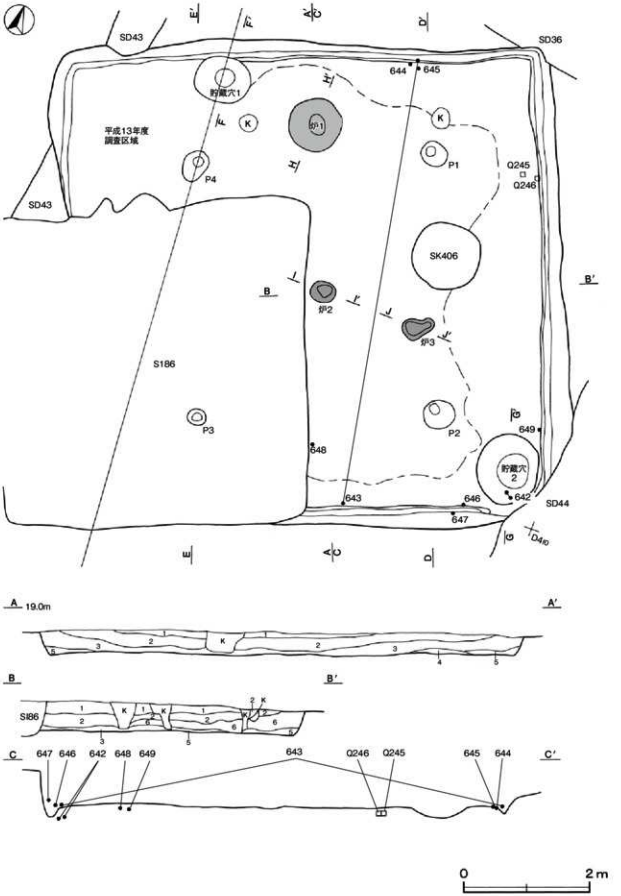
炉　３か所。炉１は北壁際の中央に位置している。径84cmの円形で，床面を16cm掘りくぼめた地床炉である。炉床は火熱により赤変硬化している。炉２・３は中央部から東壁際寄りに位置している。炉２は長径40cm，短径32cmの楕円形で，床面を４cm掘りくぼめた地床炉である。炉３は長径49cm，短径36cmの不整円形で，床面を４cm掘りくぼめた地床炉である。炉２・３の炉床は部分的に火熱を受けて赤変している。炉２・３の規模は炉１の半分程度であり，掘り込みも浅いことから，炉１が主に使われていたと考えられる。

炉土層解説
1　暗赤褐色　焼土粒子中量，炭化粒子少量

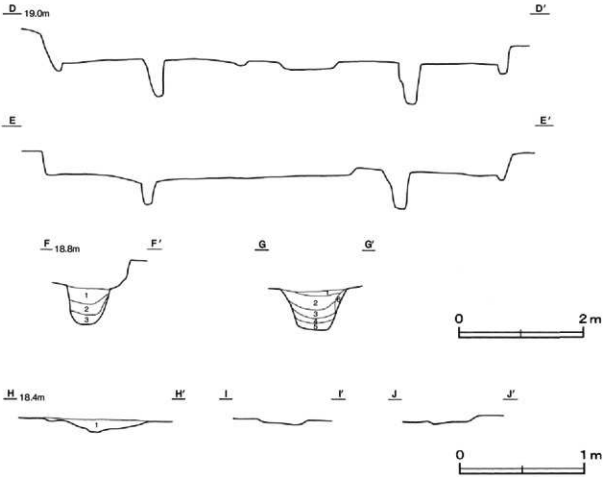
ピット　４か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ38～66cmで，規模や配置から主柱穴と考えられる。

貯蔵穴　２か所。貯蔵穴１は北壁際のやや西寄りに位置している。長径92cm，短径74cmの楕円形で，深さは66cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。貯蔵穴２は南東コーナー部に位置している。長径112cm，短径96cmの楕円形で，深さは74cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説
1　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒褐色　ロームブロック・炭化粒子微量
3　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗褐色　ローム粒子中量
5　暗褐色　ローム粒子少量，粘土ブロック微量
6　暗褐色　ローム粒子少量



第40図　第85号住居跡実測図(1)



第41図　第85号住居跡実測図(2)

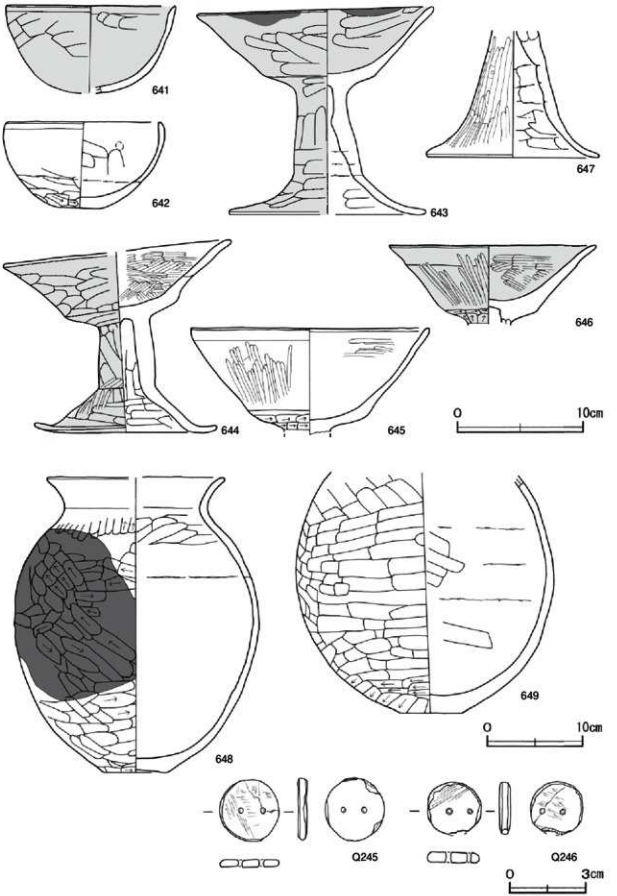
覆土　6層に分層される。レンズ状の堆積状況を示すことから自然堆積と考えられる。

土層解説

1　黒 褐 色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗 褐 色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗 褐 色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土ブロック微量
4　暗 褐 色　焼土粒子・炭化粒子少量，ロームブロック微量
5　暗 褐 色　ローム粒子少量，炭化粒子・焼土ブロック微量
6　黒 褐 色　ロームブロック・炭化物微量

遺物出土状況　土師器片600点（坏86，椀17，坩35，高坏82，壺４，甕376），石製品２点（双孔円板）が出土している。また，流れ込んだ縄文土器片５点，混入した須恵器甕片１点も出土している。遺物は覆土下層から床面にかけて主に出土している。641は炉１の覆土中と貯蔵穴２の覆土中の破片が接合したものである。642は貯蔵穴２の覆土上層から出土している。644・645は北壁際床面から正位で出土している。646・648は南部の床面，647は南壁際の覆土下層，649，Q245・Q246は東壁際の床面からそれぞれ出土している。643は北壁際と南部の床面の破片がそれぞれ接合したものである。これらの出土遺物は住居廃絶時に遺棄されたものと考えられる。

所見　床面積が60㎡を超える大形住居である。時期は，出土土器から５世紀中葉と考えられる。



第42図　第85号住居跡出土遺物実測図

第85号住居跡出土遺物観察表（第42図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
641	土師器	椀	13.5	(6.9)	－	長石	にぶい黄橙	普通	体部内・外面ヘラナデ	炉・貯蔵穴覆土中	炉内, 内面漆黑, PL28
642	土師器	椀	12.1	7.2	3.2	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面下端ヘラ削り調整	貯蔵穴２覆土上層	70%　PL28
643	土師器	高坏	18.7	16.4	[15.6]	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	坏部内・外面ヘラナデ	北壁際床面・南部床面	80%　PL28
644	土師器	高坏	[18.0]	15.4	14.5	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	坏部外面ヘラナデ，内面ヘラ磨き	北壁際床面	70%　PL28
645	土師器	高坏	18.9	(8.2)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	坏部内・外面ヘラ磨き	北壁際床面	50%
646	土師器	高坏	10.5	(6.3)	－	長石・石英	にぶい黄橙	普通	坏部内・外面ヘラ磨き	南部床面	40%
647	土師器	高坏	－	(10.0)	13.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	脚部外面ヘラ磨き	南壁際覆土下層	40%
648	土師器	甕	[18.3]	30.9	6.8	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ	南部床面	胴内, PL28, 体部外面二次被熱痕
649	土師器	甕	－	(25.1)	6.4	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面下端ヘラ削り　内面ヘラナデ	東壁際床面	60%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特　徴	出土位置	備考
Q245	双孔円板	2.5	2.4	0.3	3.20	滑石	孔径0.13cm　両面平坦　斜方向の研磨　片側穿孔	東壁際床面	PL40
Q246	双孔円板	3.1	2.2	0.4	(3.10)	滑石	孔径0.12cm　両面平坦　斜方向の研磨　片側穿孔	東壁際床面	PL40

第86号住居跡（第43・44図）

位置　調査区東部のＤ４ｅ８区，標高18.7ｍの台地平坦部に位置している。本跡は平成13年度の調査区域にまたがっている。

重複関係　第85号住居跡を掘り込み，第43号溝に掘り込まれている。

規模と形状　長軸5.12ｍ，短軸5.00ｍの方形で，主軸方向はＮ－17°－Ｗである。壁高は30～40cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁溝が西壁際から南壁際にかけて周回している。

竈　北壁中央部に付設されており，平成13年度に調査している。

ピット　６か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ41～79cmで，規模と配置から主柱穴と考えられる。Ｐ５・Ｐ６は深さ47cm・21cmで，南壁寄りの中央に位置しており，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

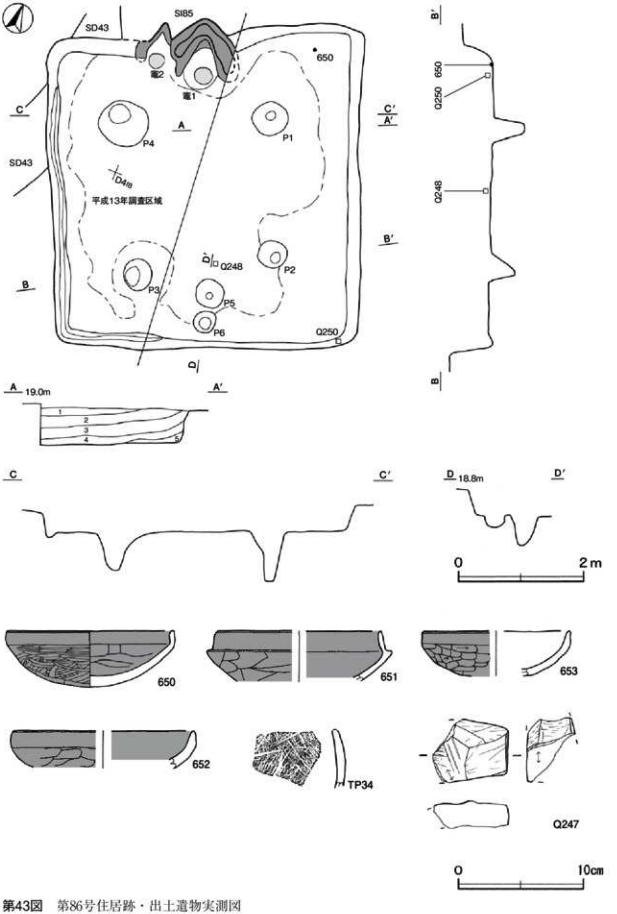
覆土　５層に分層される。レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

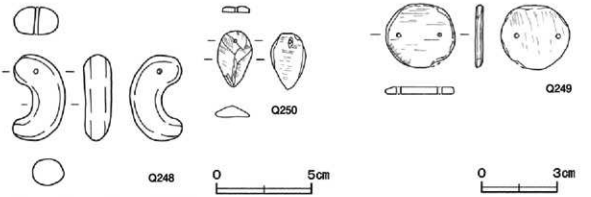
1　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土ブロック微量
4　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土ブロック・炭化物微量
5　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片525点（坏101，椀３，坩３，高坏56，壺８，甕353，甑１），石器１点（砥石），石製品３点（勾玉，双孔円板，剣形模造品）が出土している。また，流れ込んだ縄文土器片12点，混入した須恵器片４点，土師質土器片２点も出土している。650は北東コーナー部，Ｑ250は南東コーナー部の床面からそれぞれ出土している。Ｑ248は中央部の覆土下層，651～653，TP34，Ｑ247・249は覆土中から出土している。

所見　本跡の西部は平成13年度に調査されており，今回の調査区域は東部のみであった。時期は，出土土器から６世紀後葉と考えられる。



第43図　第86号住居跡・出土遺物実測図



第44図　第86号住居跡出土遺物実測図

第86号住居跡出土遺物観察表（第43・44図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
650	土師器	坏	13.2	4.5	－	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部外面ヘラ磨き　内面ヘラナデ	北東コーナー部床面	90%　PL31
651	土師器	坏	[13.0]	(4.0)	－	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラナデ	覆土中	15%
652	土師器	坏	[14.5]	(3.0)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラナデ	覆土中	10%
653	土師器	坏	[11.8]	(3.5)	－	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	体部外面ヘラ削り	覆土中	10%
TP34	土師器	甕	－	(4.4)	－	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部内・外面ヘラナデ	覆土中	5%　破石転用　PL41

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　徴	出土位置	備考
Q247	砥石	(5.1)	(6.0)	(2.2)	(74.9)	滑石	砥面２面	覆土中	
Q248	勾玉	4.5	2.8	1.5	23.5	黒色頁岩	片面穿孔　孔径 0.25 cm	中央部覆土下層	PL40
Q249	双孔円板	2.5	2.8	0.3	(3.78)	滑石	両面平坦　片面穿孔	覆土中	PL40
Q250	紡形模造品	3.0	1.9	0.6	3.80	滑石	片面に鎬有り　上部穿孔　孔径 0.11 cm　斜方向の研磨	南東コーナー部床面	PL40

第105号住居跡（第45・46図）

位置　調査区東部のＤ４i8区，標高18.9m の台地平坦部に位置している。

重複関係　第405・421号土坑，第44号溝に掘り込まれている。

規模と形状　東部を第44号溝に掘り込まれているため，確認できた範囲は南北5.25m，東西3.07m である。平面形は方形又は長方形と推測され，主軸方向はＮ－75°－Ｗである。壁高は16～25㎝で，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，壁際を除いて踏み固められている。

炉　中央部西寄りに位置している。長径52㎝，短径42㎝の楕円形で，床面と同じ高さの地山面をそのまま使用した地床炉である。炉床は火熱を受けて赤変している。

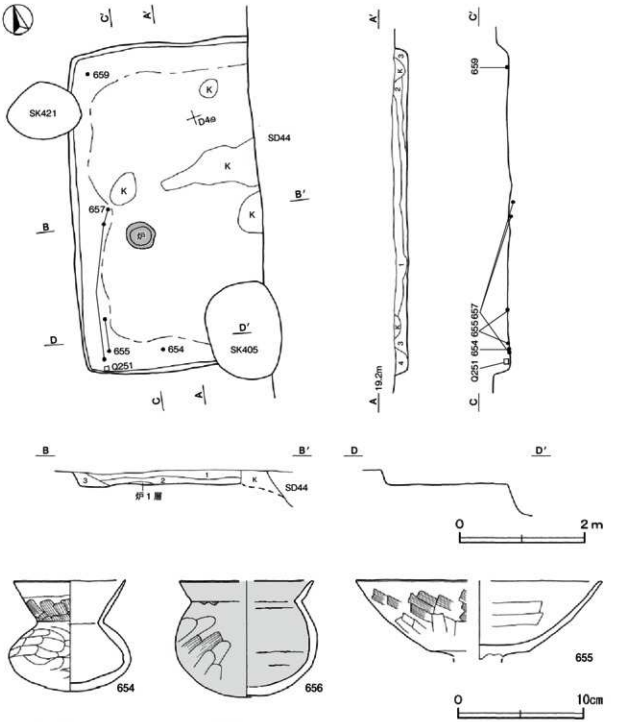
炉土層解説
1　暗赤褐色　焼土ブロック・ローム粒子少量

覆土　４層に分層される。レンズ状の堆積状況を示すことから自然堆積と考えられる。

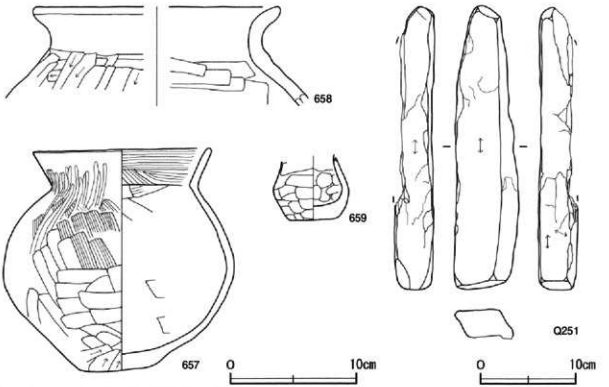
土層解説
1　黒褐色　ローム粒子少量
2　暗褐色　ロームブロック少量
3　暗褐色　ロームブロック中量
4　暗褐色　ロームブロック・焼土粒子微量

遺物出土状況　土師器片188点（坏６，椀３，坩43，器台１，高坏14，壺13，甕107，ミニチュア土器１），土製品１点（支脚片），石器１点（砥石）が出土している。遺物は壁際の床面及び覆土下層から主に出土している。654は南壁際，655・Q251は南西コーナー部，659は北西コーナー部の床面からそれぞれ出土し，遺棄されたと考えられる。657は西部の床面と南西コーナー部の床面の破片が接合したものである。656・658は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から５世紀前葉と考えられる。



第45図　第105号住居跡・出土遺物実測図



第46図　第105号住居跡出土遺物実測図

第105号住居跡出土遺物観察表（第45・46図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手法の特徴	出土位置	備　考	
654	土師器	坩	8.9	8.7	－	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部外面ハケ目	南壁際床面	60%	PL29
655	土師器	高坏	[19.5]	(6.2)	－	長石・礫	橙	普通	坏部外面ハケ目後ヘラナデ	南西コーナー部床面	40%	
656	土師器	小形壺	[10.6]	9.2	3.1	長石・石英	赤褐	普通	体部外面ハケ目後ヘラナデ	覆土中	30%	
657	土師器	甕	13.9	17.8	5.8	長石・礫	橙	普通	体部外面ハケ目後ヘラナデ	西部床面・南西コーナー部床面	60%	PL29
658	土師器	甕	[19.2]	(7.8)	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ	覆土中	10%	
659	土師器	ミニチュア土器	－	(5.1)	3.7	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部内・外面ヘラナデ	北西コーナー部床面	70%	PL29

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　徴	出土位置	備　考
Q251	砥石	29.7	6.8	4.1	(1150)	粘板岩	砥面３面	南西コーナー部床面	PL40

第106号住居跡（第47 ～ 50図）

位置　調査区東部のＣ４i9区，標高18.1 ～ 18.4m の台地緩斜面部に位置している。

重複関係　第52号溝，第404・413・419・420号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸7.75m，短軸7.55m の方形で，主軸方向はＮ－36°－Ｗである。壁高は45 ～ 70cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁溝が全周している。

竈　北壁中央部に付設されている。規模は焚き口部から煙道部まで156cm，袖部幅128cmである。袖部は地山を床面より19cmほど高く掘り残して基部とし，その周りに砂質粘土を貼り付けて構築されている。火床部は焚き口部に近いところに位置し，地山面を５cmほど掘りくぼめて使用しており，火床面及び内壁は火熱で赤変硬化

している。煙道部は壁外へ34cm掘り込まれ，直立している。

竈土層解説

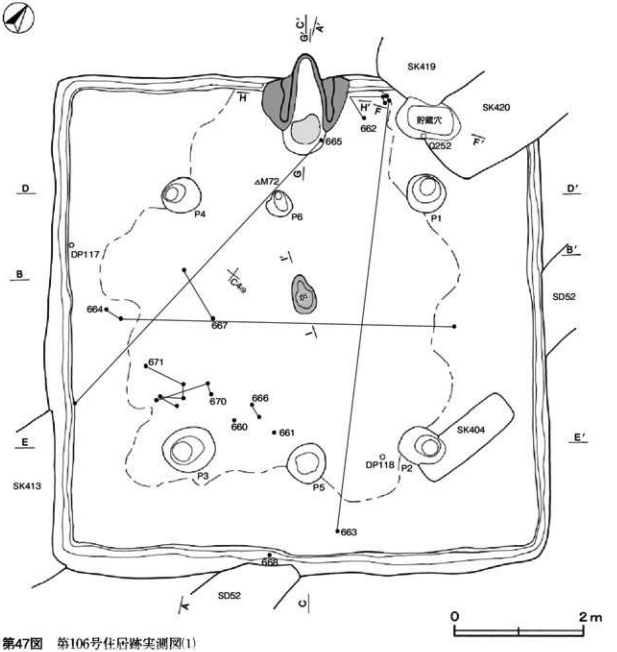
1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　　色　ロームブロック・砂質粘土粒子少量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土ブロック・炭化物微量
4　褐　　色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化物微量
5　暗　赤　褐　色　焼土粒子中量，炭化物・ローム粒子微量
6　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，炭化物・ローム粒子微量
7　にぶい赤褐色　焼土粒子少量，砂質粘土粒子微量
8　灰　褐　色　砂質粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子微量
9　褐　　色　ロームブロック・砂質粘土粒子少量
10　灰　褐　色　砂質粘土粒子多量，焼土粒子少量
11　褐　　色　ロームブロック・砂質粘土粒子中量

炉　中央部やや北寄りに位置している。長径62cm，短径36cmの楕円形で，床面を皿状に11cm掘りくぼめた地床炉である。炉床は火熱により赤変硬化している。

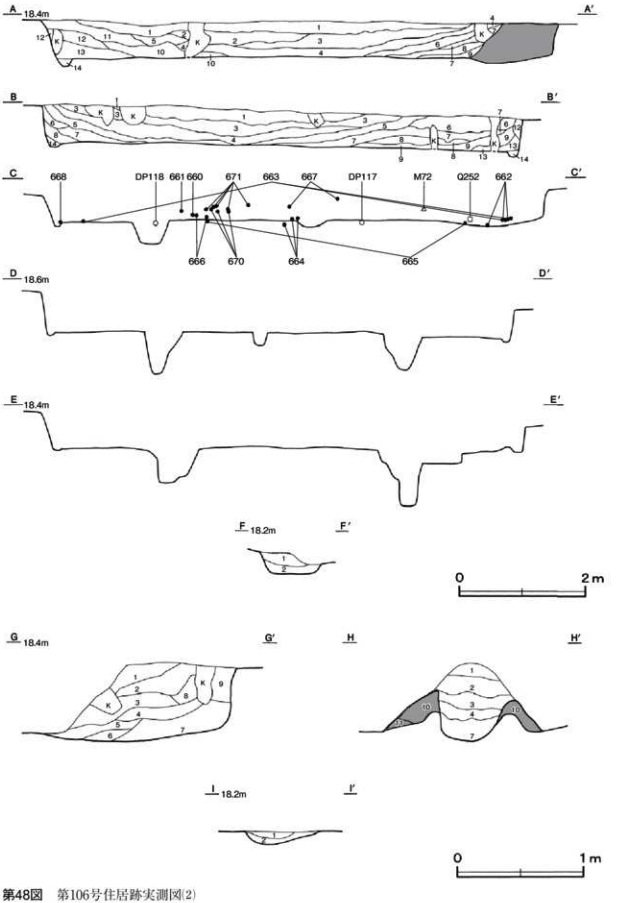
炉土層解説

1　暗　赤　褐　色　焼土粒子中量，炭化粒子少量
2　暗　褐　色　焼土ブロック少量，ローム粒子微量

ピット　6か所。P１～P４は深さ41～79cmで，規模と配置から主柱穴と考えられる。P５は深さ47cmで南壁寄りの中央に位置しており，出入り口施設に伴うピットと考えられる。P６は深さ21cmで性格は不明である。



第47図　第106号住居跡実測図(1)



第48図　第106号住居跡実測図(2)

貯蔵穴　北東コーナー部に位置している。長径100cm，短径62cmの楕円形で，深さは38cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

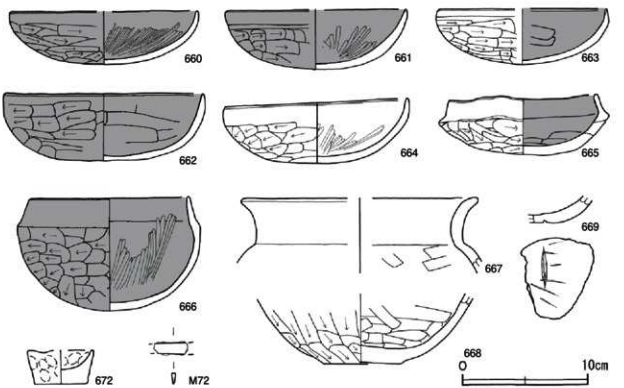
覆土　14層に分層される。レンズ状の堆積状況を示すことから自然堆積と考えられる。

土層解説

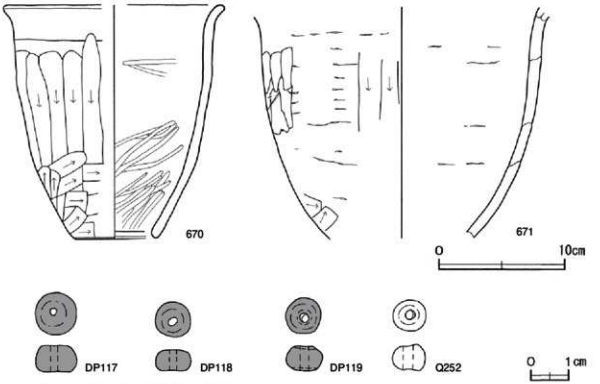
1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　黒　褐　色　ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量
4　極　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
5　黒　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
6　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化物・焼土粒子微量
7　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子微量
8　暗　褐　色　砂質粘土粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量
9　灰　褐　色　砂質粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子微量
10　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
11　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化物・焼土粒子微量
12　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
13　褐　色　ロームブロック中量，炭化物微量
14　暗　褐　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片1,016点（坏194，椀５，高坏49，鉢３，壺14，甕713，甑37，手捏土器１），土製品３点（臼玉），石製品１点（臼玉），鉄製品２点（刀子，不明鉄製品），鉄滓51点が出土している。また，混入した土師質土器片32点，陶器１点，石１点も出土している。662は北東部，DP117は西部の床面，DP118は中央部の床面，Q252は貯蔵穴の覆土上層からそれぞれ出土している。663は南部と北東部の床面，664は東部と西部の床面，665は竈焚き口部と西壁際床面から出土した破片がそれぞれ接合したものである。660・661・666・667・670・671は中央部の覆土上層から下層にかけて，それぞれ出土している。668は南壁際の床面，M72は北部の覆土中層，669・672，DP119は覆土中からそれぞれ出土している。鉄滓は細片のため，図示できなかった。

所見　面積が58㎡を超える大形住居跡である。竈と炉を併設しており，鉄滓が出土していることから，工房的な性格を持っていた可能性が推定される。時期は，出土土器から６世紀後葉と考えられる。



第49図　第106号住居跡出土遺物実測図(1)



第50図　第106号住居跡出土遺物実測図(2)

第106号住居跡出土遺物観察表（第49・50図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴		出土位置	備考
660	土師器	坏	[14.8]	4.2	－	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部外面ヘラ削り	内面ヘラ磨き	中央部覆土下層	55%
661	土師器	坏	[14.4]	4.7	－	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面ヘラ削り	内面ヘラ磨き	中央部覆土下層	45%
662	土師器	坏	15.8	5.3	－	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面ヘラ削り	内面ヘラナデ	北東部床面	70%
663	土師器	坏	[13.4]	4.5	－	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面ヘラ削り	内面ヘラナデ	南部床面・北東部床面	50%
664	土師器	坏	14.5	5.1	－	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面ヘラ削り	内面ヘラ磨き	東部床面・西部床面	95%　PL30
665	土師器	坏	11.6	5.0	－	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	体部外面ヘラ削り	内面ヘラナデ	西壁際床面・竈焚き口部	85%　PL31
666	土師器	椀	12.7	9.0	－	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面ヘラ削り	内面ヘラ磨き	中央部覆土下層	80%　PL30
667	土師器	甕	[18.6]	(6.0)	－	長石・石英・雲母	橙	普通	体部内面ヘラナデ		中央部覆土上層	10%
668	土師器	甕	－	(5.6)	6.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラ削り	内面ヘラナデ	南壁際床面	10%
669	土師器	甕	－	(2.0)	－	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面ヘラナデ		覆土中	5%　底部破片
670	土師器	甑	[17.0]	18.5	6.3	長石・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラ削り	内面ヘラ磨き	中央部覆土中層	15%
671	土師器	甑	－	(16.3)	－	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラ削り		中央部覆土中層	30%
672	土師器	手捏土器	[5.0]	2.7	4.2	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部内・外面指頭ナデ		覆土中	45%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質・胎土	特徴		出土位置	備考
DP117	臼玉	1.09	0.73	0.17	1.00	長石	ナデ　外面黒色処理	片面穿孔	西部床面	PL40
DP118	臼玉	0.93	0.58	0.24	0.59	長石	ナデ　外面黒色処理	片面穿孔	中央部床面	PL40
DP119	臼玉	0.93	0.65	0.20	0.64	長石	ナデ　外面黒色処理	片面穿孔	覆土中	PL40
Q252	臼玉	0.82	0.63	0.22	0.45	砂岩	片面穿孔		貯蔵穴覆土上層	PL40

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M72	刀子	(2.7)	0.9	0.3	(3.04)	鉄	刃部の破片	北部覆土中層	PL39

第107号住居跡（第51・52図）

位置　調査区西部のＣ２d3区，標高18.3 ～ 18.4m の台地緩斜面部に位置している。

重複関係　第３・64号溝に掘り込まれている。

規模と形状　長軸4.40m，短軸3.96m の長方形で，主軸方向はＮ－47°－Ｅである。壁高は24 ～ 30 ㎝で，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁溝が周回している。また，丸材と考えられる炭化材と，茅の炭化物が一面に確認された。

炉　中央部に位置している。径52㎝の円形，床面を４㎝掘りくぼめた地床炉で，炉床は火熱で赤変している。

炉土層解説

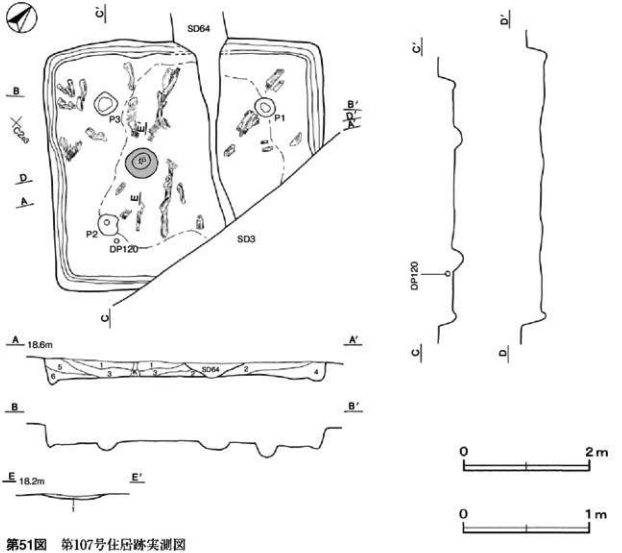
1　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，炭化材少量

ピット　３か所。Ｐ１～Ｐ３は深さ13 ～ 23㎝で，規模と配置から主柱穴と考えられる。

覆土　６層に分層される。レンズ状の堆積状況を示すことから自然堆積と考えられる。

土層解説

1	黒	色	炭化物中量，焼土粒子微量	4	暗	褐	色　ロームブロック中量，炭化物少量
2	極 暗 褐	色	ローム粒子中量，焼土ブロック少量	5	暗	褐	色　ロームブロック少量，炭化物微量
3	黒	褐	色　ロームブロック・炭化物少量，焼土粒子微量	6	黒	褐	色　炭化粒子中量，ローム粒子・焼土粒子少量



第51図　第107号住居跡実測図

遺物出土状況　土師器片７点（坏１，高坏１，甕５），土製品１点（球状土錘），炭化材が出土している。出土した土器はほとんどが細片である。673・674は覆土中，DP120は南部の覆土下層から出土している。炭化材と茅の炭化物が，床面全体から折り重なって確認された。

所見　床面から確認された炭化材は，丸材であることから棟木と推測される。また，屋根の構築材と考えられる炭化物が一面に見られることから，焼失住居と推測される。時期は，出土土器から５世紀前半と考えられる。

第52図　第107号住居跡出土遺物実測図

第107号住居跡出土遺物観察表（第52図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
673	土師器	高坏	－	(4.2)	－	長石・細礫	にぶい黄橙	普通	脚部外面ヘラナデ	覆土中	5%
674	土師器	甕	[22.0]	(2.3)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部内・外面ナデ	覆土中	5%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎　土	特　徴	出土位置	備考
DP120	球状土錘	2.8	3.0	0.4	18.7	長石	ナデ	南部覆土下層	PL40

第108号住居跡（第53図）

位置　調査区西部のＣ２c7区，標高18.8m の台地平坦部に位置している。

規模と形状　長軸5.02m，短軸4.11m の長方形で，主軸方向はＮ－83°－Ｅである。壁高は36 ～ 43㎝で，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦である。貯蔵穴の周囲に，幅17 ～ 40㎝，高さ６～８㎝のＹ字状の高まりが確認されている。

炉　中央部やや北寄りに位置している。径42㎝の円形で，床面と同じ高さの地山面をそのまま使用した地床炉である。炉床は火熱により赤変している。

炉土層解説
1　赤褐色　焼土ブロック多量，炭化粒子少量

ピット　３か所。Ｐ１～Ｐ３は深さ10 ～ 22㎝で，規模と配置から主柱穴と考えられる。

貯蔵穴　南東コーナー部に位置している。長軸80㎝，短軸74㎝の方形で，深さは42㎝である。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

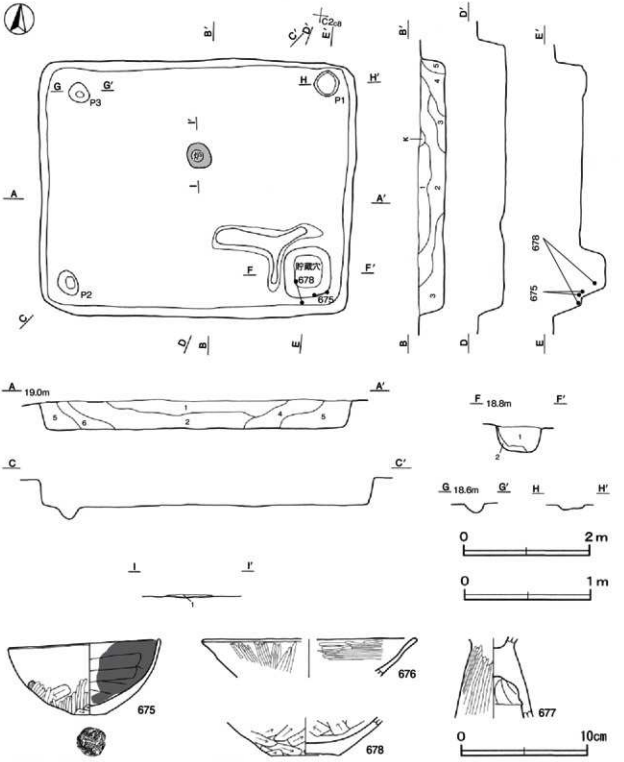
貯蔵穴土層解説
1　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子少量
2　褐　色　ローム粒子・焼土粒子中量

覆土　６層に分層される。レンズ状の堆積状況を示すことから自然堆積と考えられる。

土層解説
1　黒褐色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子少量
3　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化物少量
4　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量
5　褐　色　ローム粒子多量
6　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子少量

遺物出土状況　土師器片82点（坏13，椀5，高坏8，壺1，甕55），炭化材が出土している。また，流れ込んだ縄文土器片7点，混入した須恵器甕片1点も出土している。土器は主に貯蔵穴内及びその周辺の覆土中から出土している。675は貯蔵穴の覆土上層から出土している。678は貯蔵穴の覆土中層と，南壁際床面の破片が接合したものである。676・677は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　貯蔵穴の周囲の高まりは，貯蔵穴に伴う施設であると推測される。時期は，出土土器から5世紀中葉と考えられる。



第53図　第108号住居跡・出土遺物実測図

第108号住居跡出土遺物観察表（第53図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手法の特徴	出土位置	備　考
675	土師器	椀	11.9	6.0	2.5	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	体部内面ヘラナデ	貯蔵穴覆土上層	75%　PL29
676	土師器	高坏	[16.8]	(3.0)	－	長石・石英・雲母	橙	普通	坏部内・外面ヘラ磨き	覆土中	5%
677	土師器	高坏	－	(6.2)	－	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	脚部外面ヘラ磨き　内面ヘラナデ	覆土中	10%
678	土師器	甕	－	(3.0)	[5.4]	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	体部内・外面ヘラ削り	貯蔵穴覆土中層・南壁際床面	5%

第109号住居跡（第54 ～ 56図）

位置　調査区西部のＣ２e8区，標高18.7 ～ 18.9m の台地緩斜面部に位置している。

規模と形状　一辺6.10m の方形で，主軸方向はＮ－18°－Ｗである。壁高は40 ～ 52㎝で，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁溝が全周している。

竈　北壁中央部に付設されている。規模は焚き口部から煙道部まで128㎝，袖部幅118㎝である。袖部は床面と同じ高さの地山面に砂質粘土で構築されている。火床部は地山面をそのまま使用し，火床面及び内壁は火熱により赤変硬化している。煙道部は壁外へ58㎝掘り込まれ，外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1　暗　褐　色　砂質粘土粒子少量，炭化物微量
2　にぶい黄褐色　砂質粘土粒子中量，ローム粒子少量
3　暗　赤　褐　色　焼土ブロック中量，砂質粘土粒子少量
4　灰　褐　色　炭化物・灰中量，焼土粒子微量
5　暗　褐　色　ロームブロック・砂質粘土粒子少量
6　灰　褐　色　砂質粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
7　褐　色　ロームブロック中量
8　暗　褐　色　砂質粘土粒子少量，焼土粒子微量

ピット　８か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ34 ～ 64㎝で，規模と配置から主柱穴と考えられる。Ｐ５・Ｐ６は深さ53㎝・14㎝で，南壁寄りの中央に位置しており，出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ７・Ｐ８は深さ29㎝・32㎝で，竈と貯蔵穴の間に位置しており，性格は不明である。

貯蔵穴　北東コーナー部に位置している。長軸82㎝，短軸78㎝の方形で，深さは41㎝である。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック少量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量
3　暗　褐　色　ローム粒子中量
4　褐　色　ロームブロック中量

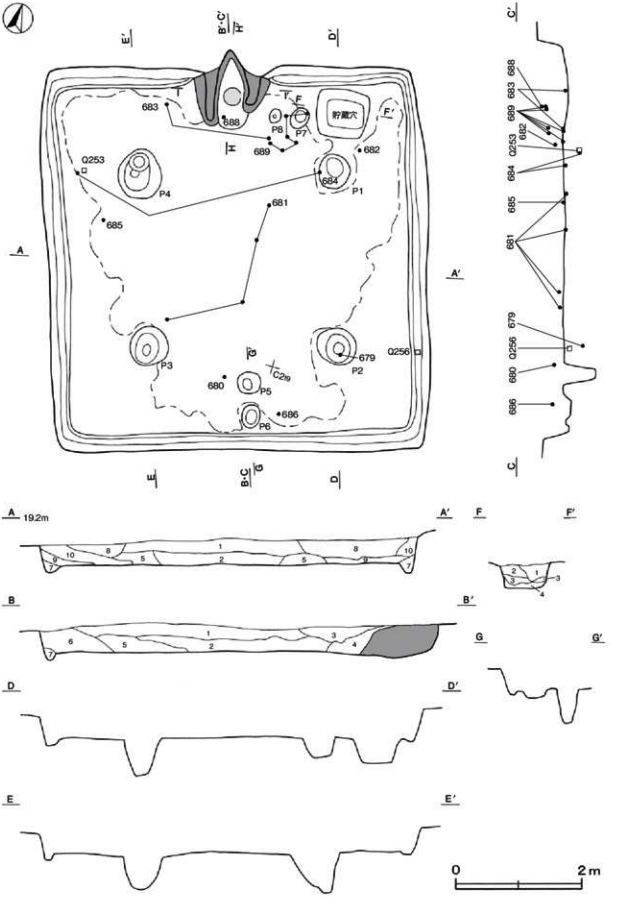
覆土　10層に分層される。ロームブロックを含む不規則な堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

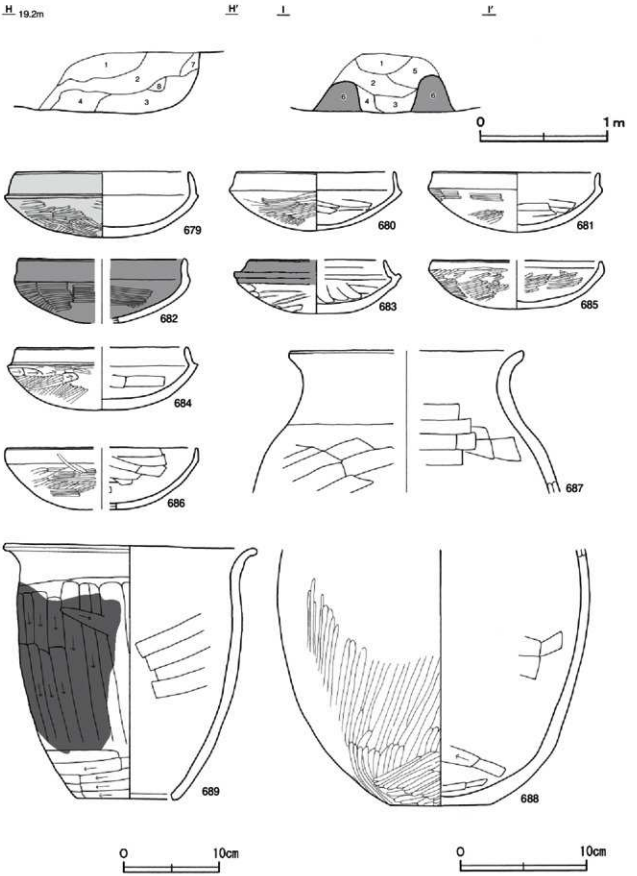
1　黒　褐　色　ローム粒子少量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量
3　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子少量
4　灰　褐　色　砂質粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子微量
5　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
6　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子少量
7　褐　色　ロームブロック中量
8　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
9　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子微量
10　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片637点（坏114，椀５，高坏67，壺27，甕399，甑19，手捏土器６），土製品１点（支脚片），石器２点（砥石），石製品２点（臼玉，石製模造品）が出土している。また，混入した土師質土器片11点も出土している。679はＰ２の覆土中層から出土している。681は中央部，685・Ｑ253は西部，689は北東部，Ｑ256は東部の床面からそれぞれ出土している。竈からは，687が覆土中，688が覆土上層，690が火床部からそれぞれ出土している。683は北部覆土下層から床面，680・686 は南部の覆土中層，682は北東部の覆土中層，691，Ｑ254・Ｑ255は覆土中からそれぞれ出土している。684は西部の床面と中央部の床面の破片が接合している。床面及び竈の覆土中から出土している土器は，遺棄されたものと考えられる。

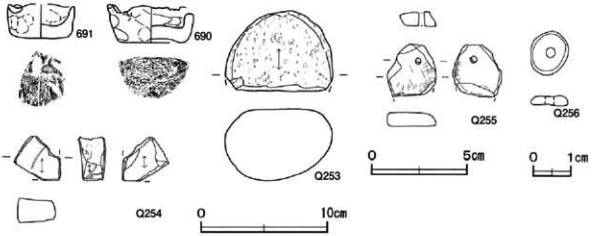
所見　時期は，出土土器から６世紀中葉と考えられる。



第54図　第109号住居跡実測図



第55図　第109号住居跡・出土遺物実測図



第56図　第109号住居跡出土遺物実測図

第109号住居跡出土遺物観察表（第55・56図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
679	土師器	坏	13.8	5.2	－	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面ヘラ磨き	Ｐ２覆土中層	95%　PL31
680	土師器	坏	12.5	4.7	－	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面ヘラ磨き　内面ヘラナデ	南部覆土中層	95%　PL31
681	土師器	坏	13.1	4.9	－	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面ヘラ磨き　内面ヘラナデ	中央部床面	90%　PL31
682	土師器	坏	[13.2]	(5.1)	－	長石・雲母	にぶい黄橙	普通	体部内・外面ヘラ磨き	北東部覆土中層	45%
683	土師器	坏	[10.7]	4.3	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部内・外面ヘラナデ	北部覆土下層～床面	80%
684	土師器	坏	[13.4]	5.0	－	長石	橙	普通	体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き	西部床面・中央部床面	35%
685	土師器	坏	[13.4]	3.9	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面ヘラ磨き	西部床面	65%
686	土師器	坏	[15.1]	(4.8)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ磨き　内面ヘラナデ	南部覆土中層	30%
687	土師器	甕	[18.5]	(11.4)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面ヘラナデ	竈覆土中	15%
688	土師器	甕	－	(20.3)	8.0	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ磨き　内面ヘラナデ	竈覆土上層	30%
689	土師器	甑	25.9	26.4	10.4	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ	北東部床面～覆土中層	80%　PL32
690	土師器	手捏土器	6.7	3.1	5.3	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部内・外面指ナデ	竈火床部覆土中	50%
691	土師器	手捏土器	[5.2]	2.7	4.4	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部内・外面指ナデ	覆土中	50%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　徴	出土位置	備考
Q253	砥石	(6.4)	8.6	5.8	(222)	安山岩	砥面１面	西部床面	PL41
Q254	砥石	(3.5)	(3.6)	1.9	(16.7)	凝灰岩	砥面３面	覆土中	
Q255	紡形模造品	(2.8)	2.6	0.8	(6.55)	滑石	両面平滑　上部穿孔　孔径 0.31 cm　下部欠損	覆土中	PL40

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材　質	特　徴	出土位置	備考
Q256	臼玉	1.12	0.26	0.22	0.55	碧玉	厚みのほとんどない円盤状　片面穿孔	東部床面	PL40

第110号住居跡（第57・58図）

位置　調査区西部のＣ２d0区，標高18.9 ～ 19.0m の台地緩斜面部に位置している。

規模と形状　長軸6.85m，短軸4.90m の長方形で，主軸方向はＮ－68°－Ｅである。壁高は45 ～ 60cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦である。炉から貯蔵穴にかけての西部を中心に踏み固められている。

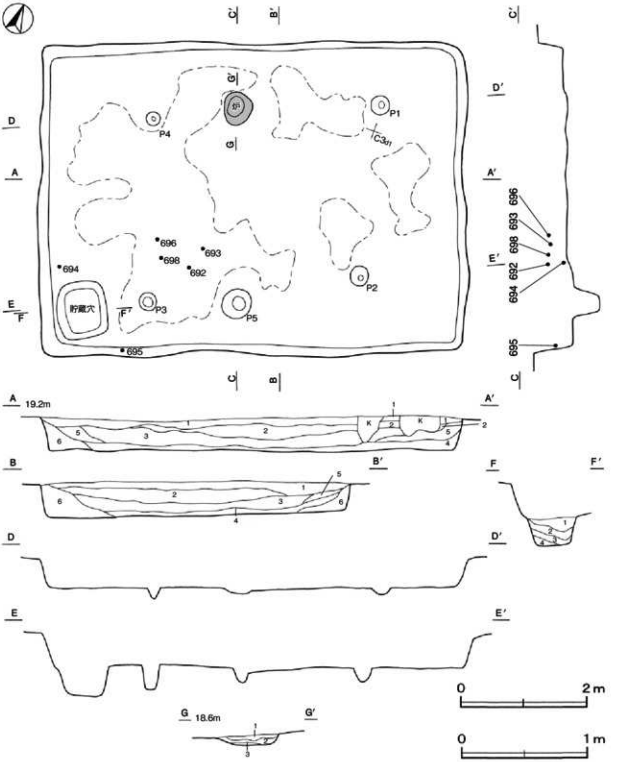
炉　北壁際の中央部に位置している。長径52cm，短径44cmの楕円形で，床面を８cm掘りくぼめた地床炉である。

炉床は火熱により赤変硬化している。

炉土層解説

1　極　暗　褐　色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子微量
2　にぶい赤褐色　焼土ブロック中量，ローム粒子少量
3　赤　褐　色　ローム粒子・焼土粒子中量

ピット　5か所。P1～P4は深さ14～41㎝で，規模と配置から主柱穴と考えられる。P5は深さ49㎝で，南壁寄りの中央に位置しており，出入り口施設に伴うピットと考えられる。



第57図　第110号住居跡実測図

貯蔵穴　南西コーナー部に位置している。長軸90cm，短軸80cmの長方形で，深さは47cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
2　暗 赤 褐 色　焼土ブロック・炭化物・ローム粒子少量
3　にぶい赤褐色　焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
4　褐　色　ローム粒子中量

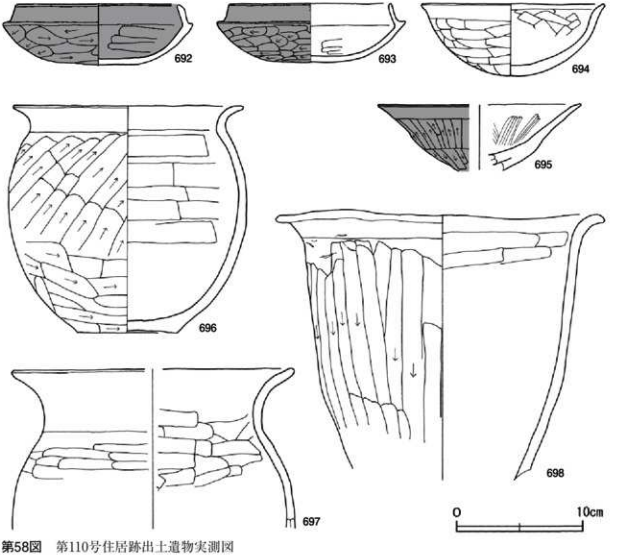
覆土　6層に分層される。レンズ状の堆積状況を示すことから自然堆積と考えられる。

土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子少量
2　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
3　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
4　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子少量
6　明　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子微量

遺物出土状況　土師器片461点（坏42，椀5，坩8，高坏20，壺3，甑7，甕376），土製品2点（支脚片）が出土している。また，混入した須恵器甕片1点も出土している。土器は主に南西部から中央部にかけて散在している。692は中央部の覆土上層，694は西壁際の覆土下層，695は南西壁際の覆土中層，697は覆土中，693・696・698は中央部の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見　長軸と短軸の差が約2mある長方形の住居である。土器は覆土上層から下層にかけて出土しており，住居廃絶後に投棄されたと推定される。時期は，出土土器から5世紀後葉以前と考えられる。



第58図　第110号住居跡出土遺物実測図

第110号住居跡出土遺物観察表（第58図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手法の特徴		出土位置	備考
692	土師器	坏	12.8	4.8	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面ヘラ削り	内面ヘラナデ	中央部覆土上層	100%
693	土師器	坏	12.8	4.6	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り	内面ヘラナデ	中央部覆土中層	70%
694	土師器	椀	14.4	5.7	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	体部内・外面ヘラナデ		西壁際覆土下層	90%　PL29
695	土師器	高坏	[16.0]	(5.2)	－	長石・細礫	橙	普通	坏部外面ヘラ削り	坏部内面ヘラ磨き	南西壁際覆土中層	40%
696	土師器	甕	18.1	18.0	8.0	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面ヘラ削り	内面ヘラナデ	中央部覆土中層	60%　PL30
697	土師器	甕	[22.0]	(12.6)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部内・外面ヘラナデ		覆土中	10%
698	土師器	甑	24.8	(21.5)	－	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラ削り	内面ヘラナデ	中央部覆土中層	55%

第111号住居跡（第59・60図）

位置　調査区西部のＣ２ｂ0区，標高19.0 ～ 19.1m の台地緩斜面部に位置している。

重複関係　第112号住居に掘り込まれている。

規模と形状　長軸5.59m，短軸4.82m の長方形で，主軸方向はＮ－63°－Ｅである。壁高は11 ～ 20cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，軟弱である。

炉　北壁際の中央部やや東寄りに位置している。長径68cm，短径58cmの楕円形で，床面を６cm掘りくぼめた地床炉である。炉床は火熱により赤変硬化している。

炉土層解説

1　暗赤褐色　焼土ブロック中量
2　暗赤褐色　焼土ブロック中量，ロームブロック少量

ピット　５か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ13 ～ 81cmで，規模と配置から主柱穴と考えられる。Ｐ５は深さ12cmで，南壁寄りの中央に位置しており，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

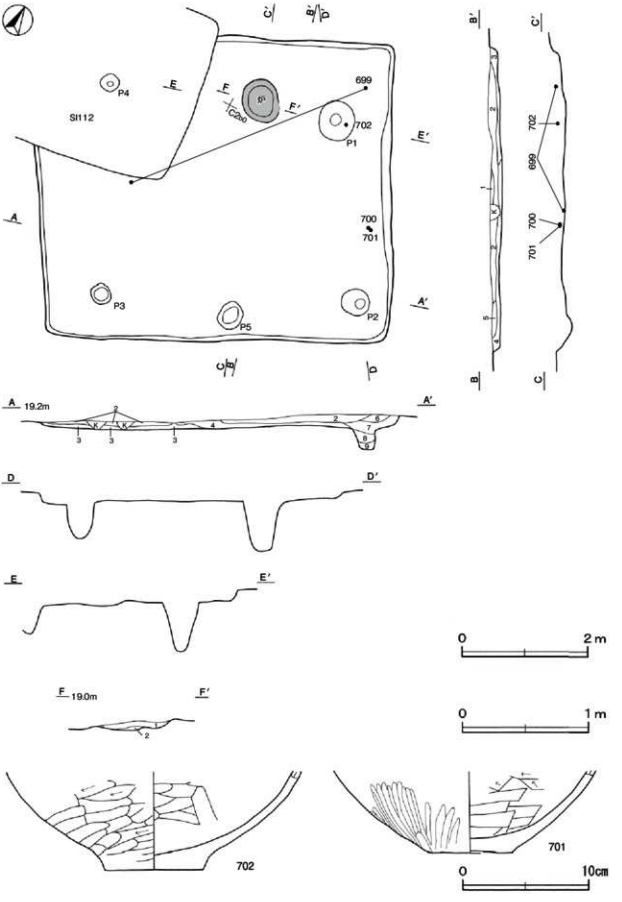
覆土　９層に分層される。各層ともロームブロックを含み，不規則に堆積していることから人為堆積と考えられる。

土層解説

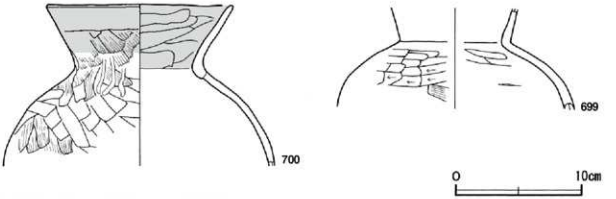
1　暗褐色　ロームブロック少量
2　黒褐色　ロームブロック微量
3　暗褐色　ロームブロック微量
4　暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
5　暗褐色　ロームブロック中量
6　暗褐色　ロームブロック中量，焼土粒子微量
7　褐　色　ロームブロック中量
8　暗褐色　ロームブロック多量，焼土粒子微量
9　暗褐色　ローム小ブロック中量

遺物出土状況　土師器片272点（坏16，坩47，高坏15，壺２，甕192），土製品11点（支脚片）が出土している。また，混入した須恵器１点，土師質土器片２点も出土している。出土土器は炉の周辺及び東壁際を中心に，覆土上層から下層にかけて散在しており，ほとんどが細片であることから，住居廃絶時に主に東側から投棄されたと推測される。699 は北東コーナー部の覆土下層と中央部の床面の破片が接合したものである。700・701 は東壁際の覆土下層，702は北東部の覆土下層から出土している。

所見　長軸と短軸の差がある長方形の住居である。炉が北壁の中央部寄りに位置し，形状が長方形の住居形態は第110号住居跡と類似している。廃絶時期は，出土土器から５世紀後葉と考えられる。



第59図　第111号住居跡・出土遺物実測図



第60図　第111号住居跡出土遺物実測図

第111号住居跡出土遺物観察表（第59・60図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
699	土師器	坩	－	(7.9)	－	長石・赤色粒子	明赤褐	普通	体部外面ハケ目後ヘラ削り	北東コーナー部下層・中央部床面	20%
700	土師器	壺	14.6	(12.8)	－	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面ヘラナデ後磨き	東壁際下層	30%
701	土師器	甕	－	(6.5)	6.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	体部外面下端磨き	東壁際下層	20%
702	土師器	甕	－	(7.8)	7.8	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ	北東部覆土下層	10%

第114号住居跡（第61図）

位置　調査区中央部のＣ３c6区，標高18.8 ～ 18.9m の台地緩斜面部に位置している。

規模と形状　長軸4.48m，短軸4.36m の方形で，主軸方向はＮ－36°－Ｅである。壁高は５～ 10cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，軟弱である。

炉　中央部のやや西寄りに位置している。長径59cm，短径48cmの楕円形で，床面を８cm掘りくぼめた地床炉である。炉床は火熱により赤変硬化している。

炉土層解説

1　暗赤褐色　焼土粒子中量，炭化粒子微量
2　赤 褐 色　焼土粒子中量，ローム粒子少量

ピット　５か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ11 ～ 14 cmで，規模と配置から主柱穴と考えられる。Ｐ５は深さ22 cmで，東壁寄りの中央に位置しており，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

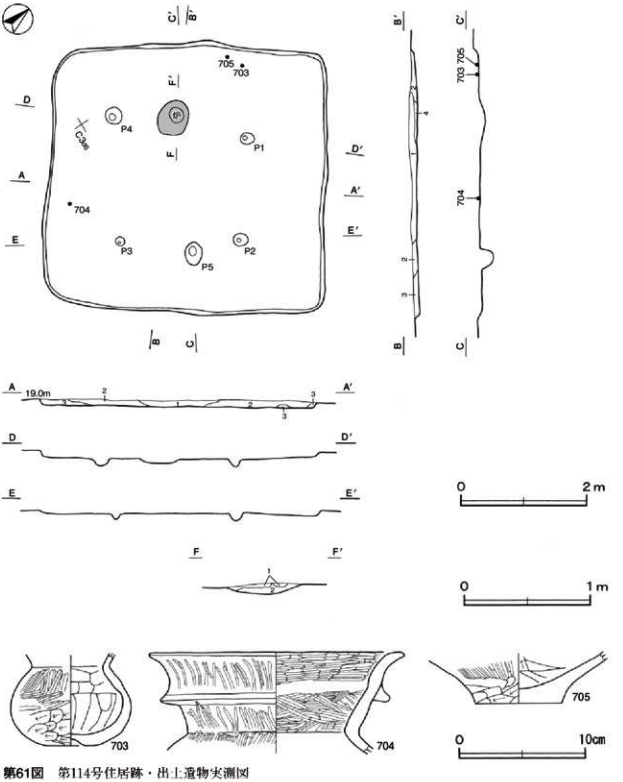
覆土　４層に分層される。レンズ状の堆積状況を示すことから自然堆積と考えられる。

土層解説

1　暗 褐 色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
2　暗 褐 色　ローム粒子中量，焼土粒子微量
3　褐　　色　ローム粒子中量
4　暗赤褐色　焼土粒子中量，炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片94点（坏３，坩10，高坏21，壺１，甕59）が出土している。土器は主に北西部から南部にかけて出土している。703・705 は北西部の覆土下層から出土している。704 は南部の床面から口縁部が逆位で出土しており，住居廃絶時に遺棄されたと考えられる。

所見　時期は，出土土器から５世紀前葉と考えられる。



第61図　第114号住居跡・出土遺物実測図

第114号住居跡出土遺物観察表（第61図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
703	土師器	坩	－	(7.8)	－	長石・石英	明赤褐	普通	体部外面下端ヘラ削り	北西部覆土下層	55%
704	土師器	壺	20.0	(8.1)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部内・外面ヘラ磨き	南西部床面	10%
705	土師器	甕	－	(4.0)	6.9	長石・石英・細礫	にぶい橙	普通	体部外面下端ヘラ削り	北西部覆土下層	5%

第115号住居跡（第62・63図）

位置　調査区中央部のＣ３c3区，標高18.8 ～ 18.9m の台地緩斜面部に位置している。

重複関係　第113号住居に掘り込まれている。

規模と形状　北部が第113 号住居に掘り込まれているため，確認できた範囲は東西3.04m，南北2.21m である。平面形は方形又は長方形と推測され，主軸方向はＮ－33°－Ｗである。壁高は30 ～ 36㎝で，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

ピット　深さ27㎝で，規模と配置から主柱穴と考えられる。

貯蔵穴　南東コーナー部に位置している。長径66㎝，短径58㎝の楕円形で，深さは30㎝である。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1　暗褐色　ローム粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子少量
3　褐　色　ローム粒子中量

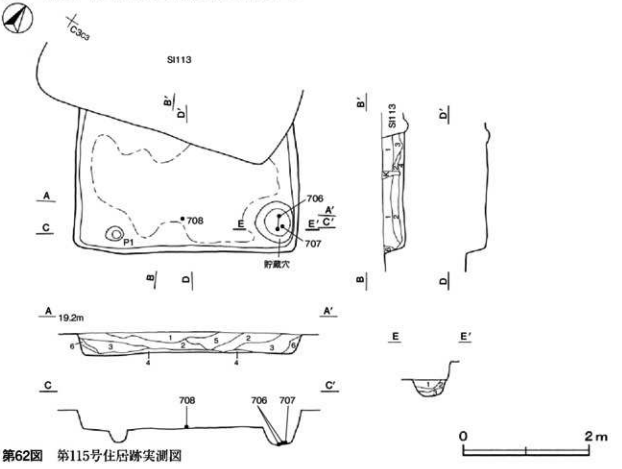
覆土　６層に分層される。レンズ状の堆積状況を示すことから自然堆積と考えられる。

土層解説

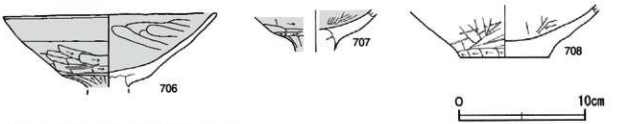
1　黒褐色　ローム粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子・炭化粒子微量
3　暗褐色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
4　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
5　暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
6　明褐色　ローム粒子中量

遺物出土状況　土師器片46点（坏３，坩２，高坏６，甕35）が出土している。土器は主に貯蔵穴及びその周辺から出土している。706・707は貯蔵穴の底面，708は南部の床面からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から５世紀中葉と考えられる。



第62図　第115号住居跡実測図



第63図　第115号住居跡出土遺物実測図

第115号住居跡出土遺物観察表（第63図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
706	土師器	高坏	16.9	(5.6)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	坏部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ	貯蔵穴底面	35%
707	土師器	高坏	－	(3.1)	－	長石・石英	明赤褐	普通	坏部外面ヘラ削り	貯蔵穴底面	5%
708	土師器	甕	－	(4.0)	7.0	長石・石英・細礫	にぶい黄橙	普通	体部外面下端ヘラ削り　内面ヘラナデ	南部床面	5%

第116号住居跡（第64～67図）

位置　調査区中央部のＣ３d3区，標高18.7～18.9mの台地緩斜面部に位置している。

重複関係　第336～338号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸7.06m，短軸6.97mの方形で，主軸方向はＮ－22°－Ｗである。壁高は43～50cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁溝が全周している。

竈　北壁中央部に付設されている。規模は焚き口部から煙道部まで128cm，袖部幅118cmである。袖部は，床面と同じ高さの地山面に砂質粘土で構築されている。火床部は地山面をそのまま使用し，火床面及び内壁は火熱で赤変硬化している。煙道部は壁外へ30cm掘り込まれ，外傾して立ち上がっている。天井部が良好な状態で残存しており，煙道の内部に灰が多量に確認された。

竈土層解説

1　暗　褐　色　砂質粘土粒子少量，炭化物微量
2　にぶい黄褐色　砂質粘土粒子中量，ローム粒子少量
3　暗　赤　褐　色　焼土ブロック中量，焼土粒子少量
4　灰　褐　色　炭化物・灰中量，焼土粒子微量
5　暗　褐　色　ロームブロック・砂質粘土粒子少量
6　灰　褐　色　砂質粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
7　暗　褐　色　ロームブロック少量
8　暗　褐　色　砂質粘土粒子少量，焼土粒子微量
9　赤　灰　色　焼土ブロック中量，ロームブロック少量

ピット　５か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ56～65cmで，規模と配置から主柱穴と考えられる。Ｐ５は深さ53cmで，南壁寄りの中央に位置しており，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴　北東コーナー部に位置している。長径114cm，短径66cmの楕円形で，深さは22cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1　褐　色　ロームブロック少量
2　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子微量
3　明　褐　色　ローム粒子多量

覆土　10層に分層される。ロームブロックを含む不自然な堆積状況から人為堆積と考えられる。

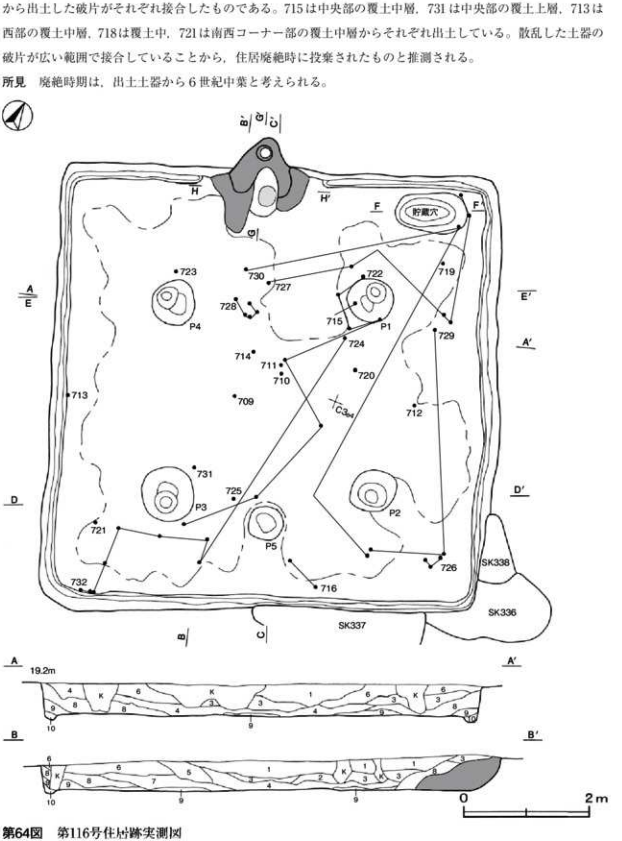
土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子少量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量
3　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子少量
4　灰　褐　色　砂質粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子微量
5　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
6　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子少量
7　褐　色　ロームブロック中量
8　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
9　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子微量
10　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

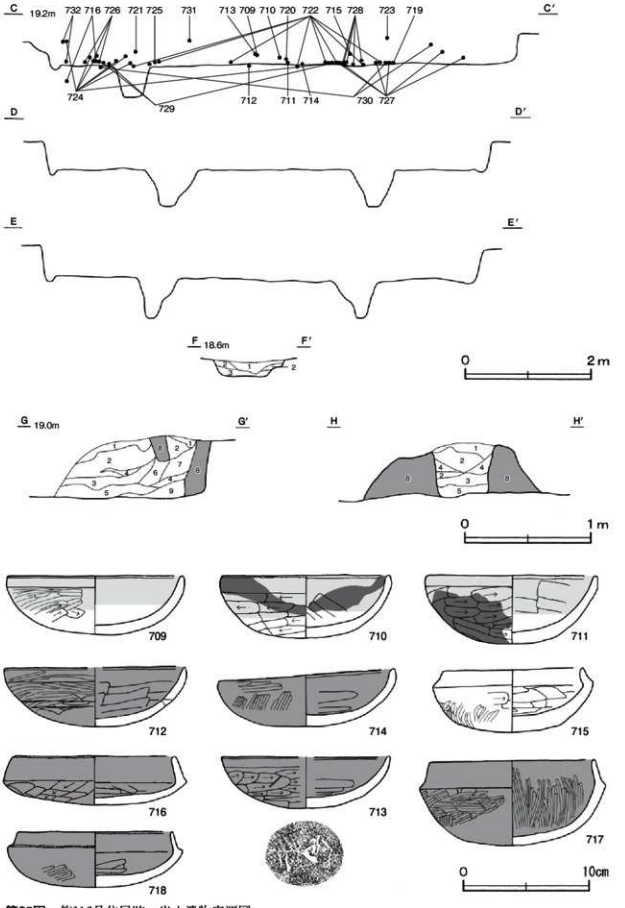
遺物出土状況　土師器片885点（坏250，椀３，高坏25，鉢２，壺３，甕521，甑78，手捏土器３），土製品１点（支

脚片）が出土している。また，混入した須恵器片５点，土師質土器片７点，鉄製品１点，石２点も出土している。土器は北部から中央部の覆土下層から中層を中心に出土している。712・726・727 は東部，709 ～ 711・714・720・725・728・DP121は中央部，719は北東部，723は西部，716は南部，724・732は南西コーナー部の覆土下層からそれぞれ出土している。722は中央部床面，729は南部と東部の覆土下層，730は南部と北部の覆土下層から出土した破片がそれぞれ接合したものである。715は中央部の覆土中層，731は中央部の覆土上層，713は西部の覆土中層，718は覆土中，721は南西コーナー部の覆土中層からそれぞれ出土している。散乱した土器の破片が広い範囲で接合していることから，住居廃絶時に投棄されたものと推測される。

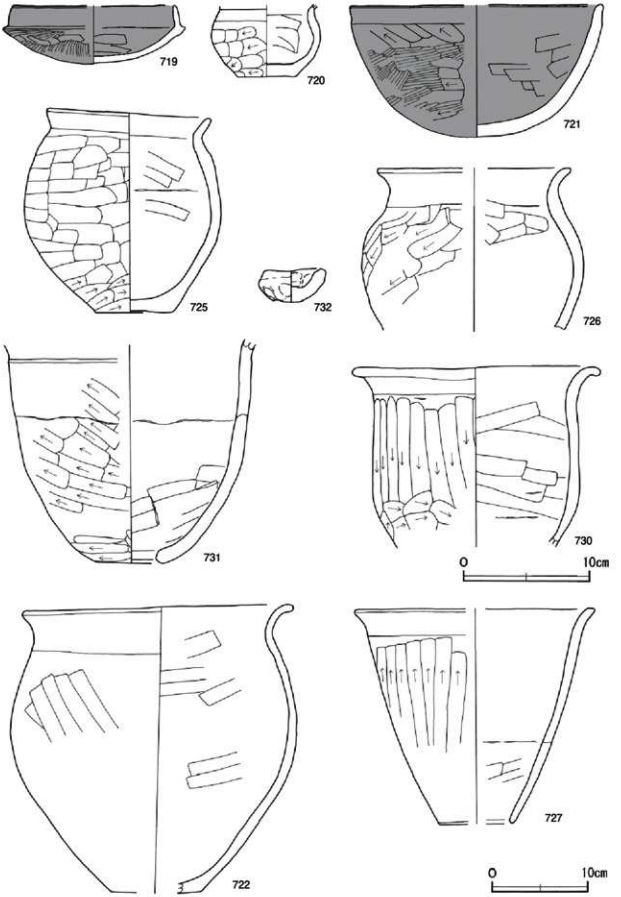
所見　廃絶時期は，出土土器から６世紀中葉と考えられる。



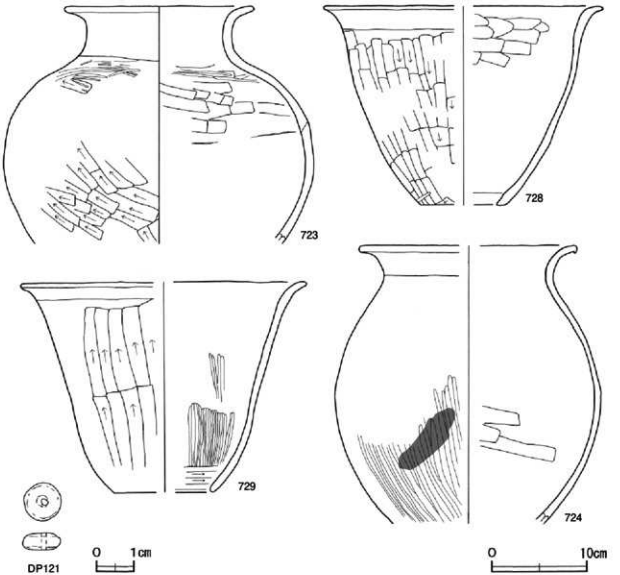
第64図　第116号住居跡実測図



第65図　第116号住居跡・出土遺物実測図



第66図　第116号住居跡出土遺物実測図(1)



第67図　第116号住居跡出土遺物実測図(2)

第116号住居跡出土遺物観察表（第65～67図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
709	土師器	坏	13.8	4.8	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き	中央部覆土下層	80%　PL31
710	土師器	坏	13.2	5.0	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ	中央部覆土下層	85%
711	土師器	坏	13.4	5.5	－	長石・石英	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ	中央部覆土下層	90%　PL32
712	土師器	坏	[14.3]	4.7	－	長石・石英	にぶい褐	普通	体部外面ヘラナデ後ヘラ磨き	東部床面	65%
713	土師器	坏	[13.4]	4.0	－	長石・石英	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ	西部覆土中層	80%
714	土師器	坏	13.8	4.2	－	長石・石英	浅黄橙	普通	体部外面ヘラ磨き　内面ヘラナデ	中央部床面	95%　PL32
715	土師器	坏	11.1	5.2	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き	中央部覆土中層	95%　PL32
716	土師器	坏	12.8	3.9	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰褐	普通	体部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ	南部覆土下層	90%　PL32
717	土師器	坏	13.0	6.7	－	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部内・外面ヘラ磨き	西壁際壁溝覆土中	70%
718	土師器	坏	12.2	4.4	－	長石・黒色粒子	浅黄	普通	体部外面ヘラ磨き　内面ヘラナデ	覆土中	80%
719	土師器	坏	[12.8]	4.6	－	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面ヘラナデ後ヘラ磨き	北東部床面	55%
720	土師器	小形壺	－	(5.7)	4.6	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ	中央部床面	90%　PL32

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
721	土師器	椀	[19.7]	10.5	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き	南西コーナー部床下中層	50%
722	土師器	甕	27.7	32.0	[9.4]	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部内・外面ヘラナデ	中央部覆土下層	70%　PL33
723	土師器	甕	19.2	(24.9)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き	西部床面	40%
724	土師器	甕	[22.0]	(29.2)	－	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面ヘラ磨き　内面ヘラナデ	南西コーナー部床面	30%
725	土師器	小形甕	12.8	16.2	6.1	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部外面下端ヘラ削り　内面ヘラナデ	中央部床面	70%　PL33
726	土師器	甕	[15.2]	(13.0)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ	東部床面	55%
727	土師器	甑	[24.5]	22.5	[7.5]	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ	東部床面・中央部下層	20%
728	土師器	甑	[28.8]	20.9	[9.0]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ	中央部床面	25%
729	土師器	甑	[29.3]	22.2	[10.2]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラ削り　内面ヘラ磨き	東部床面・南部床面	50%
730	土師器	甑	18.7	(14.3)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ	南部床面・北部下層	40%
731	土師器	甑	－	(17.4)	5.3	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ	中央部覆土上層	55%
732	土師器	手捏土器	4.0	2.7	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	内・外面指ナデ	南西コーナー部床面	100%　PL32

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎　土	特　　徴	出土位置	備考
DP121	臼玉	0.96	0.44	0.12	0.49	長石	側面が膨らむ太鼓状　片面穿孔	中央部覆土下層	PL40

第118号住居跡（第68図）

位置　調査区中央部のＣ３f6区，標高18.8mの台地平坦部に位置している。

規模と形状　長軸4.42m，短軸4.18mの方形で，主軸方向はＮ－63°－Ｅである。壁高は30～35cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部から東部にかけて踏み固められている。

炉　中央部やや北寄りに位置している。長径54cm，短径42cmの楕円形で，床面を14cm掘りくぼめた地床炉である。炉床は火熱により赤変硬化している。

炉土層解説

1　暗　褐　色　焼土粒子・炭化粒子少量
2　暗赤褐色　焼土粒子中量，炭化粒子微量
3　暗赤褐色　焼土粒子中量

ピット　２か所。Ｐ１・Ｐ２は深さ22～24cmで，規模と配置から主柱穴と考えられる。

貯蔵穴　２か所。貯蔵穴１は北東コーナー部に位置している。径58cmの円形で，深さは50cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。貯蔵穴２は南東コーナー部に位置している。径54cmの円形で，深さは30cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1　極暗褐色　ローム粒子少量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
3　灰　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　褐　　色　ロームブロック中量
5　褐　　色　ローム粒子少量，粘土ブロック微量

覆土　８層に分層される。各層ともロームブロックを含み，不規則に堆積していることから人為堆積と考えられる。

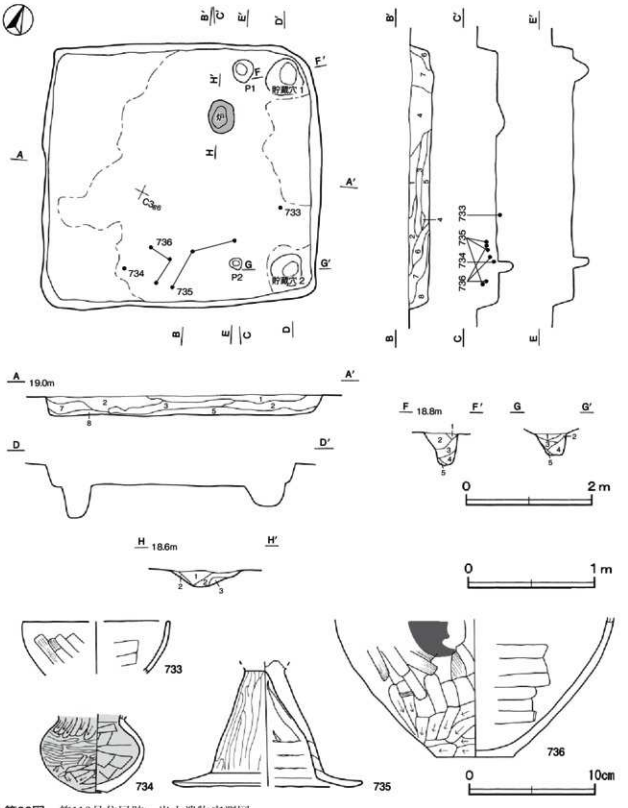
土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック微量
2　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量
3　黒　褐　色　ロームブロック少量
4　暗　褐　色　ロームブロック中量
5　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
6　暗赤褐色　ロームブロック・焼土粒子少量
7　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量
8　褐　　色　ロームブロック多量

遺物出土状況　土師器片128点（坏１，椀１，高坏16，坩37，甕73）が出土している。また，混入した土師質土器片24点（小皿）も出土している。出土土器はほぼ全域に散在しており，そのほとんどが細片である。733

は東部の床面，734 は南部の覆土下層からそれぞれ出土している。735・736 は南部の覆土中層から下層にかけて出土した破片が接合したものである。

所見　時期は，出土土器から 5 世紀中葉と考えられる。



第68図　第118号住居跡・出土遺物実測図

第118号住居跡出土遺物観察表（第68図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
733	土師器	椀	[11.6]	(4.1)	－	長石・石英	赤褐	普通	体部外面ハケ目後ヘラナデ	東部床面	10%
734	土師器	坩	－	(6.2)	1.7	長石・石英	赤褐	普通	体部外面磨き後ヘラ削り	南部覆土下層	40%
735	土師器	高坏	－	(10.0)	[15.1]	長石・石英	にぶい橙	普通	脚部外面磨き	南部覆土中層～下層	40%
736	土師器	甕	－	(10.9)	6.0	長石・石英・雲母	明褐	普通	体部外面下端ヘラ削り	南部覆土中層～下層	20%

第120号住居跡（第69～71図）

位置　調査区中央部のＣ３i5区，標高18.7～18.8mの台地緩斜面部に位置している。

規模と形状　長軸7.59m，短軸7.21mの方形で，主軸方向はＮ－27°－Ｗである。壁高は58～75cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁溝が全周している。

竈　北壁中央部に付設されている。規模は焚き口部から煙道部まで174cm，袖部幅144cmである。袖部は地山を床面より11cmほど高く掘り残して基部とし，その周りに砂質粘土を貼り付けて構築されている。火床部は地山面をそのまま使用し，火床面は火熱により赤変硬化している。煙道部は壁外へ20cm掘り込まれ，外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量
2　褐　色　ローム粒子中量，砂質粘土粒子少量
3　にぶい褐色　ローム粒子中量，焼土粒子少量
4　にぶい赤褐色　焼土ブロック中量，ローム粒子少量
5　にぶい赤褐色　焼土ブロック中量，砂質粘土粒子少量
6　明　褐　色　ローム粒子多量
7　にぶい褐色　ローム粒子・焼土粒子中量
8　褐　色　ローム粒子多量，砂質粘土粒子少量
9　灰　褐　色　砂質粘土粒子中量，ローム粒子少量

ピット　６か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ43～71cmで，規模と配置から主柱穴と考えられる。Ｐ５・Ｐ６は深さ36cm・37cmで，南壁寄りの中央に位置しており，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴　北壁際の竈東側に位置している。長軸112cm，短軸84cmの長方形で，深さは33cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子少量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量
3　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子微量

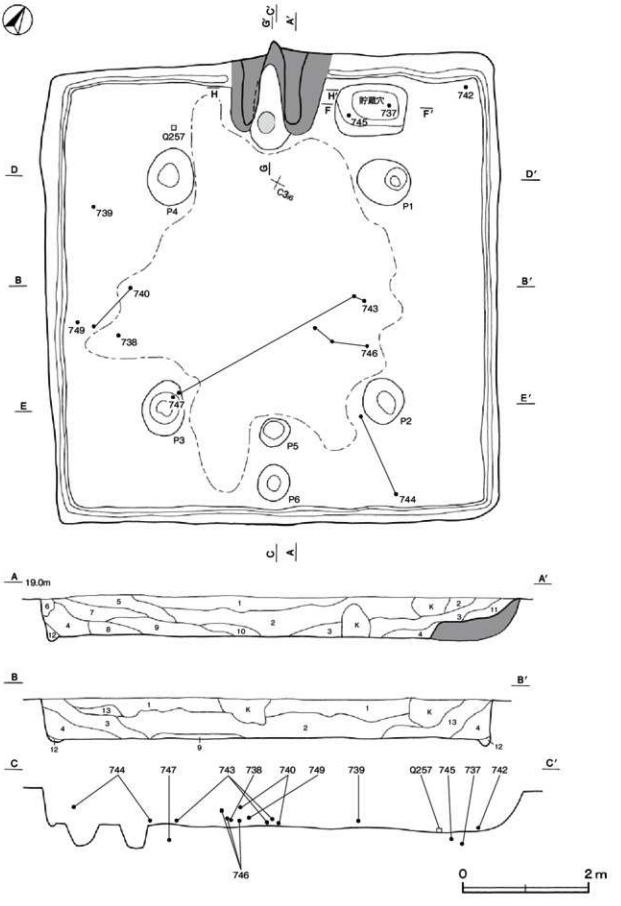
覆土　13層に分層される。レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

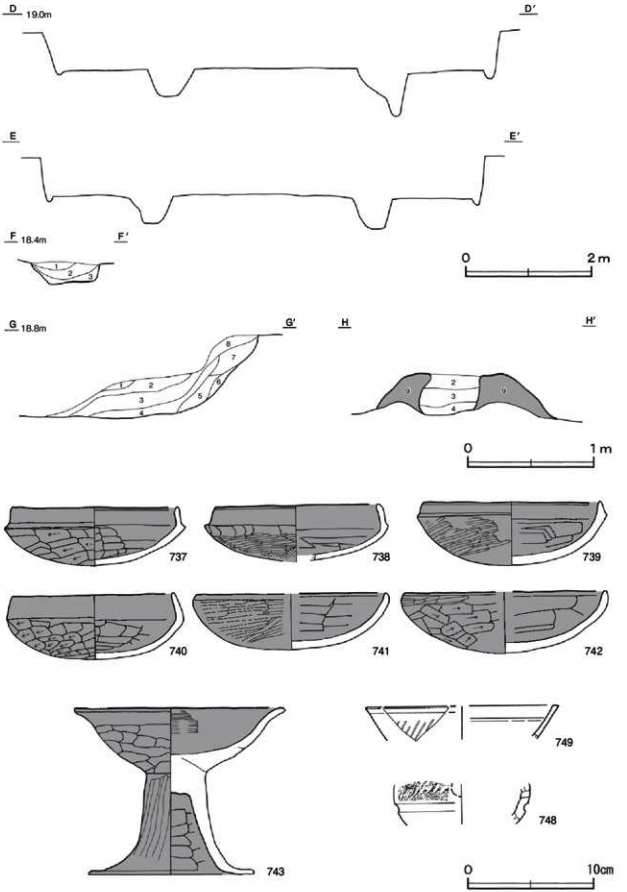
1　黒　褐　色　ローム粒子少量
2　黒　褐　色　ローム粒子少量，炭化物微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量，砂質粘土粒子微量
4　褐　色　ローム粒子中量，砂質粘土粒子少量
5　暗　褐　色　ローム粒子少量
6　暗　褐　色　ロームブロック少量
7　褐　色　ロームブロック中量
8　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
9　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
10　暗　褐　色　ロームブロック中量
11　褐　色　ロームブロック中量，砂質粘土粒子少量
12　褐　色　ロームブロック多量
13　黒　褐　色　ローム粒子微量

遺物出土状況　土師器片907点（坏226，椀８，高坏33，鉢１，壺60，甕573，甑５，手捏土器１），須恵器片２点（甕），石製品１点（臼玉）が出土している。また流れ込んだ縄文土器片２点，混入した須恵器片14点，土師質土器片78点，鉄滓３点も出土している。738～740・749は西部，Ｑ257は北西部，742は北コーナー部の覆土下層からそれぞれ出土している。737・745は貯蔵穴の覆土上層，747はＰ３の底面，741・748は覆土中からそれぞれ出土している。西部と中央部の覆土下層から出土した破片が接合するなど，離れた場所から出土した土器が接合していることから，これらの土器は住居廃絶後に投棄されたと考えられる。

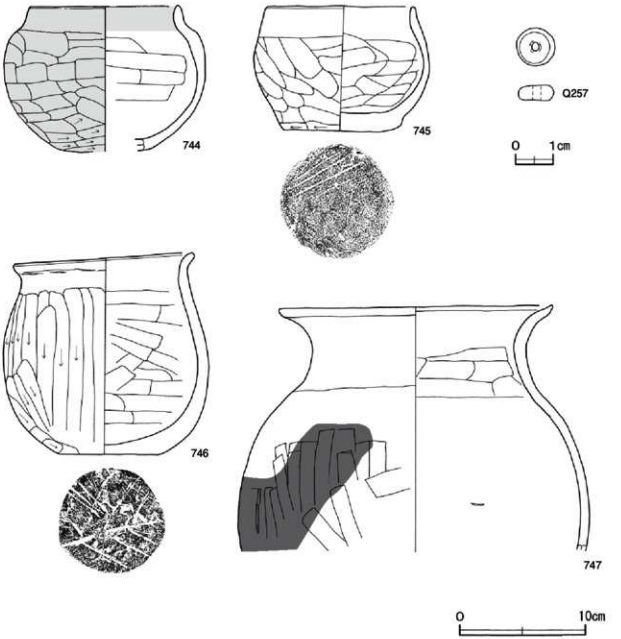
所見　廃絶時期は，出土土器から６世紀後葉と考えられる。



第69図　第120号住居跡実測図



第70図　第120号住居跡・出土遺物実測図



第71図　第120号住居跡出土遺物実測図

第120号住居跡出土遺物観察表（第70・71図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
737	土師器	坏	13.1	4.5	－	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ	貯蔵穴覆土上層	95%　PL33
738	土師器	坏	12.9	(3.9)	－	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラナデ後ヘラ磨き	西部覆土下層	90%　PL33
739	土師器	坏	14.0	5.0	－	長石・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラ磨き　内面ヘラナデ	西部覆土下層	90%　PL33
740	土師器	坏	12.7	5.1	－	長石・石英	明黄褐	普通	体部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ	西部覆土下層	50%
741	土師器	坏	[15.0]	4.3	－	長石・赤色粒子・雲母	明黄褐	普通	体部外面ヘラ磨き　内面ヘラナデ	覆土中	50%
742	土師器	坏	[16.0]	4.8	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	体部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ	北コーナー部覆土下層	50%
743	土師器	高坏	16.4	13.2	13.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	坏部外面ヘラナデ　内面ヘラ磨き	西部床面・中央部床面	80%　PL33
744	土師器	鉢	11.8	11.5	[7.4]	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ	南部覆土下層	80%　PL33
745	土師器	鉢	11.6	10.0	9.1	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面下端ヘラ削り	貯蔵穴覆土上層	70%　PL33

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
746	土師器	甕	14.0	16.1	8.0	長石・石英	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ	中央部覆土下層	80%　PL33
747	土師器	甕	21.6	(19.6)	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部内・外面ヘラナデ	P３底面	30%
748	須恵器	瓶	－	(3.1)	－	長石・石英・黒色粒子	灰黄	不良	体部外面横方向の沈線	覆土中	5%　PL39
749	須恵器	瓶	[15.4]	(2.7)	－	長石・石英・黒色粒子	灰褐	不良	ロクロナデ	西部覆土下層	748と同一個体か

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材　質	特　徴	出土位置	備考
Q257	臼玉	0.96	0.43	0.16	0.48	滑石	側面が膨らむ太鼓状　片面穿孔	北西部覆土下層	PL40

第121号住居跡（第72・73図）

位置　調査区中央部のＣ３f4区，標高18.7 ～ 18.8m の台地緩斜面部に位置している。

規模と形状　長軸5.85m，短軸5.80m の方形で，主軸方向はＮ－25°－Ｗである。壁高は45 ～ 50cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，壁際を除いて踏み固められている。壁溝が，北東コーナー部を除き周回している。

竈　北壁中央部に付設されている。規模は焚き口部から煙道部まで152cm，袖部幅118cmである。袖部は床面と同じ高さの地山面に砂質粘土で構築されている。火床部は床面を12cm掘りくぼめ，ローム土を埋め戻して使用している。火床面及び内壁は火熱により赤変硬化している。煙道部は壁外へ28cm掘り込まれ，外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1　褐　　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
2　にぶい赤褐色　焼土粒子・砂質粘土粒子少量
3　赤　褐　色　焼土ブロック少量，炭化粒子微量
4　灰　褐　色　砂質粘土粒子中量，ローム粒子少量
5　暗 赤 褐 色　焼土ブロック中量，砂質粘土粒子少量
6　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，砂質粘土粒子少量
7　赤　褐　色　焼土ブロック中量，砂質粘土粒子少量
8　にぶい赤褐色　ローム粒子・焼土粒子少量
9　赤　褐　色　焼土ブロック中量，炭化粒子微量
10　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，炭化粒子少量
11　灰　褐　色　砂質粘土粒子多量，焼土粒子微量
12　褐　　色　ームブロック多量，焼土粒子微量

ピット　13 か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ53 ～ 68 cmで，規模と配置から主柱穴と考えられる。Ｐ５は深さ51 cmで，南壁寄りの中央に位置しており，出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ６～Ｐ13 は深さ11 ～ 43 cmで，壁際に位置し，性格は不明である。

貯蔵穴　北東コーナー部に位置している。長軸110cm，短軸78cmの長方形で，深さは43cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ームブロック少量，炭化粒子微量
3　褐　　色　ームブロック中量，炭化粒子微量
4　褐　　色　ーム粒子多量

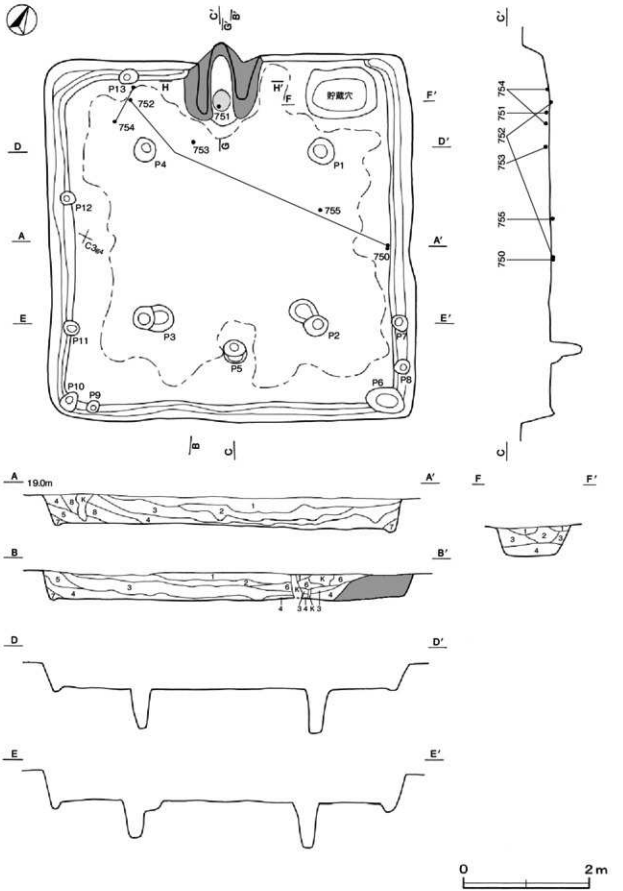
覆土　８層に分層される。レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

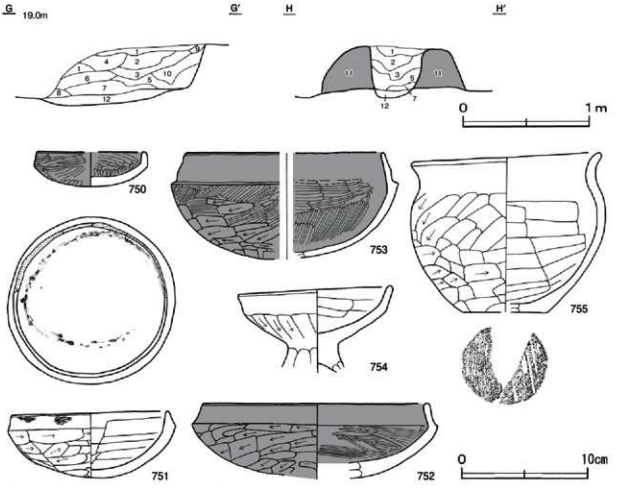
1　黒　褐　色　ーム粒子微量
2　黒　褐　色　ームブロック微量
3　褐　　色　ーム粒子中量
4　褐　　色　ームブロック中量，焼土粒子微量
5　褐　　色　ーム粒子中量，炭化粒子微量
6　暗　褐　色　ーム粒子・焼土粒子微量
7　褐　　色　ームブロック中量
8　褐　　色　ームブロック少量

遺物出土状況　土師器片201点（坏57，椀７，高坏９，鉢１，甕125，甑２）が出土している。また，流れ込んだ縄文土器片１点，混入した須恵器片２点，土師質土器片13点，鉄滓２点も出土している。751 は竈の火床面から正位で出土し，口縁部及び内面に漆が付着している。750 は東壁際，754 は北西部，755 は中央部の床面からそれぞれ出土している。752は北西部の覆土下層と東壁際床面の破片が接合したものである。753は北部の覆土下層から出土している。

所見　時期は，出土土器から６世紀中葉と考えられる。



第72図　第121号住居跡実測図



第73図　第121号住居跡・出土遺物実測図

第121号住居跡出土遺物観察表（第73図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
750	土師器	坏	[8.5]	2.8	－	長石・石英	にぶい橙	普通	体部内・外面ヘラ磨き	東壁際床面	50% PL32
751	土師器	坏	12.3	5.3	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ	竈火床面	95%
752	土師器	坏	17.8	(6.0)	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り　内面ヘラ磨き	北西部覆土下層・東部床面	65% PL32
753	土師器	坏	[15.7]	8.3	－	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部内・外面ヘラ磨き　外面下端ヘラ削り	北部覆土下層	40%
754	土師器	高坏	12.0	(6.8)	－	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	坏部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ	北西部覆土下層	35%
755	土師器	小形甕	14.7	12.7	[6.7]	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ	中央部床面	90% PL33

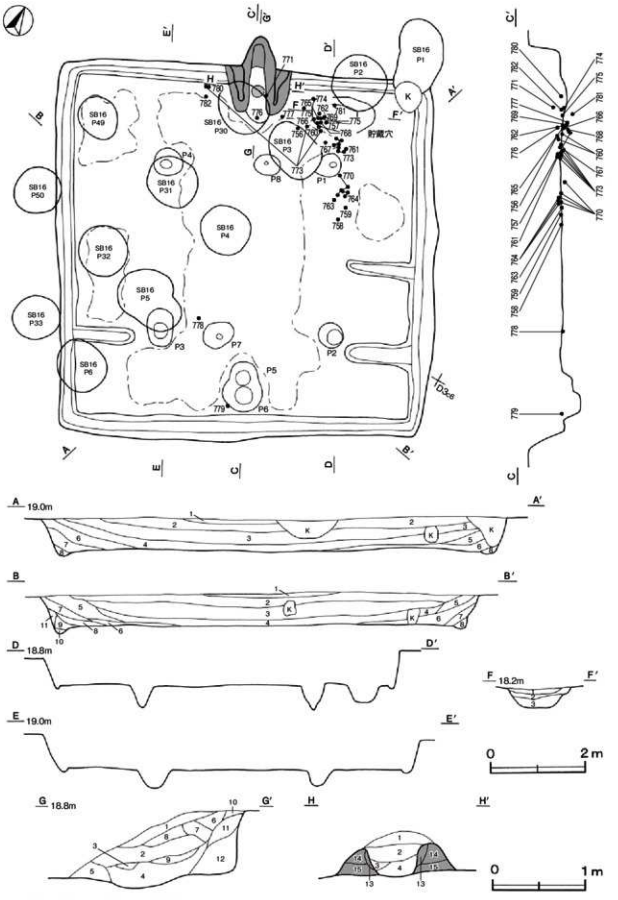
第123号住居跡（第74 ～ 78図）

位置　調査区中央部のＤ３b4区，標高18.6 ～ 18.8m の台地緩斜面部に位置している。

重複関係　第16号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状　長軸8.11m，短軸8.01m の方形で，主軸方向はＮ－28°－Ｗである。壁高は48 ～ 70cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，壁際を除いて踏み固められている。壁溝が全周している。間仕切り溝が，東壁から２条，西壁から１条確認された。



第74図　第123号住居跡実測図

竈　北壁中央部に付設されている。規模は焚き口部から煙道部まで152cm，袖部幅118cmである。袖部は床面と同じ高さの地山面に砂質粘土で構築されている。火床部は地山面をそのまま使用し，火床面及び内壁は火熱により赤変硬化している。煙道部は壁外へ28cm掘り込まれ，外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1	暗　褐　色	ローム粒子・砂質粘土粒子微量	
2	暗　褐　色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量	
3	赤　褐　色	焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子微量	
4	にぶい赤褐色	焼土粒子中量，ローム粒子微量	
5	暗　褐　色	焼土粒子少量，炭化物・ローム粒子微量	
6	にぶい赤褐色	粘土ブロック中量，焼土粒子少量	
7	にぶい黄褐色	粘土ブロック中量，焼土ブロック微量	
8	にぶい黄褐色	粘土ブロック少量，ローム粒子微量	
9	にぶい黄橙色	粘土ブロック・焼土粒子中量	
10	暗　褐　色	焼土ブロック・ローム粒子微量	
11	にぶい赤褐色	焼土粒子中量，粘土ブロック少量	
12	にぶい赤褐色	ローム粒子・焼土粒子少量	
13	にぶい赤褐色	ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量	
14	灰　褐　色	砂質粘土粒子多量，ローム粒子少量	
15	褐　　色	ロームブロック多量	

ピット　8か所。P１～P４は深さ35～58cmで，規模と配置から主柱穴と考えられる。P５・P６は深さ24cm・37cmで，南壁寄りの中央に位置しており，出入り口施設に伴うピットと考えられる。P７・P８は深さ46cm・48cmで，性格は不明である。

貯蔵穴　北東コーナー部に位置している。長径118cm，短径76cmの楕円形で，深さは40cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1	暗　褐　色	ローム粒子少量，砂質粘土粒子微量
2	黒　褐　色	ロームブロック・炭化粒子微量
3	暗　褐　色	ローム粒子少量，炭化粒子微量

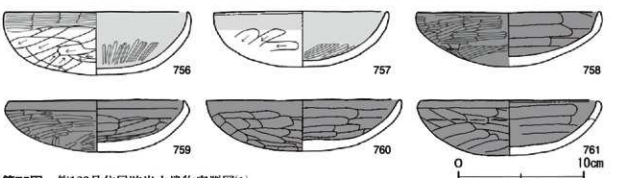
覆土　11層に分層される。レンズ状の堆積状況を示すことから自然堆積と考えられる。

土層解説

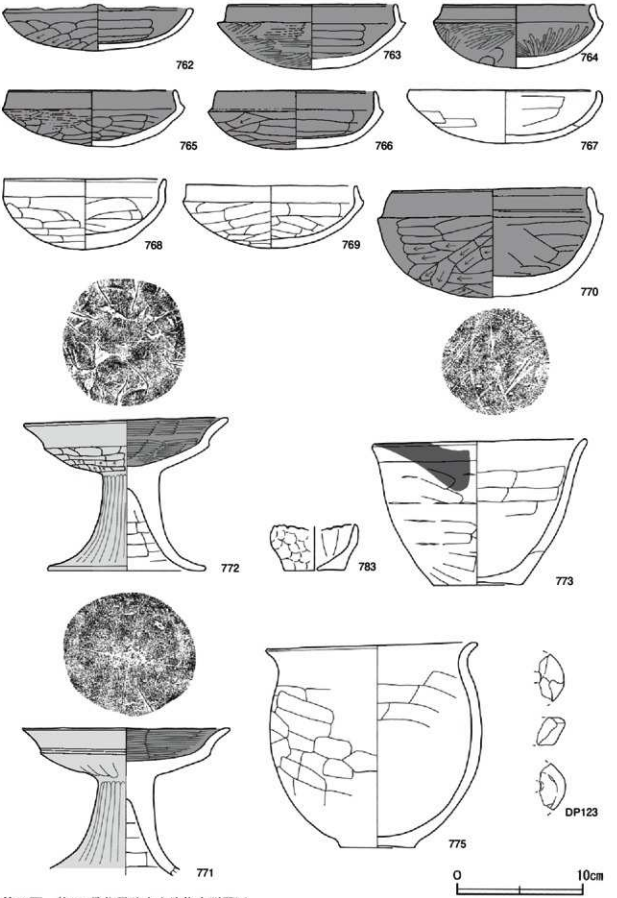
1	暗　褐　色	ローム粒子少量	
2	黒　褐　色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	
3	暗　褐　色	ローム粒子少量，焼土ブロック微量	
4	黒　褐　色	ローム粒子・焼土粒子少量	
5	暗　褐　色	ローム粒子中量	
6	褐　　色	ロームブロック中量，炭化粒子微量	
7	暗　褐　色	ロームブロック少量	
8	暗　褐　色	ロームブロック中量	
9	褐　　色	ローム粒子中量，焼土粒子微量	
10	褐　　色	ロームブロック中量	
11	褐　　色	ロームブロック中量，炭化粒子微量	

遺物出土状況　土師器片955点（坏229，高坏30，鉢１，壺12，甕665，甑７，手捏土器11），土製品２点（紡錘車）が出土している。また，流れ込んだ縄文土器片１点，石器１点（磨石），混入した須恵器片14点，土師質土器片84点，鉄滓１点も出土している。遺物は竈周辺の床面及び貯蔵穴内を中心に出土している。757・765・769は逆位，762・768は正位，766は横位で貯蔵穴西部の覆土上層から重なって出土している。760・781は貯蔵穴の覆土上層から出土している。773～775は貯蔵穴西側，777は北部，778・779は南部の床面からそれぞれ出土している。758・759・763は東部の床面から正位で出土している。771は竈，776は竈前面，780は竈左袖部付近，761は東部，756・782は北部の覆土下層からそれぞれ出土している。764・767・783，DP123，Q258は覆土中からそれぞれ出土している。床面及び竈の覆土中から出土している土器は，住居廃絶時に遺棄されたものと考えられる。

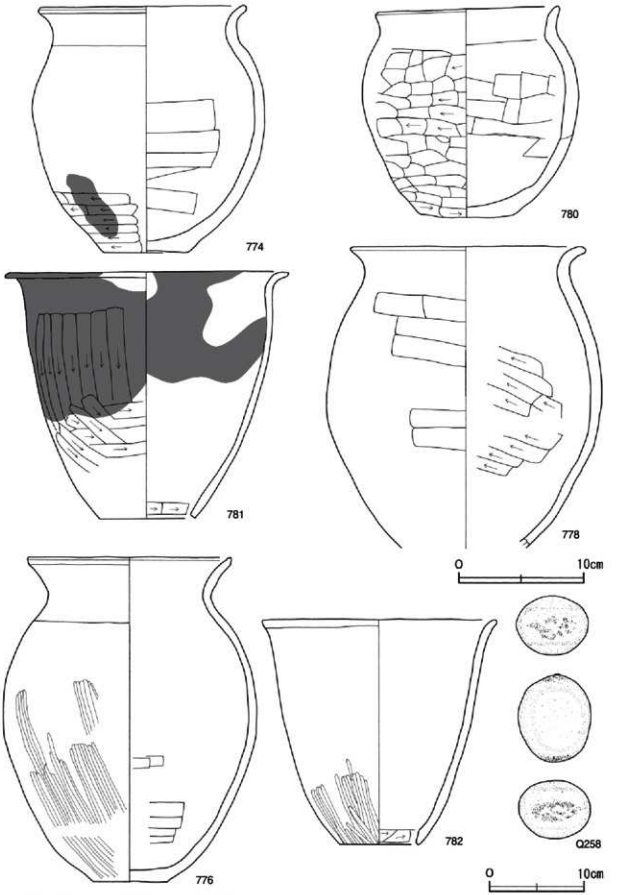
所見　面積が60㎡を超える大形住居跡である。時期は，出土土器から６世紀中葉と考えられる。



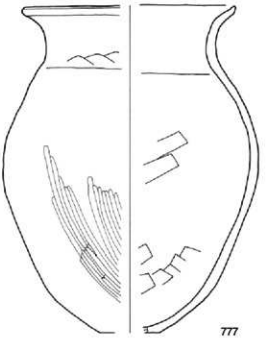
第75図　第123号住居跡出土遺物実測図(1)

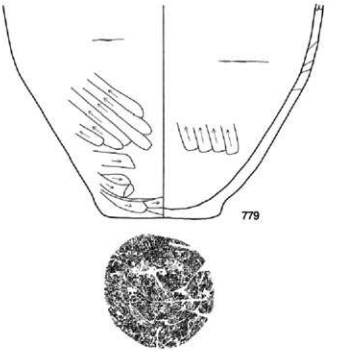


第76図　第123号住居跡出土遺物実測図(2)



第77図　第123号住居跡出土遺物実測図(3)





0　10cm

第78図　第123号住居跡出土遺物実測図(4)

第123号住居跡出土遺物観察表（第75～78図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
756	土師器	坏	14.5	5.0	－	長石・石英	橙	普通	体部外面ヘラ削り 口縁部外面・体部内面ヘラ磨き	北部覆土下層	75%　PL31
757	土師器	坏	13.8	4.5	－	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外面ヘラ削り　内面ヘラ磨き	貯蔵穴覆土上層	90%　PL31
758	土師器	坏	14.5	4.4	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ヘラナデ後ヘラ磨き	東部床面	90%　PL31
759	土師器	坏	14.0	4.1	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ磨き　内面ヘラナデ	東部床面	90%　PL31
760	土師器	坏	15.4	4.1	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部内・外面ヘラナデ	貯蔵穴覆土上層 貯蔵穴南側床面	75%
761	土師器	坏	14.1	4.3	－	長石・石英	橙	普通	体部内・外面ヘラナデ	東部覆土下層	75%
762	土師器	坏	14.5	3.6	－	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラ削り　内面ヘラ磨き	貯蔵穴覆土上層	80%　PL31
763	土師器	坏	13.3	5.0	－	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部外面ヘラ磨き　内面ヘラナデ	東部床面	95%　PL31
764	土師器	坏	12.0	5.0	－	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部内・外面ヘラ磨き	東部覆土下層	80%
765	土師器	坏	13.3	4.5	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラ磨き　内面ヘラナデ	貯蔵穴覆土上層	95%
766	土師器	坏	12.6	4.6	－	長石・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ	貯蔵穴覆土上層	100%　PL35
767	土師器	坏	15.0	4.3	－	石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部内・外面ヘラナデ	東部床面	90%
768	土師器	坏	12.8	5.6	－	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面ヘラナデ	貯蔵穴覆土中層	90%　PL31
769	土師器	坏	13.5	5.0	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部内・外面ヘラナデ	貯蔵穴覆土上層	95%　PL31
770	土師器	坏	15.8	8.6	－	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ	東部床面	80%　PL35
771	土師器	高坏	16.5	(11.8)	－	長石・石英・雲母・礫	橙	普通	坏部外面ヘラナデ　内面ヘラ磨き	竈覆土中層	80%
772	土師器	高坏	16.6	16.4	6.0	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	坏部外面ヘラ削り　内面ヘラ磨き	覆土中	85%
773	土師器	鉢	16.9	11.6	7.0	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部内・外面ヘラナデ	貯蔵穴西側床面	70%　PL35
774	土師器	甕	16.2	19.7	6.8	長石・石英・雲母・礫	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ	貯蔵穴西側床面	100%　PL31
775	土師器	甕	16.6	16.4	6.0	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部内・外面ヘラナデ	貯蔵穴西側床面	85%
776	土師器	甕	21.0	34.1	7.6	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラ磨き　内面ヘラナデ	竈焚き口部覆土下層	60%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
777	土師器	甕	[22.1]	34.7	[6.3]	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ磨き　内面ヘラナデ	北部床面	40%
778	土師器	甕	18.2	(24.1)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ヘラナデ　内面ヘラ削り	南部床面	60%
779	土師器	甕	－	(22.8)	10.6	長石・石英・雲母	橙	普通	体部内・外面ヘラ削り	南部床面	30%
780	土師器	小形甕	14.3	16.9	7.7	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ	竈左袖部付近	95%
781	土師器	甑	29.0	25.9	10.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面ヘラ削り　内面下端ヘラ削り	貯蔵穴覆土上層	95% PL35
782	土師器	甑	24.5	23.6	8.4	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ磨き　内面下端ヘラ削り	北部覆土下層	95% PL35
783	土師器	手捏土器	[6.4]	3.7	[4.6]	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	体部内・外面指ナデ	覆土中	40%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質・胎土	特　徴	出土位置	備考
DP123	紡錘車	(3.8)	(2.2)	2.2	(11.9)	長石・石英・雲母	一部残存	覆土中	
Q258	磨石	9.2	7.6	6.1	538	石英斑岩	両端に敲打痕	覆土中	PL41

第124号住居跡（第79～81図）

位置　調査区中央部のＤ３a7区，標高18.7～18.8mの台地緩斜面部に位置している。

重複関係　第17号掘立柱建物，第343・344号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　東部が調査区域外に延びているため，確認できた範囲は南北5.61m，東西4.84mである。平面形は方形もしくは長方形と推定され，主軸方向はＮ－９°－Ｗである。壁高は30～45cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁溝が全周している。間仕切り溝が，東壁に１条，西壁に１条確認された。

竈　北壁中央部に付設されている。規模は焚き口部から煙道部まで126cm，袖部幅120cmである。袖部は地山を床面より８cmほど高く掘り残して基部とし，その周りに砂質粘土を貼り付けて構築されている。火床部は地山面をそのまま使用し，火床面は火熱により赤変硬化している。煙道部は壁外へ28cm掘り込まれ，外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1　暗　褐　色　焼土ブロック・ローム粒子微量
2　にぶい褐色　砂質粘土粒子少量，ローム粒子微量
3　暗　赤　褐　色　焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
4　にぶい褐色　砂質粘土粒子中量，焼土ブロック少量
5　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，砂質粘土粒子少量
6　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，砂質粘土粒子微量
7　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，炭化粒子微量
8　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子少量
9　暗　褐　色　焼土ブロック・ローム粒子微量
10　にぶい褐色　炭化粒子・砂質粘土粒子少量
11　黄　褐　色　砂質粘土粒子中量，焼土粒子少量
12　灰　褐　色　砂質粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子少量
13　灰　褐　色　砂質粘土粒子中量，炭化粒子少量，ローム粒子微量

ピット　８か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ76～91cmで，規模と配置から主柱穴と考えられる。Ｐ５・Ｐ６は深さ43cm・24cmで，南壁寄りの中央に位置しており，出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ７・Ｐ８は深さ31cm・33cmで，性格は不明である。

貯蔵穴　北東コーナー部に位置している。確認できた範囲は長径66cm，短径58cmで楕円形と推定され，深さは42cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

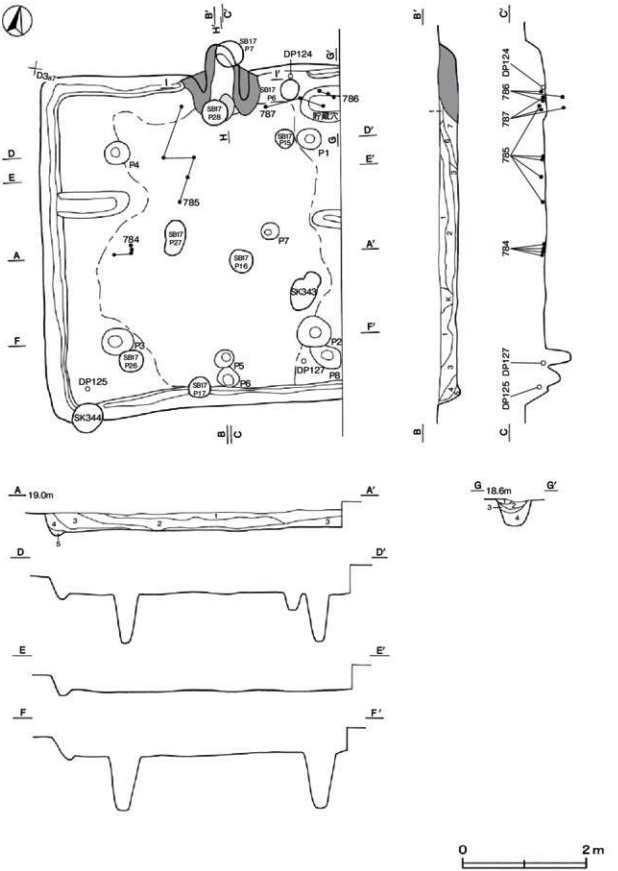
貯蔵穴土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子少量
2　極　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
4　褐　色　ロームブロック中量

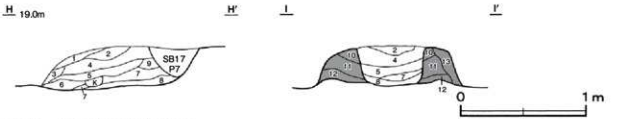
覆土　７層に分層される。レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
3　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量
4　黒　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
5　明　褐　色　ローム粒子多量
6　暗　赤　褐　色　焼土粒子・砂質粘土粒子少量
7　にぶい赤褐色　砂質粘土粒子中量，焼土粒子少量



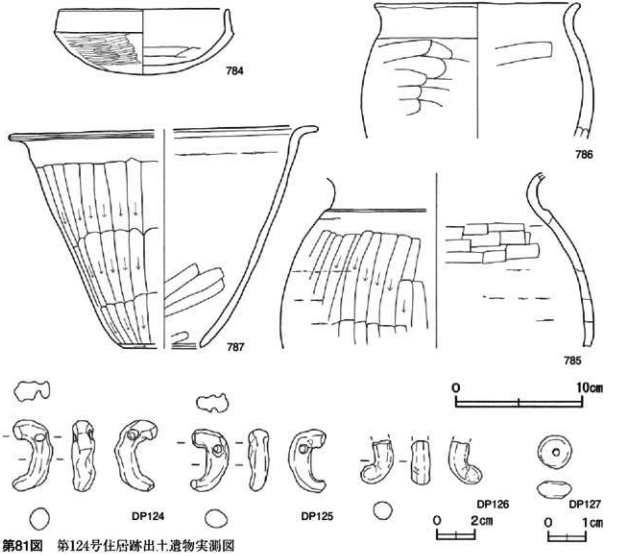
第79図　第124号住居跡実測図(1)



第80図　第124号住居跡実測図(2)

遺物出土状況　土師器片276点（坏90，椀1，高坏10，壺2，甕171，甑2），土製品4点（勾玉3，臼玉1）が出土している。また，流れ込んだ縄文土器片1点，混入した土師質土器片120点も出土している。出土土器は覆土下層から床面にかけて散在して出土している。784は西部の床面から出土した破片が接合している。785は中央部から北部の床面から出土した破片が接合している。787 は北東部の覆土下層と貯蔵穴の底面から出土した破片が接合している。DP124は北東コーナー部，DP125は南西コーナー部，DP127は南東コーナー部の覆土下層，DP126は覆土中からそれぞれ出土している。覆土下層から床面にかけて出土している土器が広い範囲で接合しており，それらは住居廃絶後に投棄されたものと考えられる。

所見　廃絶時期は，出土土器から6世紀中葉と考えられる。



第81図　第124号住居跡出土遺物実測図

第124号住居跡出土遺物観察表（第81図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
784	土師器	坏	13.5	5.2	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ磨き　内面ヘラナデ	西部床面	85%　PL34
785	土師器	甕	－	(18.4)	－	長石・石英・雲母	褐	普通	体部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ	中央部床面・北部床面	10%
786	土師器	甕	16.1	(10.6)	－	長石・石英・雲母	褐	普通	体部内・外面ヘラナデ	貯蔵穴	25%
787	土師器	甑	[31.6]	22.9	[7.7]	長石・石英	橙	普通	体部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ	北東部覆土下層・貯蔵穴底面	60%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎　土	特　　徴	出土位置	備考
DP124	勾玉	3.8	2.2	1.3	5.8	長石・石英・雲母	孔径0.55㎝　ナデ	北東コーナー部覆土下層	PL40
DP125	勾玉	3.4	2.0	1.1	4.7	長石・石英・雲母	孔径0.45㎝　ナデ	南西コーナー部覆土下層	PL40
DP126	勾玉	(2.2)	(1.8)	0.9	(2.82)	長石・石英・雲母	ナデ　上部欠損	覆土中	PL40

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎　土	特　　徴	出土位置	備考
DP127	土玉	0.84	0.41	0.12	0.32	長石	側面が膨らむ太鼓状　片面穿孔	南東コーナー部覆土下層	

第125号住居跡（第82・83図）

位置　調査区中央部のＤ３f8区，標高18.7 ～ 18.8m の台地緩斜面部に位置している。

重複関係　第16号掘立柱建物，第72号溝，第340号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　東部が調査区域外に延びているため，確認できた範囲は南北5.68m，東西4.42m である。平面形は方形もしくは長方形と推定され，主軸方向はＮ－24°－Ｗである。壁高は10 ～ 15㎝で，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

竈　北壁中央部に付設されている。規模は焚き口部から煙道部まで108㎝，袖部幅93㎝である。袖部はローム土を床面から９㎝築み上げて基部とし，その周りに砂質粘土を貼り付けて構築されている。火床部は地山面をそのまま使用しており，火床面は火熱により赤変硬化している。煙道部は壁外へ32㎝掘り込まれ，外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1　暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
2　灰 褐 色　砂質粘土粒子中量，炭化物微量
3　暗赤褐色　焼土粒子少量，ローム粒子微量
4　赤 褐 色　焼土粒子・砂質粘土粒子中量
5　赤 褐 色　焼土粒子中量，砂質粘土粒子少量
6　黄 褐 色　砂質粘土粒子中量，焼土粒子少量
7　暗 褐 色　ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量
8　褐　　色　ロームブロック多量，焼土粒子少量
9　赤 褐 色　焼土粒子多量・炭化粒子少量

ピット　５か所。Ｐ１～Ｐ３は深さ54 ～ 78㎝で，規模と配置から主柱穴と考えられる。Ｐ４は深さ19㎝で，南壁寄りの中央に位置しており，出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ５は深さ38㎝で貯蔵穴の北側に位置し，性格は不明である。

貯蔵穴　北東コーナー部に位置している。長径67㎝，短径54㎝の楕円形で，深さは39㎝である。底面は皿状で，壁は外傾して立ち上がっている。

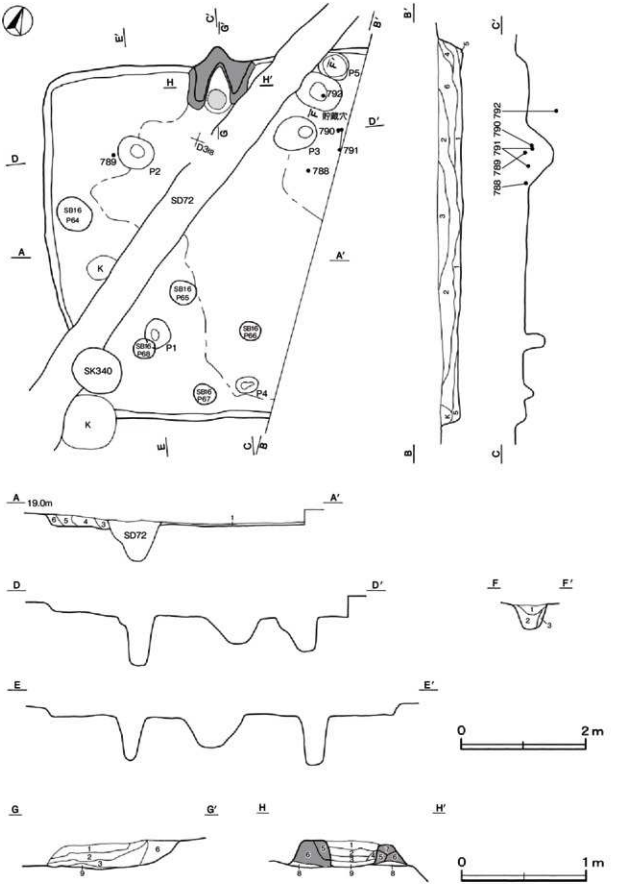
貯蔵穴土層解説

1　暗 褐 色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
2　褐　　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
3　褐　　色　ロームブロック中量

覆土　６層に分層される。レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

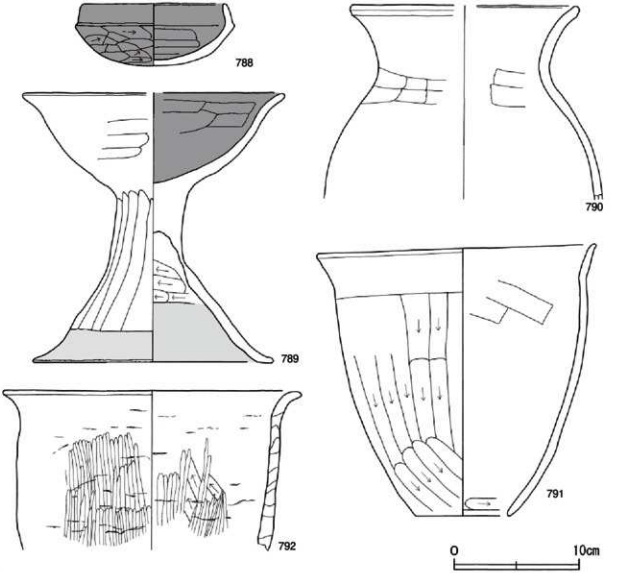
1　黒 褐 色　ローム粒子少量
2　暗 褐 色　ロームブロック少量
3　褐　　色　ロームブロック少量
4　褐　　色　ロームブロック中量
5　褐　　色　ローム粒子中量
6　暗 褐 色　ロームブロック微量



第82図　第125号住居跡実測図

遺物出土状況　土師器片114点（坏14，高坏7，甕75，甑18），土製品1点（支脚片）が出土している。また，混入した土師質土器片20点も出土している。788・790・791は北東部の床面からそれぞれ出土している。789は北西部の覆土下層から横位で，792は貯蔵穴の覆土下層から出土している。床面及び竈の覆土中から出土している土器は，住居廃絶時に遺棄されたものと考えられる。

所見　時期は，出土土器から6世紀中葉と考えられる。



第83図　第125号住居跡出土遺物実測図

第125号住居跡出土遺物観察表（第83図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
788	土師器	坏	11.1	5.0	－	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ	北東部床面	95%　PL34
789	土師器	高坏	[20.5]	21.5	19.1	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	坏部内・外面ヘラナデ　脚部内面ヘラ削り	北西部覆土下層	65%　PL36
790	土師器	甕	[17.9]	(15.5)	－	長石・石英・雲母・雷礫	にぶい黄橙	普通	体部内・外面ヘラナデ	北東部床面	10%
791	土師器	甑	22.1	21.7	7.5	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ	北東部床面	65%　PL36
792	土師器	甑	23.3	(12.7)	－	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部内・外面ヘラ磨き	貯蔵穴覆土下層	40%

第126号住居跡（第84～87図）

位置　調査区中央部のＤ３h6区で，標高18.8～18.9mの台地の緩やかな斜面部に位置している。

重複関係　第72号溝，第349・362号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　一辺7.66mの方形で，主軸方向はＮ－25°－Ｗである。壁高は15～30cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部から南部が踏み固められている。

炉　中央部の北寄りに位置している。長径88cm，短径68cmの楕円形で，床面を６cm掘りくぼめた地床炉である。炉床は火熱により赤変硬化している。

炉土層解説

1	にぶい赤褐色	焼土粒子中量，炭化物・ローム粒子微量	3	暗　褐　色	ローム粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
2	暗　褐　色	焼土ブロック・炭化物・ローム粒子微量			

ピット　５か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ57～70cmで，規模と配置から主柱穴と考えられる。Ｐ５は深さ38cmで，南壁際中央部のやや東寄りに位置しており，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴　南東コーナー部に位置している。長軸116cm，短軸94cmの長方形で，深さは62cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1	暗　褐　色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	4	黒　褐　色	ロームブロック・炭化粒子微量
2	極暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	5	暗　褐　色	ロームブロック少量
3	暗　褐　色	ローム粒子少量，焼土粒子微量	6	褐　　色	ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量

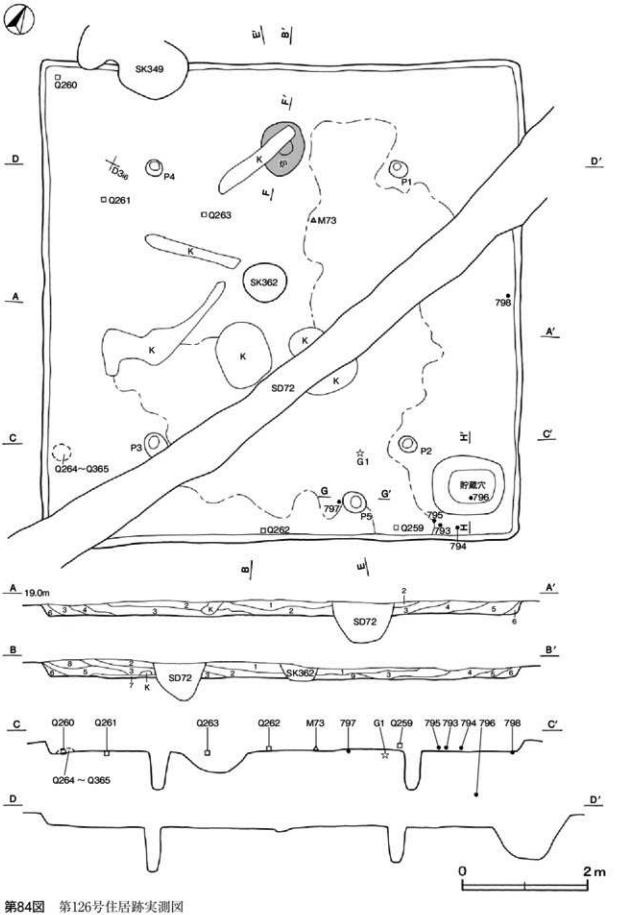
覆土　９層に分層される。レンズ状の堆積状況を示すことから自然堆積と考えられる。

土層解説

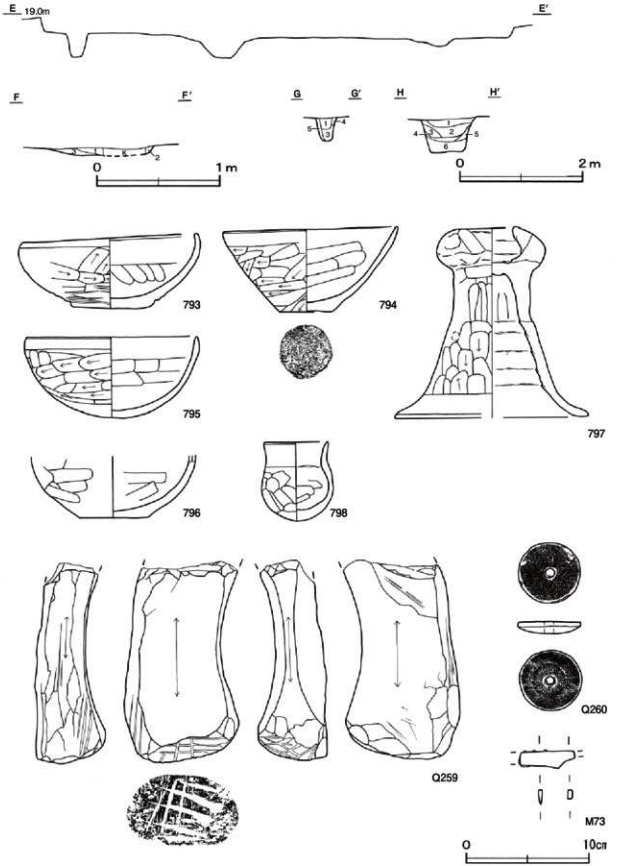
1	暗　褐　色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	6	褐　　色	ローム粒子中量
2	極暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	7	褐　　色	ロームブロック中量
3	黒　褐　色	ローム粒子少量，炭化粒子微量	8	暗　褐　色	ロームブロック微量
4	暗　褐　色	ローム粒子中量，炭化粒子微量	9	褐　　色	ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
5	暗　褐　色	ロームブロック少量，炭化粒子微量			

遺物出土状況　土師器片378点（坏61，高坏113，椀７，坩１，壺２，鉢５，甕187，炉器台１，ミニチュア土器１），石器１点（砥石），石製品106点（臼玉102，双孔円板２，紡錘車１，剣形模造品１），ガラス製品１点（小玉），不明鉄製品２点が出土している。また，流れ込んだ縄文土器片３点も出土している。遺物は主に貯蔵穴内及び壁際から出土している。796は貯蔵穴の底面，797・Ｇ１は南部，798は東壁際，Ｑ263は中央部，Ｑ260は北西コーナー部，Ｑ261は北西部の床面からそれぞれ出土している。Ｑ264～Ｑ365は南西コーナー部の床面の１か所から集中して出土している。M73は南東コーナー部，793～795，Ｑ259・262は南壁際からそれぞれ出土している。

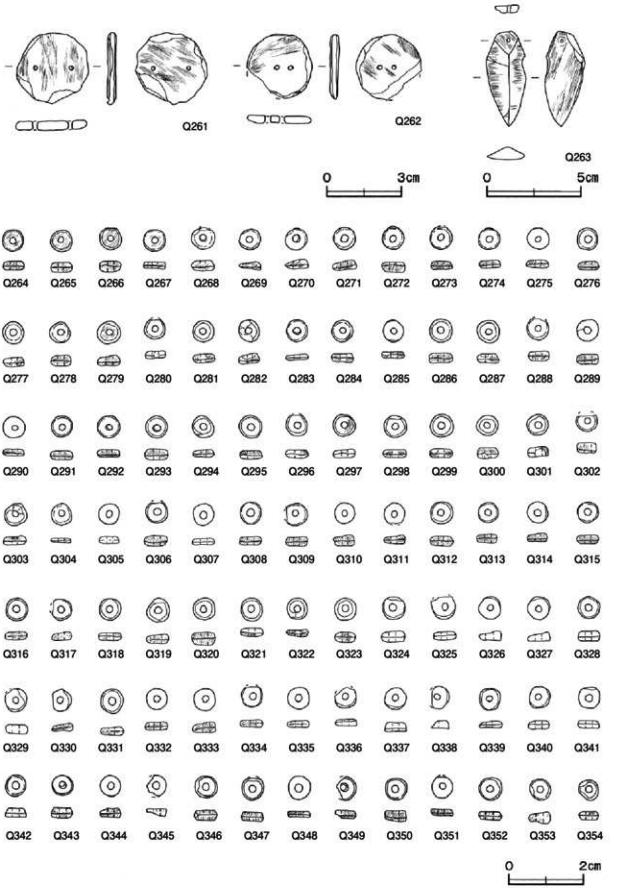
所見　時期は，出土土器から５世紀中葉と考えられる。本跡は床面積が58㎡を超える大形住居である。床面からガラス玉，双孔円板，剣形模造品とともに，102個の臼玉が集中して出土していることから，住居廃絶時に伴う祭祀行為が行われた可能性がある。Ｑ259は滑石製の砥石で，鋭い研磨痕を持っており，本住居跡で石製品の製作が行われていた可能性が考えられる。本住居跡の東約20mには主軸方向を揃える第88号住居跡が位置している。第88号住居跡は床面積が56㎡を超える大型住居で，床面から剣形模造品，双孔円板，管玉，臼玉35個が出土した。２つの住居跡には若干の時期差があり，本住居跡から第88号住居跡への住み替えが行われた可能性が考えられる。



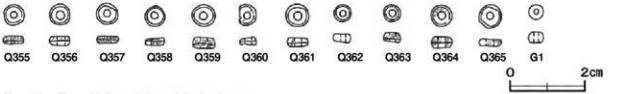
第84図　第126号住居跡実測図



第85図　第126号住居跡・出土遺物実測図



第86図　第126号住居跡出土遺物実測図(1)



第87図　第126号住居跡出土遺物実測図(2)

第126号住居跡出土遺物観察表（第85 ～ 87図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
793	土師器	坏	14.1	6.0	6.0	長石・石英・細礫	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ	南壁際下層	約%　体部外面に白化粧土　PL30
794	土師器	椀	14.0	6.9	4.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面ヘラ削り	南壁際下層	70%　PL30
795	土師器	椀	13.8	6.6	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ	南壁際下層	70%　PL30
796	土師器	椀	－	(5.0)	5.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面ヘラナデ	貯蔵穴底面	40%
797	土師器	炉器台	3.5	15.4	[15.8]	長石・石英	にぶい褐	普通	脚部外面ヘラ削り	南部床面	65%　PL30
798	土師器	ミニチュア土器	5.2	6.4	－	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部内・外面ヘラナデ	東壁際床面	95%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　　徴	出土位置	備考
Q259	砥石	(16.3)	9.4	5.7	(1010)	滑石	砥面５面　鋭利な研磨痕	南壁際覆土上層	PL40
Q260	紡錘車	5.0	4.9	1.0	38.1	滑石	孔径 0.8 cm　表面に渦巻き状の線刻　両面穿孔	北西コーナー部床面	PL40
Q261	双孔円板	(2.8)	2.9	0.4	(4.88)	滑石	一部欠損　斜方向の研磨	北西部床面	PL40
Q262	双孔円板	(2.6)	2.5	0.4	(3.32)	滑石	一部欠損　斜方向の研磨	南壁際覆土下層	PL40
Q263	剣形模造品	5.1	2.2	0.7	8.55	滑石	片面に鎬有り　片側穿孔　孔径 0.12 cm　裏面斜方向の研磨	中央部床面	PL40
M73	刀子	(4.5)	1.5	0.4	(7.15)	鉄	刃部から茎部の破片　片関	南東コーナー部覆土下層	PL39

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材　質	特　　徴	出土位置	備考
Q264	臼玉	0.57	0.23	0.19	0.12	滑石	側面が膨らむ太鼓状　片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q265	臼玉	0.60	0.27	0.19	0.16	滑石	側面に稜を持つ算盤玉状　片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q266	臼玉	0.60	0.30	0.19	(0.18)	滑石	側面に稜を持つ算盤玉状　片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q267	臼玉	0.58	0.16	0.19	0.10	滑石	厚みのほとんどない円盤状　片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q268	臼玉	0.61	0.28	0.20	(0.15)	滑石	側面に稜を持つ算盤玉状　片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q269	臼玉	0.57	0.19	0.18	(0.09)	滑石	側面に稜を持つ算盤玉状　片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q270	臼玉	0.58	0.22	0.20	(0.11)	滑石	側面が膨らむ太鼓状　片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q271	臼玉	0.61	0.24	0.22	0.14	滑石	側面に稜を持つ算盤玉状　片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q272	臼玉	0.59	0.28	0.24	(0.18)	滑石	側面が膨らむ太鼓状　片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q273	臼玉	0.59	0.20	0.18	(0.13)	滑石	側面に稜を持つ算盤玉状　片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q274	臼玉	0.58	0.20	0.20	0.13	滑石	側面が膨らむ太鼓状　片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q275	臼玉	0.59	0.20	0.18	(0.12)	滑石	側面に稜を持つ算盤玉状　片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q276	臼玉	0.60	0.21	0.21	0.11	滑石	側面に稜を持つ算盤玉状　片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q277	臼玉	0.59	0.27	0.20	0.14	滑石	側面に稜を持つ算盤玉状　片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q278	臼玉	0.59	0.29	0.21	0.18	滑石	側面に稜を持つ算盤玉状　片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q279	臼玉	0.62	0.29	0.19	(0.17)	滑石	側面に稜を持つ算盤玉状　片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q280	臼玉	0.57	0.18	0.21	(0.09)	滑石	側面が膨らむ太鼓状　片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q281	臼玉	0.57	0.21	0.18	(0.12)	滑石	側面が膨らむ太鼓状　片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材　質	特　　徴	出土位置	備考
Q282	臼玉	0.59	0.27	0.20	(0.12)	滑石	側面に稜を持つ算盤玉状　片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q283	臼玉	0.58	0.15	0.20	(0.09)	滑石	厚みのほとんどない円盤状　片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q284	臼玉	0.56	0.22	0.20	0.10	滑石	側面が膨らむ太鼓状　片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q285	臼玉	0.56	0.13	0.18	0.07	滑石	厚みのほとんどない円盤状　片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q286	臼玉	0.60	0.25	0.20	0.15	滑石	側面が膨らむ太鼓状　片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q287	臼玉	0.60	0.25	0.20	0.16	滑石	側面が膨らむ太鼓状　片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q288	臼玉	0.56	0.27	0.15	(0.15)	滑石	側面が膨らむ太鼓状　片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q289	臼玉	0.57	0.24	0.18	0.13	滑石	側面が膨らむ太鼓状　片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q290	臼玉	0.56	0.17	0.18	0.09	滑石	厚みのほとんどない円盤状　片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q291	臼玉	0.57	0.25	0.18	0.15	滑石	側面が膨らむ太鼓状　片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q292	臼玉	0.59	0.19	0.20	0.11	滑石	側面が膨らむ太鼓状　片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q293	臼玉	0.59	0.28	0.18	0.18	滑石	側面に稜を持つ算盤玉状　片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q294	臼玉	0.58	0.21	0.22	(0.11)	滑石	側面が膨らむ太鼓状　片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q295	臼玉	0.61	0.23	0.18	0.15	滑石	側面に稜を持つ算盤玉状　片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q296	臼玉	0.59	0.22	0.20	(0.13)	滑石	側面が膨らむ太鼓状　片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q297	臼玉	0.59	0.23	0.19	0.12	滑石	側面に稜を持つ算盤玉状　片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q298	臼玉	0.60	0.21	0.19	(0.12)	滑石	側面に稜を持つ算盤玉状　片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q299	臼玉	0.60	0.24	0.22	0.15	滑石	側面が膨らむ太鼓状　片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q300	臼玉	0.58	0.29	0.20	(0.16)	滑石	側面に稜を持つ算盤玉状　片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q301	臼玉	0.55	0.26	0.21	(0.13)	滑石	側面が膨らむ太鼓状　片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q302	臼玉	0.56	0.29	0.20	(0.13)	滑石	側面に稜を持つ算盤玉状　片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q303	臼玉	0.60	0.23	0.16	(0.11)	滑石	側面が膨らむ太鼓状　片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q304	臼玉	0.57	0.18	0.18	0.10	滑石	側面が膨らむ太鼓状　片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q305	臼玉	0.57	0.18	0.19	0.10	滑石	側面が膨らむ太鼓状　片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q306	臼玉	0.58	0.25	0.18	(0.13)	滑石	側面が膨らむ太鼓状　片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q307	臼玉	0.57	0.18	0.18	0.11	滑石	側面が直線的な円筒状　片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q308	臼玉	0.56	0.20	0.18	0.12	滑石	側面が膨らむ太鼓状　片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q309	臼玉	0.59	0.25	0.18	(0.14)	滑石	側面に稜を持つ算盤玉状　片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q310	臼玉	0.55	0.32	0.18	(0.15)	滑石	側面に稜を持つ算盤玉状　片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q311	臼玉	0.55	0.21	0.18	(0.11)	滑石	側面が直線的な円筒状　片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q312	臼玉	0.60	0.25	0.20	0.15	滑石	側面が膨らむ太鼓状　片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q313	臼玉	0.52	0.25	0.20	0.12	滑石	側面が膨らむ太鼓状　片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q314	臼玉	0.55	0.20	0.20	0.10	滑石	側面が直線的な円筒状　片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q315	臼玉	0.56	0.25	0.17	0.14	滑石	側面が膨らむ太鼓状　片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q316	臼玉	0.57	0.19	0.18	0.11	滑石	側面が膨らむ太鼓状　片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q317	臼玉	0.54	0.24	0.18	(0.11)	滑石	側面が直線的な円筒状　片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q318	臼玉	0.59	0.21	0.19	0.13	滑石	側面に稜を持つ算盤玉状　片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q319	臼玉	0.63	0.26	0.20	(0.16)	滑石	側面に稜を持つ算盤玉状　片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q320	臼玉	0.60	0.35	0.20	(0.18)	滑石	側面に稜を持つ算盤玉状　片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q321	臼玉	0.60	0.21	0.20	0.14	滑石	側面が膨らむ太鼓状　片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q322	臼玉	0.56	0.16	0.19	(0.10)	滑石	側面に稜を持つ算盤玉状　片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q323	臼玉	0.58	0.30	0.21	0.18	滑石	側面に稜を持つ算盤玉状　片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q324	臼玉	0.58	0.27	0.20	(0.18)	滑石	側面が膨らむ太鼓状　片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q325	臼玉	0.57	0.21	0.18	(0.11)	滑石	側面が膨らむ太鼓状　片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q326	臼玉	0.52	0.23	0.19	(0.13)	滑石	側面が膨らむ太鼓状　片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q327	臼玉	0.52	0.25	0.18	0.12	滑石	側面が膨らむ太鼓状　片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q328	臼玉	0.55	0.25	0.19	0.16	滑石	側面が膨らむ太鼓状　片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材　質	特　　徴	出土位置	備考
Q329	臼玉	0.51	0.21	0.19	(0.13)	滑石	側面が膨らむ太鼓状　片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q330	臼玉	0.58	0.22	0.18	(0.09)	滑石	側面が膨らむ太鼓状　片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q331	臼玉	0.63	0.21	0.20	0.15	滑石	側面が膨らむ太鼓状　片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q332	臼玉	0.57	0.21	0.18	0.11	滑石	側面に稜を持つ算盤玉状　片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q333	臼玉	0.61	0.27	0.18	0.16	滑石	側面に稜を持つ算盤玉状　片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q334	臼玉	0.57	0.29	0.19	(0.11)	滑石	側面が膨らむ太鼓状　片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q335	臼玉	0.57	0.17	0.20	0.09	滑石	厚みのほとんどない円盤状　片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q336	臼玉	0.52	0.15	0.18	(0.07)	滑石	厚みのほとんどない円盤状　片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q337	臼玉	0.56	0.23	0.19	0.14	滑石	側面が膨らむ太鼓状　片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q338	臼玉	0.41	0.21	0.18	0.08	滑石	側面が膨らむ太鼓状　片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q339	臼玉	0.55	0.17	0.15	0.11	滑石	側面が膨らむ太鼓状　片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q340	臼玉	0.55	0.20	0.18	0.13	滑石	側面が膨らむ太鼓状　片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q341	臼玉	0.57	0.15	0.19	(0.10)	滑石	厚みのほとんどない円盤状　片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q342	臼玉	0.55	0.23	0.18	0.13	滑石	側面が膨らむ太鼓状　片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q343	臼玉	0.59	0.28	0.20	(0.14)	滑石	側面が膨らむ太鼓状　片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q344	臼玉	0.57	0.27	0.19	(0.13)	滑石	側面に稜を持つ算盤玉状　片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q345	臼玉	0.54	0.25	0.20	(0.08)	滑石	側面が膨らむ太鼓状　片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q346	臼玉	0.59	0.25	0.19	(0.16)	滑石	側面に稜を持つ算盤玉状　片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q347	臼玉	0.59	0.25	0.19	(0.16)	滑石	側面が直線的な円筒状　片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q348	臼玉	0.59	0.15	0.18	0.10	滑石	側面が膨らむ太鼓状　片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q349	臼玉	0.59	0.20	0.19	(0.09)	滑石	側面に稜を持つ算盤玉状　片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q350	臼玉	0.60	0.30	0.19	(0.17)	滑石	側面が膨らむ太鼓状　片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q351	臼玉	0.56	0.18	0.16	(0.10)	滑石	側面が膨らむ太鼓状　片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q352	臼玉	0.60	0.23	0.19	(0.16)	滑石	側面に稜を持つ算盤玉状　片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q353	臼玉	0.56	0.33	0.19	(0.14)	滑石	側面が膨らむ太鼓状　片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q354	臼玉	(0.57)	0.23	0.19	(0.12)	滑石	側面が膨らむ太鼓状　片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q355	臼玉	0.55	0.17	0.18	0.09	滑石	側面が膨らむ太鼓状　片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q356	臼玉	0.56	0.26	0.23	0.13	滑石	側面が膨らむ太鼓状　片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q357	臼玉	0.58	0.17	0.19	0.10	滑石	側面が膨らむ太鼓状　片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q358	臼玉	0.55	0.20	0.18	0.07	滑石	側面が膨らむ太鼓状　片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q359	臼玉	0.60	0.27	0.19	0.17	滑石	側面に稜を持つ算盤玉状　片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q360	臼玉	0.57	0.20	0.18	(0.07)	滑石	側面に稜を持つ算盤玉状　片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q361	臼玉	0.59	0.20	0.20	0.11	滑石	側面が膨らむ太鼓状　片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q362	臼玉	0.46	0.25	0.15	0.08	滑石	側面が直線的な円筒状　片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q363	臼玉	0.45	0.27	0.20	0.07	滑石	側面に稜を持つ算盤玉状　片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q364	臼玉	0.56	0.27	0.21	0.14	滑石	側面に稜を持つ算盤玉状　片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q365	臼玉	0.60	0.18	0.20	0.11	滑石	側面に稜を持つ算盤玉状　片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
G 1	小玉	0.38	0.29	0.20	0.07	ガラス	側面が膨らむ太鼓状	南部床面	PL40

第131号住居跡（第88 ～ 91図）

位置　調査区東部のC 4 e8 区，標高 17.9 ～ 18.1 m の台地縁斜面部に位置している。

重複関係　第 409 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状　一辺 5.83m の方形で，主軸方向はN － 6 °－Wである。壁高は 37 ～ 53 ㎝で，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁溝が全周している。

竈　北壁の中央部に付設されている。規模は焚き口部から煙道部まで 156 ㎝，袖部幅 112 ㎝である。袖部は床

面と同じ高さの地山面に砂質粘土で構築されている。火床部は地山面をそのまま使用し，火床面及び内壁は火熱により赤変硬化している。煙道部は壁外へ58㎝掘り込まれ，外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1	暗	褐	色	ロームブロック少量，焼土粒子微量	6	暗	褐	色	ロームブロック・焼土ブロック微量
2	黒	褐	色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	7	にぶい赤褐色			焼土ブロック・砂質粘土粒子少量
3	暗	褐	色	ローム粒子・砂質粘土粒子微量	8	暗	褐	色	ロームブロック・焼土粒子少量
4	黒	褐	色	ローム粒子・炭化粒子微量	9	暗	褐	色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量
5	暗	褐	色	砂質粘土粒子少量，ローム粒子微量	10	灰	褐	色	砂質粘土粒子中量，焼土粒子微量

ピット　6か所。P1～P4は深さ55～65㎝で，規模と配置から主柱穴と考えられる。P5は深さ56㎝，P6は深さ30㎝で，南壁寄りの中央に位置しており，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴　北東コーナー部に位置している。長径102㎝，短径74㎝の楕円形で，深さは44㎝である。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

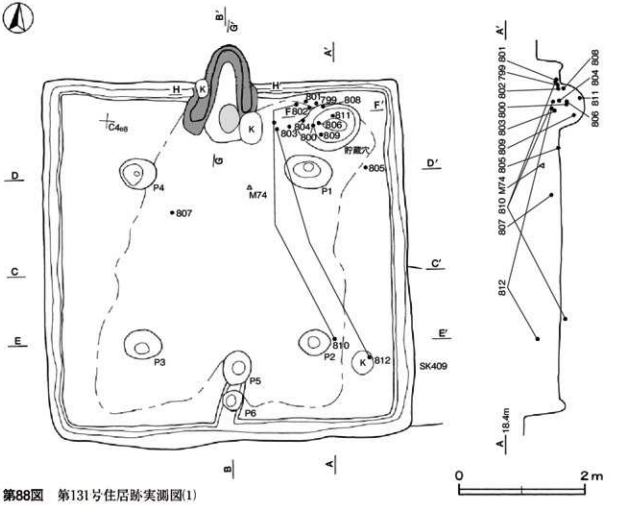
貯蔵穴土層解説

1	黒	褐	色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	3	暗	褐	色	ロームブロック中量
2	暗	褐	色	ローム粒子少量，炭化粒子微量	4	暗	褐	色	ロームブロック少量，焼土粒子微量

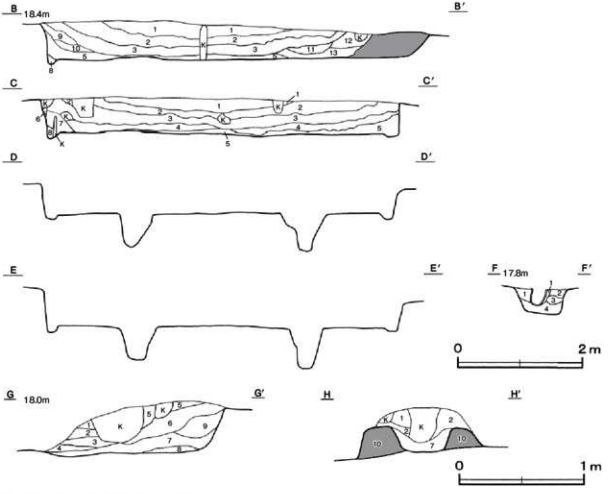
覆土　13層に分層される。レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

1	暗	褐	色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	8	褐		色	ロームブロック多量
2	暗	褐	色	ロームブロック・焼土ブロック微量	9	暗	褐	色	ローム粒子少量，焼土粒子微量
3	黒	褐	色	ローム粒子少量，炭化物・焼土粒子微量	10	暗	褐	色	ロームブロック中量
4	黒	褐	色	ローム粒子中量，炭化物微量	11	黒	褐	色	ローム粒子・砂質粘土粒子微量
5	褐		色	ロームブロック中量，焼土粒子微量	12	暗	褐	色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量
6	褐		色	ロームブロック中量	13	褐		色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量
7	暗	褐	色	ローム粒子中量					



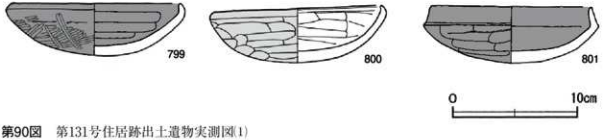
第88図　第131号住居跡実測図(1)



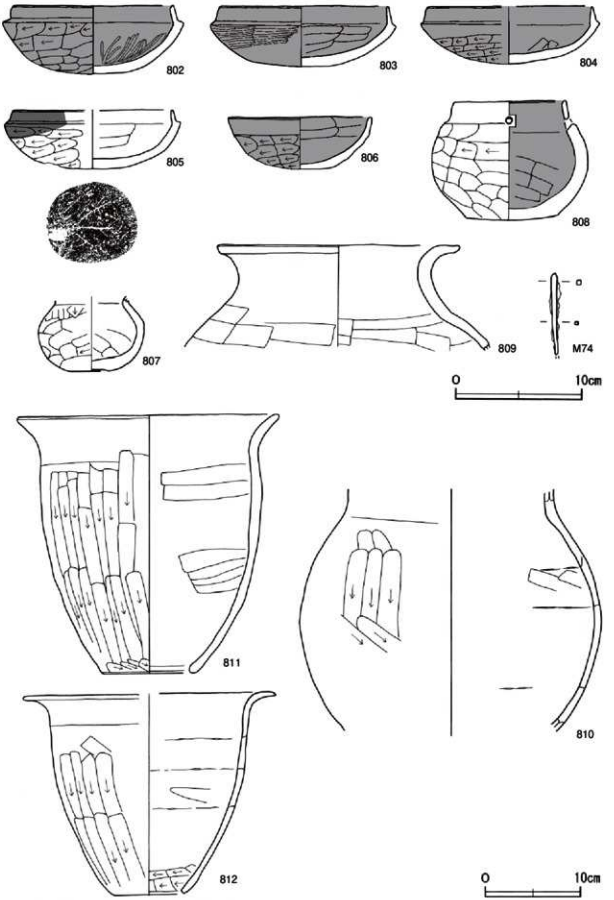
第89図　第131号住居跡実測図(2)

遺物出土状況　土師器片765点（坏236，高坏18，壺1，坩2，甕505，甑3），土製品1点（支脚片），鉄製品1点（釘）が出土している。また，混入した須恵器片40点，土師質土器片13点も出土している。遺物は主に貯蔵穴の覆土中及びその周辺から集中して出土している。799～802・804・806・808は貯蔵穴の覆土上層から正位で重なった状態で，811は貯蔵穴の覆土下層からそれぞれ出土している。803は貯蔵穴西側の覆土下層から出土している。810は南東部覆土上層と貯蔵穴西側の床面から出土した破片が接合したものである。807・M 74は中央部の覆土中層から出土している。床面及び貯蔵穴の覆土中から出土している土器は，住居廃絶時に遺棄されたものと考えられる。

所見　時期は，出土土器から6世紀後葉と考えられる。



第90図　第131号住居跡出土遺物実測図(1)



第91図　第131号住居跡出土遺物実測図(2)

第131号住居跡出土遺物観察表（第90・91図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
799	土師器	坏	13.6	4.2	－	雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ磨き　内面ヘラナデ	貯蔵穴覆土上層	95%　PL39
800	土師器	坏	13.5	4.6	－	長石・石英・雲母	橙	普通	体部内・外面ヘラナデ	貯蔵穴覆土上層	95%　PL39
801	土師器	坏	12.9	4.5	－	長石・石英	灰黄褐	普通	体部外面ヘラナデ	貯蔵穴覆土上層	95%
802	土師器	坏	12.6	5.4	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り　内面ヘラ磨き	貯蔵穴覆土上層	90%
803	土師器	坏	13.3	4.3	－	長石・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラ磨き　内面ヘラナデ	貯蔵穴西側覆土下層	90%
804	土師器	坏	[13.1]	4.6	－	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ	貯蔵穴覆土上層	60%
805	土師器	坏	[12.5]	4.7	－	長石・石英	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ	貯蔵穴南側床面	60%
806	土師器	坏	11.3	4.1	－	長石・赤色粒子・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ	貯蔵穴覆土上層	95%　PL39
807	土師器	小形壺	－	(5.9)	2.8	長石・石英	橙	普通	体部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ	中央部覆土中層	40%
808	土師器	小形壺	8.8	9.5	7.1	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	口縁部に２孔	貯蔵穴覆土上層	95%　PL36
809	土師器	甕	19.1	(8.1)	－	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部上位内・外面ヘラナデ	貯蔵穴覆土下層	20%
810	土師器	甕	－	(25.3)	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ	貯蔵穴西側床面・南東部覆土上層	20%
811	土師器	甑	27.0	27.1	9.3	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ	貯蔵穴覆土下層	95%　PL36
812	土師器	甑	[25.0]	21.1	7.4	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラ削り　内面下端ヘラ削り	貯蔵穴西側・南東コーナー部床面	55%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　徴	出土位置	備考
M74	釘	(6.5)	0.5	0.4	(3.44)	鉄	頭部及び脚部先端欠損	中央部覆土中層	PL39

第132号住居跡（第92図）

位置　調査区南部のＥ５i4区で，標高17.7 ～ 17.9mの台地の緩やかな斜面部に位置している。

規模と形状　長軸5.57m，短軸5.10mの方形で，主軸方向はＮ－42°－Ｗである。壁高は６～20cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，西部が部分的に踏み固められている。北コーナー部から大量の焼土とともに，炭化材が出土している。

炉　中央部やや北寄りに位置している。長径80cm，短径42cmの不整楕円形で，床面と同じ高さの地山面をそのまま使用した地床炉である。炉床は火熱により赤変硬化している。

ピット　２か所。Ｐ１は深さ63cmで，南壁際中央部のやや西寄りに位置しており，出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ２は深さ43cmで，性格は不明である。

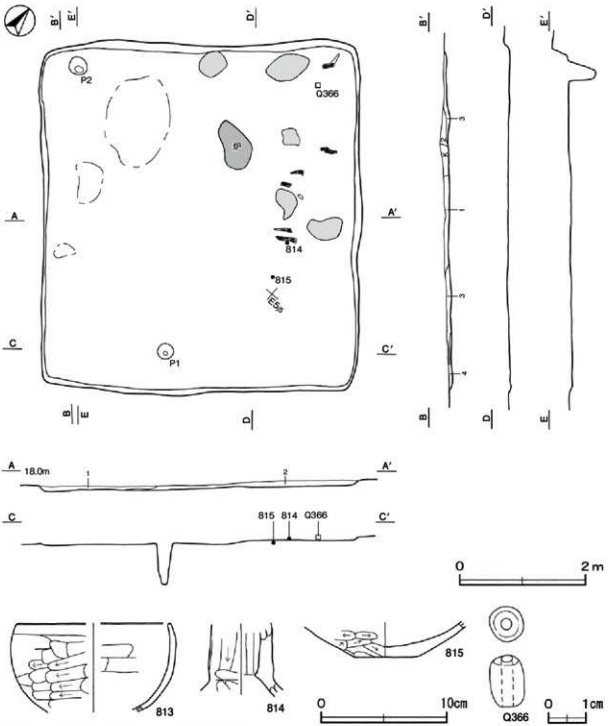
覆土　４層に分層される。レンズ状の堆積状況を示すことから自然堆積と考えられる。

土層解説

1　黒褐色　ローム ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
3　黒褐色　ローム ブロック微量
4　黒褐色　ローム粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片57点（椀14，高坏７，甕36），石製品１点（砥石），炭化材が出土している。814・815は東部の床面，Q366は北部の床面，813は覆土中からそれぞれ出土している。炭化材は焼土中から出土しており，角材と板材の２種類に大別できる。

所見　大量の焼土とともに，住居の構築材と考えられる炭化材が出土していることから，焼失住居と考えられる。時期は，出土土器から５世紀後葉と考えられる。



第92図　第132号住居跡・出土遺物実測図

第132号住居跡出土遺物観察表（第92図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
813	土師器	椀	[12.2]	(7.0)	－	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ	覆土中	10%
814	土師器	高坏	－	(5.8)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	脚部部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ	東部床面	10%
815	土師器	甕	－	(2.8)	5.0	長石・石英	橙	普通	体部外面ヘラ削り	東部床面	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　徴	出土位置	備考
Q366	臺玉	1.26	0.88	0.91	1.62	黒色頁岩	孔径0.24 cm	北部床面	PL40

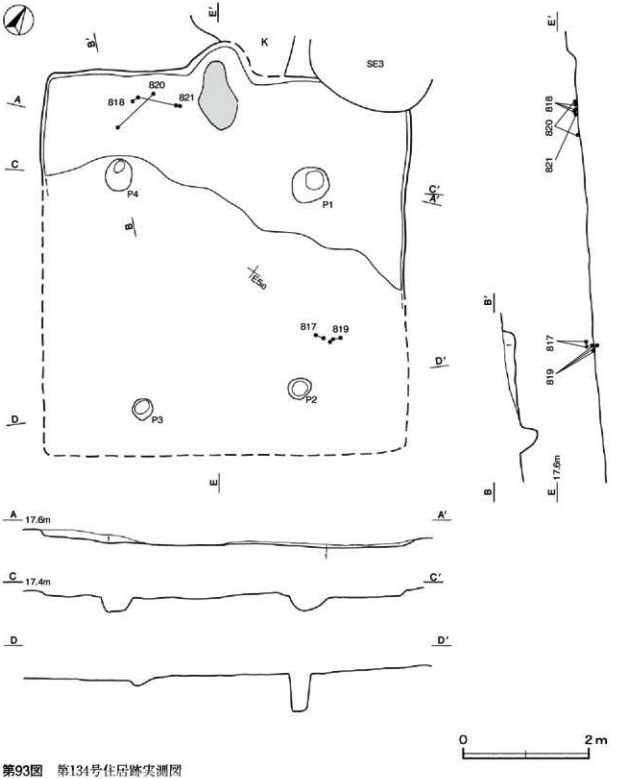
第134号住居跡（第93・94図）

位置　調査区南部のＥ５h9区，標高17.1 ～ 17.4m の台地斜面部に位置している。

重複関係　第３号井戸に掘り込まれている。

規模と形状　南部は削平を受けており，確認できた範囲は，東西5.91m，南北3.50m で，平面形は方形もしくは長方形と推定される。主軸方向はＮ－36°－Ｗである。壁高は８～ 16cm で，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，軟弱である。



第93図　第134号住居跡実測図

竈　北壁中央部に付設されている。規模は焚き口部から煙道部まで140㎝である。袖部は，残存していない。火床部は地山面をそのまま使用し，火床面は火熱で赤変硬化している。煙道部は壁外へ44㎝掘り込まれ，外傾して立ち上がっている。

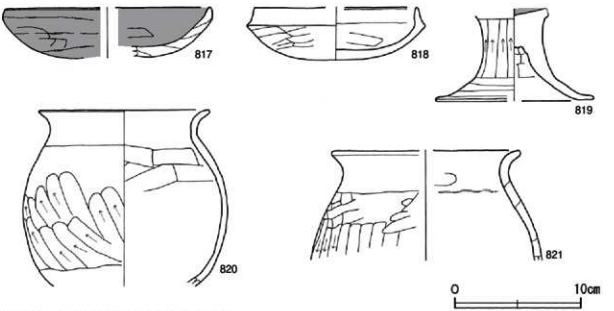
ピット　4か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ13～70㎝で，規模と配置から主柱穴と考えられる。

覆土　単一層で，層厚が薄く堆積状況は不明である。

土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片32点（坏２，高坏１，甕29），土製品１点（支脚片），鉄製品１点（釘）が出土している。817・819は東部の床面，818・820・821は北西部の床面からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から６世紀中葉と考えられる。



第94図　第134号住居跡出土遺物実測図

第134号住居跡出土遺物観察表（第94図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
817	土師器	坏	[16.2]	(3.9)	－	長石	浅黄	普通	体部内・外面ヘラナデ	東部床面	45%
818	土師器	坏	[12.9]	4.0	－	雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部内・外面ヘラナデ	北西部床面	40%
819	土師器	高坏	－	(7.2)	[12.3]	長石・雲母	にぶい褐	普通	脚部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ	東部床面	35%
820	土師器	甕	[13.3]	(14.0)	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ	北西部床面	45%
821	土師器	甕	[14.6]	(8.7)	－	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ	北西部床面	10%

表4　古墳時代竪穴住居跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) 長軸×短軸	壁高 (cm)	床面	内部施設 壁溝	主柱穴	貯蔵穴	ピット	出入口	炉・竈	覆土	出土遺物	時代	備考 新旧関係 (旧→新)
66	C3e7	N－8°－W	方形	6.60×6.60	60～65	平坦(全周)	2	－	－	－	－	竈1	人為	土師器，臼玉	6世紀後半	本跡→SK341
71	C3g7	N－23°－W	方形	4.90×4.80	43～48	平坦	－	1	－	－	－	－	人為	土師器	5世紀前半	本跡→SK335
84	D4b8	N－51°－W	方形	6.50×6.42	33～52	平坦	全周	4	1	3	1	竈1	自然	土師器，須恵土師，滑石	6世紀後葉	本跡→SK410・412，SD43・52
85	D4e9	N－22°－W	方形	7.90×7.65	40～57	平坦	全周	4	2	－	－	炉3	自然	土師器，灰孔円板	5世紀中葉	本跡→SB6，SK406，SD36・43・44
86	D4e8	N－17°－W	方形	5.12×5.00	30～40	平坦	一部	4	－	－	2	竈2	自然	土師器，与玉，刀形模造品	6世紀後葉	SB5→本跡→SD43
105	D4i8	N－73°－W	[方形]	5.25×(3.07)	16～25	平坦	－	－	－	－	－	炉1	自然	土師器，滑石	5世紀前葉	本跡→SK405・421，SD44
106	C4i9	N－36°－W	方形	7.75×7.55	45～70	平坦	全周	4	1	1	1	竈1・炉1	自然	土師器，白玉，刀子	6世紀後葉	本跡→SK404・413・419・420，SD52
107	C2d3	N－47°－E	長方形	4.40×3.96	24～30	平坦(全周)	3	－	－	－	炉1	自然	土師器，土玉，炭化材	5世紀前半	本跡→SD3・64
108	C2e7	N－83°－E	長方形	5.02×4.11	36～43	平坦	－	3	1	－	炉1	自然	土師器，炭化材	5世紀中葉	
109	C2e8	N－18°－W	方形	6.10×6.10	40～52	平坦	全周	4	1	2	2	竈1	自然	土師器，臼玉，滑石	6世紀中葉	
110	C2d0	N－68°－E	長方形	6.85×4.90	45～60	平坦	－	4	1	－	1	炉1	自然	土師器，支脚片	5世紀後葉以前	
111	C2b0	N－63°－E	長方形	5.59×4.82	11～20	平坦	－	4	－	－	1	炉1	人為	土師器，支脚片	5世紀後葉	本跡→SI112
114	C3c6	N－36°－E	方形	4.48×4.36	5～10	平坦	－	4	－	－	1	炉1	自然	土師器	5世紀前葉	
115	C3e3	N－33°－W	[方形]	3.04×(2.21)	30～36	平坦	－	1	－	－	－	－	自然	土師器	5世紀中葉	本跡→SI113
116	C3d3	N－22°－W	方形	7.06×6.97	43～50	平坦	全周	4	1	－	1	竈1	自然	土師器，臼玉	6世紀中葉以前	本跡→SK336・337・338
118	C3f6	N－63°－E	方形	4.42×4.18	30～35	平坦	－	2	2	－	－	炉1	人為	土師器	5世紀中葉	
120	C3i5	N－27°－W	方形	7.59×7.21	58～75	平坦	全周	4	1	－	2	竈1	自然	土師器，甕，高台付壺	6世紀後葉以前	
121	C3f4	N－25°－W	方形	5.85×5.80	45～50	平坦	全周	4	1	8	1	竈1	自然	土師器，須恵器，臼玉	6世紀中葉	
123	D3b4	N－28°－W	方形	8.11×8.01	48～70	平坦	全周	4	1	2	2	竈1	自然	土師器，鉄鏃未，磨石	6世紀中葉	本跡→SB16，SK348
124	D3a7	N－9°－W	[方形]	5.61×(4.84)	30～45	平坦(全周)	4	1	2	2	竈1	自然	土師器，土製勾玉・臼玉	6世紀中葉以前	本跡→SB17，SK343・344
125	D3f8	N－24°－W	[方形]	5.68×(4.42)	10～15	平坦	－	3	1	1	1	竈1	自然	土師器	6世紀中葉	本跡→SD72→SK340，SB36
126	D3h6	N－25°－W	方形	7.66×7.65	15～30	平坦	－	4	1	－	1	炉1	自然	土師器，ガラス玉，臼玉，鉄鏃未，双孔円板，刀形模造品，刀子	5世紀中葉	本跡→SK349・362，SD72
131	C4e8	N－6°－W	方形	5.83×5.83	37～53	平坦	全周	4	1	－	2	竈1	自然	土師器，釘	6世紀後葉	本跡→SK409
132	E5i4	N－42°－W	方形	5.57×5.10	6～20	平坦	－	－	－	1	1	炉1	自然	土師器，棗玉，炭化材	5世紀後葉	
134	E5h9	N－36°－W	[方形]	5.91×(3.50)	8～16	平坦	－	4	－	－	－	竈1	不明	土師器	6世紀中葉	本跡→SE3

(2)　土坑

第416号土坑（第95図）

位置　調査区南部のE5j6区，標高17.8～17.9mの台地縁斜面部に位置している。

規模と形状　長径2.50m，短径2.42mの円形で，深さは31cmである。底面はやや凹凸があり，壁は外傾して立ち上がっている。

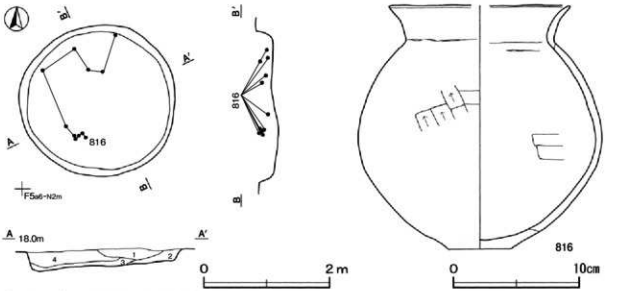
覆土　4層に分層される。各層ともロームブロックを含んでいることから人為堆積と考えられる。

土層解説

1　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　色　ロームブロック中量
3　暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
4　暗褐色　ロームブロック中量，炭化物微量

遺物出土状況　土師器片9点（甕）が出土している。816は覆土上層から下層にかけて出土した破片が接合したものである。

所見　時期は，出土土器から5世紀代と考えられる。また，5世紀後葉と考えられる第132号住居跡が西へ約3mに位置しており，関連性が推測されるが，性格は不明である。



第95図　第416号土坑・出土遺物実測図

第416号土坑出土遺物観察表（第95図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
816	土師器	甕	[18.8]	25.4	6.5	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ	覆土上層～下層	30%

2　奈良・平安時代の竪穴住居跡と遺物

竪穴住居跡４軒が確認された。以下，確認された遺構と遺物について記述する。

第101号住居跡（第96図）

位置　調査区東部のＣ４c9区，標高17.7 ～ 17.8m の台地緩斜面部に位置している。

規模と形状　長軸3.62m，短軸3.51m の方形で，主軸方向はＮ－23°－Ｗである。壁高は45 ～ 52cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，竈の周辺を中心に踏み固められている。壁溝が全周している。

竈　北壁中央部に付設されており，平成14年度に調査されている。

ピット　２か所。Ｐ１は平成14年度に調査している。Ｐ２は深さ11cmで，南壁寄りの中央に位置しており，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

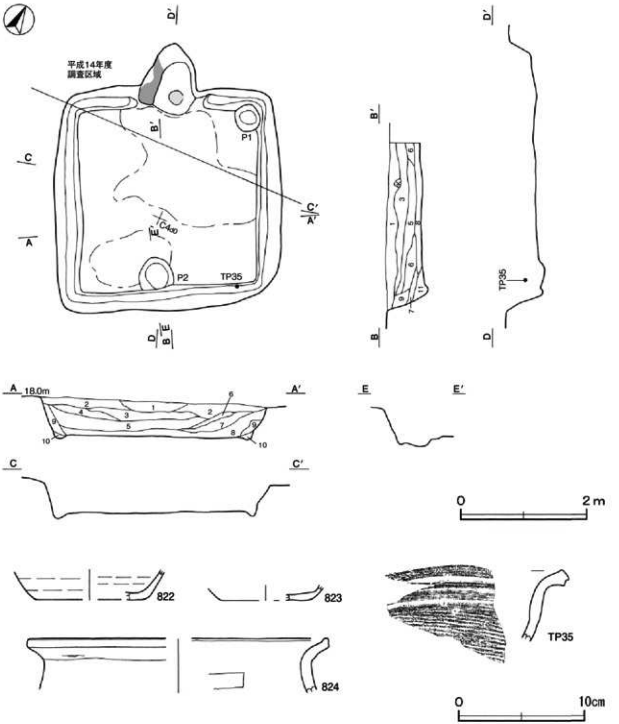
覆土　11層に分層される。レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

1　黒 褐 色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗 褐 色　炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量
3　暗 褐 色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
5　極暗褐色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
6　暗 褐 色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
7　黒 褐 色　ロームブロック・炭化物微量
8　暗 褐 色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
9　暗 褐 色　ロームブロック少量
10　暗 褐 色　ロームブロック中量
11　暗 褐 色　ローム粒子少量

遺物出土状況　土師器片58点（坏16，甕42），須恵器片９点（坏８，甕１）が出土している。また，混入した鉄滓４点も出土している。822はＰ２の覆土中，TP35は南壁際覆土中層，823・824は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　本跡の北部は平成14年度に調査され，今回は南部のみの調査であった。時期は，文化財調査報告第215集で，出土土器から８世紀後葉と考えられており，今回の出土土器もそれを裏付けるものである。



第96図　第101号住居跡・出土遺物実測図

第101号住居跡出土遺物観察表（第96図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
822	須恵器	坏	－	(2.4)	[8.6]	長石・石英・雲母	灰白	普通	底部回転ヘラ切り	Ｐ２覆土中	5%
823	須恵器	坏	－	(1.2)	[7.0]	長石・雲母	黄灰	普通	ロクロナデ	覆土中	5%
824	土師器	甕	[23.7]	(4.3)	－	長石・石英	橙	普通	体部内面ヘラナデ	覆土中	5%
TP35	須恵器	鉢	－	(5.7)	－	長石・石英	灰白	普通	体部外面平行叩き　内面ナデ	南壁際覆土中層	PL41

第112号住居跡（第97・98図）

位置　調査区北部のＣ２b9区，標高19.0m の台地平坦部に位置している。

重複関係　第111号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸3.93m，短軸2.92m の長方形で，主軸方向はＮ－６°－Ｗである。壁高は29～54cmで，外傾して立ち上がっている。

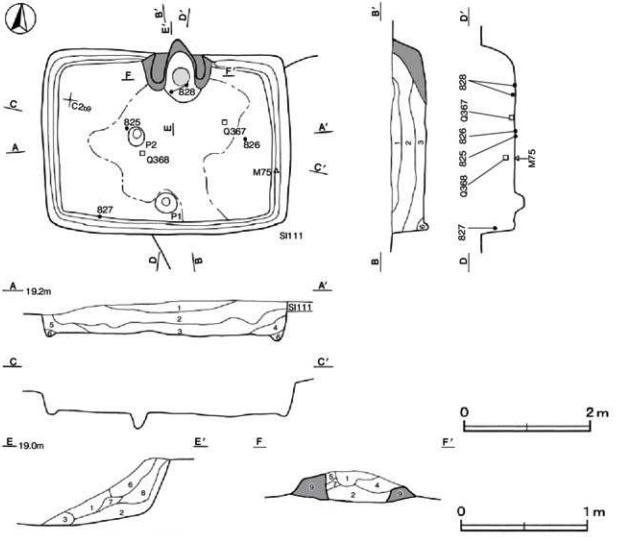
床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

竈　北壁中央部に付設されている。規模は焚き口部から煙道部まで112cm，袖部幅108cmである。袖部は床面と同じ高さの地山面に砂質粘土で構築されている。火床部は地山をそのまま使用しており，火床面は火熱により赤変硬化している。煙道部は壁外へ22cm掘り込まれ，外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1　黒 褐 色　ロームブロック微量
2　暗赤褐色　焼土ブロック・ローム粒子少量
3　暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
4　暗 褐 色　砂質粘土粒子少量，ローム粒子微量
5　灰 褐 色　砂質粘土粒子中量，焼土粒子微量
6　暗 褐 色　ローム粒子・砂質粘土粒子微量
7　灰 褐 色　焼土粒子・砂質粘土粒子少量
8　灰 褐 色　砂質粘土粒子中量，ローム粒子少量
9　灰黄褐色　砂質粘土粒子中量，炭化粒子微量

ピット　２か所。Ｐ１は深さ18cmで，南壁寄りの中央に位置しており，出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ２は深さ24cmで，性格は不明である。



第97図　第112号住居跡実測図

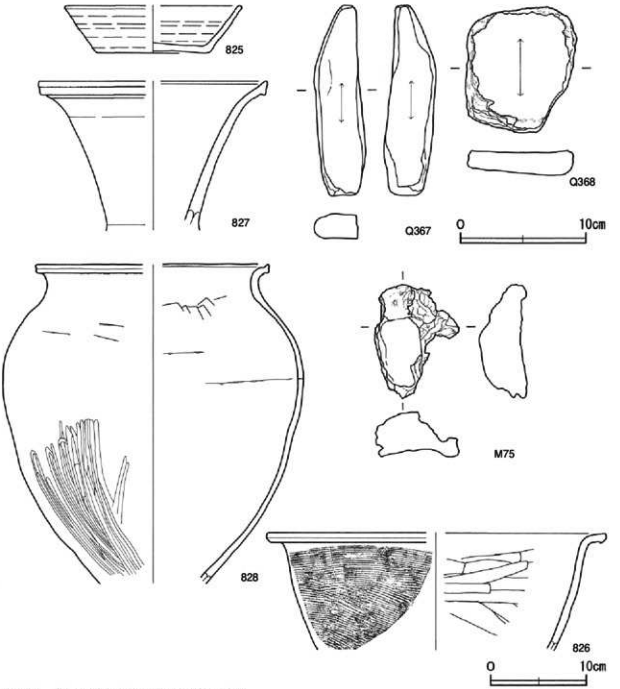
覆土　6層に分層される。レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

1　黒 褐 色　ローム粒子微量
2　黒 褐 色　ロームブロック・焼土粒子微量
3　暗 褐 色　ロームブロック・焼土粒子少量
4　暗 褐 色　ローム粒子少量
5　暗 褐 色　ロームブロック少量
6　暗 褐 色　ロームブロック中量

遺物出土状況　土師器片118点（坏19，高坏3，甕96），須恵器片21点（坏11，長頸壺2，甕8），石器2点（砥石）が出土している。また，混入した鉄滓1点も出土している。825は中央部，826は東部の床面，M75は東部壁際の床面からそれぞれ出土している。828は竈の焚き口部から出土した破片が接合している。827は南壁際の覆土中層，Q367は東部，Q368は中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から8世紀中葉と考えられる。



第98図　第112号住居跡・出土遺物実測図

第112号住居跡出土遺物観察表（第98図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
825	須恵器	坏	[13.8]	3.8	[9.0]	長石・石英	灰黄	普通	体部ロクロナデ　底部回転ヘラ切り	中央部床面	60%
826	須恵器	甑	[35.2]	(12.3)	－	長石・雲母	黄灰	普通	体部外面平行叩き　内面ナデ	東部床面	20%
827	須恵器	長頸瓶	[18.0]	(11.8)	－	長石	黄灰	普通	頸部内・外面ロクロナデ	南壁溝覆土中層	5%
828	土師器	甕	[24.2]	(33.5)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	体部外面ヘラ磨き　内面ヘラナデ	竈焚き口部	50%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　　徴	出土位置	備考
M75	鉄滓	(11.8)	(8.8)	(5.0)	(533.0)	鉄	暗褐色を呈し，表面が瘤状の突起による凹凸あり	東部壁溝	PL39
Q367	砥石	15.0	4.1	2.0	192.0	粘板岩	砥面２面	東部覆土下層	PL40
Q368	砥石	10.0	8.8	1.9	268.0	雲母片岩	砥面１面	中央部覆土下層	

第113号住居跡（第99・100図）

位置　調査区中央部のＣ３b3区，標高19.0m の台地平面部に位置している。

重複関係　第115号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸4.02m，短軸3.47m の長方形で，主軸方向はＮ－２°－Ｗである。壁高は32～36cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

竈　北壁中央部に付設されている。規模は焚き口部から煙道部まで98 cm，袖部幅108 cmである。袖部は床面と同じ高さの地山面にローム土を埋め戻して基部とし，その上に砂質粘土で構築されている。火床部は地山をそのまま使用しており，火床面は火熱により赤変硬化している。煙道部は壁外へ２cm掘り込まれ，外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1　にぶい褐色　砂質粘土粒子少量，ローム粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子・砂質粘土粒子少量
3　暗 赤 褐 色　ロームブロック・焼土ブロック少量
4　暗 赤 褐 色　ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量
5　明　褐　色　ローム粒子中量，砂質粘土粒子少量
6　灰　褐　色　砂質粘土粒子中量，ロームブロック少量
7　褐　　色　ロームブロック多量

ピット　６か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ32～50 cmで，規模と配置から主柱穴と考えられる。Ｐ５は深さ23 cmで，南壁寄りの中央に位置しており，出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ６は深さ42cmで，性格は不明である。

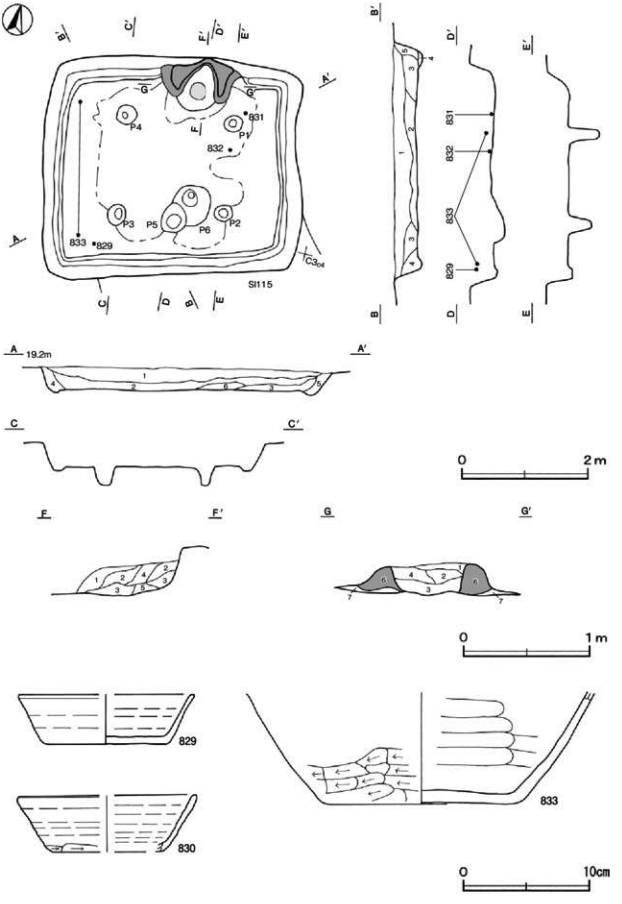
覆土　６層に分層される。レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

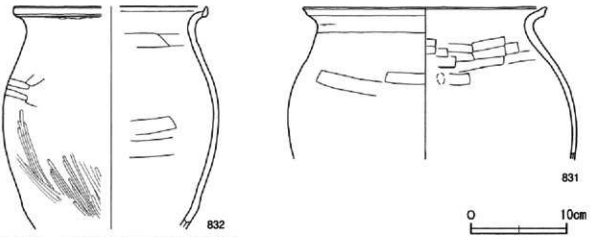
1　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ローム粒子少量
5　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
6　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量

遺物出土状況　土師器片246点（坏22，高坏10，甕212，甑２），須恵器片17点（坏14，甕３）が出土している。また，流れ込んだ土師器片５点，混入した土師質土器片１点，鉄滓１点も出土している。831 は北東部の床面から逆位で出土している。829 は南西コーナー部の覆土上層，830 は覆土中，832 は中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。833は南西コーナー部覆土中層と北西コーナー覆土下層から出土した破片が接合している。

所見　時期は，出土土器から８世紀中葉と考えられる。



第99図　第113号住居跡・出土遺物実測図



第100図　第113号住居跡出土遺物実測図

第113号住居跡出土遺物観察表（第99･100図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
829	須恵器	坏	[13.8]	4.0	[9.4]	長石・雲母	灰黄	普通	体部内・外面ロクロナデ	南西コーナ部覆土上層	45%
830	須恵器	坏	[14.0]	4.5	[8.8]	長石・雲母	暗灰黄	普通	体部外面下端ヘラ削り	覆土中	25%
831	土師器	甕	25.2	(16.0)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部内・外面ヘラナデ	北東部床面	
832	土師器	甕	[20.0]	(23.3)	－	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラ磨き　内面ヘラナデ	中央部覆土下層	20%
833	須恵器	甕	－	(8.9)	15.6	長石・雲母	灰黄	普通	体部外面下端ヘラ削り　内面ヘラナデ	南西コーナ部覆土中層 北西コーナ部覆土下層	5%

第122号住居跡（第101図）

位置　調査区中央部のＣ３j4区，標高18.7 ～ 18.8m の台地緩斜面部に位置している。

規模と形状　長軸3.20m，短軸2.71m の長方形で，主軸方向はＮ－14°－Ｗである。壁高は14 ～ 20cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，竈の周辺が踏み固められている。

竈　北壁中央部に付設されている。規模は焚き口部から煙道部まで90cm，袖部幅96cmである。袖部は床面と同じ高さの地山面に粘土とローム土の混合土で構築されているが，残存状態は悪い。火床部は地山を５cm掘り込んで使用しており，火床面は火熱により部分的に赤変している。煙道部は壁外へ38cm掘り込まれ，外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1　暗赤褐色　焼土粒子・砂質粘土粒子少量
2　暗赤褐色　焼土粒子中量，砂質粘土粒子少量
3　にぶい赤褐色　ローム粒子・焼土粒子少量
4　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量
5　暗赤褐色　焼土粒子・砂質粘土粒子中量
6　黄　褐　色　ローム粒子・粘土粒子中量，焼土粒子少量
7　暗　褐　色　ロームブロック少量

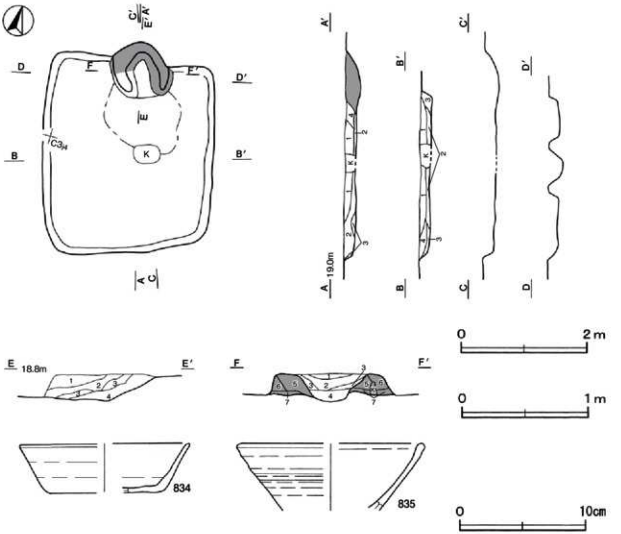
覆土　４層に分層される。各層にロームブロックを含み，不規則に堆積していることから人為堆積と考えられる。

土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化物・焼土粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量

遺物出土状況　土師器片56点（坏13，甕34，甑９），須恵器11点（坏10，甕１）が出土している。また，混入した土師質土器片１点も出土している。834は覆土中，835は竈の覆土中からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から９世紀代と考えられる。



第101図　第122号住居跡・出土遺物実測図

第122号住居跡出土遺物観察表（第101図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
834	須恵器	坏	[13.3]	3.9	[8.3]	長石・雲母	灰黄	普通	底部回転ヘラ切り後一方向のヘラ削り	覆土中	30%
835	須恵器	坏	[14.4]	(5.4)	－	長石・雲母	黄灰	普通	体部内・外面ロクロナデ	竈覆土中	10%

表5　奈良・平安時代竪穴住居跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模（m）長軸×短軸	壁高（cm）	床面	内部施設					炉・竈	覆土	出土遺物	時代	備考 新旧関係（旧→新）
							壁溝	主柱穴	貯蔵穴	ピット	出入口					
101	C 4 e 9	N－23°－W	方形	3.62×3.51	45～52	平坦	全周	－	－	1	1	竈 1	自然	土師器、須恵器	8世紀後葉	
112	C 2 b 9	N－6°－W	長方形	3.93×2.92	29～54	平坦	全周	－	－	1	1	竈 1	自然	土師器、須恵器、砥石	8世紀中葉	SI111→本跡
113	C 3 b 3	N－2°－W	長方形	4.02×3.47	32～36	平坦	全周	4	－	1	1	竈 1	自然	土師器、須恵器	8世紀中葉	SI115→本跡
122	C 3 j 4	N－14°－W	長方形	3.20×2.71	14～20	平坦	－	－	－	－	－	竈 1	人為	土師器、須恵器	9世紀代	

3　中世の遺構と遺物

今回の調査で，茨城県教育財団文化財調査報告第191集で西館としている方形居館跡の西部から南部を調査し，方形区画堀跡１条，掘立柱建物跡６棟，柵跡１条，溝跡７条，土坑９基，火葬土坑５基，ピット群３か所を確認した。以下，遺構と遺物について記述する。

(1)　堀跡

第３号溝跡（方形区画堀跡）（第102 ～ 105図）

位置　今回調査した範囲は，方形区画堀跡の西部（Ｃ２b4区）から南部（Ｅ３c2区）で，標高18.1 ～ 18.3m の台地緩斜面部に位置している。

重複関係　第107号住居跡を掘り込み，第58 ～ 60・64・65・67・68号溝，第321・384 ～ 386号土坑に掘り込まれている。

調査方法　構築状況を観察するため，西部のＤ２g1区（Ａ－Ａ′），南西コーナー部のＥ２a1区（Ｅ－Ｅ′），南部のＥ２b0区（Ｇ－Ｇ′）に土層観察用のベルトを設定した。

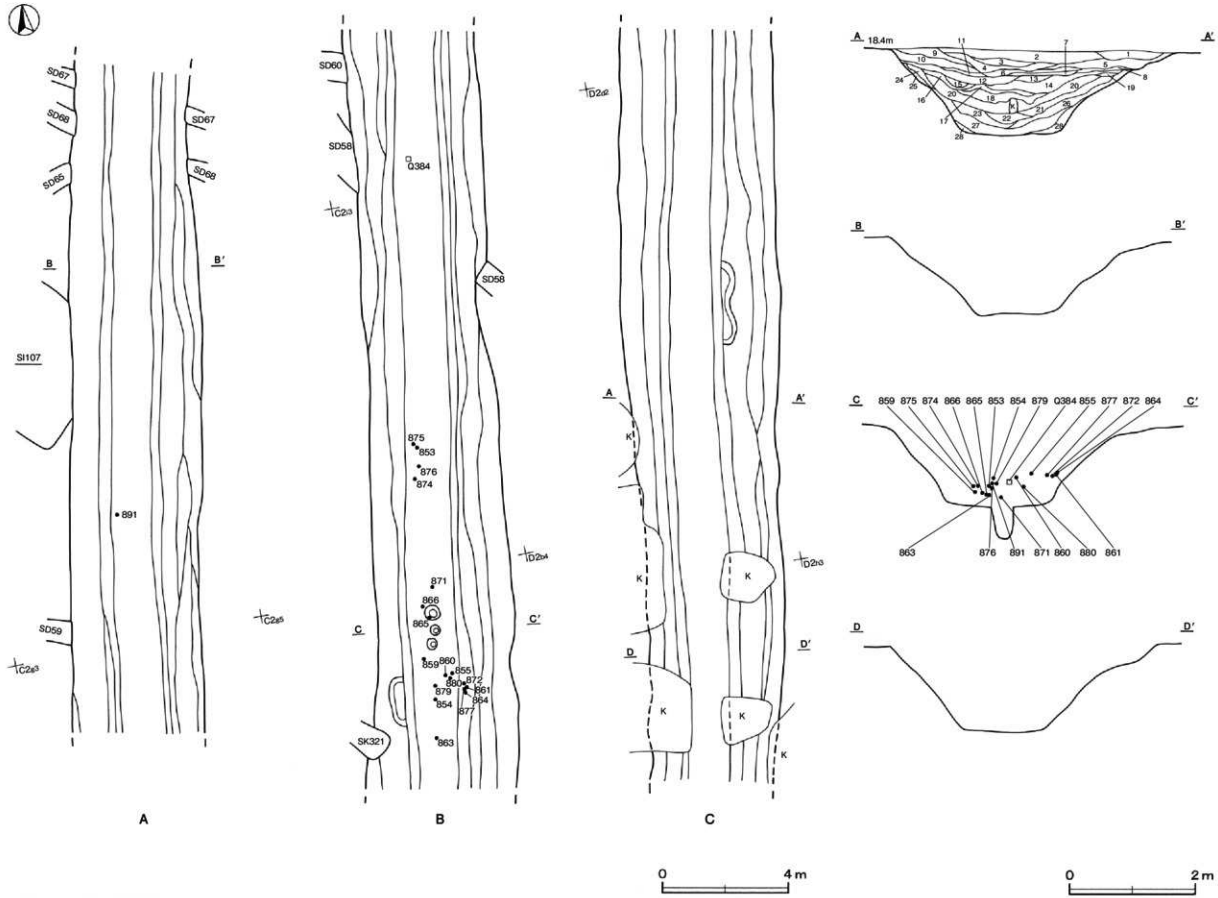
規模と形状　Ｅ３c2区から西方向（Ｎ－81°－Ｗ）にほぼ直線的に延び，Ｅ２a1区で北方向（Ｎ－９°－Ｅ）にほぼ直角に屈曲してＣ２b4区に至っており，今回調査した範囲の長さは122.5m である。底面は平坦であるが高底差があり，西側堀部で南に45cm，南側堀部で西に10cmほどそれぞれ傾斜を示し，南西コーナー部が低くなっている。覆土は大きくⅢ期に分けることができる。Ⅰ期は，下位の両側の壁が崩れた後に堆積した層と考えられ，ロームブロックや粘土ブロックを多く含んでいる。Ⅱ期は覆土中層から下層の締まりが強い層を下層として，その上に自然堆積している層で，堀浚いが行われた後に堆積した土層と考えられる。Ⅲ期は，覆土上層のロームブロックを多く含み，埋め戻されたと考えられる層である。西部，南西コーナー部，南部の３区に分けて規模と形状及び土層解説を報告する。

西部

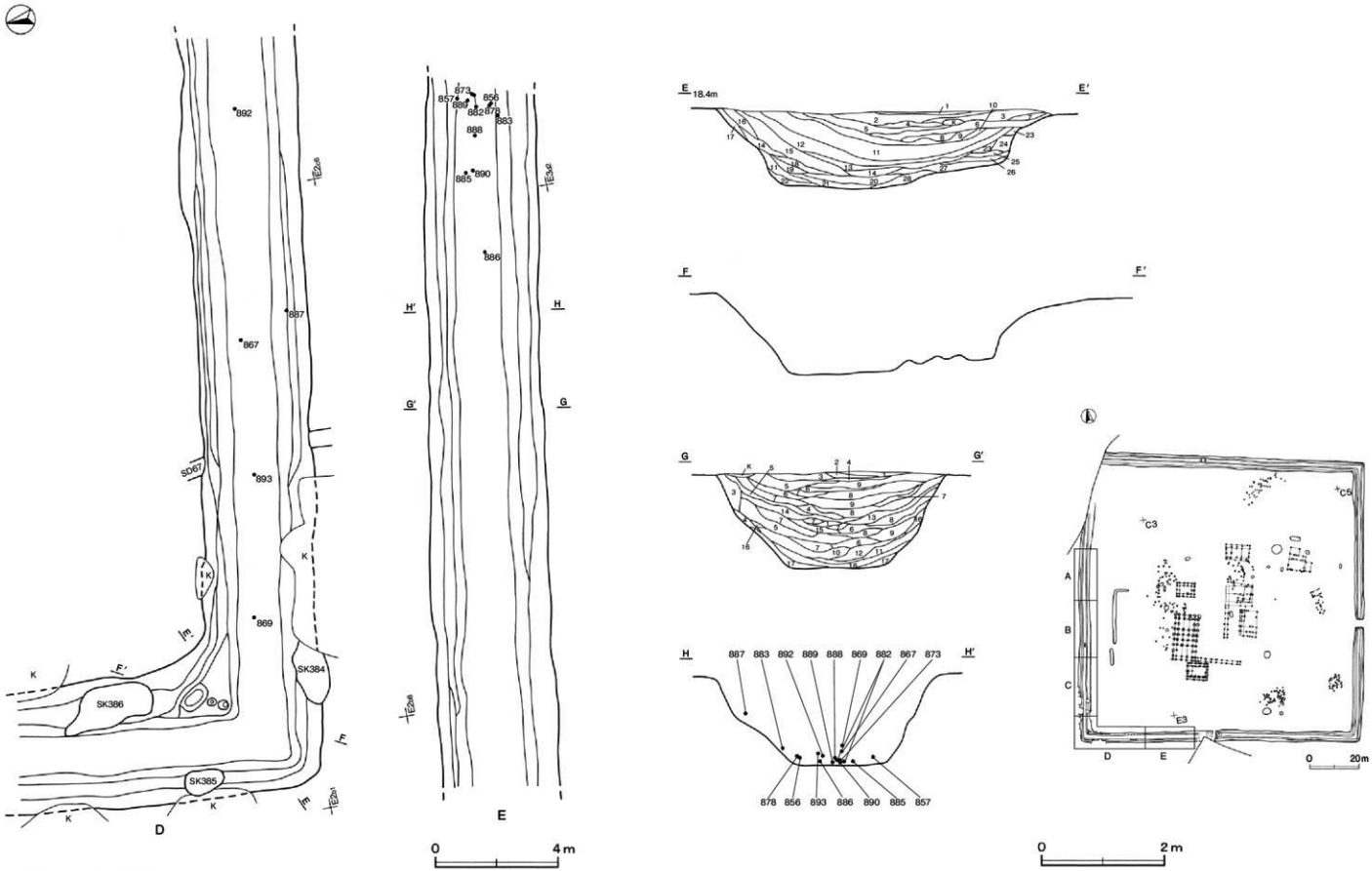
Ａ－Ａ′の規模は，上幅4.46m，下幅1.48m，深さ1.32m である。上幅は南部より１ｍほど広い。断面形状は逆台形状を呈し，底面は平坦である。方形区画外側の壁が約48°の角度で立ち上がっているのに対し，内側の壁は約40°の角度で緩やかに立ち上がっている。Ｄ２b3区の底面から長径18 ～ 26cm，短径15 ～ 24cm，深さ46 ～ 52cm のピットが３か所並んでいるのを確認した。覆土下層の第27・28層はⅠ期で，両側の壁が崩れた後に堆積したものと考えられる。覆土中層の第18・20 ～ 26層はⅡ期で，レンズ状に堆積しており，自然堆積と考えられる。第23・26層は締まりが強く，堀浚いが行われた時の底面と考えられる。覆土上層から中層にかけての第６～８・11 ～ 17・19層はⅢ期で，ロームブロックを多く含み，埋め戻されたと考えられる。覆土最上層の第１～５・９・10層はレンズ状に堆積しており，自然堆積と考えられる。

Ａ－Ａ′　土層解説

1	暗　褐　色	ロームブロック少量	
2	暗　褐　色	ローム粒子中量	
3	黒　褐　色	ロームブロック微量	
4	暗　褐　色	ローム粒子少量	
5	暗　褐　色	ロームブロック極微量	
6	にぶい褐色	ローム粒子・粘土ブロック少量	
7	黒　褐　色	ロームブロック少量	
8	褐　　色	ロームブロック中量	
9	黒　褐　色	ロームブロック・粘土粒子微量	
10	黒　褐　色	ローム粒子少量	
11	暗　褐　色	ローム粒子少量	
12	暗　褐　色	ロームブロック中量	
13	暗　褐　色	ローム粒子中量，粘土ブロック少量	
14	暗　褐　色	ロームブロック極微量	
15	褐　　色	ローム粒子中量	
16	黒　褐　色	ローム粒子微量	
17	褐　　色	ロームブロック少量	
18	黒　褐　色	ローム粒子微量	
19	極暗褐色	ロームブロック微量	
20	黒　褐　色	ローム粒子・粘土粒子微量	
21	黒　褐　色	粘土粒子少量，ローム粒子微量	
22	黒　褐　色	粘土粒子中量　締まり強	
23	暗　褐　色	ローム粒子中量，粘土ブロック微量　締まり強	
24	黒　褐　色	ローム粒子少量，粘土粒子微量	
25	褐　　色	ロームブロック中量，粘土ブロック微量	
26	にぶい褐色	ローム粒子中量　締まり強	
27	にぶい褐色	粘土ブロック多量	
28	にぶい橙色	粘土ブロック多量	



第102図　第3号溝跡実測図(1)



第103図　第3号溝跡実測図(2)

南西コーナー部E－E′の規模は，上幅5.42m，下幅1.60m，深さ1.22mである。断面形状は逆台形状を呈し，底面が平担で，壁は緩斜して立ち上がっている。コーナー部の底面の内側は，平面形状で三角形状に掘り込まれ，断面形状では底面より20cmほど高くなった段差となっている。また，この部分から長径32～104cm，短径32～56cm，深さ12～16cmのピットが3ヶ所確認されている。覆土下層の第20～22・26～28層はⅠ期で，両側の壁が崩れた後に堆積したものと考えられる。覆土中層の第11～19・23～25層はⅡ期で，レンズ状に堆積しており，自然堆積と考えられる。第13～15層は締まりが強く，堀浚いが行われた時の底面と考えられる。覆土上層の第1～10層はⅢ期で，ロームブロックを多く含み，主に東側から人為的に埋め戻されたと考えられる。

E－E′ 土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子中量
2 黒 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
3 褐 色 ローム粒子中量
4 極 暗 褐 色 ロームブロック微量
5 黒 褐 色 ローム粒子中量
6 暗 褐 色 ローム粒子多量
7 暗 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック微量
8 黒 褐 色 粘土粒子少量，ローム粒子微量
9 黒 褐 色 粘土ブロック少量，ローム粒子微量
10 黒 褐 色 粘土粒子微量
11 黒 褐 色 ローム粒子・粘土粒子微量
12 黒 褐 色 粘土ブロック少量，ローム粒子微量
13 黒 褐 色 粘土粒子中量
14 灰 黄 褐 色 粘土ブロック少量
15 黒 褐 色 ローム粒子・粘土粒子微量 締まり強
16 黒 褐 色 ローム粒子少量
17 褐 色 ロームブロック中量
18 褐 色 粘土粒子少量，ロームブロック微量
19 にぶい褐色 粘土粒子中量，ローム粒子微量
20 褐 色 粘土ブロック少量 締まり強
21 暗 褐 色 粘土ブロック少量 締まり強
22 褐 色 ローム粒子中量，粘土粒子微量 粘性強
23 暗 褐 色 ローム粒子少量
24 褐 色 ローム粒子少量，粘土ブロック微量
25 暗 褐 色 ローム粒子中量，粘土ブロック微量
26 にぶい褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量
27 にぶい褐色 粘土ブロック多量
28 にぶい橙色 粘土ブロック多量

南部

G－G′の規模は，上幅3.64m，下幅1.58m，深さ1.54mである。底面は平担で，北側の壁は67°の角度で外傾して立ち上がっているのに対し，南側の壁は51°の角度でやや緩斜して立ち上がっている。覆土下層の第17・18層はⅠ期で，両側の壁から崩れた後に堆積したものと考えられる。覆土下層の第10～12層はⅡ期でレンズ状に堆積しており，自然堆積と考えられる。第11層はロームブロックを多く含んだ土が，方形居館の内側から流れ込んだと考えられる。覆土中層から上層の第1～9・13～16層はロームブロック・粘土ブロックを多く含み，埋め戻されたと考えられる。特に南側の層がロームブロック・粘土ブロックを多く含んでいることから，南側から埋め戻された時期があったと考えられる。

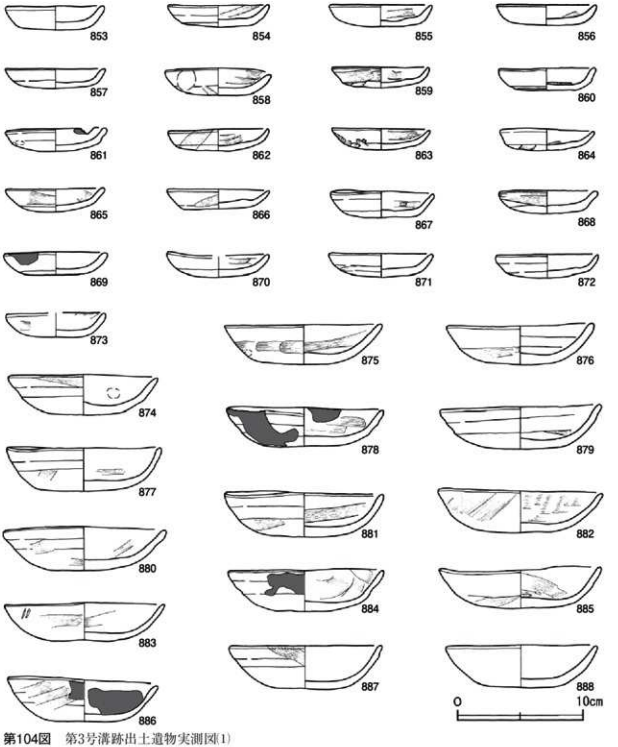
G－G′ 土層解説

1 褐 色 粘土ブロック中量
2 褐 色 粘土ブロック多量
3 黒 褐 色 粘土ブロック微量
4 黒 褐 色 粘土ブロック・ローム粒子微量
5 暗 褐 色 粘土ブロック中量
6 褐 色 ロームブロック中量，粘土粒子微量
7 黒 褐 色 粘土粒子微量
8 暗 褐 色 ローム粒子中量，粘土ブロック微量
9 褐 色 ロームブロック少量
10 黒 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック微量
11 暗 褐 色 ロームブロック中量，粘土ブロック微量
12 褐 色 ローム粒子中量
13 暗 褐 色 ローム粒子中量
14 灰 褐 色 粘土ブロック中量
15 黒 褐 色 粘土ブロック少量
16 にぶい褐色 粘土粒子中量
17 にぶい褐色 粘土ブロック中量
18 褐 色 ローム粒子多量

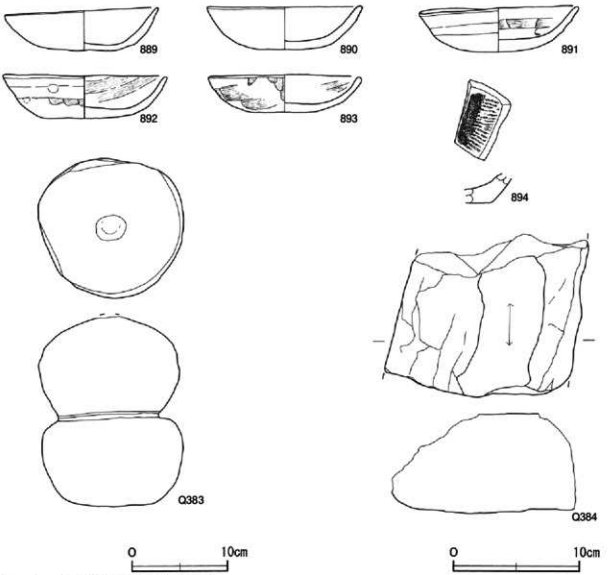
遺物出土状況 土師質土器片895点（小皿・皿891，鉢2，内耳鍋2），陶器1点（擂鉢），石器1点（砥石），石製品1点（五輪塔）が出土している。また，流れ込んだ縄文土器片5点，土師器片243点，須恵器片11点，粘土塊1点も出土している。小皿・皿は主に西部と南部の2か所から集中して出土している。854・855・859～861・863・864～866・871・872・877・879・880は，西部（D2b3～D2c3区）の覆土中層から下層にかけてそれぞれ出土している。853・874～876・891は，西部の覆土下層から散在してそれぞれ出土している。856・857・873・878・882・883・885・888～890は，南部（E3b2区）の覆土下層からそれぞれ出土している。867・869・886・892・893は南部の覆土下層から底面にかけて散在してそれぞれ出土している。858・894・Q383・Q384は，覆土中からそれぞれ出土している。

所見 今回の調査で堀の西半分を調査したことにより，西館の方形区画堀跡のほぼ全域が確認された。堀は一

辺が約１町（114m）で，方形に巡っており，南西コーナー部の底面は，やや深く掘り込まれていることが確認された。また，南部の土層からは，方形居館の内側からロームブロックを多く含む土が流れ込んだ状況を確認した。西部の堀底のＤ２b3区から確認された３基のピットは，館内の建物群の延長線上に位置しており，西の入口としての施設があり，その柱穴として掘られた可能性が考えられる。方形区画のコーナー部の内側が掘り込まれている部分は北東コーナー部でも確認されており，北東コーナー部と南西コーナー部が特別な場所として意識されていたことを推測させる。時期は，文化財調査報告第191集で，出土土器から13世紀後葉から14世紀前葉と考えられており，今回の出土土器はそれを裏付けるものと考えられる。



第104図　第3号溝跡出土遺物実測図(1)



第105図　第3号溝跡出土遺物実測図(2)

第３号溝跡出土遺物観察表（第104・105図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備　考
853	土師質土器	小皿	7.6	1.9	－	赤色粒子	橙	普通	体部内・外面ナデ	西部覆土下層	100%　PL37
854	土師質土器	小皿	7.9	1.8	－	赤色粒子・白色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ　体部内・外面ナデ	西部覆土中層	100%　PL37
855	土師質土器	小皿	8.0	1.7	－	雲母	浅黄橙	普通	口縁部横ナデ　体部内・外面ナデ	西部覆土中層	100%
856	土師質土器	小皿	7.8	1.6	－	赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ　体部内・外面ナデ	南部覆土下層	100%　PL37
857	土師質土器	小皿	7.8	1.6	－	雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ　体部内・外面ナデ	南部覆土下層	100%　PL37
858	土師質土器	小皿	8.4	2.1	－	赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ　体部内・外面ナデ	覆土中	100%　PL37
859	土師質土器	小皿	7.6	1.7	－	赤色粒子・白色粒子	橙	普通	体部内・外面ナデ	西部覆土下層	100%　PL37
860	土師質土器	小皿	7.6	1.8	－	赤色粒子・白色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ　体部内・外面ナデ	西部覆土中層	100%　PL37
861	土師質土器	小皿	7.8	1.8	－	赤色粒子・白色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ　体部内・外面ナデ	西部覆土中層	95%　灯明皿として転用　PL37
862	土師質土器	小皿	7.8	1.8	－	赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ　体部内・外面ナデ	覆土中	95%　PL37
863	土師質土器	小皿	7.9	1.7	－	赤色粒子・白色粒子	浅黄橙	普通	口縁部横ナデ　体部内・外面ナデ	西部覆土下層	95%　PL37
864	土師質土器	小皿	7.4	1.7	－	雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ　体部内・外面ナデ	西部覆土中層	95%
865	土師質土器	小皿	7.7	1.9	－	赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ　体部内・外面ナデ	西部覆土下層	100%
866	土師質土器	小皿	8.0	1.6	－	赤色粒子	浅黄橙	普通	口縁部横ナデ　体部内・外面ナデ	西部覆土下層	90%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
867	土師質土器	小皿	8.1	2.1	－	赤色粒子	黄橙	普通	口縁部横ナデ　体部内・外面ナデ	南部覆土下層	90%
868	土師質土器	小皿	7.6	1.8	－	赤色粒子・白色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ　体部内・外面ナデ	覆土中	95%
869	土師質土器	小皿	8.2	1.8	－	赤色粒子・白色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ	南部覆土下層	90%　口縁部煤付着
870	土師質土器	小皿	〔7.9〕	2.1	－	赤色粒子・黒色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ　体部内・外面ナデ	覆土中	90%
871	土師質土器	小皿	8.1	1.8	－	赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ　体部内・外面ナデ	西部覆土下層	85%
872	土師質土器	小皿	8.0	1.8	－	雲母・赤色粒子・白色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ	西部覆土中層	80%
873	土師質土器	小皿	〔7.8〕	1.9	－	赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ　体部内・外面ナデ	南部覆土下層	75%
874	土師質土器	皿	11.8	3.2	－	赤色粒子・白色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ　体部内・外面ナデ	西部覆土下層	100%　PL38
875	土師質土器	皿	12.5	3.1	－	赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ　体部内・外面ナデ	西部覆土下層	100%　PL38
876	土師質土器	皿	11.5	3.3	－	雲母・赤色粒子・白色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ　体部内・外面ナデ	西部覆土中層	95%　PL38
877	土師質土器	皿	12.1	3.5	－	赤色粒子・白色粒子	浅黄橙	普通	口縁部横ナデ　体部内・外面ナデ	西部覆土中層	100%　PL38
878	土師質土器	皿	12.3	3.3	－	赤色粒子	浅黄橙	普通	口縁部横ナデ　体部内・外面ナデ	西部覆土下層	100%　口縁部内・外面、体部外面煤付着
879	土師質土器	皿	12.6	3.5	－	石英・雲母・赤色粒子	浅黄橙	普通	口縁部横ナデ　体部内・外面ナデ	西部覆土下層	100%
880	土師質土器	皿	12.8	3.5	－	赤色粒子	浅黄橙	普通	口縁部横ナデ　体部内・外面ナデ	西部覆土下層	100%
881	土師質土器	皿	12.5	3.2	－	赤色粒子・白色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ　体部内・外面ナデ	覆土中	100%
882	土師質土器	皿	12.8	3.5	－	長石・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ　体部内・外面ナデ	南部覆土下層	95%
883	土師質土器	皿	12.6	3.0	－	石英・赤色粒子・白色粒子	黄橙	普通	口縁部横ナデ　体部内・外面ナデ	南部覆土下層	95%
884	土師質土器	皿	12.3	3.5	－	赤色粒子	浅黄橙	普通	口縁部横ナデ　体部内・外面ナデ	覆土中	100%　体部外面煤付着
885	土師質土器	皿	12.6	3.3	－	赤色粒子・白色粒子	浅黄橙	普通	口縁部横ナデ　体部内・外面ナデ	南部覆土下層	90%
886	土師質土器	皿	11.8	3.5	－	赤色粒子・白色粒子	浅黄橙	普通	口縁部横ナデ　体部内・外面ナデ	南部覆土下層	90%　体部内・外面煤付着
887	土師質土器	皿	12.0	3.5	－	赤色粒子・白色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ　体部内・外面ナデ	南部覆土中層	95%
888	土師質土器	皿	11.9	3.3	－	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	体部内・外面ナデ	南部覆土下層	90%　PL38
889	土師質土器	皿	12.1	3.3	－	長石・石英	明赤褐	普通	体部内・外面ナデ	南部覆土下層	95%　PL38
890	土師質土器	皿	12.3	3.4	－	石英・赤色粒子	明赤褐	普通	体部内・外面ナデ	南部覆土下層	90%　PL38
891	土師質土器	皿	12.5	3.7	－	赤色粒子・白色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ　体部内・外面ナデ	西部覆土中層	80%
892	土師質土器	皿	12.8	3.4	－	赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ　体部内・外面ナデ	南部覆土下層	60%
893	土師質土器	皿	12.0	3.0	－	赤色粒子・白色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ　体部内・外面ナデ	南部覆土下層	80%
894	陶器	擂鉢	－	(2.3)	－	長石	にぶい赤褐	普通	10条1単位の擂り目	覆土中	3%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q383	五輪塔	(19.9)	15.2	14.2	(5580)	花崗岩	空風輪　先端部欠損	西部覆土中層	PL40
Q384	砥石	(12.9)	(16.2)	7.9	(2210)	花崗岩	砥面1面	西部覆土中層	

(2)　掘立柱建物跡

第16号掘立柱建物跡（第106～109図・付図2）

位置　調査区中央部のD3a2区で，標高18.5～18.7mの台地緩斜面部に位置している。

重複関係　第123・125号住居跡を掘り込み，第342・345号土坑に掘り込まれている。

規模と構造　桁行9間，梁行5間の総柱建物の主屋の南妻から，東へ延びる中門廊的な施設が付属している掘立柱建物跡である。主屋は桁行7間，梁行3間の総柱の身舎に四面庇又は縁が付属した建物跡で，桁行方向をN－14°－Eとする南北棟である。庇を含めた規模は桁行18.0m（59尺），梁行9.2m（30尺），面積約165㎡で，身舎の規模は，桁行15.0m（49.5尺），梁行6.4m（21尺）である。柱間寸法は身舎が2.1m（7尺）を基調とし，四面庇は1.35m（4尺5寸）を基調としている。中央部の北妻から3間目の2か所と南妻から3間目の2か所には柱穴が確認されていない。中門廊的施設は桁行10間，梁行1間で，桁行方向をN－76°－Wとしている。規模は桁行18.4m（60尺），梁行1.35m（4尺5寸），面積25㎡である。柱間寸法は，2.1m（7尺）を基調とし，身舎接続部

の１間が1.05m（３尺５寸）と先端の１間が1.20m（４尺）と狭くなっている。

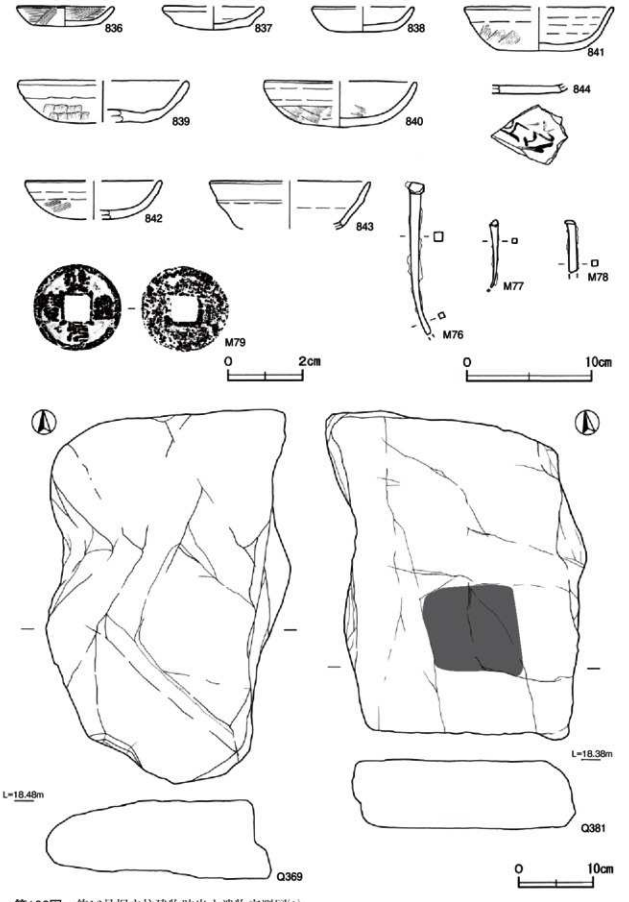
柱穴　76か所。主屋の柱穴が56か所，中門廊的施設の柱穴が20か所である。主屋の柱穴の平面形は長径0.64 ～ 1.97m，短径0.61 ～ 1.24mの円形又は楕円形である。断面形はＵ字状や逆台形状を呈し，深さは16 ～ 68cmである。礎盤石が，Ｐ１～Ｐ４・Ｐ６・Ｐ７・Ｐ９・Ｐ10・Ｐ14・Ｐ19・Ｐ47・Ｐ53・Ｐ55・Ｐ56の14か所で確認されている。礎盤石は長さ25.6 ～ 51.7 ㎝，幅20.8 ～ 42.9 ㎝，厚さ8.3 ～ 17.8 ㎝の雲母片岩が使用されている。主屋の柱痕・柱抜き取り痕は土層断面中の第１～ 13層が相当し，締まりが弱い。第14・19・21・22・26・39・43・46層は礎盤石の下の層で突き固められており，締まりが強い。第14 ～ 47層はローム土を主体とした埋土である。中門廊的施設の柱穴の平面形は長径0.28 ～ 0.90m，短径0.28 ～ 0.86m の円形又は楕円形である。断面形はＵ字状や逆台形状を呈し，深さは16 ～ 68cmである。柱痕・柱抜き取り痕は土層断面中の第48 ～ 50層が相当し，締まりが弱い。第51 ～ 53層はローム土を主体とした埋土である。

土層解説

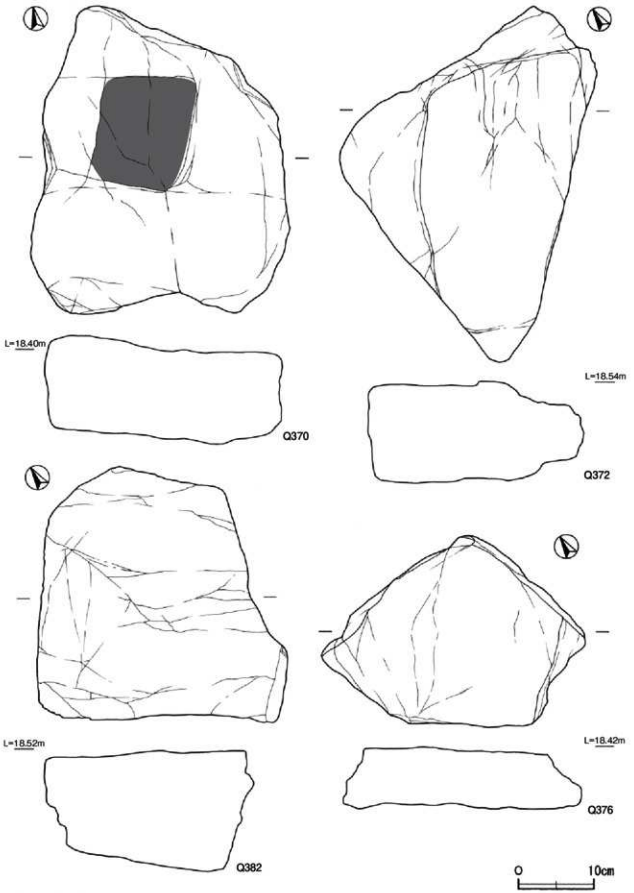
1　黒 褐 色　ローム粒子・炭化粒子微量　締まり弱
2　暗 褐 色　ローム粒子微量　締まり弱
3　黒 褐 色　ロームブロック・炭化粒子微量　締まり弱
4　黒 褐 色　ローム粒子微量　締まり弱
5　黒 褐 色　ロームブロック・炭化粒子極微量　締まり弱
6　極暗褐色　ロームブロック・炭化粒子微量　締まり弱
7　暗 褐 色　ローム粒子少量　締まり弱
8　暗 褐 色　ローム粒子少量，炭化粒子微量　締まり弱
9　暗 褐 色　ローム粒子中量　締まり弱
10　暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化粒子微量　締まり弱
11　暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化物微量　締まり弱
12　暗 褐 色　ロームブロック・炭化物微量　締まり弱
13　暗 褐 色　ロームブロック少量　締まり弱
14　暗 褐 色　ロームブロック・炭化物少量　締まり強
15　褐　　色　ロームブロック中量
16　暗 褐 色　ロームブロック少量
17　黒 褐 色　ロームブロック・炭化粒子微量
18　暗 褐 色　ローム小ブロック中量
19　暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化粒子微量　締まり強
20　暗 褐 色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
21　暗 褐 色　ローム粒子少量　締まり強
22　暗 褐 色　ロームブロック微量　締まり強
23　黒 褐 色　ローム粒子・炭化粒子微量
24　黒 褐 色　ローム粒子微量
25　黒 褐 色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
26　黒 褐 色　ロームブロック少量　締まり強
27　黒 褐 色　ローム粒子極微量
28　極暗褐色　炭化物・ローム粒子微量
29　極暗褐色　ローム粒子微量
30　極暗褐色　ロームブロック微量
31　黒 褐 色　ローム粒子少量
32　暗 褐 色　ローム粒子微量　締まり強
33　暗 褐 色　ロームブロック微量
34　褐　　色　ロームブロック少量
35　暗 褐 色　ロームブロック中量
36　黒 褐 色　炭化物・ローム粒子微量
37　暗 褐 色　ローム中ブロック微量
38　褐　　色　ロームブロック多量　締まり強
39　褐　　色　ローム粒子中量　締まり強
40　暗 褐 色　ローム粒子中量
41　極暗褐色　ローム粒子少量　締まり強
42　暗 褐 色　ロームブロック・炭化粒子微量
43　暗 褐 色　ローム粒子中量，炭化粒子微量　締まり強
44　黒 褐 色　ロームブロック微量　粘性・締まり強
45　褐　　色　ローム小ブロック中量
46　暗 褐 色　ローム粒子多量　締まり強
47　暗 褐 色　炭化物・ローム粒子少量
48　暗 褐 色　ローム粒子・炭化粒子少量　締まり弱
49　暗 褐 色　ローム粒子中量，炭化粒子極微量
50　黒 褐 色　炭化粒子少量，ローム粒子微量
51　褐　　色　ローム粒子少量　締まり強
52　明 褐 色　ロームブロック多量
53　暗 褐 色　ロームブロック少量　締まり強

遺物出土状況　土師質土器片443点（小皿・皿），礎盤石14点，鉄製品３点（釘），古銭１点（熙寧元寶）が出土している。また，流れ込んだ縄文土器片１点，土師器片226点，須恵器片５点，鉄滓１点も出土している。836・838はＰ18，837はＰ８，842はＰ27，843はＰ19，844はＰ１，M78はＰ７の柱抜き取り痕からそれぞれ出土している。M76・M77はＰ10の覆土中から出土している。Q369 ～Q382は，Ｐ１～Ｐ４・Ｐ６・Ｐ７・Ｐ９・Ｐ10・Ｐ14・Ｐ19・Ｐ47・Ｐ53・Ｐ55・Ｐ56の覆土中層から底面にかけて出土している。Ｐ２・Ｐ14・Ｐ55に据えられていた礎盤石には柱のあたりと考えられる微細な木片が残存しており，柱材は一辺約12 ～ 15cm（４寸～５寸）の角材と考えられる。礎盤石上面のレベルは，Q371が標高18.24m で，その他は標高18.36m ～ 18.56m である。

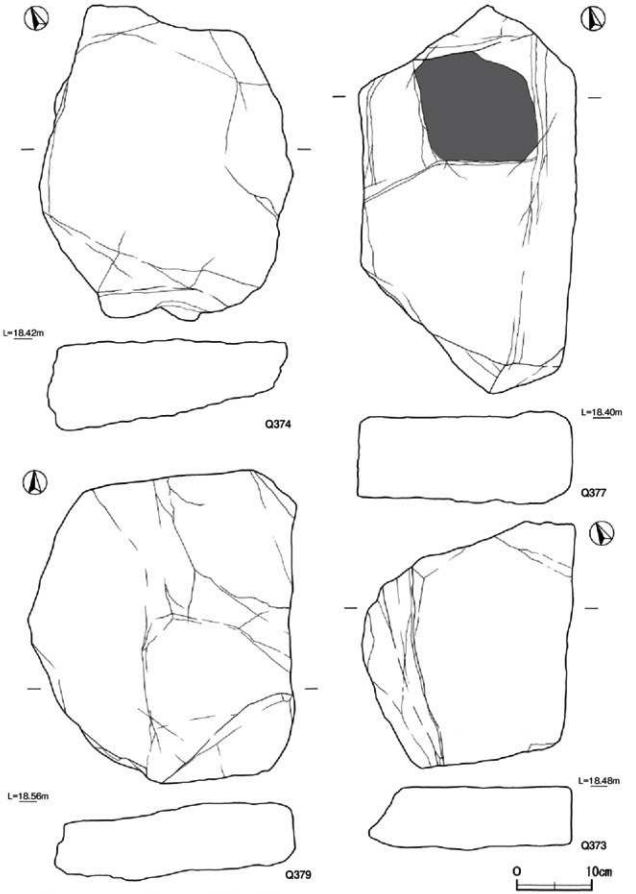
所見　面積が190㎡で方形居館内で最大の建物であり，中門廊的な施設を持つ構造から，東を正面とする時期の主屋と考えられる。主屋中心部の柱穴が確認されていない部分は，広間であったと推定される。礎盤石として使用されている雲母片岩は雲母の含有状況や変成の度合いからつくば市平沢産と考えられ，長さや幅，厚さに規格性があり，主屋の礎盤石として使用する目的のために加工されたと考えられる。また，礎盤石は柱穴の中に高さを揃えて据えられていることから，柱材も長さを揃えて製材されて運搬されてきたことが推測される。時期は，出土土器から14世紀初頭まで機能していたと考えられる。



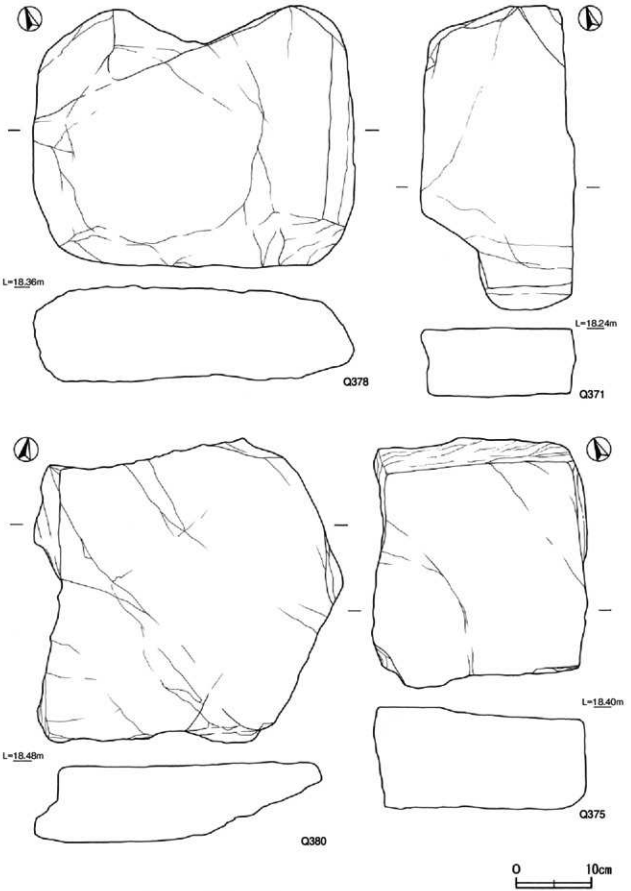
第106図　第16号掘立柱建物跡出土遺物実測図(1)



第107図　第16号掘立柱建物跡出土遺物実測図(2)



第108図　第16号掘立柱建物跡出土遺物実測図(3)



第109図　第16号掘立柱建物跡出土遺物実測図(4)

第16号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第106 ～ 109図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備　考
836	土師質土器	小皿	7.6	1.6	－	雲母	橙	普通	口縁部横ナデ　体部内・外面ナデ	P 18 柱抜き取り痕	75%　PL37
837	土師質土器	小皿	[7.8]	1.9	－	赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ　体部内・外面ナデ	P 18 柱抜き取り痕	30%
838	土師質土器	小皿	[8.0]	2.0	－	雲母・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面ナデ	P 18 柱抜き取り痕	40%
839	土師質土器	皿	[13.4]	3.3	－	赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ　体部内・外面ナデ	P 3 埋土	25%
840	土師質土器	皿	[12.0]	3.7	－	赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部横ナデ　体部内・外面ナデ	P 4 埋土	25%
841	土師質土器	皿	[12.0]	3.5	－	赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部横ナデ　体部内・外面ナデ	P 7・17 柱抜き取り痕	25%
842	土師質土器	皿	[10.8]	3.1	－	赤色粒子	浅黄橙	普通	口縁部横ナデ　体部内・外面ナデ	P 27 柱抜き取り痕	20%
843	土師質土器	皿	[12.8]	(3.8)	－	雲母	浅黄橙	普通	口縁部横ナデ　体部内・外面ナデ	P 19 柱抜き取り痕	15%
844	土師質土器	皿	－	(0.8)	－	赤色粒子・白色粒子	橙	普通	体部内面ナデ	P 1 柱抜き取り痕	5%　底部外面墨書　PL39

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　徴	出土位置	備　考
Q369	礎盤石	50.0	32.6	10.6	28900	雲母片岩	側面及び上・下面に加工痕	P 1 覆土中層	PL42
Q370	礎盤石	41.2	34.6	14.4	31800	雲母片岩	上面に柱材と考えられる微細な木片残存　側面及び下面に加工痕	P 2 覆土下層	PL42
Q371	礎盤石	40.6	20.8	9.3	13000	雲母片岩	側面及び上・下面に加工痕	P 3 底面	
Q372	礎盤石	47.7	34.2	13.6	25100	雲母片岩	側面及び上・下面に加工痕	P 4 覆土中層	
Q373	礎盤石	32.9	28.5	8.4	13200	雲母片岩	側面及び上・下面に加工痕	P 6 覆土中層	
Q374	礎盤石	42.0	34.0	12.1	21200	雲母片岩	側面及び上・下面に加工痕	P 7 覆土下層	
Q375	礎盤石	33.4	28.9	13.8	24600	雲母片岩	側面及び上・下面に加工痕	P 9 覆土中層	PL42
Q376	礎盤石	25.6	35.4	8.3	10200	雲母片岩	側面及び上・下面に加工痕	P 10 覆土下層	
Q377	礎盤石	51.7	28.9	12.4	28600	雲母片岩	上面に柱材と考えられる微細な木片残存　側面及び上・下面に加工痕	P 14 覆土中層	PL42
Q378	礎盤石	34.9	42.9	12.9	30800	雲母片岩	側面及び上・下面に加工痕	P 19 覆土中層	
Q379	礎盤石	41.8	35.7	10.5	22400	雲母片岩	側面及び上・下面に加工痕	P 47 覆土下層	PL42
Q380	礎盤石	40.7	41.4	10.7	26900	雲母片岩	側面及び上・下面に加工痕	P 53 覆土下層	
Q381	礎盤石	43.9	35.0	9.5	27300	雲母片岩	上面に柱材と考えられる微細な木片残存　側面及び上・下面に加工痕	P 55 底面	
Q382	礎盤石	34.2	33.2	17.8	25600	雲母片岩	側面及び上・下面に加工痕	P 56 底面	PL42
M76	釘	(12.2)	1.2	0.7	(31.8)	鉄	脚部先端欠損　頭部は打撃によってやや潰れている	P 10 覆土中	PL39
M77	釘	(5.4)	0.7	0.4	(3.36)	鉄	脚部先端欠損　頭部は打撃によってやや潰れている	P 10 覆土中	PL39
M78	釘	(4.2)	0.9	0.5	(5.45)	鉄	脚部先端欠損　頭部は打撃によってやや潰れている	P 7 柱抜き取り痕	PL39

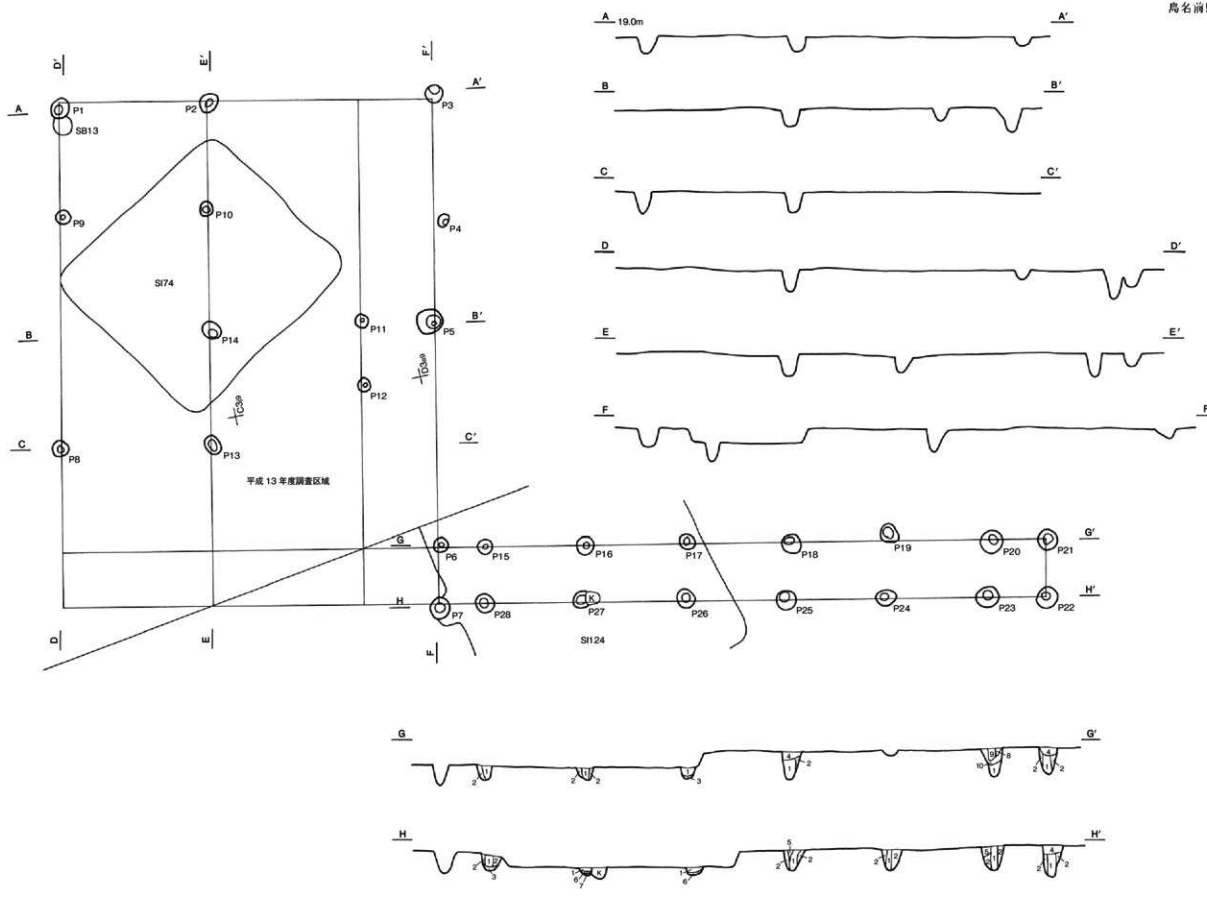
番号	銭　種	径	孔	厚さ	重量	初鋳年	材質	特　徴	出土位置	備　考
M79	照寧元寶	2.3	0.7	0.14	2.56	1068 年	銅	北宋銭　篆書　無背銭	P 17 柱抜き取り痕	PL39

第17号掘立柱建物跡（第110・111図）

位置　調査区中央部のＤ３a7区で，標高18.8 ～ 18.9m の台地緩斜面部に位置している。

重複関係　第74・124号住居跡を掘り込んでいる。

規模と構造　平成13年度調査区の境界があり，一部確認されていない部分があるが，桁行５間，梁行３間の総柱建物の主屋の西妻に，中門廊的施設が付属した建物跡である。主屋は桁行５間，梁行２間の身舎の南に庇又は縁が付属した建物跡で，桁行方向をＮ－78°－Ｗとする東西棟と考えられる。庇を含めた規模は桁行10.5m（35尺），梁行8.0m（27尺）で，身舎の規模は，桁行10.5m（35尺），梁行6.0m（20尺），である。柱間寸法は身舎の桁行が2.1m（７尺），庇は1.65m（５尺５寸）を基調としているが，柱筋の通りがやや不揃いである。中門廊的施設は桁行７間，梁行１間で，桁行方向をＮ－12°－Ｅとしている。規模は桁行12.9m（42尺５寸），梁行1.2m（４尺）である。柱間寸法は桁行2.1m（７尺）を基調としているが，主屋接続部の１間は0.9m（３尺），南妻側



第110図　第17号掘立柱建物跡実測図

0　4m

の１間は1.2m（４尺）と両端部が狭くなっている。

柱穴　28か所。平面形は長径0.48～0.54m，短径0.24～0.30mの円形又は楕円形である。断面形はＵ字状を呈し，深さは21～72㎝である。柱痕・柱抜き取り痕は土層断面中の第１・４層が相当し，締まりが弱い。その他の層はローム土を主体とした埋土である。

土層解説

1　黒褐色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　ロームブロック微量
3　暗褐色　ロームブロック少量
4　暗褐色　ロームブロック中量
5　褐　色　ローム粒子中量
6　黒褐色　ロームブロック微量
7　褐　色　ロームブロック中量
8　暗褐色　ローム粒子少量
9　褐　色　ロームブロック少量
10　暗褐色　ローム粒子中量

遺物出土状況　土師質土器片42点（小皿・皿）が出土している。また，流れ込んだ土師器片６点も出土している。845はＰ９，846はＰ11，847はＰ10，848はＰ７の柱抜き取り痕からそれぞれ出土している。

所見　本跡は，第16号掘立柱建物跡の中門廊的施設と構造上の共通点が多く，南を正面とする時期の主屋と考えられる。中門廊的施設の規模は第16号掘立柱建物跡の約３分の２である。時期は，出土土器から14世紀前葉まで機能していたと考えられる。

第111図　第17号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第17号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第111図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
845	土師質土器	小皿	[8.2]	(2.0)	－	雲母・砂粒	橙	普通	体部内・外面ナデ	Ｐ９柱抜き取り痕	20%
846	土師質土器	小皿	[8.2]	2.8	－	砂粒	橙	普通	口縁部横ナデ　体部内・外面ナデ	Ｐ11柱抜き取り痕	20%
847	土師質土器	小皿	[7.8]	1.8	－	砂粒	橙	普通	口縁部横ナデ　体部内・外面ナデ	Ｐ10柱抜き取り痕	20%
848	土師質土器	小皿	[7.8]	(1.5)	－	砂粒	橙	普通	口縁部横ナデ　体部内・外面ナデ	Ｐ７柱抜き取り痕	10%

第20号掘立柱建物跡（第112・113図）

位置　調査区中央部のＤ３f3区で，標高18.6～18.8mの台地緩斜面部に位置している。

重複関係　第22・23号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

規模と構造　桁行５間，梁行４間の側柱建物の身舎の南北に庇が付属した建物跡で，桁行方向をＮ－76°－Ｗとする東西棟である。庇を含めた規模は桁行7.8m（26尺），梁行6.7m（22尺）で，身舎の規模は桁行7.8m（26尺），梁行4.3m（14尺）である。柱間寸法は桁行が1.8m（６尺）を基調とし，梁行は1.05m（３尺５寸）を基調としている。

柱穴　29か所。平面形は長径0.26～0.88m，短径0.22～0.78mの円形又は楕円形である。断面形はＵ字状を呈し，深さは12～66㎝である。柱抜き取り痕は土層断面中の第３・７・12・14・15層が相当し，締まりが弱い。第19・22層は柱のあたりで締まりが強い。その他の層はローム土を主体とした埋土である。

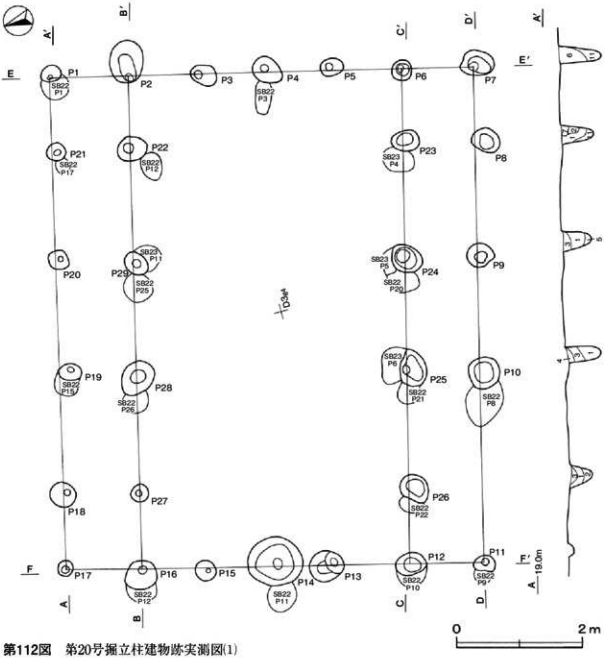
土層解説

1　暗褐色　ローム粒子中量
2　褐　色　ロームブロック少量
3　暗褐色　ローム粒子少量
4　暗褐色　ローム粒子微量　締まり強

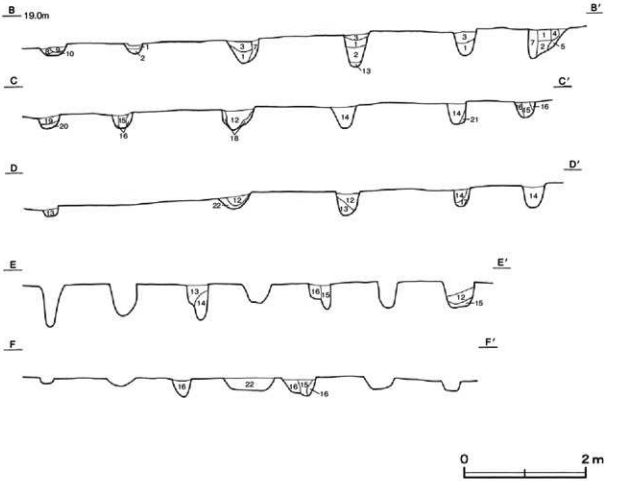
5　褐　色　ローム粒子中量　締まり強
6　暗 褐 色　ロームブロック極微量
7　暗 褐 色　ローム粒子中量
8　暗 褐 色　ローム粒子微量　締まり強
9　暗 褐 色　ローム粒子微量
10　褐　色　ローム粒子少量　締まり強
11　暗 褐 色　ロームブロック中量　締まり強
12　暗 褐 色　ローム粒子少量，炭化粒子微量　締まり弱
13　暗 褐 色　ロームブロック少量
14　黒 褐 色　ロームブロック・炭化粒子微量
15　黒 褐 色　ロームブロック・焼土粒子微量　締まり弱
16　極暗褐色　ロームブロック少量
17　暗 褐 色　ローム粒子少量
18　褐　色　ローム粒子中量
19　黒 褐 色　ロームブロック少量，炭化粒子微量　締まり強
20　暗 褐 色　ローム粒子中量，締まり強
21　褐　色　ローム粒子多量
22　暗 褐 色　ロームブロック中量，炭化粒子微量　締まり強

遺物出土状況　土師質土器片30点（小皿・皿）が出土している。また，流れ込んだ土師器片14点も出土している。出土土器は細片のため，図示できない。

所見　重複関係から，第23号掘立柱建物跡の規模を大きくして第22号掘立柱建物跡への建て替えを行い，さらに，ほぼ同じ規模と構造で本建物への建て替えが行われたと考えられる。本建物の北側に第16号掘立柱建物跡の南妻が接しており，上屋構造では繋がっていた建物と考えられる。時期は，重複関係及び出土土器から14世紀前葉まで機能していたと考えられる。



第112図　第20号掘立柱建物跡実測図(1)



第113図　第20号掘立柱建物跡実測図(2)

第21号掘立柱建物跡（第114・115図）

位置　調査区中央部のＣ３h2区で，標高18.8 ～ 18.9m の台地緩斜面部に位置している。

重複関係　第９号ピット群Ｐ11に掘り込まれている。

規模と構造　桁行３間，梁行２間の側柱建物の身舎に四面庇又は縁が付属した建物跡で，桁行方向をＮ－77°－Ｗとする東西棟である。庇を含めた規模は桁行7.2m（24尺），梁行5.5m（18尺）で，身舎の規模は，桁行4.9m（16尺），梁行3.4m（11尺）である。柱間寸法は身舎が1.65m（５尺５寸）を基調とし，四面庇は1.05m（３尺５寸）を基調としている。

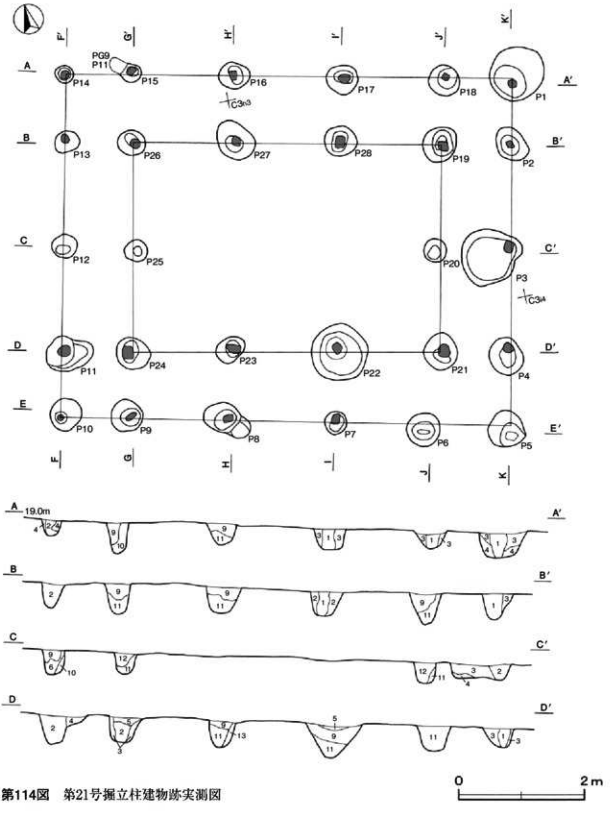
柱穴　28か所。平面形は長径0.30 ～ 0.90m，短径0.28 ～ 0.88m の円形又は楕円形である。断面形はＵ字状又は逆台形状を呈し，深さは28 ～ 50cmである。柱材は，確認された柱のあたりから一辺10 ～ 15cmの角材と考えられる。柱抜き取り痕は土層断面中の第１・２・６・８・９層が相当し，締まりが弱い。その他の層はローム土を主体とした埋土である。柱穴の大きさにばらつきが見られるのは，柱を抜き取る時に広げられたものと考えられる。

土層解説

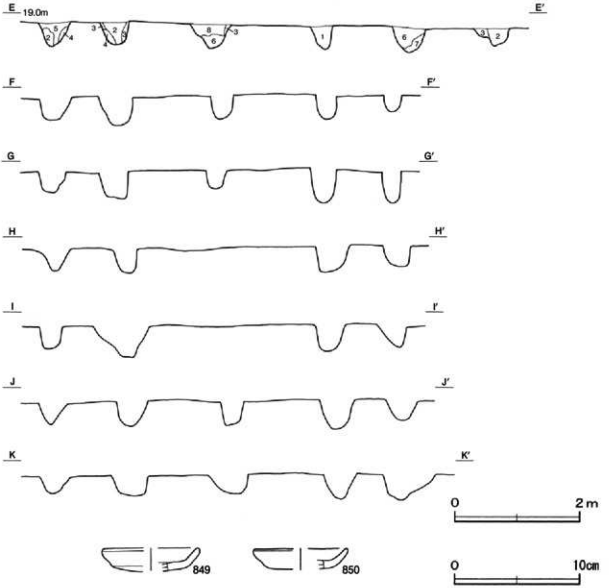
1　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
2　灰　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
3　褐　　色　ロームブロック少量
4　褐　　色　ローム粒子多量
5　暗　褐　色　ロームブロック少量
6　褐　　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
7　褐　　色　ロームブロック中量
8　褐　　色　ローム粒子中量
9　黒　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
10　暗　褐　色　ローム粒子少量
11　褐　　色　ローム粒子少量
12　にぶい褐色　ロームブロック中量
13　黒　褐　色　ロームブロック微量

遺物出土状況　土師質土器片19点（小皿・皿）が出土している。また，流れ込んだ土師器片23点も出土している。849・850はＰ１の柱抜き取り痕から出土している。

所見　本建物の南約６ｍに主屋と考えられる第16号掘立柱建物跡が位置している。本建物の身舎の西妻と第16号掘立柱建物跡の身舎の西平は柱筋を揃えており，関連性のある建物と考えられる。時期は，出土土器から14世紀初頭まで機能していたと考えられる。



第114図　第21号掘立柱建物跡実測図



第115図　第21号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第21号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第115図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
849	土師質土器	小皿	[7.6]	1.8	－	赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ　体部内・外面ナデ	Ｐ１柱抜き取り痕	20%
850	土師質土器	小皿	[7.4]	1.6	－	砂粒	橙	普通	口縁部横ナデ　体部内・外面ナデ	Ｐ１柱抜き取り痕	15%

第22号掘立柱建物跡（第116～118図）

位置　調査区中央部のＤ３f3区で，標高18.6～18.8m の台地緩斜面部に位置している。

重複関係　第23号掘立柱建物跡を掘り込み，第20号掘立柱建物に掘り込まれている。

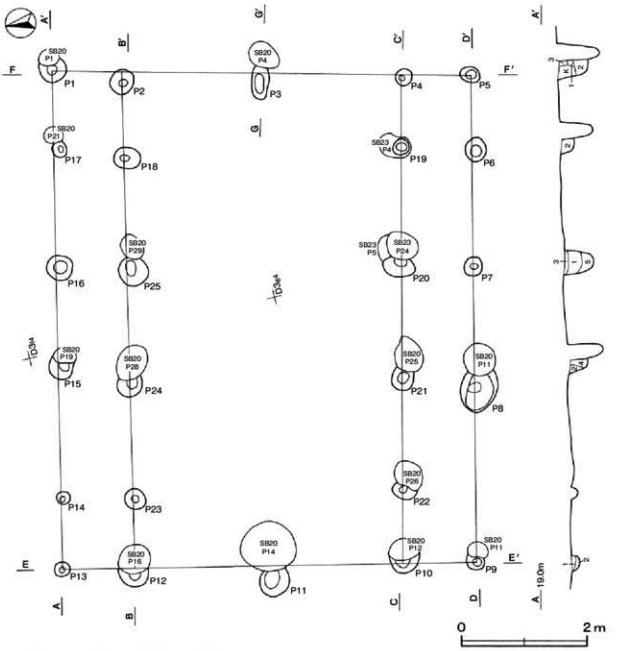
規模と構造　桁行５間，梁行２間の側柱建物の身舎に二面庇が付属した建物跡で，桁行方向をＮ－77°－Ｗとする東西棟である。庇を含めた規模は桁行7.8m（26尺），梁行6.7m（22尺）で，身舎の規模は，桁行7.8m（26尺），梁行4.3m（14尺）である。柱間寸法は桁行が1.8m（６尺）を基調とし，梁行は1.05m（３尺５寸）を基調とし

ている。

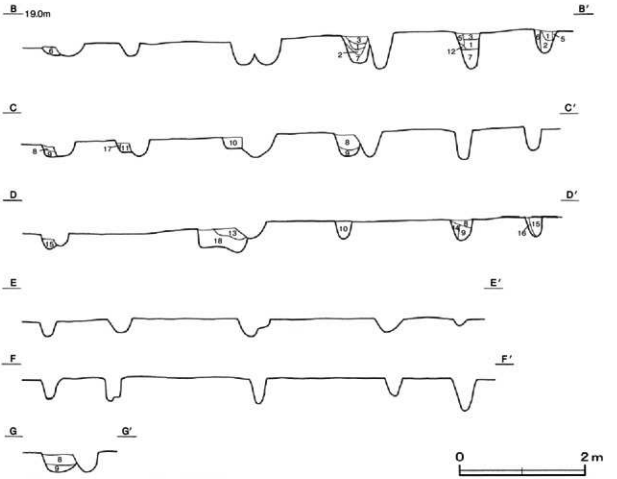
柱穴　25か所。平面形は長径0.26～0.88m，短径0.22～0.78mの円形又は楕円形である。断面形はU字状又は逆台形状を呈し，深さは12～66cmである。柱抜き取り痕は土層断面中の第3・8・9層が相当し，締まりが弱い。第18層は柱のあたりが確認された層で締まりが強い。その他の層はローム土を主体とした埋土である。

土層解説

1　暗 褐 色　ローム粒子中量　締まり強
2　褐　　色　ロームブロック少量
3　暗 褐 色　ローム粒子少量
4　暗 褐 色　ロームブロック微量
5　褐　　色　ローム粒子中量　締まり強
6　褐　　色　ローム粒子少量　締まり強
7　暗 褐 色　ロームブロック中量　締まり強
8　黒 褐 色　ロームブロック微量
9　暗 褐 色　ロームブロック少量
10　暗 褐 色　ロームブロック・炭化粒子微量
11　黒 褐 色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
12　黒 褐 色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
13　暗 褐 色　ロームブロック中量
14　褐　　色　ロームブロック中量
15　極暗褐色　ロームブロック微量
16　暗 褐 色　ローム粒子少量
17　暗 褐 色　ローム粒子中量
18　黒 褐 色　ロームブロック少量，炭化粒子微量　締まり強



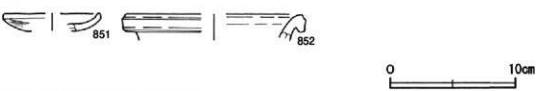
第116図　第22号掘立柱建物跡実測図(1)



第117図　第22号掘立柱建物跡実測図(2)

遺物出土状況　土師質土器片30点（小皿・皿），陶器 1 点（壺）が出土している。また，流れ込んだ土師器片14点も出土している。851・852はＰ19の柱抜き取り痕から出土している。

所見　重複関係から，第23号掘立柱建物の規模を大きくして本建物への建て替えを行い，ほぼ同じ規模と構造で第20号掘立柱建物への建て替えが行われたと推測される。本建物の北側に第16号掘立柱建物跡の南妻が接しており，上屋構造では繋がっていた建物と考えられる。時期は，重複関係及び出土土器から13世紀後葉まで機能していたと考えられる。



第118図　第22号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第22号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第118図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備　考
851	土師質土器	小皿	[7.6]	(1.4)	－	雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ　体部内・外面ナデ	Ｐ19柱抜き取り痕	10%
852	陶器	玉縁口縁壺	[14.0]	(2.1)	－	長石・石英	にぶい赤褐	良好	ロクロナデ	Ｐ19柱抜き取り痕	5%　常滑6b型式

第23号掘立柱建物跡（第119図）

位置　調査区中央部のＤ３f3区で，標高18.6 ～ 18.8m の台地緩斜面部に位置している。

重複関係　第372号土坑を掘り込み，第20・22号掘立柱建物に掘り込まれている。

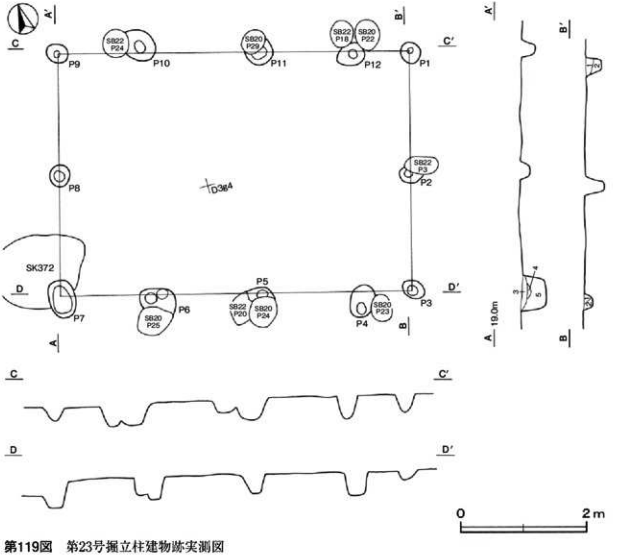
規模と構造　桁行４間，梁行２間の側柱建物で，桁行方向をＮ－76°－Ｗとする東西棟である。規模は桁行5.6m（18.5尺），梁行3.8m（12.5尺）である。柱間寸法は桁行が1.5m（５尺）を基調とし，梁行は1.8m（６尺）を基調としている。

柱穴　12 か所。平面形は長径0.34 ～ 0.61m，短径0.28 ～ 0.48m の円形又は楕円形である。断面形はＵ字状又は逆台形状を呈し，深さは15 ～ 42㎝である。柱抜き取り痕は土層断面中の第 3 層が相当し，締まりが弱い。その他の層はローム土を主体とした埋土である。

土層解説

1　暗 褐 色　ローム粒子中量　締まり強
2　褐　　色　ロームブロック少量
3　暗 褐 色　ローム粒子少量
4　暗 褐 色　ローム粒子微量　締まり強
5　暗 褐 色　ロームブロック微量

遺物出土状況　土師質土器片１点（小皿）が出土している。また，流れ込んだ土師器片１点も出土している。出土土器は細片のため，図示できない。



第119図　第23号掘立柱建物跡実測図

所見　重複関係から，同じ場所で本建物の規模を大きくして第22号掘立柱建物への建て替えを行い，さらに，ほぼ同じ規模と構造で第20号掘立柱建物への建て替えが行われたと考えられる。本建物の北約２ｍに主屋と考えられる第16号掘立柱建物跡が位置し，ほぼ軸方向を揃えている。時期は，重複関係から13世紀後葉まで機能していたと考えられる。

表６　中世掘立柱建物跡一覧表

番号	位置	桁行方向	柱間数（桁×梁）	規模（m）	面積（㎡）	構造	桁行柱間（m）	梁行柱間（m）	柱穴平面型	深さ（cm）	主な出土遺物	時期	備考 新旧関係（旧→新）
16	D３a2	N－14°－E	7×3（9×5）	15.01×6.42（17.94×9.16）	96.36（164.33）	総柱（四面庇）	1.35～2.50	1.30～2.16	円形，楕円形	16～68	土師質土器(小皿・椀)，石器（砥石），瓦，古銭（開元通宝）	13世紀後葉～14世紀初頭	SI123・125→本跡→SK362・365
17	D３a7	N－78°－W	5×2（5×3）	10.50×6.00（10.50×8.00）	63.00（84.00）	総柱（南庇）	0.74～3.80	0.80	円形，楕円形	21～72	土師質土器(小皿・椀)	14世紀前葉	SI74・124→本跡
20	D３f3	N－76°－W	5×4（5×6）	7.80×4.31（7.80×6.70）	33.62（52.26）	側柱（南北二面庇）	1.15～3.00	0.88～1.21	円形，楕円形	12～66	土師質土器(小皿・椀)	14世紀前葉	SB22・23→本跡
23	C３h2	N－77°－W	3×2（5×4）	4.90×3.35（7.15×5.50）	16.42（39.33）	側柱（四面庇）	1.05～1.75	1.05～1.65	円形，楕円形	28～50	土師質土器(小皿・椀)	14世紀前葉	本跡→PG９P11
22	D３f3	N－77°－W	5×2（5×4）	7.80×4.30（7.80×6.70）	33.54（52.26）	側柱（南北二面庇）	1.13～2.75	1.05～2.25	円形，楕円形	12～66	土師質土器(小皿・椀)，陶器(壺)	13世紀後葉	SB23→本跡→SB20
23	D３f3	N－76°－W	4×2	5.60×3.84	21.50	側柱	0.81～1.95	1.80～1.95	円形，楕円形	15～42	土師質土器(小皿)	13世紀後葉	SK372→本跡→SB20・22

(3)　柵跡

第２号柵跡（第120図）

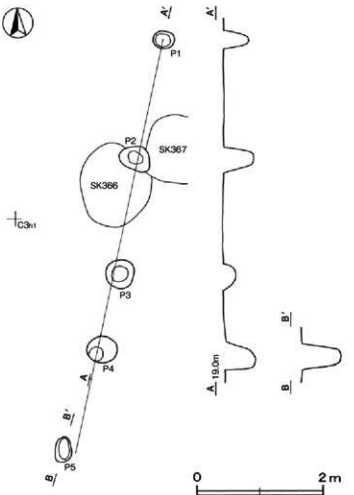
位置　調査区中央部のＣ３g1区で，標高18.7 ～ 18.9m の台地緩斜面部に位置している。

重複関係　第366・367号土坑を掘り込んでいる。

規模と構造　長さ6.6m で，列方向はＮ－13°－Ｅである。柱間寸法は1.8m（６尺）を基調としている。

柱穴　５か所。径0.38 ～ 0.48m の円形である。深さは20 ～ 61㎝で，断面形はＵ字状である。土層は暗褐色土で締まりが弱く，すべて抜き取り痕と考えられる。

所見　本跡の東約3.3m に軸方向を揃える第21号掘立柱建物跡が位置しており，区画の機能を持っていたと推測される。時期は，周囲の遺構との関連から13世紀後葉から14世紀前葉と考えられる。



第120図　第２号柵跡実測図

(4) 溝跡

第52号溝跡（第121・122図）

位置　調査区東部のＣ４c0区～Ｄ４c9区で，標高18.0 ～ 18.5m の台地緩斜面部に位置している。本跡は北部が平成14年度の調査区域にまたがっている。

重複関係　第84・106号住居跡，第54号溝跡，第404号土坑を掘り込み，第36号溝に掘り込まれている。

規模と形状　Ｄ４c9区から北方向（Ｎ－12°－Ｅ）にほぼ直線的に延び，Ｃ４c0区で平成14年度調査区域に至っている。規模は確認した長さが41.4m で，上幅1.04m，下幅0.22m，深さ28cmである。底面は平坦で，断面形がＵ字状を呈し，壁は外傾して立ち上がっている。

覆土　３層からなる。ロームブロックを含む不自然な堆積状況を示した人為堆積と考えられる。

土層解説
1　極暗褐色　ロームブロック微量
2　黒 褐 色　ローム粒子微量
3　黒 褐 色　ロームブロック微量

遺物出土状況　土師質土器片36点（小皿・皿），縄文土器片１点，土師器片96点，須恵器片１点，石製模造品１点が出土している。896・900は中央部の覆土中層，899は南部の覆土中層，895・897・901は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　本跡は第54号溝跡を掘り込みながら，同規模でほぼ平行して延びていることから，掘り直された溝と考えられる。重複関係や遺構の様相から方形居館廃絶後の区画溝と推定される。時期は，重複関係及び出土土器から14世紀後半以降と考えられる。

第54号溝跡（第121・123図）

位置　調査区東部のＣ４c0区～Ｄ４c9区で，標高18.0 ～ 18.5m の台地緩斜面部に位置している。本跡は北部が平成14年度の調査区域にまたがっている。

重複関係　第84・106号住居跡を掘り込み，第36・52号溝に掘り込まれている。

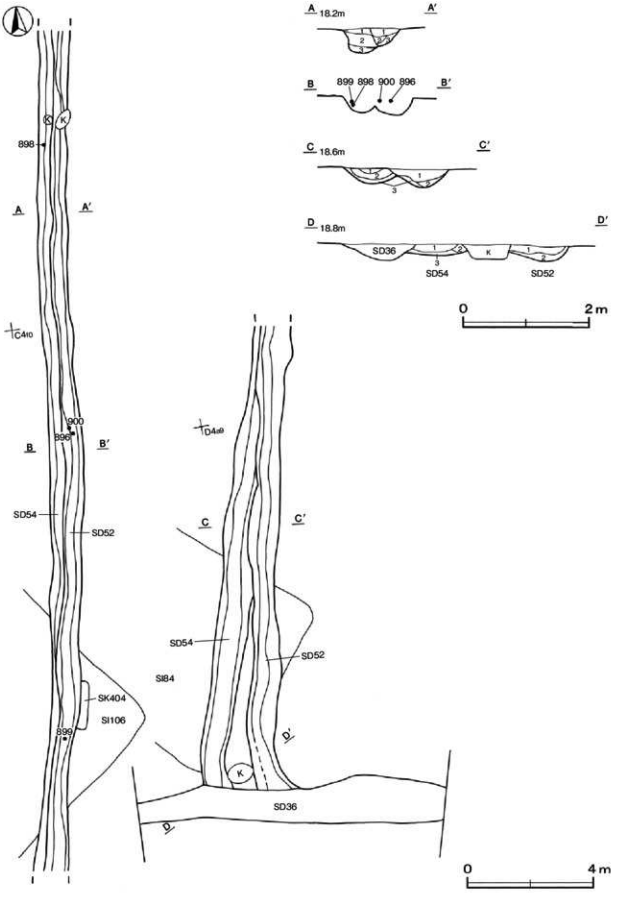
規模と形状　Ｄ４c9区から北方向（Ｎ－12°－Ｅ）にほぼ直線的に延びている。Ｃ４c0区で平成14年度調査区域に至っている。規模は長さが41.4m で，上幅0.68m，下幅0.22m，深さ53cmである。形状は断面形がＵ字状を呈し，壁は外傾して立ち上がっている。

覆土　３層からなる。ロームブロックを含む不自然な堆積状況を示した人為堆積と考えられる。

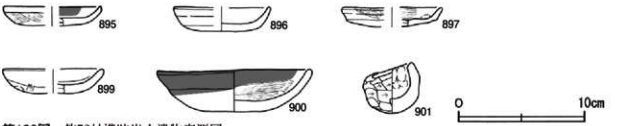
土層解説
1　褐　　色　ローム粒子中量
2　暗 褐 色　ロームブロック微量
3　褐　　色　ローム粒子中量

遺物出土状況　土師質土器片２点（小皿・皿）が出土している。898は北部の覆土中層から出土している。

所見　本跡はほぼ同じ規模で平行して延びる第52号溝に掘り込まれており，掘り直しが行われた区画溝と考えられる。廃絶時期は，出土土器から14世紀後半以降と考えられる。



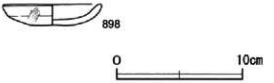
第121図　第52・54号溝跡実測図



第122図　第52号溝跡出土遺物実測図

第52号溝跡出土遺物観察表（第122図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
895	土師質土器	小皿	[7.6]	1.5	－	赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ　体部内・外面ナデ	覆土中	40%　内面煤付着
896	土師質土器	小皿	[7.6]	1.9	－	赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ	中央部覆土中層	30%
897	土師質土器	小皿	[8.0]	1.5	－	黒色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ	覆土中	30%
899	土師質土器	小皿	[8.0]	1.9	－	赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ　体部内・外面ナデ	南部覆土中層	45%
900	土師質土器	皿	12.2	3.4	－	赤色粒子・白色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ　体部内・外面ナデ	中央部覆土中層	80%　内・外面煤付着　PL38
901	土師器	ミニチュア土器	3.5	4.1	－	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ	覆土中	90%　PL36



第123図　第54号溝跡出土遺物実測図

第54号溝跡出土遺物観察表（第123図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
898	土師質土器	小皿	7.6	1.5	－	赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ　体部内・外面ナデ	北部覆土中層	50%

第58号溝跡（第124・125図）

位置　調査区西部のＣ２e1 ～Ｅ３b3区で，標高18.3 ～ 18.5mの台地緩斜面部に位置している。

重複関係　第３・71号溝跡を掘り込み，第56・60・61・67号溝，第310号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　Ｅ３b3区から北西方向（Ｎ－37°－Ｗ）にほぼ直線的に延び，Ｃ２e1区で調査区域外に至っている。規模は確認できた長さが82.7mで，上幅0.86 ～ 1.52m，下幅0.44 ～ 0.78m，深さ48 ～ 104㎝である。形状は断面形が逆台形を呈し，壁は外傾して立ち上がっている。

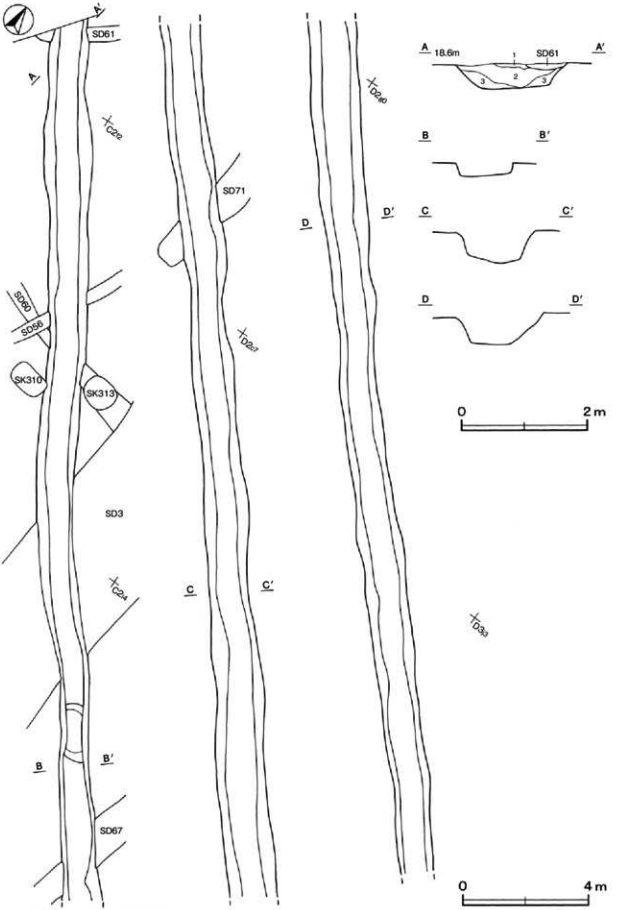
覆土　３層からなる。ロームブロックを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積と考えられる。

土層解説

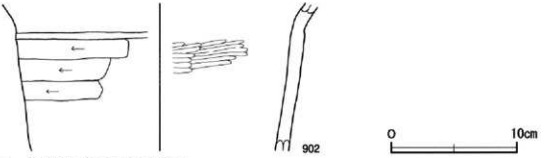
1　暗 褐 色　ロームブロック少量
2　暗 褐 色　ロームブロック中量
3　褐　　色　ロームブロック多量

遺物出土状況　土師質土器片４点（小皿・皿），縄文土器片３点，土師器片327点，須恵器片８点，鉄滓１点が出土している。902は覆土中から出土しており，流れ込んだものと考えられる。

所見　重複関係や遺構の様相から方形居館廃絶後の区画溝と考えられる。時期は，重複関係から中世後半と考えられる。



第124図　第58号溝跡実測図



第125図　第58号溝跡出土遺物実測図

第58号溝跡出土遺物観察表（第125図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
902	土師器	甕	－	(11.7)	－	長石・石英	橙	普通	体部外面ヘラ削り　内面ヘラ磨き	覆土中	5%

第69号溝跡（第126図・付図１）

位置　調査区西部のＣ２g6 ～ Ｅ３b4区で，標高18.5 ～ 18.7m の台地緩斜面部に位置している。

重複関係　71号溝跡，第350・351・354号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状　Ｅ３b4区から北西方向（Ｎ－28°－Ｗ）にほぼ直線的に延び，Ｃ２g6区に至っている。規模は確認できた長さが65.6m で，上幅1.10m，下幅0.48m，深さ30cmである。断面形はＵ字状を呈し，壁は外傾して立ち上がっている。

覆土　３層からなる。ロームブロックを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ロームブロック少量
2　暗褐色　ロームブロック中量
3　褐　色　ロームブロック多量

遺物出土状況　土師質土器片14点（小皿・皿），縄文土器片２点，土師器片53点，須恵器片１点，細礫３点が混在して出土している。905・906は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　重複関係や遺構の様相から方形居館廃絶後の区画溝と考えられる。時期は，重複関係及び出土土器から14世紀後半以降と考えられる。

第126図　第69号溝跡・出土遺物実測図

第69号溝跡出土遺物観察表（第126図）

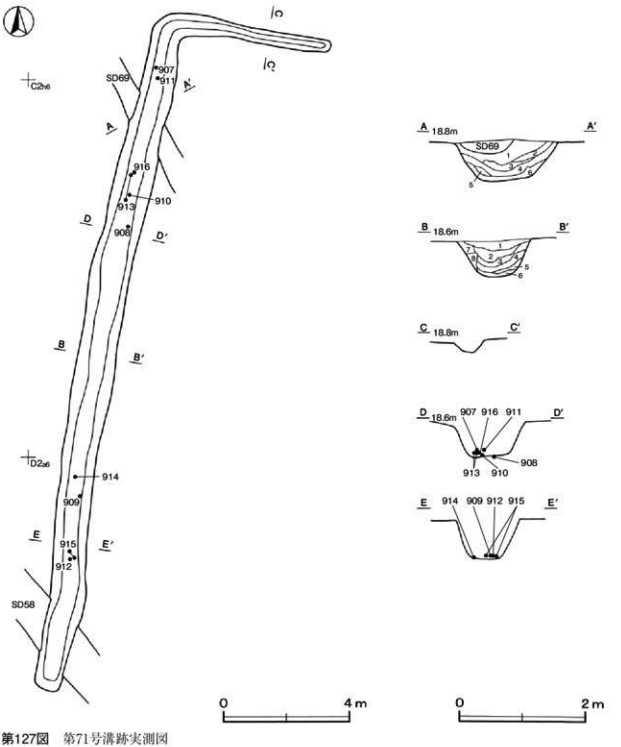
番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
905	土師質土器	小皿	[7.8]	(1.8)	－	雲母・赤色粒子・細礫	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ　体部内・外面ナデ	覆土中	15%
906	土師質土器	皿	[12.6]	3.3	－	赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ　体部内・外面ナデ	覆土中	30%

第71号溝跡（第127・128図）

位置　調査区西部のＣ２g7～Ｄ２b6区で，標高18.4～18.5mの台地緩斜面部に位置している。

重複関係　第58・69号溝に掘り込まれている。

規模と形状　Ｄ２b6区から北方向（Ｎ－12°－Ｅ）にほぼ直線的に延び，Ｃ２g6区で東方向にほぼ直角に屈曲してＣ２g7区に至っている。規模は長さが26.7mで，上幅1.14m，下幅0.64m，深さ53cmである。断面形は逆台形状を呈し，壁は外傾して立ち上がっている。



第127図　第71号溝跡実測図

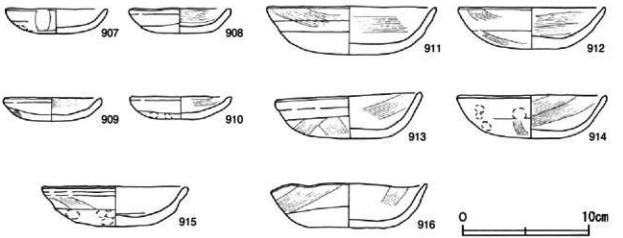
覆土　8層からなる。ロームブロックを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積と考えられる。

土層解説

1　極暗褐色　ロームブロック微量
2　黒　褐　色　ローム粒子微量
3　黒　褐　色　ロームブロック微量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
5　暗　褐　色　ローム粒子少量
6　褐　　色　ローム粒子中量
7　暗　褐　色　ロームブロック微量
8　褐　　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　土師質土器片36点（小皿・皿），縄文土器片１点，土師器片96点，須恵器片１点，石製模造品１点が混在して出土している。907・908・910・911・913・916は北部の覆土下層から底面にかけてそれぞれ出土している。909・912・914・915は南部の覆土下層から底面にかけてそれぞれ出土している。

所見　本跡は方形居館内の掘立柱建物群と方向を揃えており，南に位置する第74号溝とともに建物群と堀の間を区画する機能を持っていたと推測される。２条の溝の間は約1.8m 幅の通路になっていたと推測される。廃絶時期は，出土土器及び東に位置する建物群との関連から13世紀後葉から14世紀前葉と考えられる。



第128図　第71号溝跡出土遺物実測図

第71号溝跡出土遺物観察表（第128図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色調	焼成	手法の特徴		出土位置	備考
907	土師質土器	小皿	8.0	2.0	－	砂粒	橙	普通	口縁部横ナデ	体部内・外面ナデ	北部覆土下層	100%　PL37
908	土師質土器	小皿	7.9	2.0	－	砂粒	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ	体部内・外面ナデ	北部底面	95%
909	土師質土器	小皿	7.6	1.9	－	赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ	体部内・外面ナデ	南部覆土下層	90%
910	土師質土器	小皿	7.9	1.8	－	赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ	体部内・外面ナデ	北部底面	60%
911	土師質土器	皿	13.3	3.8	－	赤色粒子・砂粒	橙	普通	口縁部横ナデ	体部内・外面ナデ	北部覆土下層	100%　PL38
912	土師質土器	皿	11.5	3.3	－	赤色粒子・砂粒	橙	普通	口縁部横ナデ	体部内・外面ナデ	南部覆土下層	100%
913	土師質土器	皿	11.5	3.4	－	白色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ	体部内・外面ナデ	北部覆土下層	95%
914	土師質土器	皿	11.6	3.5	－	赤色粒子・石英	橙	普通	口縁部横ナデ	体部内・外面ナデ	南部底面	95%
915	土師質土器	皿	11.4	3.1	－	赤色粒子・砂粒	橙	普通	口縁部横ナデ	体部内・外面ナデ	南部覆土下層	95%
916	土師質土器	皿	12.3	3.5	－	赤色粒子・砂粒	橙	普通	口縁部横ナデ	体部内・外面ナデ	北部覆土下層	90%

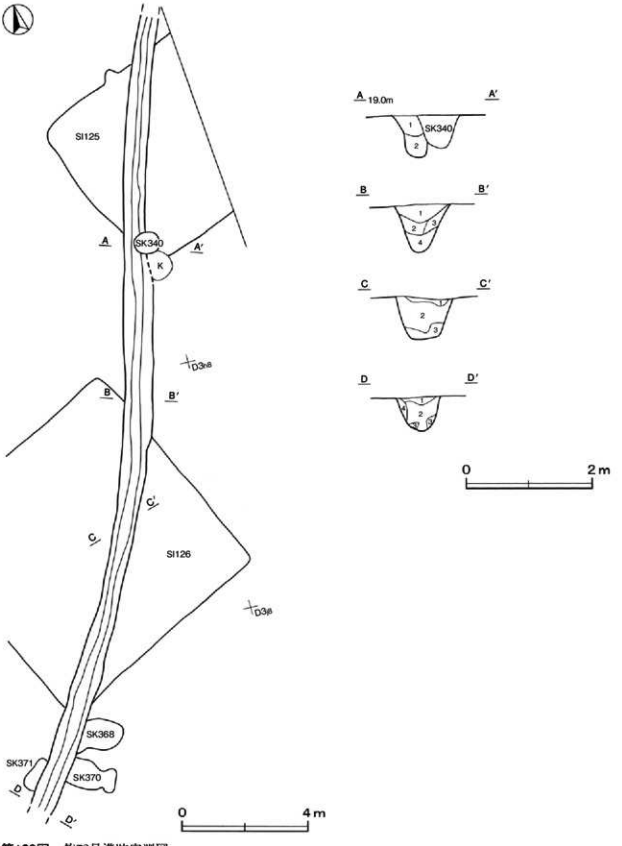
第72号溝跡（第129図）

位置　調査区中央部のＤ３e8～Ｅ３a5区で，標高18.7～18.9m の台地緩斜面部に位置している。

重複関係　第125・126号住居跡，第368・370・371号土坑を掘り込み，第340号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　Ｅ３a5区から北東方向（Ｎ－22°－Ｅ）にほぼ直線的に延びている。規模は確認できた長さが

26.8m で，上幅0.60 ～ 0.96m，下幅0.18 ～ 0.34m，深さ54 ～ 76 ㎝である。形状は断面形がU字状を呈し，壁は外傾して立ち上がっている。



第129図　第72号溝跡実測図

覆土　4層からなる。ロームブロックを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積と考えられる。

土層解説

1　褐　色　ロームブロック少量	3　褐　色　ロームブロック中量
2　暗褐色　ロームブロック少量	4　褐　色　ロームブロック多量

遺物出土状況　土師質土器片18点（小皿・皿），陶器片１点，土師器18点，石製品２点，鉄滓１点が出土している。出土遺物は細片のため，図示できない。

所見　本跡は方形居館の南の入口である第２号土橋跡付近から北に延びており，重複関係及び遺構の様相から第36号溝とともに，館が廃絶した後に成立した墓域を方形に区画した溝と考えられる。時期は，重複関係から14世紀後半以降と考えられる。

第74号溝跡（第130図）

位置　調査区西部のＤ２c5～Ｄ２d5区で，標高18.2～18.3mの台地緩斜面部に位置している。

規模と形状　Ｄ２d5区から北方向（Ｎ－６°－Ｅ）にほぼ直線的に延びている。規模は確認できた長さが6.6mで，上幅1.01m，下幅0.57m，深さ25cmである。断面形はＵ字状を呈し，壁は外傾して立ち上がっている。

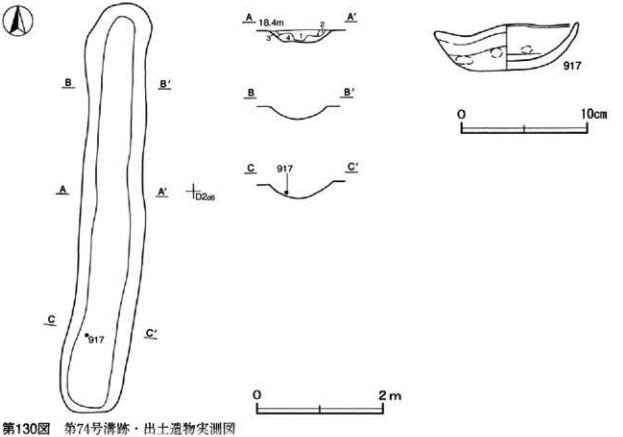
覆土　4層からなる。ロームブロックを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積と考えられる。

土層解説

1　黒褐色　ロームブロック・炭化粒子微量	3　褐　色　ロームブロック少量
2　暗褐色　ロームブロック少量	4　褐　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　土師質土器片１点（皿）が出土している。917は南部の覆土下層から出土している。

所見　本跡は，北に位置する第71号溝とともに建物群と堀の間を区画する機能を持っていたと推測される。２



第130図　第74号溝跡・出土遺物実測図

条の溝の間は約1.8m 幅の通路になっていたと推測される。廃絶時期は，出土土器及び東に位置する建物群との関連から13世紀後葉から14世紀前葉と考えられる。

第74号溝跡出土遺物観察表（第130図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
917	土師質土器	皿	11.4	3.6	－	赤色粒子・砂粒	橙	普通	口縁部横ナデ　体部内・外面ナデ	南部覆土下層	80%

表7　中世溝跡一覧表

番号	位置	方向	形状	規模（m） 長さ	上幅	下幅	深さ(cm)	断面形	覆土	出土遺物	備考 新旧関係（旧→新）
52	C4c0～D4c9	N－12°－E	直線状	41.4	1.04	0.22	28	U字状	人為	土師質土器片，土師器片	SI84・106，SD54，SK404→本跡→SD36
54	C4c0～D4c9	N－12°－E	直線状	41.4	(0.68)	0.22	53	U字状	人為	土師質土器片	SI84・106→本跡→SD36・52
58	C2e1～E3b3	N－37°－W	直線状	82.7	0.86～1.52	0.44～0.78	48～104	逆台形	人為	土師質土器片	SD3・71→本跡→SD56・60・61・67，SK310
69	C2g6～E3b4	N－28°－W	直線状	(65.6)	1.10	0.48	30	U字状	人為	土師質土器片，土師器片	SD71,SK350・351・354→本跡
71	C2g7～D2b6	N－12°－E / N－80°－W	L字状	26.7	1.14	0.64	53	逆台形	人為	土師質土器片，土師器片	本跡→SD58・69
72	D3e8～E3a5	N－22°－E	直線状	(26.8)	0.60～0.96	0.18～0.34	54～76	U字状	人為	土師質土器片，陶器片	SI125・128，SK368・370・371→本跡→SK340
74	D2c5～D2d5	N－6°－E	直線状	6.6	1.01	0.57	25	U字状	人為	土師質土器片	

(5)　土坑

第336号土坑（第131・132図）

位置　調査区中央部のC3e4区で，標高18.8m の台地平坦部に位置している。

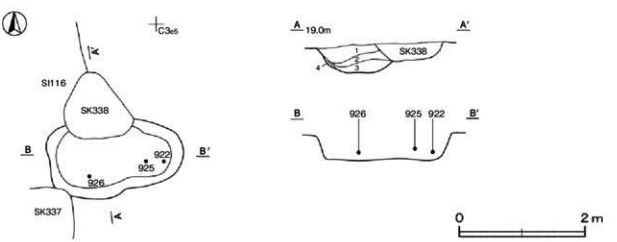
重複関係　第116号住居跡を掘り込み，第337・338号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長径2.18m，短径1.10m の楕円形で，長径方向はN－89°－Eである。深さは43cm，底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

覆土　4層からなる。ロームブロックを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積と考えられる。

土層解説

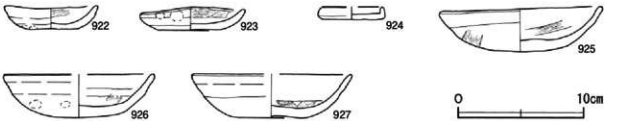
1　黒褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
2　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
3　暗褐色　ロームブロック少量
4　褐　色　ロームブロック中量



第131図　第336号土坑実測図

遺物出土状況　土師質土器片62点（小皿・皿），炭化物が出土している。また，流れ込んだ土師器片20点も出土している。922・925は東部の覆土下層，926は中央部の覆土下層，923・924・927は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　第21号掘立柱建物跡の北約10mに位置しており，同時期の土器が出土していることから関連性が考えられる。時期は，出土土器から13世紀後葉から14世紀前葉と考えられる。



第132図　第336号土坑出土遺物実測図

第336号土坑出土遺物観察表（第132図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
922	土師質土器	小皿	7.5	1.9	－	赤色粒子・砂粒	橙	普通	口縁部横ナデ　体部内・外面ナデ	東部覆土下層	100%　PL37
923	土師質土器	小皿	8.2	1.8	－	赤色粒子・黒色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ	覆土中	70%
924	土師質土器	小皿	[4.8]	1.0	4.7	赤色粒子・黒色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ	覆土中	30%
925	土師質土器	皿	12.6	3.4	－	赤色粒子・砂粒	浅黄橙	普通	口縁部横ナデ　体部内・外面ナデ	東部覆土下層	100%
926	土師質土器	皿	[11.9]	3.4	－	赤色粒子・黒色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ　体部内・外面ナデ	中央部覆土下層	60%
927	土師質土器	皿	[12.6]	3.4	－	赤色粒子・黒色粒子	浅黄橙	普通	口縁部横ナデ　体部内・外面ナデ	覆土中	50%

第343号土坑（第133図）

位置　調査区中央部のＤ３a8区で，標高18.8mの台地平坦部に位置している。

重複関係　第124号住居跡を掘り込んでいる。

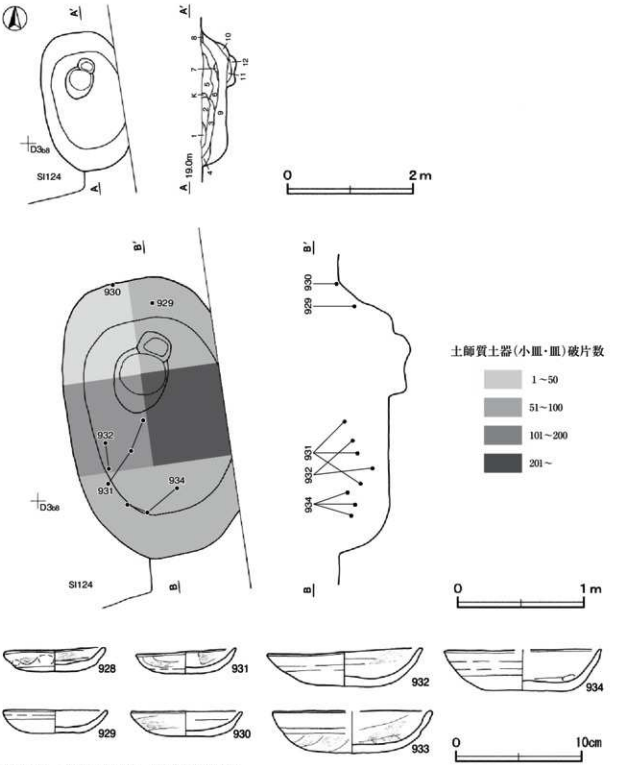
規模と形状　長径2.20m，短径1.25mの楕円形で，長径方向はＮ－11°－Ｗである。深さは58cmで，壁は外傾して立ち上がっている。底面は南部が平坦で，北部が円形状にくぼんでいる。

覆土　12層からなる。ロームブロックを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積と考えられる。

土層解説
1　暗 褐 色　炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量
2　黒 褐 色　炭化物・焼土粒子微量
3　黒 褐 色　炭化物・ローム粒子微量
4　暗 褐 色　ロームブロック・炭化粒子微量
5　褐　　色　砂粒中量，ロームブロック・炭化物微量
6　暗 褐 色　ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量
7　黒 褐 色　ローム粒子微量
8　極暗褐色　ロームブロック・焼土粒子微量
9　暗 褐 色　砂粒多量，ローム粒子少量
10　黒 褐 色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
11　黒 褐 色　砂粒少量，ロームブロック微量
12　暗 褐 色　ロームブロック中量，焼土粒子微量

遺物出土状況　土師質土器片751点（小皿・皿），炭化物が出土している。また，流れ込んだ土師器片84点も出土している。多量の小皿片・皿片は，主に中央部と南部の覆土上層から中層にかけて出土している。929は北部の覆土中層，930は北部の覆土上層，928・933は覆土中からそれぞれ出土している。932は中央部の覆土中層，931・934は中央部の覆土上層から中層にかけて出土した破片がそれぞれ接合したものである。

所見　覆土下層には砂粒が堆積しており，水がたまっていた状況が考えられることから園池状遺構の可能性が考えられる。廃絶時に使用した小皿等を一括投棄したと考えられる。時期は，出土土器から13世紀後葉から14世紀前葉と考えられる。



第133図　第343号土坑・出土遺物実測図

第343号土坑出土遺物観察表（第133図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
928	土師質土器	小皿	7.8	1.9	－	長石・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ	覆土中	90%
929	土師質土器	小皿	8.2	1.8	－	赤色粒子・砂粒	橙	普通	口縁部横ナデ	北部覆土中層	80% PL57
930	土師質土器	小皿	8.6	2.0	－	長石・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部横ナデ　体部内・外面ナデ	北部覆土上層	60%

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色調	焼成	手法の特徴		出土位置	備考
931	土師質土器	小皿	7.8	2.1	－	赤色粒子・砂粒	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ	体部内・外面ナデ	中央部覆土上層・中層	70%
932	土師質土器	皿	12.3	3.0	－	石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	口縁部横ナデ	体部内・外面ナデ	中央部覆土中層	60%
933	土師質土器	皿	[12.4]	3.4	－	長石・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ	体部内・外面ナデ	覆土中	50%
934	土師質土器	皿	[12.4]	3.3	－	赤色粒子・砂粒	明赤褐	普通	口縁部横ナデ	体部内・外面ナデ	中央部覆土上層・中層	50%

第344号土坑（第134図）

位置　調査区中央部のＤ３b7区で，標高18.8m の台地平坦部に位置している。

重複関係　第124号住居跡を掘り込んでいる。

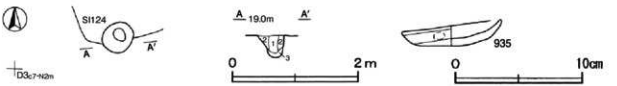
規模と形状　径0.50m の円形で，深さは36cmである。底面は皿状で，壁は外傾して立ち上がっている。

覆土　３層からなる。ロームブロックを含む不規則な堆積状況を示しており，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　黒褐色　ロームブロック・炭化粒子微量
2　暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
3　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量

遺物出土状況　土師質土器片５点（小皿・皿）が出土している。935は覆土中から出土している。

所見　本跡の東約0.6m に第17号掘立柱建物跡が位置し，出土土器が同時期であることから関連性が考えられる。時期は，出土土器から13世紀後葉から14世紀前葉と考えられる。



第134図　第344号土坑・出土遺物実測図

第344号土坑出土遺物観察表（第134図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
935	土師質土器	小皿	7.9	1.9	－	長石・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ	覆土中	60%

第364号土坑（第135図）

位置　調査区中央部のＣ３h1区で，標高18.9m の台地平坦部に位置している。

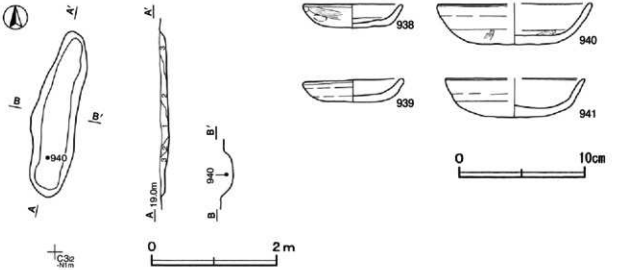
規模と形状　長径2.16m，短径0.72m の長楕円形で，長径方向はＮ－10°－Ｅである。底面はほぼ平坦で，壁は外傾して立ち上がっており，深さは14cmである。

覆土　３層からなる。ロームブロックを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積と考えられる。

土層解説
1　黒褐色　ロームブロック微量
2　暗褐色　ロームブロック少量
3　褐　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　土師質土器片44点（小皿・皿）が出土している。940は南部の覆土中層，938・939・941は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　本跡の東約0.6m に第21号掘立柱建物跡が軸方向を揃えて位置し，同時期の土器が出土していることから関連性が考えられる。時期は，出土土器から13世紀後葉から14世紀前葉と考えられる。



第135図　第364号土坑・出土遺物実測図

第364号土坑出土遺物観察表（第135図）

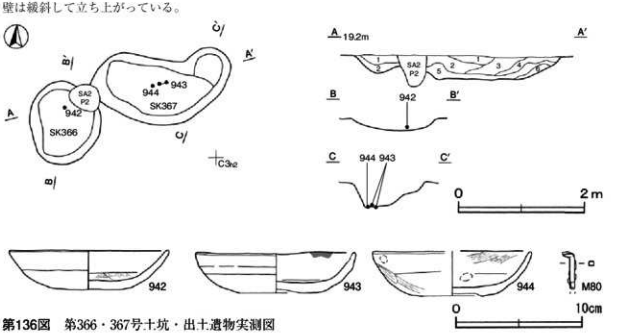
番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
938	土師質土器	小皿	7.8	1.9	－	長石・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ	覆土中	95%　PL37
939	土師質土器	小皿	7.9	1.9	－	長石・赤色粒子・黒色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ	覆土中	70%
940	土師質土器	皿	[12.3]	3.3	－	長石・赤色粒子・黒色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ	南部覆土中層	75%
941	土師質土器	皿	[11.1]	3.1	－	赤色粒子・砂粒	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ	覆土中	40%

第366号土坑（第136図）

位置　調査区中央部のＣ３g1区で，標高18.9m の台地平坦部に位置している。

重複関係　第２号柵跡Ｐ２に掘り込まれている。

規模と形状　長径1.31m，短径1.13m の楕円形で，長径方向はＮ－９°－Ｅである。深さは26cm，底面は皿状で，壁は緩斜して立ち上がっている。



第136図　第366・367号土坑・出土遺物実測図

覆土　2層からなる。ロームブロックを含む不規則な堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　黒褐色　ロームブロック微量　　2　褐　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　土師質土器片6点（小皿・皿）が出土している。942は北部の覆土下層から正位で出土した。

所見　本跡の東約3mに第21号掘立柱建物跡が位置し，出土土器が同時期と考えられることから関連性が推測される。時期は，出土土器から13世紀後葉から14世紀前葉と考えられる。

第366号土坑出土遺物観察表（第136図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
942	土師質土器	皿	12.5	3.1	－	赤色粒子・砂粒	浅黄橙	普通	口縁部横ナデ　体部内・外面ナデ	北部覆土下層	100%

第367号土坑（第136図）

位置　調査区中央部のＣ３g1区で，標高18.9mの台地平坦部に位置している。

重複関係　第２号柵跡Ｐ２に掘り込まれている。

規模と形状　長径2.19m，短径1.31mの不整楕円形で，長径方向はＮ－66°－Ｅである。深さは32cm，底面は平坦で，壁は緩斜して立ち上がっている。

覆土　6層からなる。ロームブロックを含む不規則な堆積状況を示しており，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ロームブロック少量
2　暗褐色　ロームブロック中量
3　暗褐色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
4　褐　色　ロームブロック中量
5　灰褐色　ローム粒子中量
6　褐　色　ローム粒子多量

遺物出土状況　土師質土器片15点（小皿・皿），鉄製品１点（釘）が出土している。また，流れ込んだ土師器片９点も出土している。943・944は中央部の底面，M80は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　本跡の東約３mに第21号掘立柱建物跡が位置し，出土土器が同時期と考えられることから関連性が推測される。時期は，出土土器から13世紀後葉から14世紀前葉と考えられる。

第367号土坑出土遺物観察表（第136図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
943	土師質土器	皿	12.6	3.3	－	赤色粒子・砂粒	橙	普通	口縁部横ナデ　体部内・外面ナデ	中央部底面	80%
944	土師質土器	皿	[12.4]	3.5	－	長石・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ　体部内・外面ナデ	中央部底面	30%

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　徴	出土位置	備考
M80	釘	(2.9)	0.5	0.4	(2.02)	鉄	先端部欠損	覆土中	PL39

第375号土坑（第137図）

位置　調査区中央部のＤ３b1区で，標高18.6mの台地平坦部に位置している。

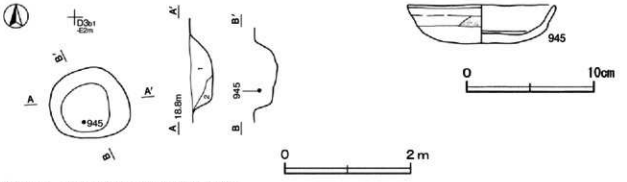
規模と形状　径1.31mの円形で，深さは37cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

覆土　2層からなる。ロームブロックを含む不規則な堆積状況を示しており，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　黒褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量　　2　褐　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　土師質土器片４点（小皿・皿）が出土している。また，流れ込んだ土師器片８点も出土している。945は南部の覆土上層から正位で出土している。

所見　本跡の東約2.4mに第16号掘立柱建物跡が位置し，出土土器が同時期であることから関連性が考えられる。時期は，出土土器から13世紀後葉から14世紀前葉と考えられる。



第137図　第375号土坑・出土遺物実測図

第375号土坑出土遺物観察表（第137図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
945	土師質土器	皿	11.6	3.1	－	石英・砂粒	橙	普通	口縁部横ナデ　体部内・外面ナデ	南部覆土上層	95%

第377号土坑（第138図）

位置　調査区中央部のＣ３j1区で，標高18.8mの台地平坦部に位置している。

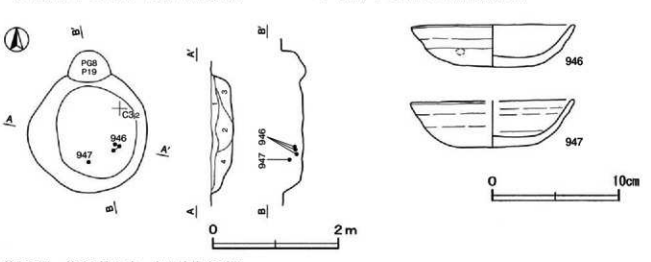
重複関係　第８号ピット群Ｐ19に掘り込まれている。

規模と形状　径1.93mの円形で，深さは33cmである。底面はほぼ平坦で壁は外傾して立ち上がっている。

覆土　４層からなる。ロームブロックを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積と考えられる。

土層解説

1　黒褐色　ロームブロック・炭化物微量
2　黒褐色　ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量
3　暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
4　暗褐色　ロームブロック中量，炭化粒子微量



第138図　第377号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況　土師質土器片29点（小皿・皿）が出土している。また，混入した土師器片42点も出土している。946は東部の覆土下層，947は南部の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見　第16・21号掘立柱建物跡の間に位置しており，同時期と考えられる土器が出土していることから関連性が考えられる。時期は，出土土器から13世紀後葉から14世紀前葉と考えられる。

第377号土坑出土遺物観察表（第138図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色調	焼成	手法の特徴		出土位置	備考
946	土師質土器	皿	13.0	3.4	－	赤色粒子・砂粒	橙	普通	口縁部横ナデ	体部内・外面ナデ	東部覆土下層	80%
947	土師質土器	皿	[13.0]	3.6	－	長石・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ	体部内・外面ナデ	南部覆土中層	40%

第404号土坑（第139図）

位置　調査区東部のＣ４ｈ0区で，標高17.6m の台地平坦部に位置している。

重複関係　第106号住居跡を掘り込み，第52号溝に掘り込まれている。

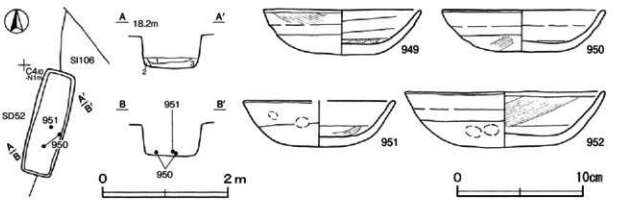
規模と形状　長軸1.69m，短軸0.57m の長方形で，長軸方向はＮ－14°－Ｅである。深さは54cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

覆土　３層からなる。ロームブロックを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ロームブロック少量
2　暗褐色　ロームブロック中量
3　暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

遺物出土状況　土師質土器４点（皿）が出土している。949・952は覆土中，950は中央部と南部，951は中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見　本跡の西約10m に第10号掘立柱建物跡が位置し，同時期の遺物が出土していることから関連性が考えられる。時期は，出土土器から14世紀前半と考えられる。



第139図　第404号土坑・出土遺物実測図

第404号土坑出土遺物観察表（第139図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色調	焼成	手法の特徴		出土位置	備考
949	土師質土器	皿	12.4	3.7	－	赤色粒子・砂粒	橙	普通	口縁部横ナデ	体部内・外面ナデ	覆土中	100%　PL38
950	土師質土器	皿	12.8	3.4	－	長石・赤色粒子	浅黄橙	普通	口縁部横ナデ	体部内・外面ナデ	中央部・南部覆土下層	95%
951	土師質土器	皿	[12.0]	3.7	－	赤色粒子・砂粒	浅黄橙	普通	口縁部横ナデ	体部内・外面ナデ	中央部覆土下層	60%
952	土師質土器	皿	15.8	4.5	－	赤色粒子・砂粒	橙	普通	口縁部横ナデ	体部内・外面ナデ	覆土中	100%

表8　中世土坑一覧表

土坑番号	位置	長径(軸)方向	平面形	規模 長径(軸)×短径(軸)(m)	規模 深さ(cm)	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 新旧関係(旧→新)
336	C3e4	N－89°－E	楕円形	2.18×1.10	43	外傾	平坦	人為	土師質土器片(小皿・皿)	SI116→本跡→SK337・338
343	D3a8	N－11°－W	[楕円形]	2.20×(1.25)	58	外傾	平坦	人為	土師質土器片(小皿・皿)	SI124→本跡
344	D3b7	N－0°	円形	0.50×0.47	36	外傾	皿状	人為	土師質土器片(小皿・皿)	SI124→本跡
364	C3h1	N－10°－E	長楕円形	2.16×0.72	14	外傾	平坦	人為	土師質土器片(小皿・皿)	
366	C3g1	N－9°－E	楕円形	1.31×1.13	26	外傾	皿状	人為	土師質土器片(小皿・皿)	本跡→SA2P2
367	C3g1	N－66°－E	不整楕円形	2.19×1.31	32	外傾	平坦	人為	土師質土器片,鉄製品	本跡→SA2P2
375	D3b1	N－0°	円形	1.31×1.20	37	外傾	平坦	人為	土師質土器片(小皿・皿)	
377	C3j1	N－0°	円形	1.93×1.93	33	外傾	平坦	人為	土師質土器片(小皿・皿)	本跡→PG8P19
404	C4h0	N－14°－E	長方形	1.69×0.57	54	外傾	平坦	人為	土師質土器片(皿)	SI106→本跡→SD52

(6)　火葬土坑

第342号土坑（第140図）

位置　調査区中央部のD3e3区で，標高18.6～18.7mの台地緩斜面部に位置している。

重複関係　第16号掘立柱建物跡P8・35を掘り込んでいる。

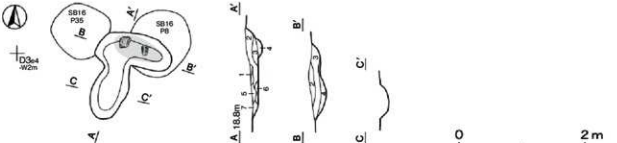
規模と形状　T字状を呈し，長径方向はN－17°－Eである。燃焼部は長径1.24m，短径0.52m，深さ24cmの楕円形で，壁は緩やかに立ち上がっている。底面は，通気溝との接点となる中央部に径20cm，深さ8cmほどのくぼみがある。通気溝は燃焼部の南壁中央部に設けられ，燃焼部と直交している。南壁からの長さは96cm，幅は56cmである。

覆土　7層からなる。骨片やロームブロック，炭化材を含む不規則な堆積状況を示した人為堆積と考えられる。

土層解説
1　褐　色　ロームブロック・焼土粒子中量
2　極暗褐色　炭化材中量，ローム粒子・焼土粒子少量
3　暗 褐 色　ローム粒子中量，焼土粒子・骨片少量
4　褐　色　ロームブロック中量，骨片少量
5　黒 褐 色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
6　暗 褐 色　ロームブロック少量。
7　暗 褐 色　ローム粒子中量，焼土粒子微量

遺物出土状況　土師質土器片5点（小皿・皿），骨片，炭化材が出土している。また，混入した土師器片2点も出土している。出土土器は細片のため，図示できない。

所見　骨片，焼土，炭化材が出土していることから，遺骸を火葬した土坑と考えられる。時期は，出土土器及び重複関係から14世紀後半以降と考えられる。



第140図　第342号土坑遺物実測図

第349号土坑（第141図）

位置　調査区中央部のＤ３h5区で，標高18.8m の台地平坦部に位置している。

重複関係　第126号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状　楕円形を２つ連ねた不整形を呈し，長径方向はＮ－87°－Ｅである。燃焼部は長径0.78m，短径0.48m，深さ43cmの楕円形で，壁は外傾して立ち上がっている。底面は，通気溝との接点となる中央部に深さ10cmほどのくぼみがある。通気溝は燃焼部の東壁中央部に設けられ，燃焼部と直交している。東壁からの長さは30cm，幅は18cmである。

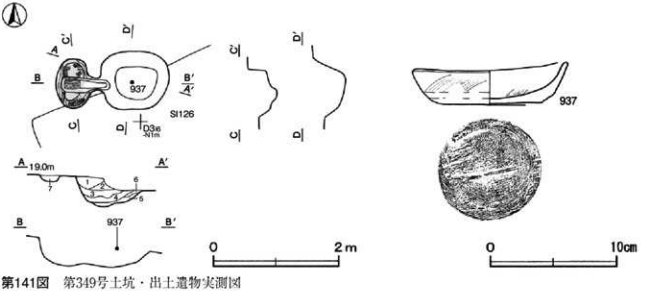
覆土　７層からなる。ロームブロックや焼土，炭化物を含む不規則な堆積状況を示した人為堆積と考えられる。

土層解説

1　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗褐色　ロームブロック少量，焼土ブロック微量
4　暗褐色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
5　褐　色　ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化物微量
6　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
7　褐　色　ロームブロック中量，焼土ブロック・骨片微量

遺物出土状況　土師質土器１点（皿），骨片，炭化物が出土している。また，流れ込んだ土師器片１点も出土している。937は東部の覆土上層から出土している。

所見　骨片，焼土，炭化物が出土していることから，遺骸を火葬した土坑と考えられる。時期は，出土土器から14世紀後半以降と考えられる。



第141図　第349号土坑・出土遺物実測図

第349号土坑出土遺物観察表（第141図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
937	土師質土器	皿	12.2	3.5	8.2	長石・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ	東部覆土上層	100%

第368号土坑（第142図）

位置　調査区中央部のＤ３j6区で，標高18.8m の台地平坦部に位置している。

重複関係　第72号溝に掘り込まれている。

規模と形状　確認できた燃焼部は長径1.06m，短径0.28m の楕円形で，長径方向はＮ－79°－Ｗである。深さは

42cmで，壁は外傾して立ち上がっている。底面は，通気溝との接点となる中央部にくぼみがある。通気溝は燃焼部東壁に設けられ，燃焼部とつながっている。東壁からの長さは116cm，幅は96cmである。

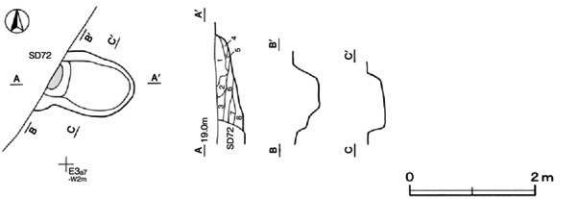
覆土　8層からなる。ロームブロックや焼土ブロック，炭化物を含む不規則な堆積状況を示した人為堆積と考えられる。

土層解説

1　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
3　暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　褐　色　ロームブロック中量
5　暗褐色　ローム粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
6　暗褐色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土ブロック微量
7　赤褐色　焼土ブロック中量
8　黒　色　焼土粒子・炭化粒子中量

遺物出土状況　土師質土器片２点（小皿・皿），骨片，炭化物が出土している。また，流れ込んだ土師器片１点も出土している。出土土器は細片のため，図示できない。

所見　骨片，焼土，炭化物が出土していることから，遺骸を火葬した土坑と考えられる。時期は，出土土器から14世紀後半以降と考えられる。



第142図　第368号土坑実測図

第369号土坑（第143図）

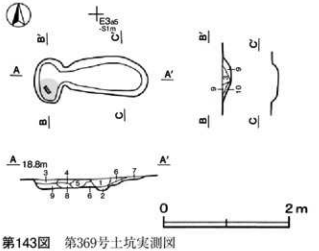
位置　調査区中央部のＥ３a4区で，標高18.8m の台地平坦部に位置している。

規模と形状　Ｔ字状を呈し，長径方向はＮ－89°－Ｗである。燃焼部は長径0.56m，短径0.44m，深さ14 cmの楕円形で，壁は緩やかに立ち上がっている。底面は，通気溝との接点となる中央部が10cmほどくぼんでいる。通気溝は燃焼部南壁の中央部に設けられ，燃焼部と直交している。南壁からの長さは132cm，幅は64cmである。

覆土　10層からなる。ロームブロックや焼土，炭化物を含む不規則な堆積状況を示した人為堆積と考えられる。

土層解説

1　暗褐色　ロームブロック少量
2　褐　色　ロームブロック少量
3　黒褐色　焼土ブロック・炭化物・ローム粒子微量
4　褐　色　焼土粒子中量，炭化物・ローム粒子微量
5　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
6　暗褐色　ロームブロック極微量
7　暗褐色　ロームブロック微量
8　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
9　黒褐色　炭化物少量，焼土粒子・炭化粒子微量
10　暗褐色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量



第143図　第369号土坑実測図

遺物出土状況　骨片，炭化物が出土している。また，流れ込んだ土師器片１点も出土している。

所見　骨片，炭化物が出土していることから，遺骸を火葬した土坑と考えられる。時期は，遺構の様相から中世と推測される。

第370号土坑（第144図）

位置　調査区中央部のＥ３a6区で，標高18.8m の台地平坦部に位置している。

重複関係　第72号溝に掘り込まれている。

規模と形状　楕円形と隅丸長方形を連結したような不整形で，長径方向はＮ－63°－Ｗである。燃焼部は長径0.76m，短径0.48m，深さ54cmの楕円形で，壁は垂直に立ち上がっている。底面は，通気溝との接点となる中央部が10cmほどくぼんでいる。通気溝は燃焼部の西壁中央部に設けられ，燃焼部と直交している。確認できた長さは112cm，幅は90cmである。

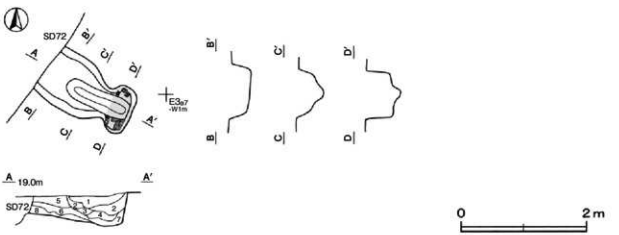
覆土　８層からなる。ロームブロックや焼土，炭化物を含む不規則な堆積状況を示した人為堆積と考えられる。

土層解説

1	暗	褐	色	ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量	5	暗	褐	色	ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2	暗	褐	色	焼土ブロック少量，炭化物微量	6	褐		色	ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化物微量
3	暗	褐	色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量	7	黒	褐	色	炭化粒子中量，焼土粒子少量，骨片微量
4	にぶい赤褐色			焼土ブロック・炭化粒子中量，骨片少量	8	黒	褐	色	炭化粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量

遺物出土状況　燃焼部から骨片，炭化物が出土している。

所見　骨片，焼土，炭化物が出土していることから，遺骸を火葬した土坑と考えられる。時期は，遺構の様相から中世と推測される。



第144図　第370号土坑実測図

表９　中世火葬土坑一覧表

土坑番号	位置	長径方向	平面形	規模 長径(軸)×短径(軸)(m)	規模 深さ(cm)	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 新旧関係(旧→新)
342	D３c3	Ｎ－17°－Ｅ	Ｔ字状	1.24×0.52	24	緩斜	凹凸	人為	土師質土器片(小皿・皿)，骨片，炭化材	SB16Ｐ８・Ｐ35→本
349	D３h5	Ｎ－87°－Ｅ	不整形	0.78×0.48	43	外傾	凹凸	人為	土師質土器(皿)，骨片，炭化物	SH26→本跡

土坑番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 新旧関係(旧→新)
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)					
368	D3j6	N－79°－W	(楕円形)	(1.06)×0.28	42	外傾	平坦	人為	土師質土器片(小皿・皿),骨片,炭化物	本跡→SD72
369	E3a4	N－89°－W	T字状	0.56×0.44	14	緩斜	平坦	人為	骨片,炭化物	
370	E3a6	N－63°－W	(不整形)	0.76×0.48	54	外傾	平坦	人為	骨片,炭化物	本跡→SD72

(7) ピット群

第７号ピット群（第145図）

位置　調査区中央部のＤ２a0 ～ Ｄ３d2区で，標高18.4 ～ 18.6m の台地緩斜面部に位置している。

規模と形状　南北14m，東西 8ｍの範囲にピット11か所が確認された。形状は径27 ～ 93㎝の円形，深さは10 ～ 59㎝で，断面形はＵ字状である。

覆土　柱の抜き取り痕は確認できず，暗褐色土で締まりが弱い。

遺物出土状況　土師質土器片４点（小皿・皿），土師器片６点（甕）が出土している。出土土器は細片のため，図示できない。

所見　本跡の東に第16号掘立柱建物が位置していることから，関連性が考えられる。時期は，出土土器及び遺構の様相から，13世紀後葉から14世紀前葉と考えられる。

第８号ピット群（第146図）

位置　調査区中央部のＣ２h0 ～ Ｃ３j3区で，標高18.7 ～ 18.9m の台地緩斜面部に位置している。

重複関係　第367・377号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状　南北12m，東西16m の範囲にピット30か所が確認された。形状は径20 ～ 70㎝の円形，深さは ９ ～ 64㎝で，断面形はＵ字状である。

覆土　柱の抜き取り痕は確認できず，暗褐色土で締まりが弱い。

遺物出土状況　土師質土器片13点（小皿・皿）が出土している。また，流れ込んだ土師器片12点（坏 ２，甕10）も出土している。953はＰ８の覆土中，954はＰ９の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見　本跡は，第16号掘立柱建物跡と第21号掘立柱建物跡の中間に位置し，出土土器が同時期と考えられることから関連性が考えられる。時期は，出土土器及び遺構の様相から，13世紀後葉から14世紀前葉と考えられる。

第９号ピット群（第147図）

位置　調査区中央部のＣ３e1 ～ Ｃ３g3区で，標高18.7 ～ 18.9m の台地緩斜面部に位置している。

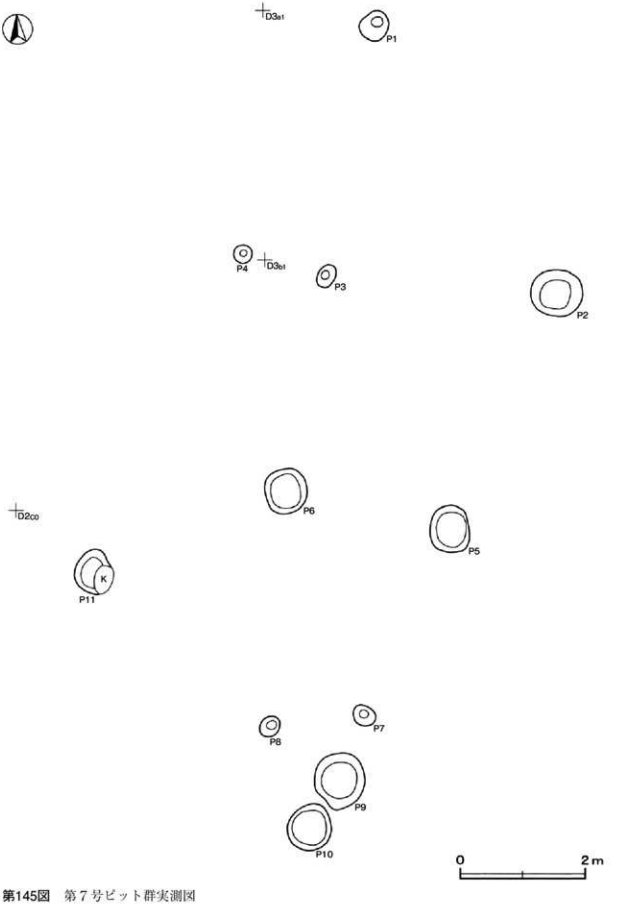
重複関係　第21号掘立柱建物跡Ｐ15を掘り込んでいる。

規模と形状　南北12m，東西 8ｍの範囲にピット23か所が確認された。形状は径24 ～ 78㎝の円形，深さは12 ～ 72㎝で，断面形はＵ字状である。

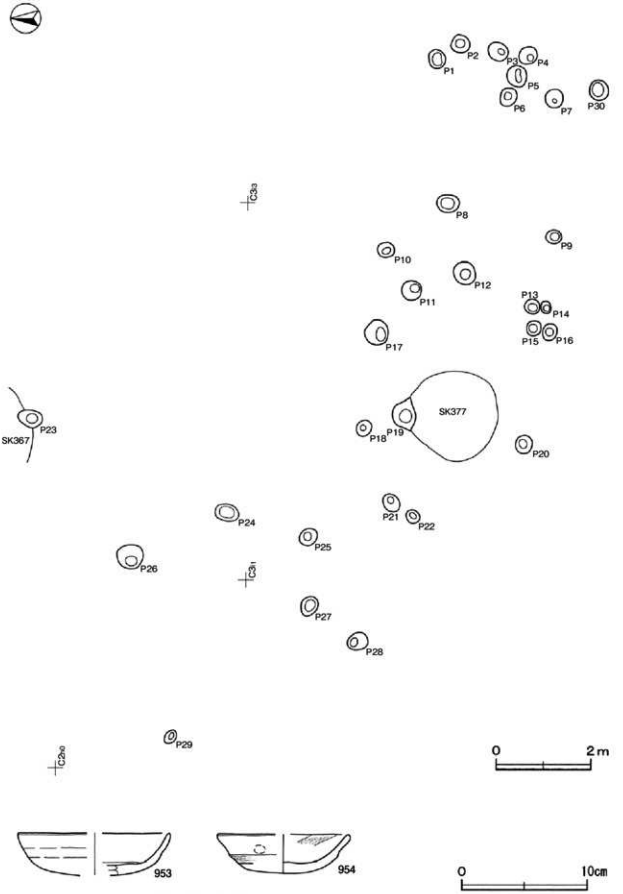
覆土　柱の抜き取り痕は確認できず，暗褐色土で締まりが弱い。

遺物出土状況　土師質土器片10点（小皿・皿）が出土している。また，流れ込んだ土師器片４点（坏１，甕３）も出土している。出土土器は細片のため，図示できない。

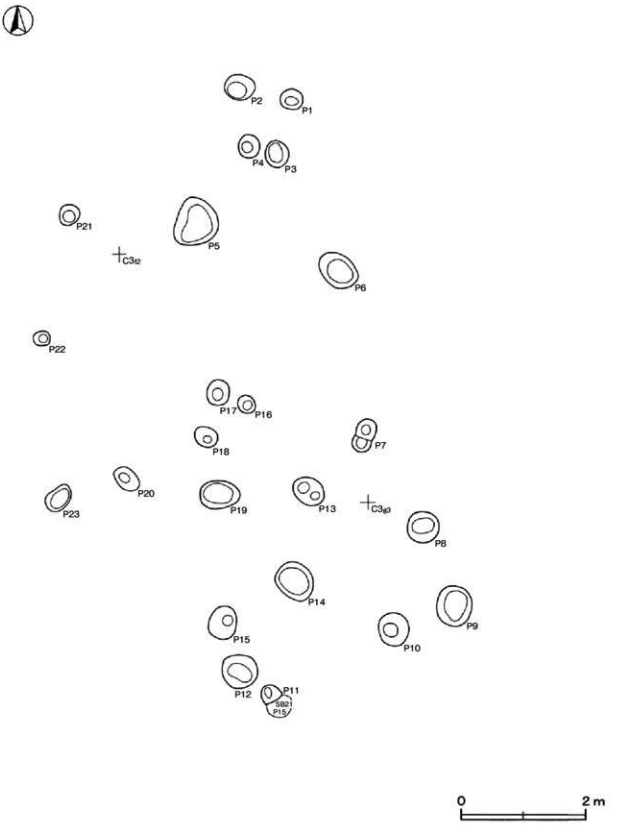
所見　本跡の南に，第21号掘立柱建物跡が位置し，出土土器が同時期と考えられることから関連性が考えられる。時期は，重複関係及び出土土器から，13世紀後葉から14世紀前葉と考えられる。



第145図　第７号ピット群実測図



第146図　第８号ピット群・出土遺物実測図



第147図　第９号ピット群実測図

第８号ピット群出土遺物観察表（第146図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
953	土師質土器	皿	[12.0]	3.3	－	赤色粒子・砂粒	橙	普通	口縁部横ナデ	Ｐ８覆土中	60%
954	土師質土器	皿	[10.3]	3.1	－	赤色粒子・砂粒	橙	普通	口縁部横ナデ	Ｐ９覆土下層	40%

第７号ピット群計測表（第145図）

番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)
Ｐ１	50	44	29	Ｐ５	78	68	20	Ｐ９	93	82	13
Ｐ２	83	76	23	Ｐ６	75	72	27	Ｐ10	75	70	14
Ｐ３	38	27	59	Ｐ７	39	30	24	Ｐ11	69	63	10
Ｐ４	30	29	25	Ｐ８	37	30	46				

第８号ピット群計測表（第146図）

番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)
Ｐ１	41	35	28	Ｐ11	47	44	34	Ｐ21	40	32	35
Ｐ２	41	39	41	Ｐ12	50	45	40	Ｐ22	28	30	31
Ｐ３	43	39	33	Ｐ13	31	30	28	Ｐ23	55	38	27
Ｐ４	41	35	33	Ｐ14	26	20	22	Ｐ24	49	36	9
Ｐ５	49	44	32	Ｐ15	35	33	34	Ｐ25	40	34	38
Ｐ６	43	35	27	Ｐ16	33	31	28	Ｐ26	70	56	64
Ｐ７	40	38	41	Ｐ17	57	50	47	Ｐ27	45	37	41
Ｐ８	47	40	23	Ｐ18	37	31	37	Ｐ28	44	35	31
Ｐ９	34	29	18	Ｐ19	70	49	38	Ｐ29	31	24	55
Ｐ10	36	35	55	Ｐ20	39	36	45	Ｐ30	44	43	17

第９号ピット群計測表（第147図）

番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)
Ｐ１	37	32	22	Ｐ９	66	57	26	Ｐ17	42	35	43
Ｐ２	50	42	16	Ｐ10	54	50	72	Ｐ18	39	31	42
Ｐ３	44	38	22	Ｐ11	57	42	47	Ｐ19	63	47	21
Ｐ４	36	34	21	Ｐ12	59	57	32	Ｐ20	45	32	45
Ｐ５	78	74	14	Ｐ13	54	43	24	Ｐ21	36	32	12
Ｐ６	69	50	37	Ｐ14	66	56	24	Ｐ22	27	24	17
Ｐ７	55	32	53	Ｐ15	53	44	46	Ｐ23	49	34	38
Ｐ８	52	51	29	Ｐ16	31	27	30				

表10　中世ピット群一覧表

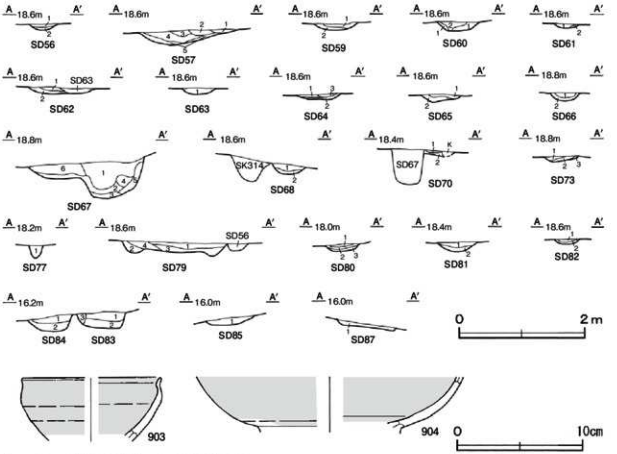
番号	位　置	範　囲		柱穴数	柱穴平面形	径(cm)	深さ(cm)	主な出土遺物	備　考 新旧関係(旧→新)
		南北(m)	東西(m)						
7	Ｄ２a0～Ｄ３d2	14	10	11	円形	30～93	10～72	土師質土器片	SB21→本跡
8	Ｃ２h0～Ｃ３j3	13	16	30	円形	26～70	9～64	土師質土器片	SK367・377→本跡
9	Ｃ３e1～Ｃ３g3	11	8	23	円形	27～78	24～78	土師質土器片	SB21→本跡

4　その他の遺構と遺物

今回の調査で，時期不明の溝跡24条，井戸跡１基，土坑78基，ピット群１か所が確認された。以下，確認された遺構と遺物について記述する。

(1) 溝跡（第148図）

時期不明の溝跡24条を確認した。以下，これらの遺構について，平面図は全体図に示し，土層断面図と一覧表を掲載する。



第148図　時期不明溝跡・出土遺物実測図

第56号溝跡土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子中量
2　黒　褐　色　ロームブロック微量

第57号溝跡土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック微量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量
3　黒　褐　色　ローム粒子少量
4　灰　褐　色　ロームブロック中量
5　褐　　色　ローム粒子多量

第59号溝跡土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量
2　極暗褐色　ロームブロック中量

第60号溝跡土層解説
1　極暗褐色　ローム粒子中量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量

第61号溝跡土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子少量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量

第62号溝跡土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子少量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量

第63号溝跡土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子少量

第64号溝跡土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量
2　褐　　色　ロームブロック中量
3　暗　褐　色　ローム粒子中量

第65号溝跡土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック微量
2　灰　褐　色　ロームブロック少量

第66号溝跡土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量
2　暗　褐　色　ローム粒子中量

第67号溝跡土層解説
1　極暗褐色　ロームブロック少量
2　極暗褐色　ローム粒子中量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量
4　暗　褐　色　ローム粒子中量
5　暗　褐　色　ロームブロック中量
6　褐　　色　ローム粒子多量

第68号溝跡土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量
2　灰　褐　色　ロームブロック中量

第70号溝跡土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック微量
2　褐　　色　ロームブロック少量

第73号溝跡土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量
2　褐　灰　色　ロームブロック少量
3　褐　　色　ロームブロック多量

第77号溝跡土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子少量

第79号溝跡土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量
2　暗　褐　色　ローム粒子中量
3　極暗褐色　ロームブロック中量
4　黒　褐　色　ローム粒子中量

第80号溝跡土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量
2　にぶい褐色　ロームブロック中量
3　褐　　色　ローム粒子多量

第81号溝跡土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量
2　褐　　色　ロームブロック中量

第82号溝跡土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子少量
2　褐　　色　ローム粒子中量

第83号溝跡土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量
2　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
3　褐　　色　ローム粒子中量

第84号溝跡土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック・炭化物微量

第85号溝跡土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量

第87号溝跡土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量

第67号溝跡出土遺物観察表（第148図）

番号	種　別	器　種	口径	器高	底径	胎土	色　調	焼成	手法の特徴	出土位置	備　考
903	陶器	天目茶碗	[11.0]	(5.1)	－	緻密	黒褐	良好	鉄釉	覆土中	10%　内面茶発疱　PL39
904	陶器	鉢	－	(4.5)	－	緻密	灰オリーブ	良好	灰釉，ロクロナデ	覆土中	5%

表11　時期不明溝跡一覧表

番号	位　置	方　向	形　状	規　模（m） 長さ	上幅	下幅	深さ(cm)	断面形	覆土	出土遺物	備　考 新旧関係(旧→新)
56	C2h2～C1j0	N－31°－E	直線状	(21.9)	0.48	0.24	7	U字状	自然	土師器片	SD58･60→本跡→SD59･79，SK308
57	C1g9～D1b7	N－23°－E	弧状	(24.88)	1.40	0.40	23	U字状	人為	土師質土器片，土師器片	本跡→SD79
59	C2f2～C2f3	N－78°－W	直線状	4.83	0.67	0.32	6	U字状	人為	－	SD56→本跡→SD3
60	C1f0～C2g3	N－70°－W	直線状	12.08	0.69	0.30	18	U字状	自然	土師器片	SD58･63→本跡→SD3･56，SK313
61	C2e1～C2d2	N－53°－E	直線状	5.73	0.36	0.20	8	U字状	－	－	SD58→本跡
62	C1f0	N－65°－E	直線状	2.64	0.46	0.13	10	U字状	自然	－	SD63→本跡
63	C1f0～C2f1	N－22°－W	直線状	2.00	0.38	0.12	8	U字状	－	－	本跡→SD60･62
64	C2c2～D2d3	N－49°－W	直線状	4.96	0.73	0.35	10	U字状	人為	－	SI07→本跡→SD3･65
65	C2c2～D2d2	N－62°－E	直線状	(6.20)	0.63	0.24	11	U字状	自然	－	SD64，SK322→本跡
66	C2f5	N－13°－E	直線状	5.34	0.44	0.24	16	U字状	自然	土師器片，須恵器片	
67	C2b4～C2c6～E2d3	N－13°－E N－61°－W	L字状	(93.9)	0.30～0.96	0.38	10～50	U字状	人為	－	SD3･58･68･70･81，SK325･361→本跡
68	C2b3～C2d6	N－76°－W N－14°－W	弧状	(14.14)	0.50	0.24	14	U字状	人為	土師器片	SD3･80→本跡→SD67
70	D2h4～D2i4	N－2°－E	直線状	(6.00)	0.50	0.34	10	U字状	人為	－	本跡→SD67･SK382
73	D1e9～D2f1	N－73°－W	直線状	10.55	0.54	0.33	10	U字状	人為	－	
77	C4d6～C4g6	N－2°－E	直線状	13.50	0.26	0.10	14	U字状	自然	－	
79	C1j8～D2a1	N－61°－W	直線状	11.30	1.28	0.72	10～20	逆台形	人為	－	SD56･57→本跡
80	C2c5～C2d5	N－40°－W	直線状	(6.10)	0.60	0.34	10	U字状	人為	－	本跡→SD68
81	D2b4～D2f4	N－8°－E	直線状	(13.00)	0.70	0.26	15	U字状	人為	－	本跡→SD67
82	C2h4	N－15°－E	直線状	(3.90)	0.40	0.16	10	U字状	自然	土師器片，須恵器片	本跡→SK326
83	F5a0～F6a1	N－55°－E	直線状	(3.80)	0.77	0.61	25	U字状	自然	土師質土器片，陶器片	
84	F5a0～F6a1	N－59°－E	直線状	(3.90)	0.68	0.43	24	U字状	自然	－	
85	F5a0～F6a1	N－58°－E	直線状	(4.80)	0.75	0.65	10	U字状	－	－	
86	E6f7～E6g6	N－58°－E	直線状	(11.32)	0.75	0.55	27	U字状	－	－	本跡→SK422
87	E6g5～E6i4	N－50°－E	直線状	(7.42)	0.92	0.81	7	逆台形	自然	－	

(2) 井戸跡

第３号井戸跡（第149図）

位置　調査区南部のＥ５h0区で，標高17.4 ～ 17.5m の台地緩斜面部に位置している。

重複関係　第134号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状　径2.16m の円形で，漏斗状に掘り込まれている。遺構確認面から1.36m 掘り下げたが，以下は湧水のため確認できなかった。

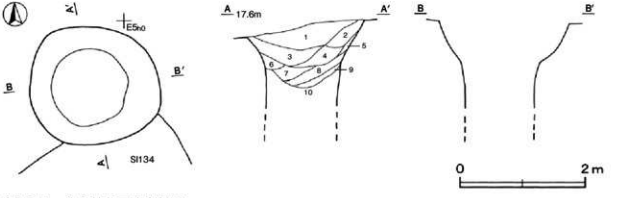
覆土　10層からなる。各層ともロームブロックを含んでおり，人為堆積と考えられる。

土層解説

1	黒褐色　ロームブロック・焼土粒子微量	6	黒褐色　ロームブロック微量
2	暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量	7	黒褐色　ロームブロック・炭化粒子微量
3	黒褐色　ロームブロック少量，粘土粒子微量	8	黒　色　ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
4	黒褐色　ロームブロック・炭化粒子極微量	9	黒褐色　ロームブロック少量
5	暗褐色　ロームブロック少量	10	暗褐色　ロームブロック中量

遺物出土状況　土師質土器片１点，土師器片23点，須恵器片１点が出土している。出土土器は細片のため，図示できない。

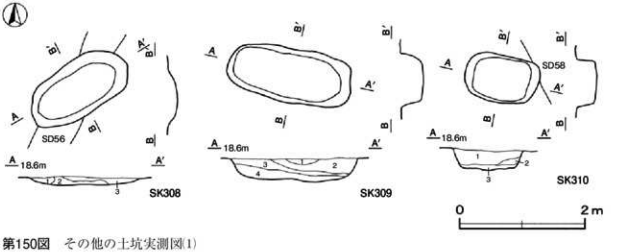
所見　時期は，重複関係から古墳時代以降と考えられるが，出土土器が細片のため不明である。



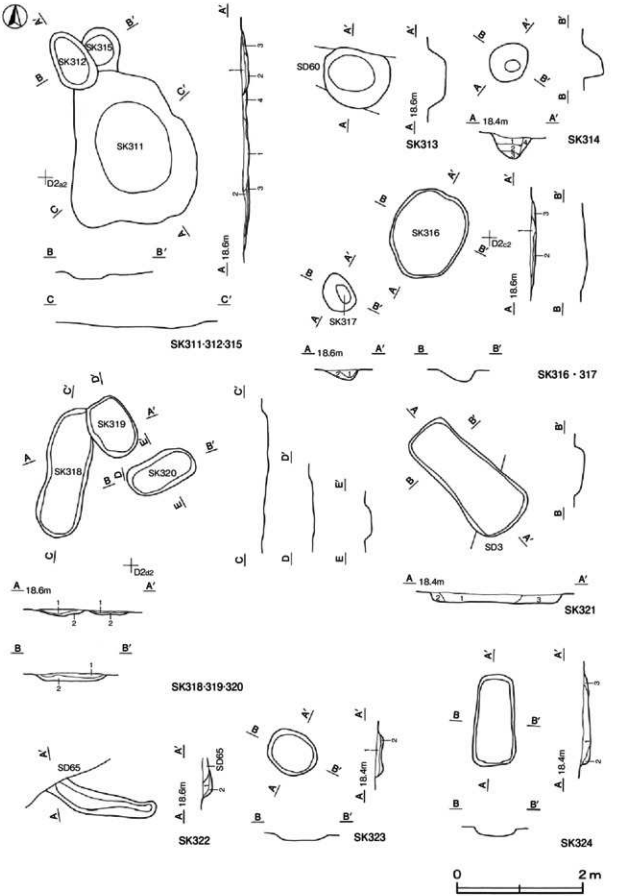
第149図　第３号井戸跡実測図

(3) 土坑（第150 ～ 158図）

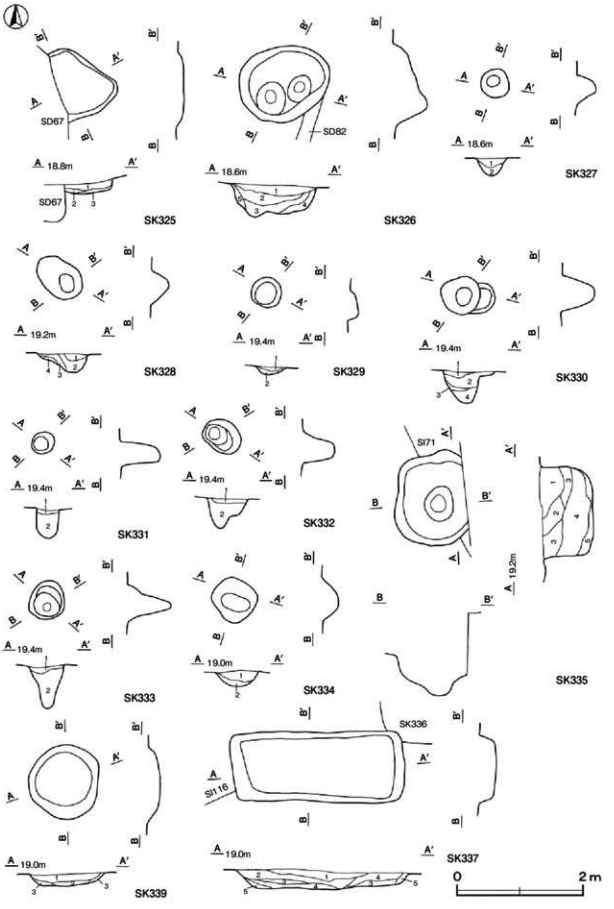
時期不明の土坑78基を確認した。以下，その他の土坑について，平面図と土層断面図で記載する。



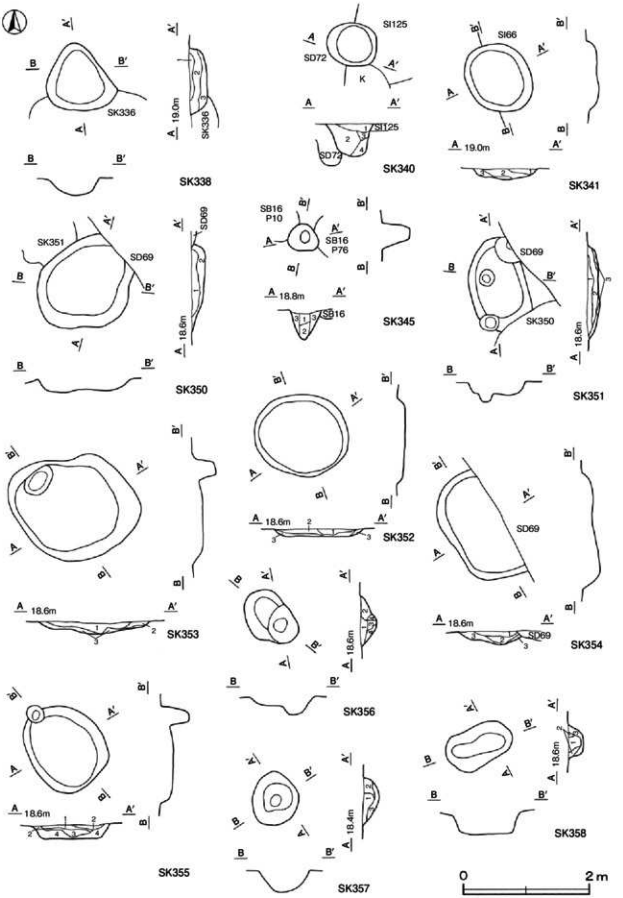
第150図　その他の土坑実測図1)



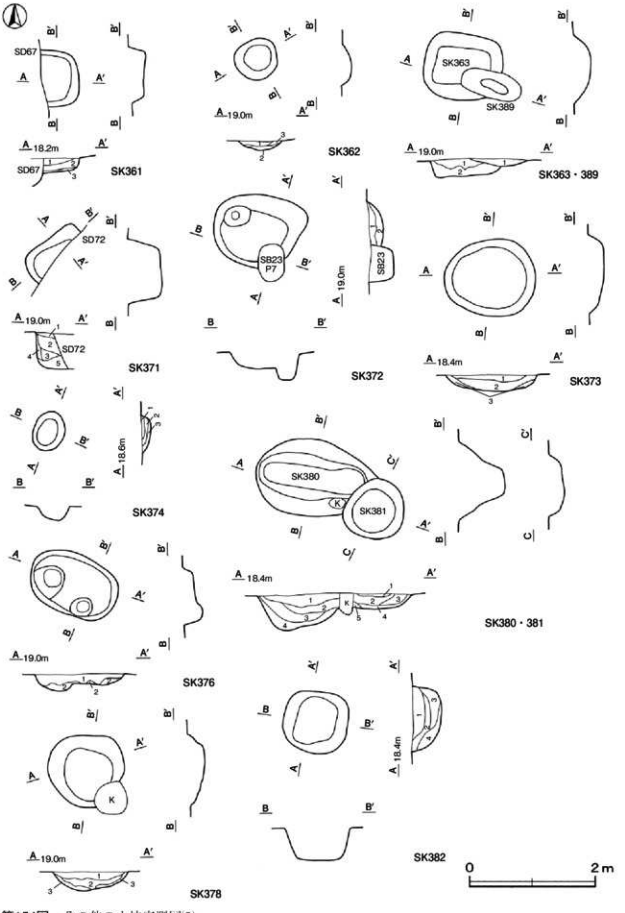
第151図　その他の土坑実測図2)



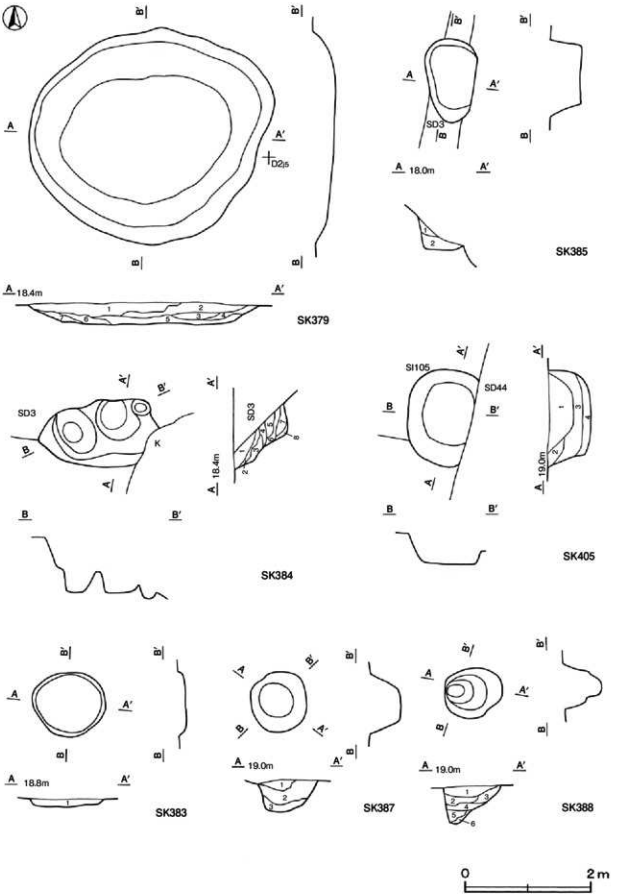
第152図　その他の土坑実測図(3)



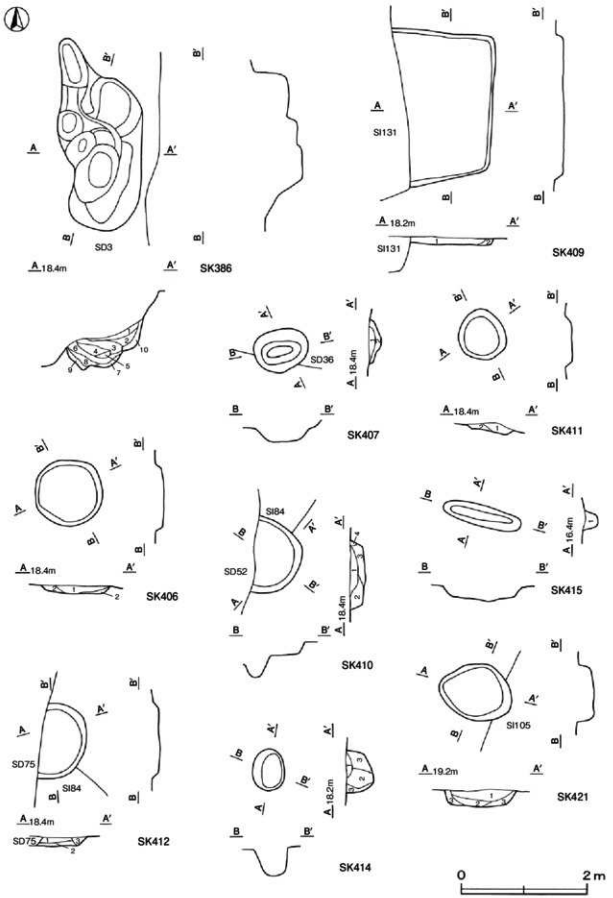
第153図　その他の土坑実測図(4)



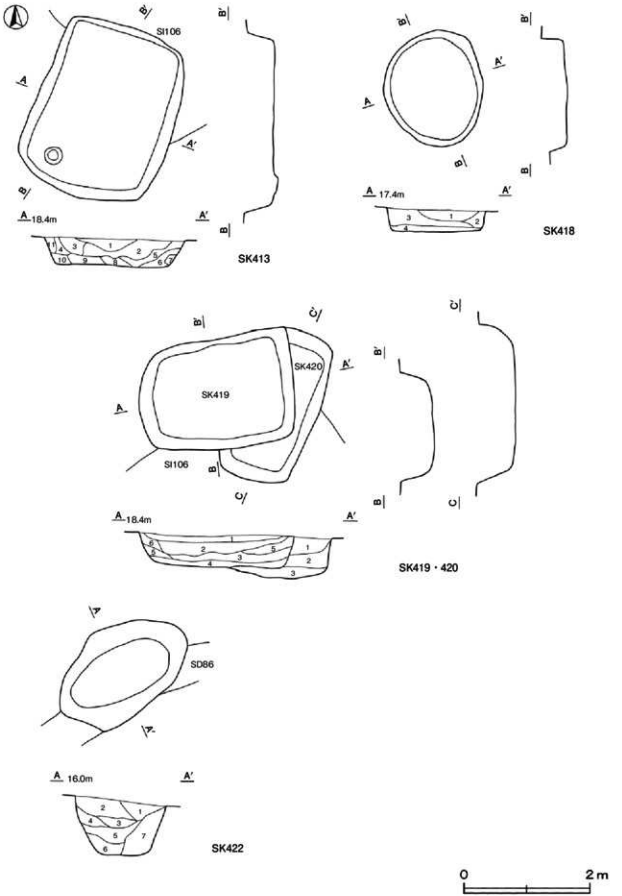
第154図　その他の土坑実測図5）



第155図　その他の土坑実測図(6)



第156図　その他の土坑実測図(7)



第157図　その他の土坑実測図(8)

第308号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子少量
2　黒　褐　色　ロームブロック微量
3　黒　褐　色　ロームブロック少量

第309号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量
3　黒　　色　ローム粒子微量
4　黒　褐　色　ローム粒子少量

第310号土坑土層解説
1　灰　褐　色　ロームブロック中量
2　黒　褐　色　ローム粒子中量
3　黒　　色　ローム粒子微量

第311号土坑土層解説
1　黒　褐　色　粘土ブロック・ローム粒子少量
2　黒　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック少量
3　暗　褐　色　ローム粒子中量，粘土ブロック微量
4　暗　褐　色　ロームブロック中量

第312号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子少量，粘土ブロック微量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量

第314号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子少量
2　黒　褐　色　ロームブロック中量
3　極暗褐色　ロームブロック少量
4　褐　灰　色　ローム粒子中量

第316号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量
2　暗　褐　色　ローム粒子中量
3　黒　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック少量

第317号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量
2　にぶい褐色　ロームブロック中量

第318号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック中量
2　褐　　色　ロームブロック中量

第319号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック少量
2　褐　　色　ローム粒子多量

第320号土坑土層解説
1　黒　褐　色　粘土ブロック中量，ロームブロック少量
2　褐　　色　ローム粒子多量

第321号土坑土層解説
1　黒　褐　色　粘土ブロック中量，ロームブロック少量
2　黒　　色　ロームブロック微量
3　黒　褐　色　ロームブロック中量，粘土ブロック微量

第322号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック中量
2　褐　　色　ロームブロック中量

第323号土坑土層解説
1　黒　　色　ロームブロック少量
2　黒　褐　色　ロームブロック中量

第324号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量
2　暗　褐　色　ローム粒子中量
3　黒　褐　色　ロームブロック少量

第325号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量
2　褐　　色　ロームブロック中量
3　褐　　色　ローム粒子多量

第326号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量
2　褐　　色　ロームブロック中量
3　褐　　色　ローム粒子中量
4　明　褐　色　ローム粒子多量
5　明　褐　色　ロームブロック中量

第327号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量
2　褐　　色　ローム粒子多量

第328号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量
2　褐　　色　ローム粒子多量
3　褐　　色　ロームブロック少量
4　褐　　色　ロームブロック中量

第329号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量
2　褐　　色　ローム粒子多量

第330号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量
4　褐　　色　ローム粒子多量

第331号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子中量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量

第332号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量
2　暗　褐　色　ローム粒子中量

第333号土坑土層解説
1　褐　　色　ロームブロック少量
2　褐　　色　ローム粒子多量

第334号土坑土層解説
1　褐　　色　ローム粒子中量
2　褐　　色　ローム粒子多量

第335号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック微量
2　褐　　色　ローム粒子少量
3　褐　　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
4　褐　　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
5　明　褐　色　ロームブロック中量

第337号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量
2　褐　　色　ローム粒子多量
3　褐　　色　炭化粒子少量
4　暗　褐　色　炭化材中量，ローム粒子少量
5　褐　　色　ローム粒子・炭化粒子少量

第338号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
3　褐　　色　ローム粒子少量

第339号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量
3　褐　　色　ローム粒子中量

第340号土坑土層解説
1　褐　　色　ローム粒子少量
2　褐　　色　ローム粒子中量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量
4　明　褐　色　ロームブロック多量

第341号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
3　褐　　色　ローム粒子中量

第345号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック微量
2　黒　褐　色　ローム粒子少量
3　褐　　色　ローム粒子中量

第350号土坑土層解説
1　褐　　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
2　明　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量

第351号土坑土層解説
1　暗　褐　色　炭化粒子少量，ローム粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
3　明　褐　色　ローム粒子中量

第352号土坑土層解説
1　暗 赤 褐 色　焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
2　にぶい褐色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
3　褐　　色　ローム粒子中量

第353号土坑土層解説
1　褐　　色　炭化粒子中量，ロームブロック少量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量
3　褐　　色　ローム粒子中量

第354号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
2　褐　　色　ロームブロック少量
3　褐　　色　ローム粒子中量

第355号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
2　暗 赤 褐 色　ローム粒子中量，焼土粒子少量
3　にぶい褐色　ローム粒子中量，焼土粒子微量
4　褐　　色　ローム粒子中量

第356号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子中量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量

第357号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子少量
2　暗　褐　色　ロームブロック微量
3　褐　　色　ローム粒子中量

第358号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子少量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量
3　褐　　色　ローム粒子中量

第361号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック微量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量

第362号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量

第363号土坑土層解説
1　極 暗 褐 色　ローム粒子少量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量

第371号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
2　褐　　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
3　極 暗 褐 色　ロームブロック・炭化物微量
4　褐　　色　ローム粒子中量
5　暗　褐　色　ロームブロック中量

第372号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子中量

第373号土坑土層解説
1　黒　　色　ローム粒子・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子中量

第374号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック微量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量
3　褐　　色　ローム粒子中量

第376号土坑土層解説
1　褐　　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子中量

第378号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
3　褐　　色　ロームブロック少量

第379号土坑土層解説
1　にぶい褐色　粘土ブロック多量
2　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子中量
4　黒　褐　色　ローム粒子微量
5　褐　　色　ロームブロック中量
6　暗　褐　色　ロームブロック少量
7　褐　　色　ローム粒子中量

第380号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量
4　暗　褐　色　ロームブロック中量

第381号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
3　黒　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
4　褐　　色　ロームブロック中量
5　暗　褐　色　ローム粒子微量

第382号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子中量
3　黒　褐　色　ロームブロック微量
4　褐　　色　ロームブロック中量

第383号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量

第384号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量
4　褐　　色　ロームブロック少量
5　暗　褐　色　ローム粒子少量
6　黒　褐　色　粘土ブロック・ローム粒子微量
7　黒　褐　色　粘土ブロック少量，ローム粒子微量
8　黒　褐　色　粘土ブロック微量

第385号土坑土層解説
1　褐　　色　ローム粒子少量
2　灰　褐　色　粘土ブロック多量

第386号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック微量
2　にぶい褐色　粘土ブロック少量
3　にぶい褐色　粘土ブロック中量
4　暗　褐　色　粘土ブロック中量
5　褐　　色　ローム粒子少量，粘土ブロック微量
6　灰　褐　色　粘土ブロック中量
7　暗　褐　色　粘土ブロック・ローム粒子少量
8　暗　褐　色　粘土ブロック少量
9　灰　褐　色　粘土ブロック多量
10　暗　褐　色　粘土ブロック多量，ローム粒子少量

第387号土坑土層解説
1　暗　褐　色　粘土粒子少量，ロームブロック微量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量，粘土粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量

第388号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
3　褐　　色　ローム粒子中量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量
5　黒　褐　色　ローム粒子中量
6　褐　　色　ロームブロック少量

第389号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック微量

第405号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子少量
2　黒　褐　色　ロームブロック微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
4　褐　　色　ローム粒子多量

第406号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子少量，炭化物微量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量

第407号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量
2　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子微量

第409号土坑土層解説
1　褐　　色　ローム粒子中量
2　褐　　色　ロームブロック中量

第410号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ローム粒子少量

第411号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量

第412号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量

第413号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック・炭化物微量
3　暗　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
4　褐　　色　ロームブロック中量，炭化物微量
5　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
6　暗　褐　色　ローム粒子中量
7　褐　　色　ローム粒子中量
8　暗　褐　色　ローム粒子少量
9　褐　　色　ロームブロック中量
10　暗　褐　色　ローム粒子多量
11　暗　褐　色　ロームブロック少量

第414号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック微量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量
3　褐　　色　ローム粒子少量

第415号土坑土層解説
1　黒　　色　粘土ブロック・ローム粒子微量

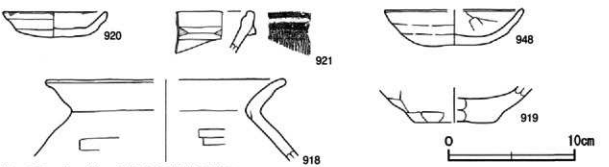
第418号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量
3　黒　褐　色　ローム粒子少量
4　褐　　色　ロームブロック中量

第419号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
3　褐　　色　ロームブロック中量，焼土粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
5　暗　褐　色　ロームブロック少量
6　暗　褐　色　ローム粒子少量

第420号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
3　褐　　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量

第421号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
3　褐　　色　ロームブロック・炭化粒子微量

第422号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量
2　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック微量
3　暗 赤 褐 色　焼土ブロック少量，ロームブロック微量
4　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
5　極 暗 褐 色　炭化物・ローム粒子微量
6　暗　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック微量
7　褐　　色　ロームブロック中量



第158図　その他の土坑出土遺物実測図

第316号土坑出土遺物観察表（第158図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色調	焼成	手法の特徴		出土位置	備　考
920	土師質土器	小皿	8.1	2.1	－	赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ	体部内・外面ナデ	覆土中	60%　口縁部油煙付着　円37

第332号土坑出土遺物観察表（第158図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備　考
921	陶器	擂鉢	－	(3.3)	－	長石・石英	灰赤	普通	ナデ	覆土中	5%

第379号土坑出土遺物観察表（第158図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備　考
948	土師質土器	皿	[10.9]	2.8	－	赤色粒子・砂粒	橙	普通	口縁部横ナデ　体部内・外面ナデ	覆土中	50%

第418号土坑出土遺物観察表（第158図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手法の特徴	出土位置	備　考
918	土師器	甕	[18.7]	(6.4)	－	長石・雲母・礫	にぶい橙	普通	体部内・外面ヘラナデ	覆土中	5%
919	土師器	甕	－	(2.8)	[6.3]	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラナデ	覆土中	5%

表12　その他の土坑一覧表

土坑番号	位　置	長径(軸)方向	平面形	規　模 長径(軸)×短径(軸)(m)	規　模 深さ(cm)	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備　考 新旧関係(旧→新)
308	C 2 h1	N－53°－E	楕円形	1.75×0.85	15	緩斜	平坦	自然	土師器片	SD56→本跡
309	C 2 g3	N－80°－W	楕円形	2.01×0.91	32	緩斜	平坦	人為	－	
310	C 2 h2	N－78°－W	楕円形	1.16×0.76	30	外傾	平坦	人為	－	SD58→本跡
311	C 2 j2	N－7°－W	不整楕円形	2.43×1.96	8	緩斜	平坦	人為	土師質土器片，土師器片	SK315→本跡→SK312
312	C 2 j2	N－33°－W	楕円形	1.01×0.62	11	緩斜	平坦	人為	－	SK311·315→本跡
313	C 2 g3	N－64°－W	楕円形	1.10×0.92	28	外傾	平坦	－	土師器片	SD60→本跡
314	C 2 b3	N－54°－E	楕円形	0.68×0.57	30	外傾	皿状	人為	－	
315	C 2 j2	N－0°	[円形]	0.67×(0.52)	4	緩斜	平坦	－	－	本跡→SK311·312
316	D 2 c1	N－28°－E	楕円形	1.45×1.17	9	緩斜	平坦	人為	土師質土器片	
317	D 2 c1	N－23°－W	楕円形	0.53×0.47	18	緩斜	平坦	人為	－	
318	D 2 c1	N－13°－E	楕円形	2.08×0.73	11	緩斜	平坦	人為	－	本跡→SK319
319	D 2 c1	N－31°－W	楕円形	0.98×0.70	6	緩斜	平坦	人為	－	SK318→本跡
320	D 2 c2	N－62°－E	楕円形	1.10×0.58	11	緩斜	平坦	人為	－	
321	D 2 c2	N－40°－W	隅丸長方形	2.12×0.98	15	緩斜	平坦	人為	土師質土器片	SD3→本跡
322	C 2 c3	N－76°－W	[長楕円形]	(1.72)×(0.38)	17	緩斜	平坦	人為	－	本跡→SD65
323	D 1 d7	N－34°－W	楕円形	0.82×0.68	12	緩斜	平坦	人為	－	
324	D 2 f1	N－3°－E	隅丸長方形	1.44×0.69	13	緩斜	平坦	人為	－	
325	C 2 e6	N－45°－E	[隅丸方形]	1.22×(0.84)	8	緩斜	平坦	人為	－	本跡→SD67
326	C 2 g4	N－63°－E	楕円形	1.47×1.18	45～50	緩斜	凹凸	人為	土師器片	SD82→本跡
327	C 2 h4	N－0°	円形	0.46×0.44	30	緩斜	皿状	自然	土師質土器片，須恵器片	
328	D 1 g7	N－49°－W	楕円形	0.83×0.54	30	緩斜	皿状	人為	－	
329	D 1 g7	N－0°	円形	0.48×0.48	11	緩斜	皿状	人為	－	
330	D 1 g6	N－83°－W	不定形	0.89×0.61	54	緩斜	皿状	人為	－	
331	D 1 g6	N－48°－W	円形	0.38×0.34	62	緩斜	皿状	人為	－	
332	D 1 g6	N－56°－W	円形	0.64×0.51	50	緩斜	皿状	人為	陶器片	
333	D 1 g5	N－9°－E	楕円形	0.62×0.54	70	緩斜	皿状	人為	－	
334	C 2 b7	N－0°	不整円形	0.71×0.70	23	緩斜	皿状	人為	土師器片	
335	C 3 g7	N－4°－E	[隅丸方形]	1.55×(1.16)	85	緩斜	平坦	自然	－	SI71→本跡
337	C 3 e4	N－88°－E	長方形	2.75×1.15	31	緩斜	平坦	人為	土師質土器片，土師器片	SI116, SK336→本跡

土坑番号	位置	長径(軸)方向	平面形	規模 長径(軸)×短径(軸)(m)	規模 深さ(cm)	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 新旧関係(旧→新)
338	C 3 e4	N－18°－W	隅丸台形	1.09×0.97	26	緩斜	皿状	自然	－	SK336→本跡
339	C 2 f9	N－0°	円形	1.18×1.13	20	緩斜	皿状	自然	土師質土器片	
340	D 3 g7	N－4°－W	楕円形	0.80×0.72	50	緩斜	平坦	自然	－	SI125, SD72→本跡
341	C 3 f6	N－38°－W	楕円形	1.18×1.13	20	緩斜	平坦	自然	－	SI166→本跡
345	D 3 e4	N－0°	円形	0.47×0.44	44	緩斜	平坦	人為	－	SB16→本跡
350	D 3 h2	N－50°－E	[楕円形]	1.58×1.36	22	緩斜	平坦	自然	土師器片	SK351→本跡→SD69
351	D 3 h1	N－1°－W	不定形	1.52×0.98	17	緩斜	凹凸	人為	－	本跡→SK350, SD69
352	D 3 g1	N－66°－W	円形	1.51×1.30	13	緩斜	傾斜	人為	－	
353	D 2 f0	N－0°	不整円形	1.82×1.77	17～40	緩斜	凹凸	人為	－	
354	D 3 f1	N－30°－W	[楕円形]	1.85×(0.93)	28	緩斜	平坦	人為	－	本跡→SD69
355	D 2 f9	N－41°－W	楕円形	1.41×1.22	22～42	緩斜	凹凸	人為	土師器片	
356	D 2 f0	N－50°－W	楕円形	1.00×0.70	20～30	緩斜	凹凸	人為	－	
357	D 2 e9	N－12°－W	円形	0.85×0.76	35	緩斜	皿状	人為	－	
358	D 2 e0	N－63°－E	楕円形	1.08×0.63	32	緩斜	平坦	人為	－	
361	E 2 a3	N－2°－E	[隅丸方形]	0.89×(0.61)	14	緩斜	平坦	自然	－	本跡→SD67
362	D 3 a6	N－0°	円形	0.68×0.64	14	緩斜	皿状	自然	土師器片	SI126→本跡
363	C 3 h1	N－87°－W	隅丸長方形	1.22×1.04	28	緩斜	平坦	人為	土師質土器片, 土師器片	本跡→SK389
371	D 3 a6	N－46°－E	[楕円形]	1.06×(0.42)	55	垂直	平坦	自然	－	本跡→SD72
372	D 3 g3	N－80°－E	不整楕円形	1.50×1.17	21	緩斜	平坦	自然	－	本跡→SB23
373	D 2 j9	N－80°－W	円形	1.46×1.23	25	緩斜	平坦	人為	土師質土器片, 土師器片	
374	D 2 h0	N－26°－E	楕円形	0.65×0.50	23	緩斜	平坦	自然	－	
376	C 3 j1	N－66°－W	楕円形	1.46×0.97	18～30	外傾	凹凸	自然	土師質土器片, 土師器片	
378	C 3 j1	N－0°	円形	1.20×1.16	28	緩斜	皿状	人為	土師質土器片, 土師器片	
379	D 2 j4	N－73°－E	楕円形	3.98×3.34	34	緩斜	平坦	人為	土師質土器片, 土師器片	
380	D 2 i5	N－84°－W	楕円形	1.95×1.23	53	外傾	平坦	人為	－	本跡→SK381
381	D 2 i5	N－0°	円形	0.97×0.96	23	緩斜	平坦	人為	－	SK380→本跡
382	D 2 h4	N－79°－W	楕円形	1.02×0.98	50	外傾	平坦	人為	土師質土器片, 土師器片	本跡→SD70
383	D 2 e9	N－77°－W	楕円形	1.19×1.06	12	緩斜	平坦	自然	－	
384	E 2 b2	N－82°－E	不定形	1.94×1.06	86	緩斜	凹凸	人為	－	SD3→本跡
385	D 2 j1	N－2°－W	楕円形	1.32×0.84	48	外傾	平坦	人為	－	
386	D 2 j2	N－14°－W	不定形	3.12×1.33	36	外傾	凹凸	人為	－	SD3→本跡
387	C 2 i0	N－21°－E	円形	0.99×0.95	50	緩斜	平坦	人為	土師器片	
388	D 3 a5	N－53°－E	楕円形	0.93×0.80	72	緩斜	皿状	人為	土師質土器片, 土師器片	
389	C 3 h1	N－72°－W	楕円形	0.98×0.42	11	緩斜	平坦	自然	－	SK363→本跡
405	D 4 i8	N－15°－E	楕円形	1.55×1.06	65	緩斜	平坦	人為	土師器片	SI105→本跡→SD44
406	D 4 e9	N－0°	円形	1.12×1.06	12	外傾	平坦	自然	土師器片, 須恵器片	SI85→本跡
407	D 4 d9	N－68°－E	楕円形	0.86×0.67	22	緩斜	平坦	自然	土師器片	SD36→本跡
409	C 4 e9	N－3°－E	[長方形]	2.42×(1.60)	14	外傾	平坦	人為	土師器片	本跡→SI131
410	D 4 b9	N－5°－E	[楕円形]	1.20×(0.72)	24	外傾	平坦	人為	－	SI84→本跡→SD52
411	D 4 b9	N－25°－W	楕円形	0.81×0.73	15	緩斜	平坦	自然	－	
412	D 4 b9	N－19°－E	[楕円形]	1.23×(0.70)	14	緩斜	平坦	自然	土師質土器片, 土師器片	SI84→本跡→SD75
413	C 4 g8	N－17°－E	長方形	2.82×2.25	40	外傾	平坦	人為	土師質土器片, 土師器片	SI106→本跡
414	C 4 e9	N－4°－E	楕円形	0.68×0.50	45	外傾	皿状	人為	土師器片	
415	F 4 d0	N－75°－W	長楕円形	1.25×0.35	25	緩斜	平坦	自然	－	
418	E 5 b0	N－5°－E	楕円形	1.85×1.58	34	外傾	平坦	人為	－	
419	C 4 g9	N－84°－E	長方形	2.48×1.77	55	外傾	平坦	人為	土師質土器片, 土師器片	SI106, SK420→本跡

土坑番号	位置	長径(軸)方向	平面形	規模 長径(軸)×短径(軸)(m)	規模 深さ(cm)	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 新旧関係(旧→新)
420	C4g9	N－22°－E	長方形	2.53×(1.19)	66	外傾	平坦	人為	土師質土器片，土師器片	SI106→本跡→SK419
421	D4h8	N－73°－W	楕円形	1.19×0.91	27	外傾	平坦	自然	－	SI105→本跡
422	E6f7	N－53°－E	楕円形	2.30×1.42	91	外傾	平坦	人為	－	SD86→本跡

(4) ピット群

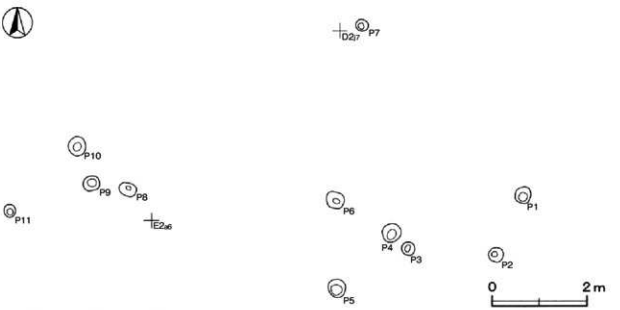
第10号ピット群（第159図）

位置　調査区西部のD2j5～E2a7区で，標高18.1～18.3mの台地緩斜面部に位置している。

規模と形状　南北6m，東西12mの範囲にピット11か所が確認された。形状は径26～42cmの円形，深さは20～58cmで，断面形はU字状である。

覆土　柱の抜き取り痕は確認できず，暗褐色土で締まりが弱い。

所見　時期及び性格は，ピットの深さや配列などに規則性がなく，出土土器もないため不明である。



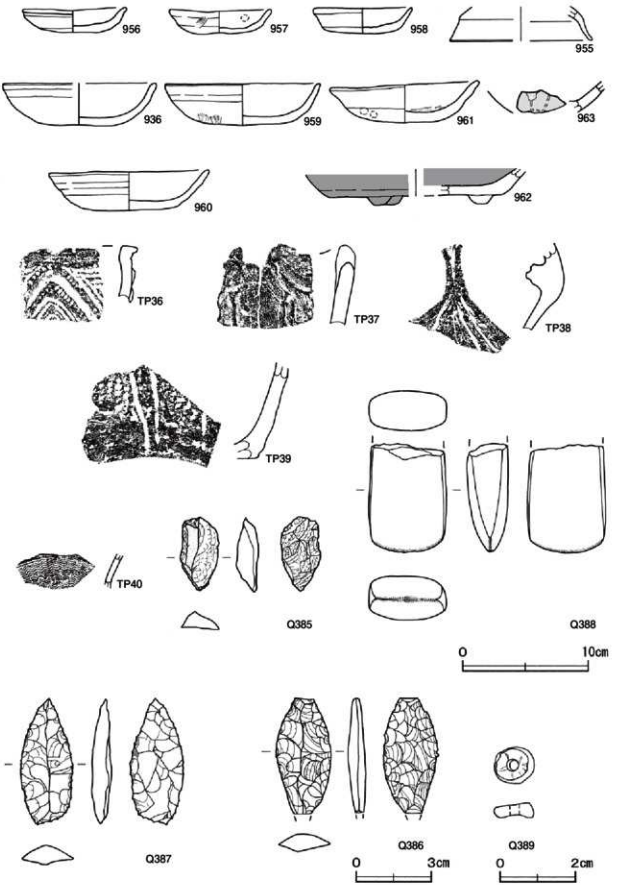
第159図　第10号ピット群実測図

第10号ピット群計測表（第159図）

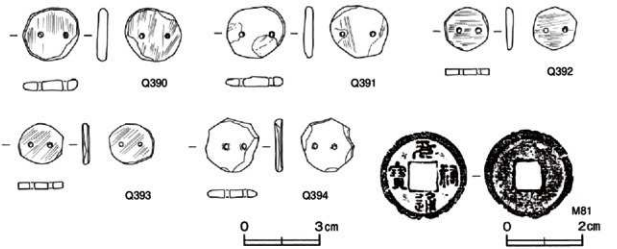
番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)
P 1	34	32	34	P 5	38	37	53	P 9	36	32	20
P 2	32	30	32	P 6	40	38	58	P 10	40	37	30
P 3	29	27	30	P 7	27	24	31	P 11	26	25	26
P 4	42	38	39	P 8	37	27	29				

(5) 遺構外出土遺物（第160・161図）

当遺跡から出土した遺構に伴わない主な遺物について，実測図と出土遺物観察表で記載する。



第160図　遺構外出土遺物実測図(1)



第161図　遺構外出土遺物実測図(2)

遺構外出土遺物観察表（第160・第161図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手法の特徴	出土位置	備　考
936	土師質土器	小皿	8.2	1.8	－	赤色粒子・砂粒	橙	普通	口縁部横ナデ	SK348 覆土中	100%
955	須恵器	蓋	[11.4]	(2.7)	－	長石・石英	灰	普通	ロクロナデ	表採	10%
956	土師質土器	小皿	8.1	2.0	－	赤色粒子・砂粒	橙	普通	口縁部横ナデ　体部内・外面ナデ	表採	100%　PL37
957	土師質土器	小皿	8.1	1.9	－	石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ　体部内・外面ナデ	表採	100%　PL37
958	土師質土器	小皿	7.8	2.1	－	赤色粒子・砂粒	橙	普通	口縁部横ナデ　体部内・外面ナデ	表採	95%
959	土師質土器	皿	11.7	3.2	－	赤色粒子・砂粒	橙	普通	口縁部横ナデ　体部内・外面ナデ	SH20 覆土中	100%
960	土師質土器	皿	12.8	3.1	－	赤色粒子・砂粒	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ　体部内・外面ナデ	表採	60%
961	土師質土器	皿	[11.9]	3.5	－	赤色粒子・砂粒	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ　体部内・外面ナデ	表採	50%
962	土師質土器	香炉	－	(2.8)	－	長石・雲母・赤色粒子	黄灰	普通	三足	表採	10%
963	青磁	碗	－	(2.4)	－	緻密	オリーブ灰	良好	鎬蓮弁文	表採	5%　PL39
TP36	縄文土器	深鉢	－	(4.5)	－	長石・石英・雲母	明褐色	普通	口縁部隆帯貼り付け	表採	5%　PL41
TP37	縄文土器	深鉢	－	(6.4)	－	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部微隆帯により無文帯を区画	表採	5%　PL41
TP38	縄文土器	深鉢	－	(6.9)	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部沈線により無文帯を区画	表採	5%　PL41
TP39	縄文土器	深鉢	－	(7.6)	－	長石・石英・雲母	橙	普通	RL の単節縄文施紋	表採	5%　PL41
TP40	須恵器	甕	－	(2.7)	－	長石・石英・雲母	橙	普通	頸部波状文	表採	5%　PL41

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　　徴	出土位置	備　考
Q385	剥片	5.9	3.1	1.5	24.7	安山岩	縁長剥片　表面縁辺部に礫皮面を残す	表採	PL40
Q386	尖頭器	(4.6)	2.2	0.7	(6.40)	黒曜石	先端部欠損	SK377覆土中	PL40
Q387	尖頭器	5.0	2.1	0.8	6.85	珪質頁岩	先端部欠損	表採	PL40
Q388	石斧	(8.7)	6.2	3.3	(295)	閃緑岩	定角式　刃部一部欠損	SD 3 覆土中	PL41
Q389	白玉	1.02	0.37	0.25	0.6	滑石	孔径 0.25 cm　側面が膨らむ太鼓状　片面穿孔	SK377覆土中	PL40
Q390	双孔円板	2.1	2.2	0.36	3.18	滑石	両面平坦　斜方向の研磨　片側穿孔　孔径0.15 cm	SD58覆土中	PL40
Q391	双孔円板	3.1	2.3	0.29	2.56	滑石	両面平坦　斜方向の研磨　片側穿孔　孔径0.2 cm	SD58覆土中	PL40
Q392	双孔円板	1.7	1.8	0.25	1.38	滑石	両面平坦　斜方向の研磨　片側穿孔　孔径0.12 cm	表採	PL40
Q393	双孔円板	1.7	1.8	0.22	1.1	滑石	両面平坦　斜方向の研磨　片側穿孔　孔径0.12 cm	表採	PL40
Q394	双孔円板	2.1	2.1	0.30	2.18	滑石	両面平坦　斜方向の研磨　片側穿孔　孔径0.12 cm	表採	PL40

番号	銭　種	径	孔	厚さ	重量	初鋳年	材　質	特　　徴	出土位置	備　考
M81	元祐通寶	2.3	0.7	0.14	2.56	1086 年	銅	北宋銭　篆書　無背銭	表採	PL39

第4節　ま　と　め

1　はじめに

鳥名前野東遺跡は平成11～17年度まで調査を行い，平成11～13年度の調査区については茨城県教育財団文化財調査報告第191集（以下第191集）[1]，平成14年度の調査区については茨城県教育財団文化財調査報告第215集（以下第215集）[2]にまとめられている。今回，平成15～17年度の調査が行われたことで，遺跡全体の様相が明らかになってきた。今までに報告している遺構を整理していくと，竪穴住居跡107軒，掘立柱建物跡21棟，柵跡２条，方形周溝墓３基，方形区画堀跡１条，溝跡68条，井戸跡３基，地下式壙２基，火葬土坑５基，道路跡５条，陥し穴１基，土坑335基，ピット群10か所が確認されており，旧石器時代から近世にわたるものである。そこで，今回の調査区と第191・215集で確認された遺構及び出土土器を含め，ここでは集落が営まれた古墳時代から奈良・平安時代までの集落変遷[3]と中世における方形居館の変遷と性格について述べ，まとめとしたい。なお，年代観については，鳥名熊の山遺跡等近年の当地の土器編年研究をもとにした。

2　集落の変遷

(1)　古墳時代

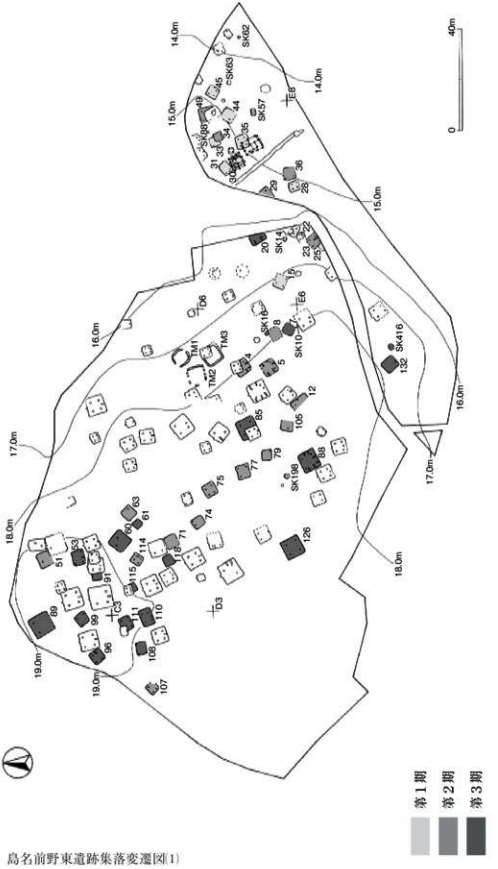
第１期（４世紀中葉～後葉）（第162図）

鳥名前野東遺跡に集落が成立した時期である。ほぼ時期を同じくして鳥名熊の山遺跡，鳥名八幡前遺跡においても集落が展開されていることから，他地域からの集団的な移住と定着という事態が指摘されている[4]。

本期には第191集で報告されている東部の竪穴住居跡10軒，方形周溝墓３基が該当する。中形住居跡は，第15・22・25・31・35・44・45号住居跡の７軒，小形住居跡は，第28・30・33号住居跡の３軒である。住居跡はおおむね北西方向を主軸としており，炉が中央部の北西壁寄りに位置し，出入り口施設が炉と向き合う南東壁際に設けられているものが一般的で，貯蔵穴は東コーナー部に構築されているものが多い。この特徴は同時期の前野遺跡[5]の集落と共通する特徴であり，両遺跡が一つの集落として存在していた可能性を裏付けるものである。主な出土遺物は土師器（椀，坩，器台，高坏，壺，甕，台付甕），土製品（球状土錘）である。本期の住居跡は東部の標高13.5～17.0m の台地裾部に位置しており，方形周溝墓が集落の西側から約30m 離れた標高17.0～18.0m の地点に位置している。このことから集落は，生業の基盤である東谷田川沿いの谷津田に近い地点に，方形周溝墓は集落より標高の高い地点に造られていたと推測できる。特徴的な住居跡として，第35号住居跡は土器埋設炉を構築していることがあげられる。土器埋設炉は土師器甕の体部以下を埋設した炉で，さらに埋設された甕の底部には他の甕の体部片が敷かれた二重構造になっている。他の住居跡の炉は，床面を利用した地床炉であることから特徴的な炉としてとらえることができる。

第２期（５世紀前半）（第162図）

第191集で竪穴住居跡16軒，土坑８基，今回の調査区では竪穴住居跡３軒が該当する。本期の集落は，第１期の東部を中心とした集落から標高17.0～19.0m と高くなる中央部へと広がり，全体に拡大している。大形住居跡は，第12号住居跡の１軒である。中形住居跡は，第４・５・８・23・29・36・49・51・63・71・74・75・77・79・105・107・114号住居跡の17軒である。また，小形住居跡は，第34号住居跡の１軒であり，中形住居跡が大部分を占めている。住居跡はおおむね北西方向を主軸としており，本期の住居には２軒の



第162図　島名前野東遺跡集落変遷図(1)

住居跡を１単位とするまとまりが見られる。東部の第34・49号住居跡，中央部の第５・８号住居跡，第77・79号住居跡，第74・75号住居跡は主軸方向を揃え，約４～７ｍの間隔で位置しており，１単位のまとまりとして構成されることが考えられる。単独で確認されている住居跡と合わせて10単位程度の均質な単位集団によって構成されている集落の様子がうかがえる。

主な出土遺物は土師器（坏，坩，器台，高坏，壺，甕，甑，炉器台），土製品（球状土錘，支脚），石器（砥石），石製品（勾玉，臼玉，紡錘車，双孔円板，剣形模造品）である。本期の出土遺物の特徴として滑石製品が第４・５・49・77号住居跡から出土していることがあげられる。同時期の近隣の集落である元宮本前山遺跡からは石製模造品の工房として使用されていた住居跡も確認されており，石製模造品をもとにした交流が推測される[6]。

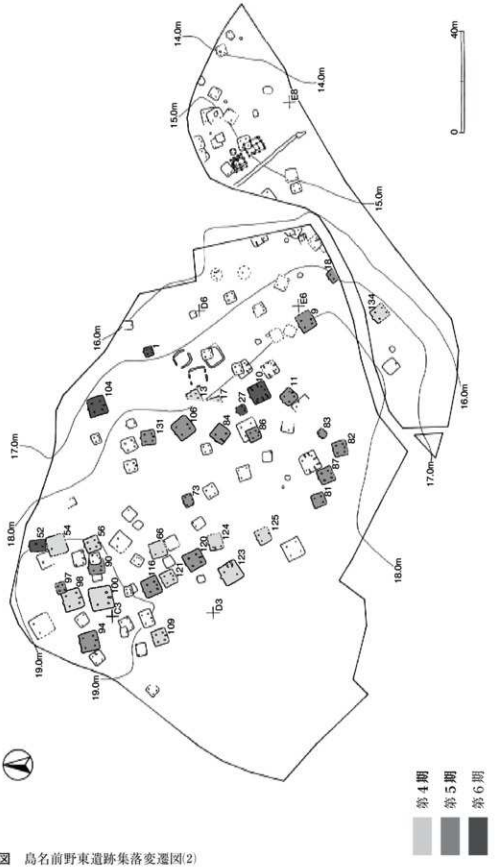
第３期（５世紀後半）（第162図）

第191集で竪穴住居跡８軒，土坑１基，第215集で竪穴住居跡３軒，今回の調査区では竪穴住居跡７軒，土坑１基が該当する。大形住居跡は，第88・89・126号住居跡の３軒である。中形住居跡は，第７・20・53・60・61・85・96・99・108・110・111・118・132号住居跡の13軒である。小形住居跡は，第91・115号住居跡の２軒である。主な出土遺物は，土師器（坏，椀，坩，高坏，壺，甕，甑），土製品（支脚），石製品（勾玉，管玉，臼玉，双孔円板，剣形模造品），ガラス製品（小玉），炭化米である。本期も滑石製品が第20・85・88・126号住居跡から出土している。またガラス製小玉が第60・96・126号住居跡の３軒から出土している。

本期においても２軒の住居跡を１単位とするまとまりが北部において見られる。第60・61号住居跡，第53・91号住居跡，第89・99号住居跡は主軸方向を揃え，約４～７ｍの間隔で位置しており，１単位のまとまりと考えられる。第108・110・111号住居跡は北西部に位置し，第110号住居跡は長軸と短軸の差が約２ｍあり，各住居の形状が長方形である共通点を持っている。南部には約20ｍの間隔をおいて３軒の大形住居跡が位置している。第88号住居跡は面積が56㎡を超える大形住居で，炉と竈が併設され，初期竈の形態を示している。床面から剣形模造品，双孔円板，管玉，臼玉35個が出土した。第126号住居跡は面積が58㎡を超える大形住居で，床面からガラス小玉，双孔円板，剣形模造品とともに，102個の臼玉が南西コーナー部の床面に集中して出土していることから，住居廃絶時に伴う祭祀行為が行われた可能性が考えられる。また，石製模造品を製作する過程で使用されたと考えられる砥石（Ｑ259）や転用砥石として使用された土師器（793）も出土している。２軒の住居跡はほぼ同じ主軸方向であるが，出土土器や第88号住居跡が竈を持つ形態であることからわずかな時期差があり，第126号住居跡から第88号住居跡への作り替えが行われたと推測することができる。これらの２軒の大形住居跡は，出土遺物から祭祀的な性格を強く持っているとともに，当遺跡の有力者層の存在を想定させる住居跡と考えられる。

第４期（６世紀前半）（第163図）

第191集で竪穴住居跡５軒，第215集で竪穴住居跡２軒，今回の調査区では竪穴住居跡６軒が該当する。大形住居跡は，第98・100・123号住居跡の３軒であり，中形住居跡は第13・17・54・56・66・109・121・124・125・134号住居跡の10軒である。主な出土遺物は，土師器（坏，椀，高坏，鉢，壺，甕，甑，手捏土器），土製品（勾玉，小玉，土玉，羽口），石製品（臼玉，紡錘車），鉄製品（釘），炭化種子である。住居跡はおおむね北西方向を主軸としており，竈が北壁中央部，貯蔵穴が北東コーナー部に構築され，主柱穴が４か所確認できる住居跡が多い。出入り口施設は南壁際中央に設けているものが一般的であり，第56・98・100・109住居跡ではピット２か所を確認した。これらの住居跡は掘り込みが深いことから階段状の出入り



第163図　島名前野東遺跡集落変遷図(2)

口施設を設けたため，２か所のピットを持つと推測される。中央部から北部にかけては３軒の大形住居跡が位置している。第98号住居跡からは土製の勾玉が出土している。第100号住居跡は面積約78㎡の住居跡で，土玉と白玉が出土している。２軒の住居跡の出土土器には若干の時期差があり，第98号住居跡から第100号住居跡への作り替えが行われたものと推測できる。第123号住居跡は面積が約65㎡の住居跡で，石製紡錘車，手捏土器が出土している。これらの住居跡は，第３期に確認された集落の有力者層が継続して勢力を維持していたことを示していると考えられる。本期の住居から竈を持つが，第13号住居跡は北東壁に竈を持つ唯一の住居跡で，初期の竈の形態と考えられる。

第５期（６世紀後半）（第163図）

第191集で竪穴住居跡10軒，土坑１基，第215集で竪穴住居跡２軒，今回の調査区では竪穴住居跡４軒が該当する。大形住居跡は，第94・106・116・120号住居跡の４軒である。中形住居跡は，９・11・18・73・81～84・86・87・90・97・131号住居跡の13軒である。集落は第４期とほぼ同数の単位集団で維持されていたと考えられる。主な出土遺物は土師器（坏，椀，高坏，鉢，壺，甕，甑，手捏土器），須恵器（鼈），土製品（勾玉，小玉，支脚，紡錘車），石器（砥石），炭化米，桃の種子である。

中央部から北部にかけて４軒の大形住居跡が位置している。第94号住居跡は面積が52㎡で，土製の勾玉・紡錘車が出土している。第106号住居跡は面積が58㎡で，竈と炉を併設しており，鉄滓が出土していることから，工房的な性格を持っていた可能性が推測される。第120号住居跡は面積が約55㎡で，土師器の供献具，日常具とともに須恵器鼈（748・749）が出土している。有力者層と考えられる大形住居跡から紡錘車や鉄滓がそれぞれ出土していることから，集落内において繊維生産や鉄製品生産の分業体制が確立していた可能性を考えることができる。

第６期（７世紀）（第163図）

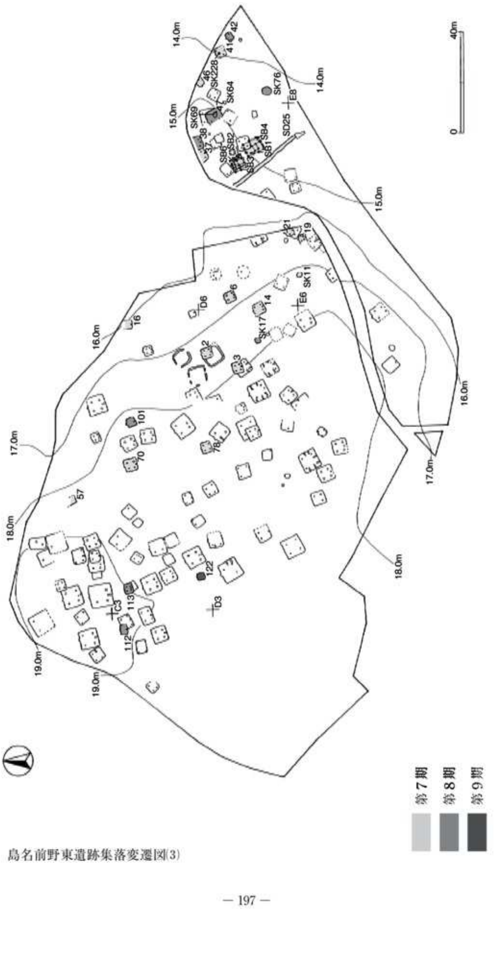
第191集で竪穴住居跡４軒，第215集で竪穴住居跡１軒が該当する。大形住居跡は，第10・104号住居跡の２軒である。中形住居跡は第52号住居跡の１軒である。また，小形住居跡は，第１・27号住居跡の２軒である。主な出土遺物は，土師器（坏，椀，甕，手捏土器），須恵器（フラスコ瓶），土製品（小玉，支脚），石器（砥石）である。第52号住居跡は南北軸が東西軸よりも２m以上長い住居跡で，南北壁の対になる柱穴から棟持柱を持つと考えられ，特異な上屋構造を持つことが想定される。また竈とともに炉が付設されており，工房的な性格を持っていた可能性があり，須恵器フラスコ瓶，土製小玉，砥石が出土している。

当遺跡では，本期後半に６世紀まで継続していた集落が途切れる時期である。東谷田川流域では７世紀後半になると住居の小形化と集落規模の縮小が進み，消滅する集落が見られる[7]。本遺跡はこの傾向と合致する例であると考えられる。

(2)　奈良・平安時代

第７期（８世紀前半）（第164図）

第191集の竪穴住居跡13軒，掘立柱建物跡６棟，溝跡１条，土坑６基が該当する。当遺跡では前期でいったん途絶えた集落が，再び成立する時期である。中形住居跡は，第２・３・６・14・41・70・78号住居跡の７軒である。小形住居跡は，第16・19・21・37・46・57号住居跡の６軒である。主な出土遺物は，土師器（坏，甕），須恵器（坏，蓋，壺，甕，捏ね鉢），石器（砥石），鉄製品（刀子，鏃，鬥），椀状鉄滓などである。特に墨書土器，朱書土器が出土しており，「手礼」・「寺」と墨書された須恵器坏が出土していることから，集落内に寺院が存在していた可能性が指摘されている[8]。また，第64号土坑からは「新田」と墨書された須恵器坏が出土していることから，本期の集落が開拓集落としての性格を持っていたことが



第164図　島名前野東遺跡集落変遷図(3)

想定できる。掘立柱建物跡では重複関係から，側柱建物である第２号掘立柱建物跡を，総柱建物の第３号掘立柱建物跡が掘り込んでいることが判明している。第２号掘立柱建物跡は３×２間の側柱建物で，穎稲を収納した「屋」と考えられる。第３号掘立柱建物跡は２×２間の総柱建物で，穀稲を納めた「倉」と考えられる。この時期に集落の成立とともに，東谷田川沿いに新たに水田が開かれたことが想定されることから，その収穫物を収納したものと考えられる。倉庫と考えられる掘立柱建物跡の存在は，律令体制の中で開拓集落として成立したこの時期の集落の性格を裏付けるものと考えられる。

第８期（８世紀後半）（第164図）

第191集で竪穴住居跡３軒，今回の調査区では竪穴住居跡３軒が該当する。第47号住居跡は１辺が約６ｍの規模の中形住居跡である。小形住居跡は，第38・42・101・112・113号住居跡の５軒である。本期を持って集落が消滅する傾向は，鳥名前野遺跡と共通である。河内郡のこの時期の集落の変遷については，９世紀以降も存続していく「継続型集落」と，この時期に消滅していく「短期型集落」に分類されている[9]。本遺跡は「短期型集落」の分類に入るものであり，地域の拠点的集落として継続していく鳥名熊の山遺跡に周辺の集落が吸収されていく可能性を指摘できる。

第９期（９世紀）（第164図）

小形住居跡である第122号住居跡の１軒が該当する。出土遺物は土師器（坏，甕，甑），須恵器（坏，甕）である。遺跡内には，他に本時期の遺構は確認されていない。この後，13世紀に方形居館が成立するまで空白期間となる。

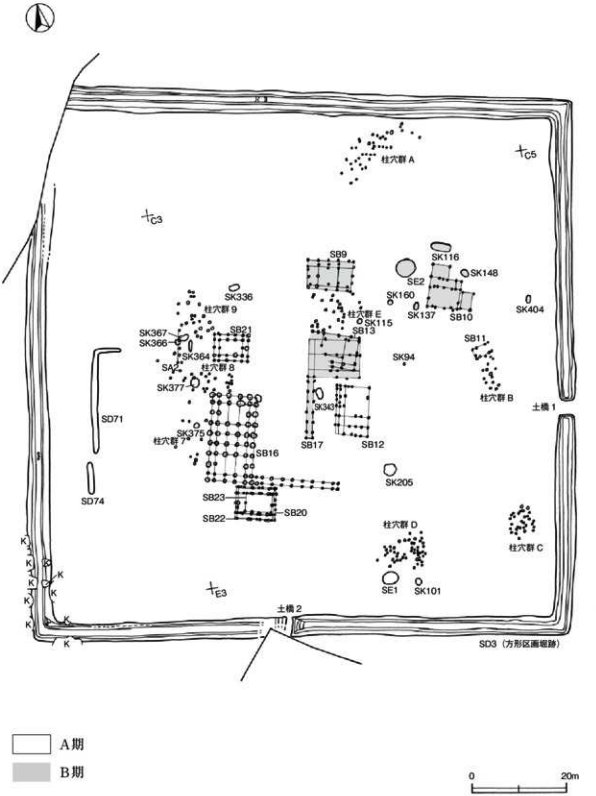
3　中世

今回の調査で，中世の方形居館跡（西館）の全容が明らかになり，１町四方の堀に囲まれた中に主屋と考えられる掘立柱建物跡が確認された。ここでは，方形居館跡（西館）を中心として，遺構の変遷や性格について検討したい。

(1)　西館Ａ期（第165・166図）

西館の成立期である。１町四方の堀の中に第16号掘立柱建物跡を中心として規格性の高い掘立柱建物群が存在する。第３号溝跡（方形区画堀跡），第16・20・21・22・23号掘立柱建物跡，第２号柵跡，第１号井戸跡，第71・74号溝跡，第101・205・336・343・364・366・367・375・377号土坑，第７～９号ピット群が該当する。

第16号掘立柱建物跡は桁行９間，梁行５間の総柱建物跡で，面積は190㎡と方形居館内で最大である。南妻には，桁行10間，梁行１間の中門廊的施設が付属している。これらの特徴から他の掘立柱建物跡よりも上位の上屋構造を持つ方形居館の主屋と考えられる。また，身舎の中央部の北妻から２間目の２か所と南妻から２間目の２か所には柱穴が確認されていない。このことから上屋構造を考えてみると，広間が作られていた可能性が想定できる。第16号掘立柱建物跡の中門廊的施設は，接続している主屋の桁行の長さとほぼ等しい約18.0ｍ（60尺）の長さである。この時期の寝殿造の系譜をひく建物は，小野正敏氏により検討されている[10]。同時期の中門廊を持つ館跡では，『法然上人絵伝』にある美作国漆間時国館の中門廊が２間×１間，鎌倉市今小路西遺跡[11]の南屋敷寝殿の中門廊が東南の２間×１間の突き出し部と想定されている。また，県南地域の中門廊を持つ建物跡としては，12世紀後葉と推定されるつくば市小泉館下層建物跡が挙げられる。小泉館下層建物跡では東側の主屋に，二本の廊下状の部分で７間×２間の中門廊と考えられる建物がつながっている。これらの館跡と比較すると第16号掘立柱建物跡の10間×１間の中門廊的


柱穴群A
C5
C3
SB9
SK116
SK148
SE2
SK160
SK137
SB10
SK404
SK336
柱穴群9
柱穴群E
SK115
SB13
SK367
SK366
SB21
SK364
SA2
柱穴群8
SK377
SK94
SB11
柱穴群B
土橋1
SD71
SK343
SK375
柱穴群7
SB16
SB17
SB12
SK205
SD74
SB23
SB20
SB22
柱穴群D
柱穴群C
SE1
SK101
E3
土橋2
SD3（方形区画堀跡）
A期
B期
0
20m

第165図　西館　全体図

施設の長さは特徴的である。さらに，第16号掘立柱建物跡の中門廊的施設は梁行が1.35m（4.5尺）と狭いことから，上屋構造を考えると，南平は板塀などで仕切られていたが，母屋に面する北平は開口されており見通しのきく空間が想定される。第16号掘立柱建物跡は桁行方向をN－13°－Eとする東面する建物で，北妻の延長線上約63m（210尺）には，第１号土橋跡が存在している。第16号掘立柱建物跡の南妻からは中門廊的施設が延びており，中門廊的施設の先端から堀までの距離は約45m（150尺）である。

第21号掘立柱建物跡は第16号掘立柱建物跡の北側約6.5m（22尺）に位置し，桁行３間，梁行２間の側柱式の身舎に四面庇又は縁が付属した建物跡で，桁行方向をN－75°－Wとする東西棟である。第21号掘立柱建物跡の身舎の東妻と第16号掘立柱建物跡の身舎の西平は柱筋が合っている。このことから，第16・21号掘立柱建物跡は位置関係が計画的に決められており，主屋に対する「脇殿」的な性格を持っている建物と推定できる。

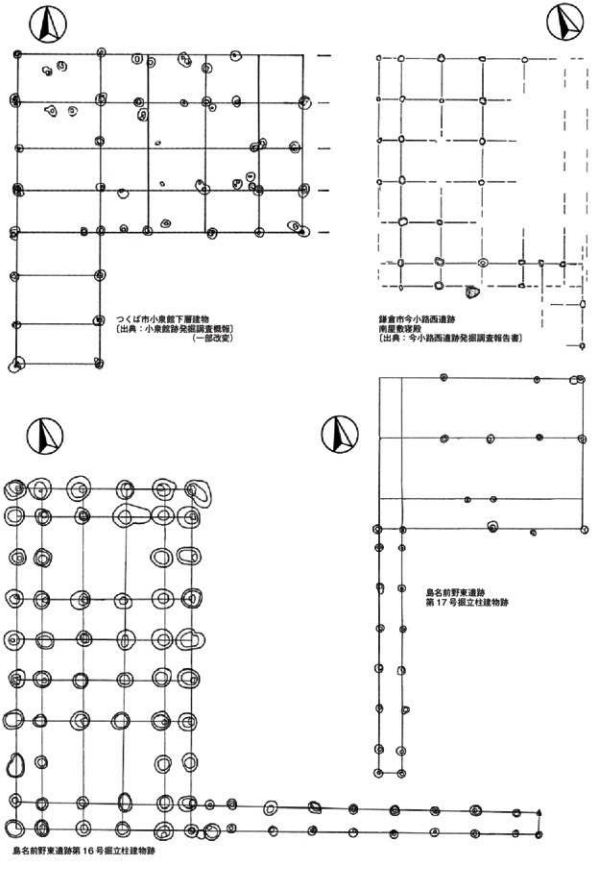
第20・22・23号掘立柱建物跡は，第16号掘立柱建物跡の南側のほぼ同じ場所に位置している。第23号掘立柱建物跡から第22号掘立柱建物跡へ，さらに第20号掘立柱建物跡へと，３回にわたり建て替えが行われたと推測される。建て替えにより南北に庇がついて規模が大きくなった第22号掘立柱建物跡は，第16号掘立柱建物跡と軒を接するようになることから，廊でつながっていた可能性が考えられる。中門廊的施設とともに主屋の南妻につながることを考えると侍廊的な機能が想定できる。

この時期の方形居館は，東側に最初から土橋として掘り残された第１号土橋跡を正門とし，門を入ると整地された広場が広がっている。その正面に主屋である第16号掘立柱建物跡を中心に主従関係を確認するための儀礼的空間としての「ハレ」の空間が広がっていたと考えられる。それに対し，掘立柱建物群の西側には，第１号堀跡との間に区画溝と考えられる第71・74号溝跡，第364・366・367・375・377号土坑，第７～９号ピット群が位置している。土坑とピット群の性格は明らかではないが，日常的空間としての「ケ」の空間が広がっていたと考えられる。

本期の遺物は，掘立柱建物跡から数点と方形区画堀跡の覆土下層から多量に出土している小皿・皿類が中心で，出土土器構成比率の95％を占める。小皿・皿類は手捏ね成形で丸底の器形のものが大半を占める。小皿の口径は7.4～8.4㎝，皿の口径は11.5～13.3㎝で，口縁部に２段ナデが入る。川村満博氏の分類[12]によるⅡ期の範疇に入るものと考えられる。また，第22号掘立柱建物跡からは常滑産玉縁口縁壺（852）が出土しており，６b型式と考えられる。時期は，これらの出土土器から，13世紀後葉から14世紀初頭と考えられる。

(2)　西館Ｂ期（第165図）

南面する第17号掘立柱建物跡を中心として第９・10・13号掘立柱建物跡，第２号井戸跡，第94・115・116・137・148・160・404号土坑が該当する。第17号掘立柱建物跡は桁行５間，梁行３間の総柱建物跡で，桁行方向をN－78°－Eとする東西棟である。西妻には，桁行７間，梁行１間の中門廊的施設が付属しており，長さは12.9mで第16号掘立柱建物跡の約３分の２である。これらの特徴から南を正面とする時期の方形居館の主屋と考えられる。第17号掘立柱建物跡の西妻の延長線上に南の入口である第２号土橋跡が位置している。中門廊的施設の先端から第２号土橋跡までは，約39m（130尺）である。第17号掘立柱建物跡の北約９m（30尺）には，第９号掘立柱建物跡が位置している。第９号掘立柱建物跡は桁行５間，梁行４間の桁行方向をN－79°－Wとする東西棟である。広間的な間取りを持つことから対屋的な機能を持つと考えられる。第９号掘立柱建物跡の東16.5m（55尺）には第10号掘立柱建物跡が位置している。第10号掘立柱建物跡は第２号井戸跡が西約3.6mに位置しており，竈屋の可能性が考えられる。第11～13号掘立柱建



第166図　中門廊的施設を有する掘立柱建物跡　〈S=1/200〉

物跡は桁行方向や位置関係が合わないために，A・B期の想定からはずしてあるが，同時期に短期間で機能していた可能性も考えられる。

この時期の館は，南側の第２号土橋跡を正門とし，門を入ると整地された広場が広がっている。その正面に主屋である第17号掘立柱建物跡を中心に公的空間としての「ハレ」の空間が広がっていたと考えられる。それに対し，北側には日常的空間としての「ケ」の空間が広がっていたと考えられる。ここには，第404号土坑が位置し，同時期の小皿・皿類が出土している。出土土器はA期と同様に土師質土器小皿・皿が中心である。口縁部に２段ナデを有しているものが多く，川村編年のⅡ期に入る。出土土器からはA期との時期差を見つけることは難しく，13世紀後葉から14世紀前葉と考えられる。遺構から時期差を考えると，この時期の正面の入り口と考えられる第２号土橋跡は最初木橋が架けられ，その後，版築地業により土橋に作り替えられており，ロームを掘り残して構築している第１号土橋跡との相違点が見られる。また，主屋と考えられる第17号掘立柱建物跡は，規模が小さい上に柱筋の通りが悪く，方形居館の成立時から主屋として機能していたとは考えにくい。これらのことから，B期は，A期に続く短期的な時期であると想定される。

⑶　方形居館期以後（165図・付図１）

西館が廃絶した後，方形居館とその周辺は大きく性格を変えていく。15世紀にはいると，西館の東約20mに東館が成立する。東館は第４号溝によって方形に区画されており，一辺約50mの区画内に第７・８号掘立柱建物が確認されている。第４号溝跡の南には第６・９号溝が平行して延びており，通路的な区画を構成している。通路の西の延長線上には第１号土橋跡が位置しており，さらに第１号土橋跡から道路が延びていたと考えられる。この時期には，堀の機能は失われているが，第１号土橋跡が通路として使用されていた可能性が推測される。方形居館の堀跡は一部埋め戻されている部分もあったと推定されるが，完全に埋まっているわけではなかったと想定される。第１号土橋跡から北に向かって，方形区画堀跡と平行して第52・54号溝が延び，堀と溝に囲まれた通路的な区画を構成している。第52・54号溝は堀のコーナー部と平行して西方向に延びている。この部分に小規模な側柱建物の第14･15号掘立柱建物が位置している。

この時期には方形居館の南東部に第１号土橋跡と第２号土橋跡を入口として第36・72号溝に囲まれた方形の墓域が成立している。第72号溝は第368・370・371号土坑の３基の火葬土坑を掘り込んで成立する。墓域内には第１号竪穴状遺構，第１・２号地下式壙が確認されている。第36・72号溝の間には掘り残し部分があり，西からの入口と考えられる。墓域の北西コーナー部の外側には第35･46号溝が平行して延びており，通路的な区画を構成している。通路は方形区画堀跡の北の入口に向かっており，この時期にもこの場所が通路として使用されていたと想定できる。方形区画堀跡の覆土内から白磁口禿椀（613）が出土しており，この時期の土器と考えられる。

⑷　西館の性格について

西館の主屋と考えられる第16・17号掘立柱建物跡が中門廊的施設を持つ構造は，県内では当遺跡を含む筑波地域に見られるものである。小野正敏氏は「東国では，鎌倉期においては，これらの寝殿造りの系譜と考えられる発掘例を探しても，これまで筑波と鎌倉のトップクラスの例にしか確認されていない」[13]としており，本館は，鎌倉の幕府勢力との繋がりも想定される館であると考えられる。

また，第16号掘立柱建物跡は，柱穴内に礎盤石を有することから，他の掘立柱建物跡より上位の上屋構造を持つことが想定できる。県南地域における柱穴内に礎盤石を持つ建物は，つくば市梶内向山遺跡の第３・５・６・９掘立柱建物跡[14]，つくば市小泉館跡２～４期の掘立柱建物跡[15]，神出遺跡の第９号掘立柱建物跡[16]，土浦市神明遺跡の第11・12号掘立柱建物跡[17]が確認されている。また，礎石建物としてはつく

表13　県南地域の柱穴内に礎盤石を持つ掘立柱建物跡

番号	遺跡名	遺構名	桁行方向	柱間数（桁×梁）	規模（m）	面積（㎡）	構造	桁行柱間（m）	梁行柱間（m）	柱穴平面型	深さ（cm）	主な出土遺物	時　期	備　考（所在地）
1	島名前野東遺跡	SB16	N－13°－E	9×5	15.01×6.42（17.94×9.16）	96.36（190.44）	総柱（四面庇）	1.36～2.50	1.30～2.16	円形、楕円形	16～68	土師質土器（小皿・皿）、礎盤石、瓦	13世紀後葉～14世紀前葉	つくば市島名
2	梶内向山遺跡	SB 3	N－73°－W	7×4	14.70×8.16	119.0	総柱（北北二面庇）	2.00～2.10	2.00～2.10	円形、楕円形	24～48	土師質土器（小皿・皿）、陶器片（常滑甕）、礎盤石	13世紀後半～14世紀前葉	つくば市梶内
3	梶内向山遺跡	SB 5	N－24°－E	4×2	8.90×4.20	37.4	側柱	1.70～2.60	2.00～2.20	円形、楕円形	35～55	礎盤石	14世紀中葉以降	〃
4	梶内向山遺跡	SB 6	N－56°－E	（2×1）	（3.06×2.00）	（6.1）	側柱	1.50～1.57	2.00	円形、楕円形	23～58	礎盤石	14世紀前葉以降	〃
5	梶内向山遺跡	SB 9	N－3°－E	2×1	4.50×3.30	14.9	側柱	2.00～2.50	3.30	円形、楕円形	26～40	礎盤石	14世紀中葉以降	〃
6	神田遺跡	SB 9	N－2°－W	5×4	10.56×8.40	88.70	総柱	2.10	2.10	円形、楕円形	15～42	陶器片（常滑甕）、礎盤石	－	土浦市小岩田東
7	神明遺跡	SB11	N－86°－W	3×3	6.16×4.20	25.87	側柱（北北）	1.20～1.92	1.30～1.80	円形、楕円形	23～45	元豊通寶、礎盤石	13世紀中葉～13世紀後葉	土浦市常名
8	神明遺跡	SB12	N－89°－W	3×3	6.14×4.20	25.79	側柱（北北）	1.31～1.34	1.24～1.80	円形、楕円形	13～43	礎盤石	13世紀前半～13世紀中葉	〃

ば市日向廃寺[18]，竜ヶ崎市長峰城跡の第Ⅰ号虎口跡[19]が挙げられる。その中でも当遺跡の第16号掘立柱建物跡は最大級の面積を持つことから，公的機能を有する建物であったことが想定される。

西館の時期については，多量に出土した土師質土器小皿・皿や常滑産玉縁口縁壺などの出土土器から，13世紀後葉から14世紀前葉の短い期間の中で機能していたことが考えられる。13世紀の前半，当遺跡の所在する地域は「田中荘」として小田氏の勢力下に入っていたものと推定されている。その後，弘安８（1285）年の霜月騒動の中で小田氏の勢力が一時衰退する中で，田中荘は北条得宗家の勢力下に入ったとされる[20]。その時期に成立する西館は，北条得宗家の勢力下において田中荘を管理する機能を持つ「荘園政所」的な性格を持っていたものと考えられる。

堀の中から大量に発見される小皿・皿は「儀礼関係の確認」のために用いられたものであり，北条得宗家の勢力下で新しく生まれた支配体制を在地勢力に確認するための儀式に使用されたと推測される。使用された皿の胎土は，赤褐色系と灰白色系の２種類に大別できる。これは「京かわらけ」の「赤土器」・「白土器」の技法の流れを汲むものであると考えられる[21]。これらの土器は，当遺跡と京都や鎌倉の中央勢力との関係を確認できるものであると考えられるが，京都では赤土器・白土器が量的に伯仲する様相を呈しているのに対し，西館で確認された出土土器では約１：９の割合で灰白色系の皿が多く，赤褐色系の皿は少量である。

古代の集落が途絶えている この地域に館が作られた理由については，島名熊の山遺跡との関連を考えたい。島名熊の山遺跡は古墳時代，奈良・平安時代を通じて地域の拠点的集落として継続し，中世に入ると土塁と堀を巡らした妙徳寺が開山されたことや，遺跡内の墓坑や地下式壙から和鏡４面，短刀が出土していることから，在地領主層ないし地方武士団の台頭が検討されている。この在地勢力を抑え，かつ新支配体制に組み込みながら田中荘の経営を行うために本遺跡の場所が選ばれたと考える。また，西館の東側には東谷田川があり，水上輸送を管理できる絶好の地であることも大きな理由であろう。当遺跡の北東，東谷田川と蓮沼川の合流点には「江戸」の地名があるが，地名や地形からこの地点周辺に津が設けられていた可能性を指摘したい。また，上流に位置している島名熊の山遺跡にも津があることが想定されており，島名熊の山遺跡周辺の収穫物を運搬する水上輸送も管理できるのがこの地であったと考えられる。

元弘３（1333）年に鎌倉幕府が滅亡する中で北条得宗家の勢力は消滅するが，この時期に西館の機能が失われていくのは象徴的である。本遺跡から館の規模に相当する陶磁器類などの遺物がほとんど出土しないのは，幕府滅亡という大きな政治的変動の中で，この地域から北条得宗家の勢力が衰退することと関連があるのではないかと推測される。西館の盛衰は鎌倉時代末期から南北朝の動乱の時代にかけての時代背景と関連しており，当遺跡は地域の歴史の一端を垣間見ることができる貴重な遺跡といえる。

註

1）寺門千勝　田原康司　梅澤貴司「鳥名前野東遺跡　鳥名境松遺跡　谷田部漆遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第191集　2002年３月

2）飯泉達司「鳥名前野東遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第215集　2004年３月

3）住居跡の規模の分類は１辺が７m以上の住居跡を大型住居跡，１辺が４～７mの住居跡を中型住居跡，１辺が４m以下の住居跡を小形住居跡とした。

4）稲田義弘「鳥名熊の山遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第190集　2002年３月

5）稲田義弘「前野遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第175集　2001年３月

6）高野裕鞏「本宮本前山遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第265集　2006年３月

7）稲田義弘「鳥名熊の山遺跡の様相について」『古代地方官衙周辺における集落の様相－常陸国河内郡を中心として』茨城県考古学協会2005年２月

8）註１に同じ

9）佐々木義則「河内郡の集落様相」『古代地方官衙周辺における集落の様相－常陸国河内郡を中心として』茨城県考古学協会2005年２月

10）小野正敏「中世武士の館，その建物系譜と景観－東国の事例を中心として」『考古学と中世史研究１　中世の系譜　東と西，北と南の世界』高志書院　2004年７月

11）河野眞知郎　宮田真　瀬田哲夫　清水茉穂「今小路西遺跡（御成小学校内）発掘調査報告書」今小路西遺跡発掘調査団　1990年

12）川村満博「茨城県内出土の非ロクロ成形かわらけ編年案」『領域の研究－阿久津久先生還暦記念論集－』2003年４月

13）註10に同じ

14）川村満博　島田和雲「梶内向山遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第199集　2003年３月

15）山本賢一郎　大関武「小泉館跡－発掘調査概報－」茨城県つくば市教育委員会　1989年３月

16）黒澤春彦　桐谷優　高野浩之　土生朗治　長谷川秀久「東出・神出・中居遺跡」土浦市教育委員会　1999年10月

17）酒井清治　駒澤大学考古学研究会「神明遺跡（第５次調査）」『土浦市総合運動公園建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』第９集　土浦市教育委員会　2005年３月

18）増田精一他「日向遺跡－昭和54・55年度発掘調査概報」筑波町教育委員会　1981年

19）小澤重雄「長峰城跡（長峰遺跡・長峰古墳群）」『茨城県教育財団文化財調査報告』第184集　2002年３月

20）谷田部の歴史編さん委員会「谷田部の歴史」谷田部町教育委員会　1975年９月

21）中井淳史「（弱い技術）としての中世土師器生産」『全国シンポジウム　中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～　発表要旨集』全国シンポジウム「中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～」実行委員会　2005年９月

参考文献

- 高橋一夫　広瀬和雄「集落の形態」『古墳時代の研究』２　集落と豪族居館　雄山閣　1994年６月
- 石井進「鎌倉時代の常陸国における北条氏所領の研究」『茨城県史研究』15　茨城県史編さん委員会
- 桃崎祐輔「筑波山周辺の宗教世界」『中世東国の世界１　北関東』高志書院　2003年12月
- 『古代常陸国シンポジウム－常陸国風土記・国府・郡家』古代常陸国シンポジウム実行委員会　2006年11月
- 川村満博「茨城県南部を中心に見た12世紀後半～15世紀のロクロ成形かわらけについて」『研究ノート』12号　2003年６月
- 『特別展　茨城の絵巻－一遍聖絵から横山大観まで－』茨城県立歴史館　1989年９月
- 石橋充　広瀬季一郎「史跡　小田城跡－第48次調査（本丸跡確認調査Ⅳ）概要報告－」つくば市教育委員会　2004年３月

写　真　図　版

島名境松遺跡

島名前野東遺跡

PL1

島名境松遺跡全景（南東から）

中央部完掘状況

第41号住居跡
完掘状況

第41号住居跡
遺物出土状況

第42号住居跡
完掘状況

第43号住居跡
完掘状況

第44号住居跡
完掘状況

第45号住居跡
完掘状況

第 710 号 土 坑
完 掘 状 況

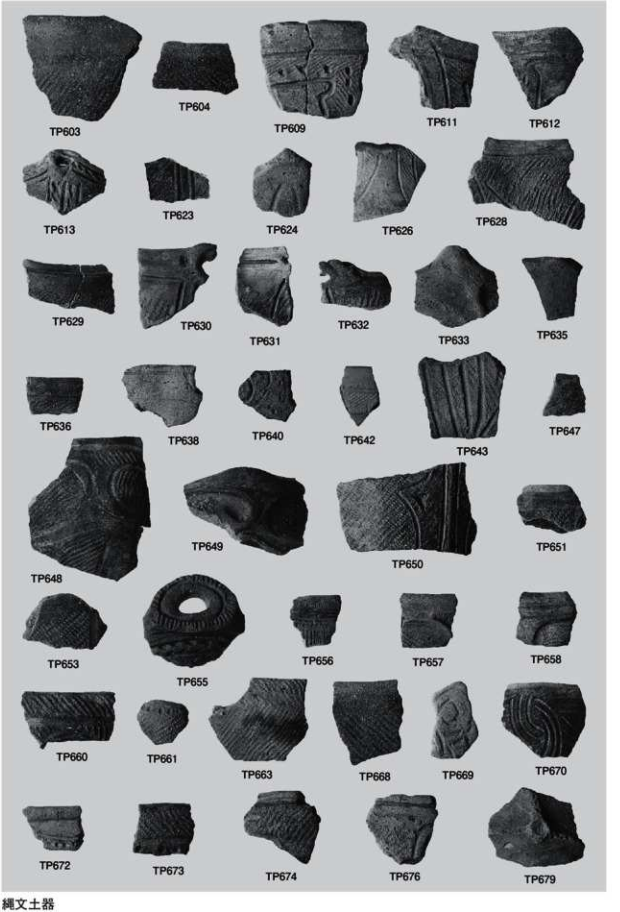
第 746 号 土 坑
遺 物 出 土 状 況

第 1 号 溝 跡
完 掘 状 況

PL5

第41号住居跡，第746号土坑出土土器

第45号住居跡出土土器


TP603
TP604
TP609
TP611
TP612
TP613
TP623
TP624
TP626
TP628
TP629
TP630
TP631
TP632
TP633
TP635
TP636
TP638
TP640
TP642
TP643
TP647
TP648
TP649
TP650
TP651
TP653
TP655
TP656
TP657
TP658
TP660
TP661
TP663
TP668
TP669
TP670
TP672
TP673
TP674
TP676
TP679

縄文土器

PL8

SK710-Q113

SI41-DP43

SI41-DP44

遺構外-Q115

遺構外-Q116

遺構外-Q117

遺構外-Q118

遺構外-Q119

SI45-Q112

遺構外-Q120

石器・石製品，土製品

平成15年度調査区完掘状況（北から）

平成16年度東区完掘状況（南から）

平成17年度調査区完掘状況（西から）

第３号溝跡（方形区画堀跡）土層断面（南中央から）

第71号住居跡
第335号土坑
完掘状況

第85号住居跡
遺物出土状況

第105号住居跡
遺物出土状況

第107号住居跡
完　掘　状　況

第108号住居跡
完　掘　状　況

第110号住居跡
完　掘　状　況

第111号住居跡
完掘状況

第114号住居跡
遺物出土状況

第115号住居跡
遺物出土状況

第118号住居跡
完　掘　状　況

第126号住居跡
完　掘　状　況

第132号住居跡
完　掘　状　況

第66号住居跡
完掘状況

第84号住居跡
完掘状況

第84号住居跡
遺物出土状況

第86号住居跡
完掘状況

第106号住居跡
完掘状況

第109号住居跡
完掘状況

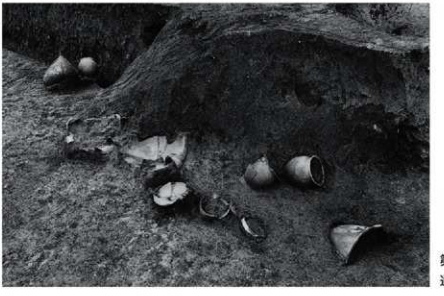
第116号住居跡
遺物出土状況

第120号住居跡
完掘状況

第120号住居跡
遺物出土状況

第121号住居跡
完　掘　状　況

第123号住居跡
完　掘　状　況



第123号住居跡
遺物出土状況

第124号住居跡
完掘状況

第124号住居跡
遺物出土状況

第131号住居跡
完掘状況

第131号住居跡
遺物出土状況

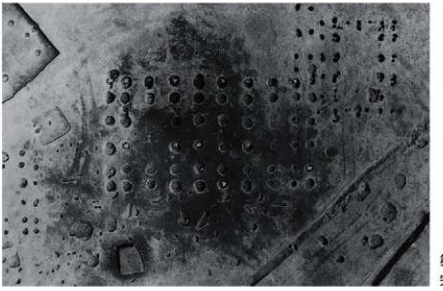
第134号住居跡
遺物出土状況

第101号住居跡
完掘状況

第112号住居跡
完掘状況

第113号住居跡
完掘状況

第122号住居跡
完掘状況



第16号掘立柱建物跡
完　掘　状　況

第16号掘立柱建物跡
（中門廊的施設）
完　掘　状　況

第16号掘立柱建物跡
確　認　状　況

第17号掘立柱建物跡
（中門廊的施設）
完　掘　状　況

第21号掘立柱建物跡
完　掘　状　況

第 20・22・23 号
掘立柱建物跡
完　掘　状　況

第3号溝跡（方形区画堀跡）完掘状況（南中央から）

第3号溝跡（方形区画堀跡）完掘状況（南西から）

第58・69号溝跡完掘状況（南東から）

第67号溝跡完掘状況（南西から）

第３号　溝　跡
（方形区画堀跡）
ピット完掘状況

第３号　溝　跡
（方形区画堀跡）
遺物出土状況（南部）

第３号　溝　跡
（方形区画堀跡）
土層断面（Gライン）

第71号溝跡
遺物出土状況

第74号溝跡
遺物出土状況

第10号ピット群
完掘状況

第416号土坑
完掘状況

第336号土坑
遺物出土状況

第342号土坑
遺物出土状況

第343号土坑
遺物出土状況

第349号土坑
完掘状況

第365～367号土坑
遺物出土状況

SI105-659

SI105-654

SI105-657

SI85-643

SI110-694

SI108-675

SI85-642

SI85-641

SI85-644

第85・105・108・110号住居跡出土土器

SI106-664

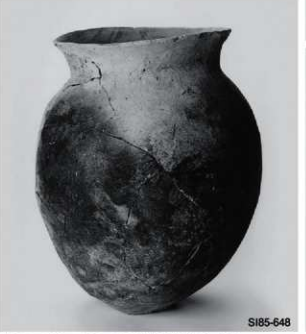
SI126-793

SI126-795

SI126-794

SI106-666

SI126-797


SI85-648

SI110-696

第85・106・110・126号住居跡出土土器

第84・86・106・109・116号住居跡出土土器

SI116-732

SI116-720

SI116-714

SI116-711

SI116-715

SI116-716

SI121-750

SI121-752

SI120-739

SI109-689

第109・116・120・121号住居跡出土土器

SI123-766

SI120-737

SI120-738

SI120-743

SI120-745

SI121-755

SI120-744

SI116-722

SI120-746

第116・120・121・123号住居跡出土土器

SI123-757

SI123-758

SI123-759

SI123-756

SI123-763

SI123-762

SI123-769

SI123-768

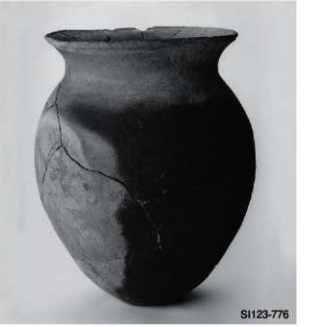
SI124-784

SI125-788

SI123-774

SI123-772

第123・124・125号住居跡出土土器



第123号住居跡出土土器

第125・131号住居跡出土土器

SB16-836

SD3-853

SD3-854

SD3-856

SD3-857

SD3-858

SD3-859

SD3-860

SD3-861

SD3-862

SD3-863

SD71-907

SK316-920

SK336-922

SK343-929

SK364-938

遺構外-956

遺構外-957

土師質土器　小皿

SD3-874

SK404-949

SD3-876

SD3-889

SD3-890

SD52-900

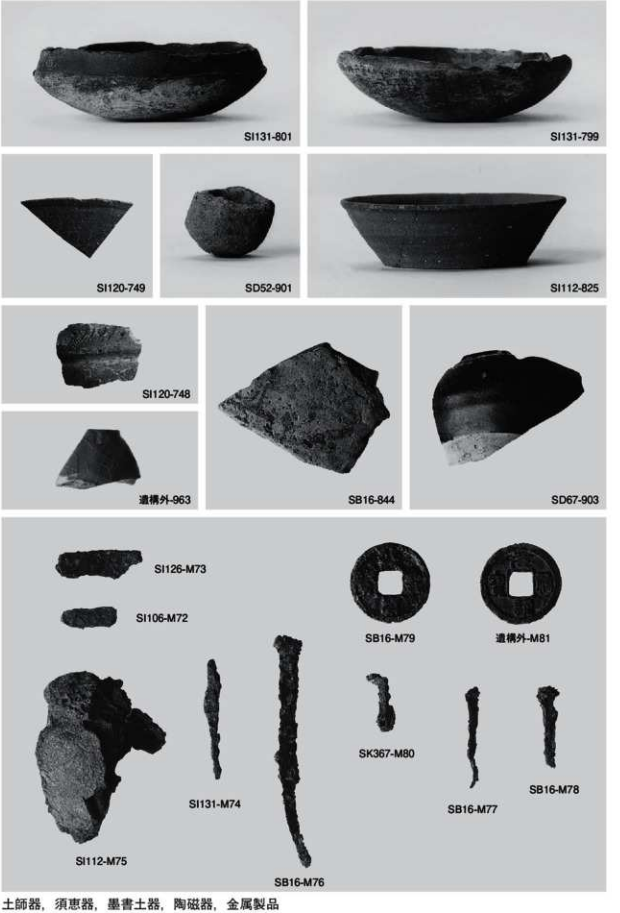
SD3-888

SD3-875

SD71-911

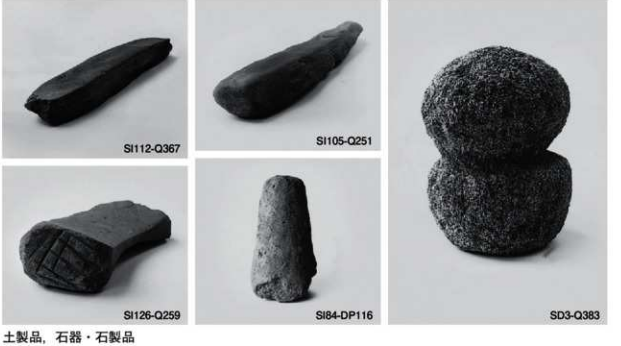
SD3-877

土師質土器　皿



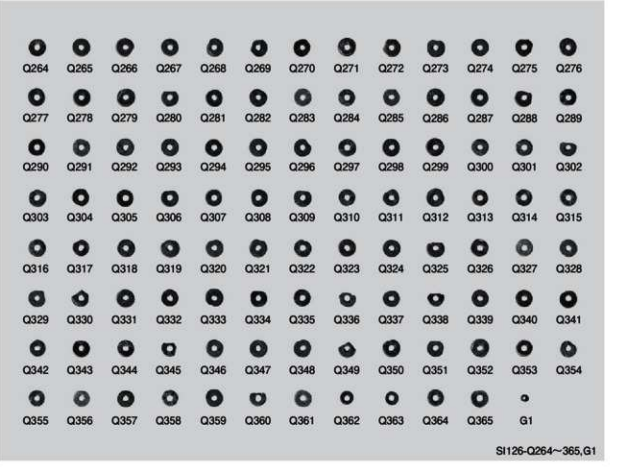
土師器，須恵器，墨書土器，陶磁器，金属製品

PL40



土製品，石器・石製品

PL41



縄文土器，土師器，須恵器，石器，石製品，ガラス製品

第16号掘立柱建物跡礎盤石

茨城県教育財団文化財調査報告第281集

島名境松遺跡
島名前野東遺跡

島名・福田坪一体型特定土地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書XII

平成19(2007)年3月19日　印刷
平成19(2007)年3月23日　発行

発行　財団法人　茨城県教育財団
〒310-0911　水戸市見和１丁目356番地の２
茨城県水戸生涯学習センター分館内
TEL　029－225－6587

印刷　株式会社　あけぼの印刷社
〒310-0804　水戸市白梅１丁目２番11号
TEL　029－227－5505